

2016(平成28)年9月 実施

第45回 足立区政に関する世論調査

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方
健康／スポーツ／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動
「孤立ゼロプロジェクト」など／区取り組み



2017(平成29)年3月

足立区

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 調査ブロック	4
5. 調査方法	5
6. 回収結果	5
7. 報告書の見方	7
8. 標本構成	10
第2章 調査結果の要約	15
1. 定住性	17
2. 大震災などの災害への備え	18
3. 洪水対策	19
4. 区の情報発信のあり方	20
5. 健康	21
6. スポーツ	22
7. ビューティフル・ウィンドウズ運動	23
8. 環境・地域活動	24
9. 「孤立ゼロプロジェクト」など	25
10. 区の取り組み	26
第3章 調査結果の分析	29
1. 定住性	33
（1）居住地域の評価	33
（2）居住地域評価の経年比較	44
（3）地域の暮らしやすさ	50
（4）特に暮らしにくいと感じること	55
（5）定住意向	59
2. 大震災などの災害への備え	69
（1）備蓄や防災用具などの用意	69
（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	73
（3）備蓄量	77
（4）災害発生時の水や食料の確保	82
（5）家具類の転倒・落下・移動防止対策	85
（6）対策をしていない理由	88
（7）大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	90
3. 洪水対策	97

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知	97
(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処	100
(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先	106
4. 区の情報発信のあり方	111
(1) 区に関する情報の入手手段	111
(2) 区が発信する必要がある情報	115
(3) 必要な時に必要とする区の情報の入手状況	117
(4) 区の情報が得られない理由	119
(5) 区の情報が得られない理由の詳細	121
(6) 「お問い合わせコールあだち」の利用状況	122
5. 健康	127
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況	127
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	129
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況	131
(4) 1日野菜350g以上の摂取	133
(5) 体調や習慣	135
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	141
6. スポーツ	147
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況	147
(2) 継続的に実施している運動・スポーツ	149
(3) 障がい者スポーツへの意識・行動	151
(4) スポーツボランティア活動への意識・行動	153
(5) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の実践と関心	155
(6) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識	157
7. ビューティフル・ウィンドウズ運動	161
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	161
(2) 治安が改善していることの認知	164
(3) 居住地域の治安状況	167
(4) 区内の治安が良いと感じる点	171
(5) 区内の治安が悪いと感じる点	173
(6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	176
(7) 駐輪時の鍵かけ状況	179
8. 環境・地域活動	187
(1) 環境のために心がけていること	187
(2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向	189
(3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価	195
9. 「孤立ゼロプロジェクト」など	201
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	201
(2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路	204
(3) 「地域包括支援センター」の認知状況	205

(4) 「地域包括支援センター」の認知経路	208
(5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	209
(6) 協力意向がある活動内容	212
(7) 「成年後見制度」の認知状況	214
10. 区取り組み	219
(1) 満足度と重要度	219
(2) 区政への区民意見の反映度	250
(3) 区に対する気持ち	253
(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）	264
(5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	267
(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	272

第4章 使用した調査票	275
-------------	-----

は じ め に

「第45回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりました。ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

世論調査を経年で追いかけることによって、区の施策の効果を測ったり、多様化する区民ニーズの把握に努めたりと、本調査は区政になくてはならない羅針盤の役割をはたしています。

昨年は、水害や地震など自然災害が猛威を振るった年でもありました。その影響は調査結果に如実に表れており、「区に力を入れて欲しい施策」として、「防災対策」が1位となりました。四方を川に囲まれ、地盤も脆弱と言われる当区にとって、災害や震災に対する施策は、終わりのないものと考えています。国や都との連携も含め、一層強化充実してまいります。

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を中心に治安対策に強力に取り組んできた成果として、昨年の刑法犯認知件数はピークであった平成13年と比較して、約1万件減少しました。それと連動する形で、区民の体感治安が年々向上してきていることが本調査で明らかになっています。区のイメージアップの点からも、大変重要な施策ですので、目標をより高く掲げ、力を尽くしてまいります。

人口構造の急激な変化や、公共施設の老朽化問題など、区を取り巻く課題は多数ありますが、当区に対する評価は、人口の増加、民間投資の増大などの面に着実に表れています。そして、区民の皆様とともに歩む私たちにとって、何よりうれしく心強い変化は、区に誇りを持っている20代、30代の方の割合が、この5年間で大きく増加していることです。

今後も、本調査結果を十分に活かして、更なるステップアップを目指し、着実に前進してまいります。

平成29年3月

足立区長 近藤 やよい

第 1 章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2. 調査の内容

今回の調査では10項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 区の取り組み

3. 調査の設計

- | | |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満20歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 平成28年9月1日(木)～9月26日(月) |
| (6) 調査機関 | (株)サーベイリサーチセンター |

4. 調査ブロック

図1 ブロック区分図

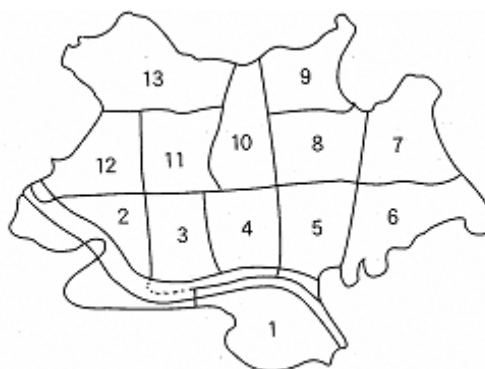


表1 調査ブロックー町丁目対応表

ブロック名	地 区 町 丁 目 名
第1ブロック	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2ブロック	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3ブロック	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町、西新井栄町三丁目
第4ブロック	西新井栄町一丁目～二丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5ブロック	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6ブロック	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目、東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第7ブロック	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第8ブロック	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目、保木間二丁目(12番を除く)、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第9ブロック	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間二丁目(12番のみ)、保木間三丁目～五丁目
第10ブロック	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第11ブロック	西新井一丁目～七丁目、谷在家一丁目、西伊興町、古千谷一丁目(7、12、13、18番地)、栗原三丁目～四丁目、西伊興一丁目～二丁目、伊興一丁目～三丁目、西竹の塚一丁目～二丁目(1～7番[4番21・23・24の一部・26～30、7番20の一部・21～22を除く])
第12ブロック	鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、谷在家二丁目～三丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第13ブロック	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目(4～5、8～11、14～17番地)、古千谷二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、西竹の塚二丁目(4番21・23・24の一部・26～30、7番20の一部・21～22、8～17番)、入谷町、伊興四丁目～五丁目、西伊興三丁目～四丁目、東伊興一丁目～四丁目、舎人町、舎人公園、伊興本町一丁目～二丁目

5. 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）
 (2) 調査票 4章の調査票を使用

6. 回収結果

- (1) 標本数 3,000票
 (2) 有効回収数 1,782票 有効回収率 59.4%
 (3) 回収不能数 1,218票 回収不能率 40.6%

- (4) 地区別回収結果

表2 調査ブロックー地区別回収結果

ブロック名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区 全 体	567,671	100.0%	3,000票	1,782票	59.4%
第1ブロック	65,044	11.5	343	206	60.1
第2ブロック	40,330	7.1	213	125	58.7
第3ブロック	35,608	6.3	189	117	61.9
第4ブロック	47,341	8.3	250	163	65.2
第5ブロック	51,842	9.1	274	144	52.6
第6ブロック	62,682	11.0	332	194	58.4
第7ブロック	45,469	8.0	241	142	58.9
第8ブロック	37,401	6.6	198	120	60.6
第9ブロック	27,558	4.9	145	79	54.5
第10ブロック	46,860	8.3	248	147	59.3
第11ブロック	37,045	6.5	196	113	57.7
第12ブロック	29,752	5.2	158	104	65.8
第13ブロック	40,739	7.2	213	128	60.1

(20歳以上人口は平成28年8月1日現在)

第1章 調査の概要

(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000票	1,782票	59.4%
男性（計）	1,467	745	50.8
20 代	225	78	34.7
30 代	265	99	37.4
40 代	289	135	46.7
50 代	199	112	56.3
60 代	230	144	62.6
70歳以上	259	176	68.0
女性（計）	1,533	974	63.5
20 代	190	89	46.8
30 代	217	135	62.2
40 代	285	185	64.9
50 代	210	144	68.6
60 代	236	165	69.9
70歳以上	395	255	64.6
無 回 答		63	

(注) この表での無回答は「性」を回答していない数を掲載している。また、「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」（計）の数とは一致しない。

7. 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 基数となるべき実数は、nで表している。nは、回答者総数または該当設問の該当者数である。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (6) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (7) 問1の〈居住地域の評価〉における『そう思う(計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問4の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「当分は住み続けたい」と答えた人は、1,782人のうち39.7%であった。

回答者数が1,782人、回答率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.32%であるから、「当分は住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の42.02%から37.38%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数 (足立区の20歳以上人口)

n = 比率算出の基数 (回答者数)

P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)

〈 早見表 〉

回答の比率(P) 基 数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,782	± 1.42	± 1.90	± 2.17	± 2.32	± 2.37
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 － 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基 数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,782	± 1.42	± 1.90	± 2.17	± 2.32	± 2.37
男性 (計)	745	± 2.20	± 2.93	± 3.36	± 3.59	± 3.66
20 代	78	± 6.79	± 9.06	±10.38	±11.09	±11.32
30 代	99	± 6.03	± 8.04	± 9.21	± 9.85	±10.05
40 代	135	± 5.16	± 6.89	± 7.89	± 8.43	± 8.61
50 代	112	± 5.67	± 7.56	± 8.66	± 9.26	± 9.45
60 代	144	± 5.00	± 6.67	± 7.64	± 8.16	± 8.33
70歳以上	176	± 4.52	± 6.03	± 6.91	± 7.39	± 7.54
女性 (計)	974	± 1.92	± 2.56	± 2.94	± 3.14	± 3.20
20 代	89	± 6.36	± 8.48	± 9.72	±10.39	±10.60
30 代	135	± 5.16	± 6.89	± 7.89	± 8.43	± 8.61
40 代	185	± 4.41	± 5.88	± 6.74	± 7.20	± 7.35
50 代	144	± 5.00	± 6.67	± 7.64	± 8.16	± 8.33
60 代	165	± 4.67	± 6.23	± 7.14	± 7.63	± 7.78
70歳以上	255	± 3.76	± 5.01	± 5.74	± 6.14	± 6.26

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

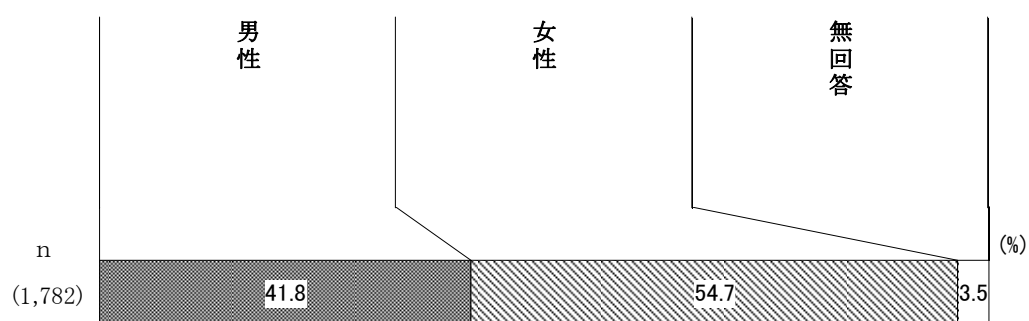
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域ブロック別……（13カテゴリー）
- ② 性 別……（2カテゴリー）
- ③ 性・年代別……（12カテゴリー）
- ④ ライフステージ別……（7カテゴリー）
 - ・独身期 40歳未満の独身者
 - ・家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - （家族成長小学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - （家族成長中学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・高齢期 本人が65歳以上の人
 - （一人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - （夫婦二人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - （その他の高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - （壮年独身者） 本人が40歳～64歳で独身
 - （壮年夫婦のみ者） 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ 住居形態別……（8カテゴリー）
- ⑥ 職業別……（8カテゴリー）
- ⑦ 就労（就学場所）別……（6カテゴリー）
- ⑧ 居住年数別……（5カテゴリー）

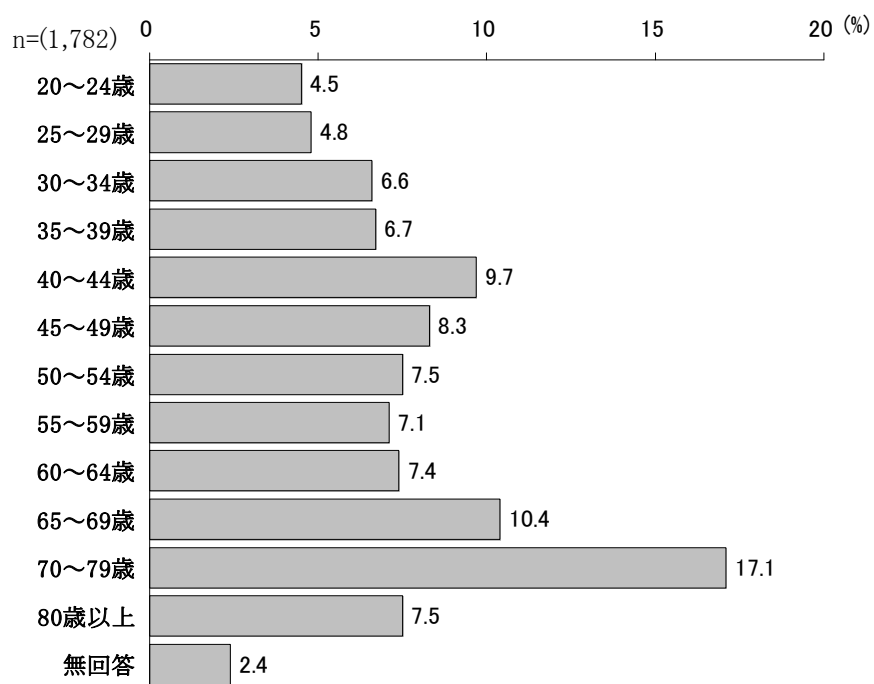
※本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

8. 標本構成

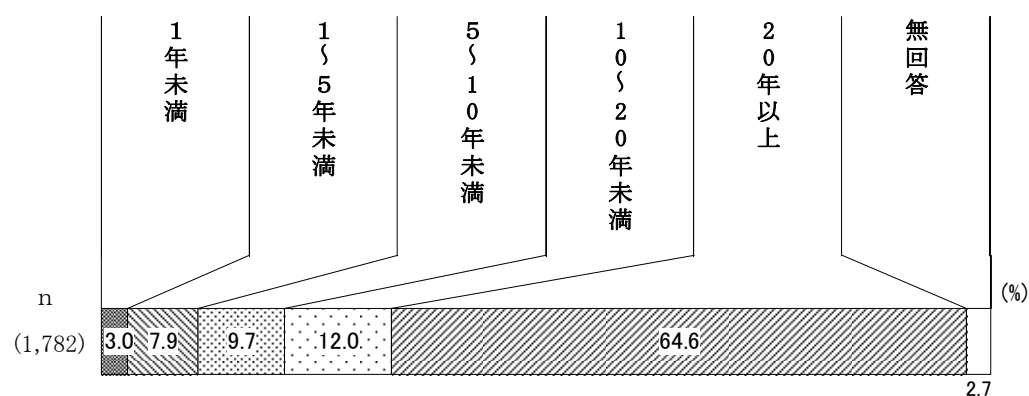
F 1 性別



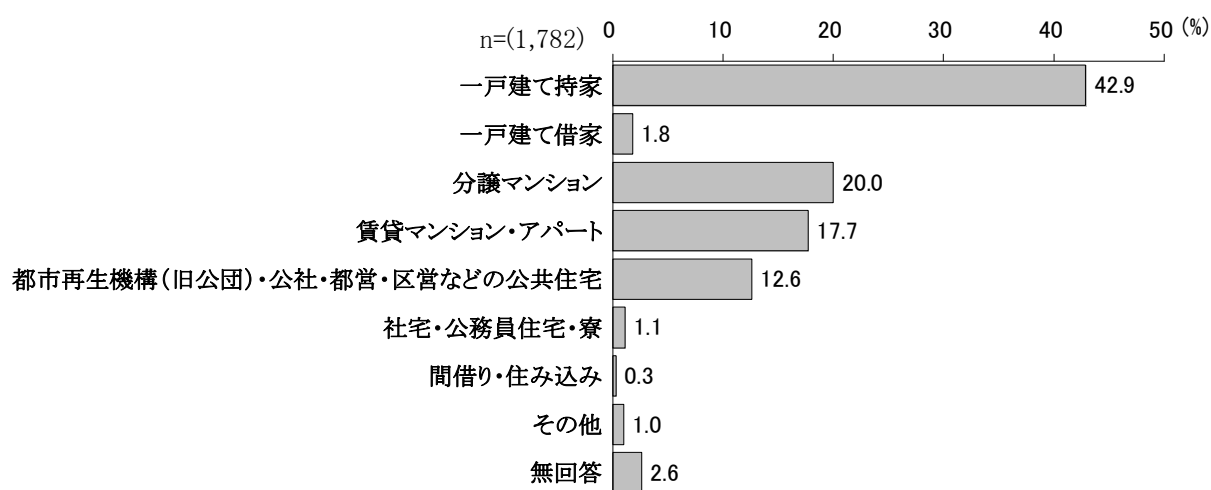
F 2 年齢



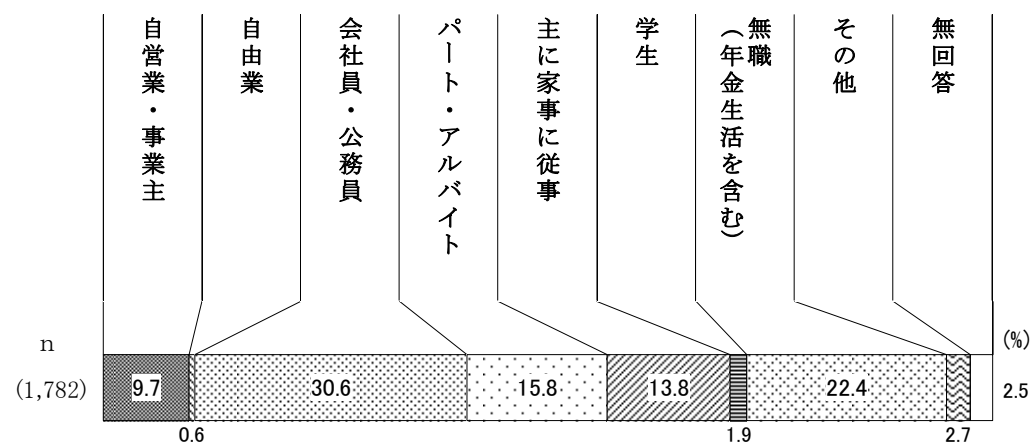
F 3 居住年数



F 4 住居形態

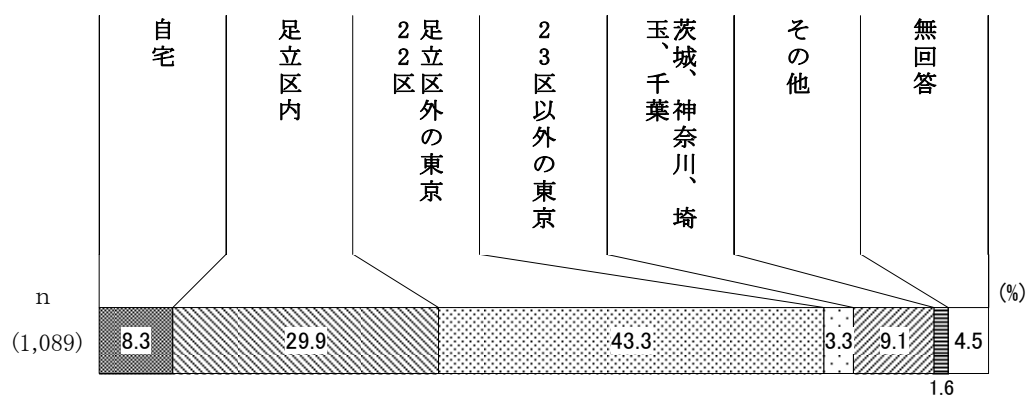


F 5 職業

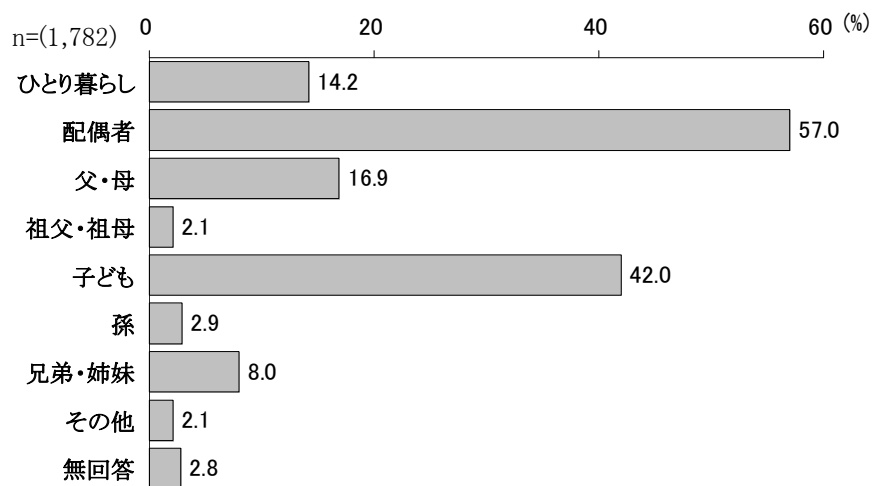


第1章 調査の概要

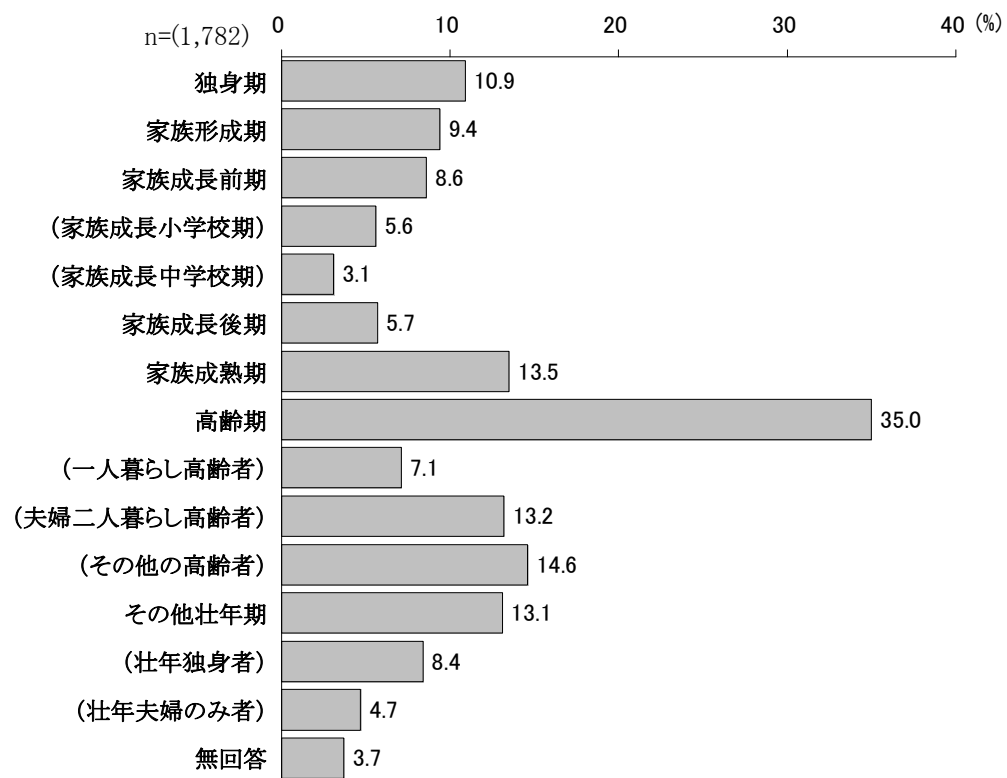
F 6 就労、就学場所



F 7 同居家族（複数回答）



F 8 ライフステージ



第2章 調査結果の要約

1. 定住性

居住地域の評価については、〈通勤や通学などの交通の便がよい〉〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方などにも利用しやすいよう配慮されている〉等、ほとんどの項目で横ばいという結果となっている。

しかしながら、〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉は、肯定的な評価は横ばいであるうえ、依然として、否定的な評価（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が6割を超えており、引き続いて、区民のマナー意識の向上が求められる。

また、〈まちなかの花や緑〉〈防犯パトロール〉など、環境面、防犯面については、平成27年度調査に比べて、【増加している】（「どちらかといえば増えている」＋「明らかに増えている」）、あるいは、【減っている】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）とも横ばいとなっている。

一方、〈ペットのふん〉については、については、【減少している】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）が増加している。

このように、居住地区の利便性の良さ、環境面、防犯面への取り組みへのなどへの評価は比較的高い水準にあり、暮らしやすさへの評価をみても、【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）との評価は今回79.7%と、平成27年度とほぼ同様の結果となっている。

また、地域ブロック別でみると、第2、第7、第12ブロックのように、【暮らしにくい】（「どちらかといえば暮らしにくい」＋「暮らしにくい」）が2割台後半と、他のブロックより高くなっている地域もあり、依然として、暮らしやすさへの評価の地域差は解消されていない。

また、【定住意向】（「ずっと住みたい」＋「当分は住みたい」）についても、今回77.4%と、ここ数年ほぼ横ばい状況にあり、暮らしやすさへの評価とほぼ対応した経年変化を示している。

全体として、区民の評価は高い水準で安定しているといえるが、今後も、評価の低い分野への取り組みを一層強化し、暮らしやすさへの評価を向上させることによって、区民の定住意向を強めていくことが課題である。

2. 大震災などの災害への備え

東日本大震災から約5年半が経過したが、区民の防災意識や日頃の備えはどのようなになっているのだろうか。

備蓄や防災用具、買い置きなどの用意については、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などの用意をしている」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲料水などの買い置きはある」）は、今回は66.6%と、平成27年度調査結果（68.0%）とほぼ同様の数値となっており、依然として、震災直後の平成24年度調査結果（73.9%）に比べて低い水準に留まっている。

このように、震災直後に比べて、区民の防災への意識がやや低下している状況は続いており、日頃からの区民の防災意識を高めていく取り組みの必要性は変わっていない。

備蓄や防災用具、買い置きなどの内容としては、「水」「食料」「あかり」が8割を超えて高くなっているのに対して、「医療品（常備薬を含む）」は4割強、「救急セット」「簡易トイレ」は2割強に留まっており、備蓄内容に大きな差がある状況に変化はみられない。

また、水と食料の備蓄量については、いずれも「1日分以上3日分未満」が4割を越えて高くなっており、「3日分以上1週間分未満」は2割台、「1週間分以上」は1割前後と留まっている。

この結果は、平成27年度調査結果とほぼ同様であり、今後も、医療やトイレだけでなく、水や食料の備蓄量についても、国の「最低3日分、可能であれば1週間」という目標に少しでも近づくよう、区民の取り組みを促進していくことが重要である。

さらに、災害時の備蓄や防災用具などの用意を特にしていない人の内、水や食料の確保について「考えていない」という人が今回41.1%（全体の12.9%）と、平成26年度以降、横ばい状態が続いており、東日本大震災直後に比べて、区民の防災への危機意識がやや弱まっている現状が浮かび上がっている。今後も、20代、30代の男性や20代の女性をはじめとして、防災意識の希薄な層に対して、災害時の物流停止などの事態に関する情報を提供し、日頃から災害に備えるように継続的に働きかけていくことが必要である。

次に、家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は今回27.3%と、平成27年度調査結果（27.9%）とほぼ同様の結果となっている。

また、【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）人は、その理由として、「面倒である」「室内に危険性のある家具類がないため不要である」「建物の壁にキズをつけたくない」等と回答する人が、いずれも2割を超えており、地震の際の家具転倒の危険性について十分に認識をしていない人は依然として多い。

最後に、大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、非常用トイレの確保などの衛生対策の充実「水・食料の備蓄の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」の3項目が、平成27年度調査結果と同様、いずれも5割を超えて上位3位を占めるという回答傾向に変化はみられない。「ライフラインやエネルギーの確保」は、行政の当然担うべき役割であるが、「水・食料の備蓄の充実」や「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」については、行政だけではなく、区民自身の自主的な取り組みも重要であることから、行政の防災対策の一層の充実を図るとともに、区民自身の防災意識を一層高めていくことが課題である。

3. 洪水対策

『足立区洪水ハザードマップ』を【見たことがある】（「自宅周辺の状況を理解した」＋「見たが内容までは覚えていない」）は今回59.1%と、平成27年度の調査結果（52.8%）より増加している。しかし、『足立区洪水ハザードマップ』の認知度は向上しているものの、20代、30代の男性、20代の女性では「そのような地図はみたことがない」が高くなっており、今後も、このマップの存在を、性別、年代を問わず、広く区民に周知していくことが重要である。

次に、河川はん濫による浸水被害の際の対処としては、「避難する」が〈足立区に大雨・洪水警報が出されたとき〉で21.5%、〈自宅付近が浸水したとき〉で47.6%、〈近所の人が避難しているのを見たとき〉で52.4%、〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉で28.1%と、これらのケースでは、今回、「避難する」が微増しているものの、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉は79.8%で微減している。

また、荒川がはん濫した時の最初の避難先としては、「近くの学校や公共施設」が今回27.3%と、平成27年度の調査結果（30.8%）より微減している。その一方、「自宅の高層階（3階以上）」は今回26.9%と、平成27年度の調査結果（24.6%）より微増している。

今後も、『足立区洪水ハザードマップ』への認知度の向上を図るとともに、河川はん濫時に、区民が適切な対処ができるよう、幅広い支援をしていくことが必要である。

4. 区の情報発信のあり方

区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が72.3%と、平成27年度の調査結果(71.7%)から微増となっており、依然として高い水準を維持している。

その一方、30代、40代の男女をはじめとして、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」の比率は年々上昇している。

こうした状況を踏まえて、今後も「あだち広報」のような紙媒体の重要性を認識し、その内容の一層の充実を図るとともに、インターネットを利用して自ら積極的に情報を得ようとする区民に対し、適切な情報を発信していくことが必要である。

次に、区が発信する必要がある情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が61.3%を占めて最も高くなっているほか、「災害や気象に関する情報」と「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」も5割を超えている。このように、上位3項目は、やや比率の増減はあるものの、平成27年度調査結果とほぼ同様になっており、区民の最大の関心事が健康、福祉、防災にあるという状況は変わっていない。

また、こうした情報が必要なときに得られているか聞いたところ、【得られている】（「十分に得られている」＋「ある程度得られている」）が、平成27年度調査結果の64.7%から今回67.5%へと増加しており、この傾向は平成25年度以降続いている。このように、区民への情報提供は、徐々にではあるが確実に進んでいることがわかる。

しかしながら、年々減少してはいるものの【得られない】（「得られていないことが多い」＋「まったく得られない」）と答えた方が、1割台半ばを占めており、その理由である「情報が探しにくい」「情報の探し方がわからない」が合わせて6割を超えるという状況は平成27年度調査と大きく変わっていない。

今後も、【得られている】という層を増やし、【得られていない】という層を減らしていくためには、多角的な情報発信により、効果的に行政情報を届けることが求められる。まずは、リニューアルから5年が経過した公式ホームページについて、閲覧者の利用方法の変化に対応出来るよう見直しを図っていく。

なお、数は少ないものの、「区の情報に関心が無い」と答えた方も一定程度存在（3.1%）するため、このような方にどのように関心を持ってもらうかも今後の課題となる。

「お問合せコールあだち」の利用状況については、【知っている】（「利用したことがある」＋「知っているが利用したことがない」）が今回33.3%となっており、平成26年度調査以降、微増傾向を示していることから、認知が進んでいることを伺わせる。

5. 健康

『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が7.4%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(23.2%)を合わせた【知っている】は30.6%を占めている。一方、「知らない」は67.2%となっている。女性では、各年代にわたって【知っている】が比較的高くなっているが、男性では女性に比べて【知っている】が低くなっている。今後は、男性をはじめとして、この区のキャッチフレーズの周知を図っていくことが重要である。

また、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについては、今回も、「失明」「足の壊疽(えそ)」「口の渇き」「人工透析」等で高くなっているものの、「神経障がい(手足のしびれ)」や「網膜症」のような《重大な合併症の兆候》を示すものについては、依然として【知っている】が3割以下に留まっている。

今後も、糖尿病という病気の危険性について、継続して区民の理解を深めていくことが重要である。

糖尿病の予防には、「食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である」と言われているが、「食べている」は64.7%を占めている。一方、「食べていない」は26.1%となっている。性別で見ると、「食べている」は20代の女性に比べて、同年代の男性で低くなっているのが特徴的である。

また、野菜の摂取量については、「1日350g以上」が目標とされているが、実際に、【できている】(「できている」+「まあできている」)は38.0%と平成27年度調査結果(39.6%)とほとんど変わっていない。とくに、【できている】は20代から60代の男性、20代の女性で低くなっており、引き続き、この年代を中心に健康維持のための野菜摂取の重要性を啓発していくことが重要である。

次に、体調や習慣についてみると、「あてはまる」は、〈現在の健康状態はよい〉が71.6%、〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉が63.7%と、いずれも高くなっており、ここ数年ほぼ同様の結果となっている。区民の多くは健康であり、医療環境にも恵まれていると考えていることがわかる。

しかしながら、日頃の生活の中では、30代から60代の男性で喫煙習慣のある人が3割台半ばを超えている。

最後に、健康維持のために実行している、心がけていることとしては、ここ数年、「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」が6割を超えて高くなっている。今後も、健康づくりのために、区民に対して、食生活の改善、運動の実践、各種健診・検診の受診等に取り組んでいくよう促していくことが必要である。

6. スポーツ

日常的な運動・スポーツの実施状況をみると、「30分以上の運動を週に2回以上」が19.1%を占め、「年に数回（時間は問わない）」まで含めると【運動している】全体は53.1%となっている。その中でも「週1回程度（時間は問わない）」以上を実践してしている人の割合は40%である。一方、「運動・スポーツはしていない」は42.3%である。年代別・性別でみると、「30分以上の運動を週に2回以上」が、70歳以上の男性で34.1%、70歳以上の女性で25.9%と、いずれも他の年代より高くなっているのが特徴的である。

次に、継続的に実施している運動・スポーツをみると、「ウォーキング」が43.3%で最も高く、続いて「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」（20.4%）となっている。

2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック大会以後、パラリンピックが注目されている中で、「障がい者スポーツへの意識・行動」を聞くと、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットの観戦を含む）」が21.2%で最も高くなっている。一方、「特にない」が45.3%を占めている。

また、「スポーツボランティア活動への意識・行動」をみると、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」等、いずれも1割以下に留まっている。一方、「特にない」が56.5%を占めている。

「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心あること」としては、「交通網・交通インフラの整備」が25.3%で最も高く、以下「会場での応援活動」（17.8%）、「選手の育成や支援」（14.9%）の順で続いている。一方、「特にない」は29.4%となっている。

さらに、足立区の温水プールやスポーツ施設を高齢者が無料で使用できる制度（高齢者免除制度）については、35.5%が何らかの制度改正を望んでいるものの「現行のまま継続すべき」が46.7%で最も高くなっている。性・年代別でみると、女性では、70歳以上を除く各年代で「現行のまま継続すべき」が5割を超えている。

今後は、障がいの有無に関係なく、だれもが気軽に運動・スポーツができる環境をさらに充実させていくとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けた区の取り組みを促進させ、大会後のレガシーに繋がるような施策の展開が必要である。

7. ビューティフル・ウィンドウズ運動

ビューティフル・ウィンドウズ運動については、【知っている】（「知っていて、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」）は今回47.6%と、平成22年度以降は増加傾向にあり、徐々にではあるが着実に区民の認知は進んでいる。しかしながら、地域や年齢によって、【知っている】の数値が異なるほか、「知っていて、活動を実践している」区民は、いずれの年代、地区でも1割に満たない状況にある。今後は、この取り組みへの理解を広めていくとともに、区民の活動への参加を促進していくことが重要である。

また、足立区内の刑法犯認知件数が減少していることを「知っている」人も43.8%と、平成26年度調査結果以降、増加している。

さらに、居住地域の治安状況については、平成28年度調査結果では、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が54.1%と、平成27年度調査結果（51.5%）を上回り、平成23年度調査以降、増加傾向にある。この結果からは、区の治安状況の改善が着実に進んでいることがわかる。

しかしこれも、治安状況に対する評価にはかなり地域差があるほか、20代の女性では、【悪い】と【良い】がほぼ同率となっている。したがって今後も、地域や性別、年齢にかかわらずすべての区民が、安心して生活できるよう、ビューティフル・ウィンドウズ運動全般に取り組んでいくことが必要である。

【良い】と回答した人に、その理由をきいたところ、平成27年度調査結果と同様に「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が最も多くなっている。また、治安対策として区に力を入れてほしいこととしても、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」が51.5%と、ここ数年と同様に高い比率となっており、依然として防犯カメラに対する区民の期待は大きいといえる。また「安心・安全パトロールカーによる防犯パトロール」「安全に配慮した道路・公園の整備」も4割前後と高くなっている。

さらに、治安を【悪い】と感じる人では、今回、「自転車盗難・空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は今回52.5%と、前回調査結果の56.7%より低く、平成26年度調査以降減少傾向を示している。

このように、区の治安状況が改善していると評価する区民は年々増えており、区の取り組みは一定の成果を得ていると考えられる。今後、足立区をさらに安心安全なまちにしていけるため、治安の向上のための様々な事業に、区民と行政、関係機関が緊密に連携して、取り組んでいくことが求められる。

8. 環境・地域活動

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が今回も84.3%と最も高くなっており、平成23年度以降、毎年僅かな数値の増減はあるものの、常に8割を超えており、《ゴミの分別》が区民の間にほぼ定着したことがわかる。また、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」と「マイバックを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」も、ここ数年5割を超えている。

次に、この1年間に参加した活動をみると、「特に参加していない・特にない」は今回40.3%と、平成26年度調査結果（32.7%）以降増加傾向にあり、反対に《何らかの活動に参加している》が減少していることがわかる。

その内容としては、ここ数年と同様に「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が今回も19.1%と、最も高くなっている。また、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」「町会や自治会の運営に関する活動」も1割を超えている。

一方、今後の活動への参加意向をみても、ほぼ同様の傾向が示されている。

最後に、区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業の評価については、【そう思う】（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が今回23.2%と、平成27年度調査結果の20.2%から微増しているが、平成25年度調査（30.0%）の水準には回復していない。また、「わからない」という回答も、平成27年度調査結果と同様に6割近くを占めており、区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業の内容や、その進捗状況を、区民が客観的に評価できる仕組みをどのように構築するか、という課題は依然として解決していないことがわかる。

9. 「孤立ゼロプロジェクト」など

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況をみると、【知っている】（「知っていて、内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）が、今回30.5%と平成27年度調査結果（30.2%）とほぼ同様の結果となっている。

地区ブロック別でみると、第4、第5、第8、第9、第10、第11、第12ブロックでは【知っている】がいずれも3割を超えて、性・年代別でみると60代、70歳以上の男性、40代、50代、60代、70歳以上の女性で高くなっており、地域や年齢によってかなりの差がある。その認知経路をみると、「あだち広報」は今回57.9%と、平成25年度調査結果（55.2%）より微増している。

今後も、「あだち広報」を中心として、町会・自治会、民生・児童委員などと連携して、区民すべてに、このプロジェクトを認知してもらうことが重要である。

また、「地域包括支援センター」の認知状況についてみると、【知っている】（「知っていて、業務内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」）は、今回52.7%となっており、ここ数年微増傾向を示している。

さらに、高齢者の孤立防止や見守り活動への参加意向をみると、【協力したい】（「積極的に協力したい」＋「負担にならない範囲で協力してもよい」）は今回16.7%と、ここ数年横ばい状況にある。地域ブロック別でみても、【協力したい】は多くのブロックで1割台半ばから2割強に留まっている。性・年代別でみても、【協力したい】が2割を超えているのは70歳以上の男性、60代、70歳以上の女性に限られている。

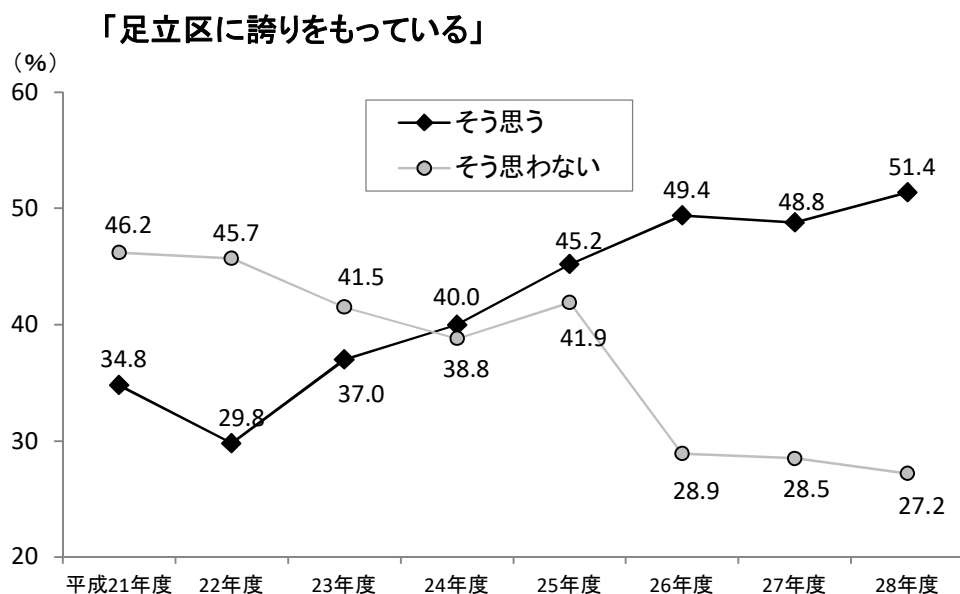
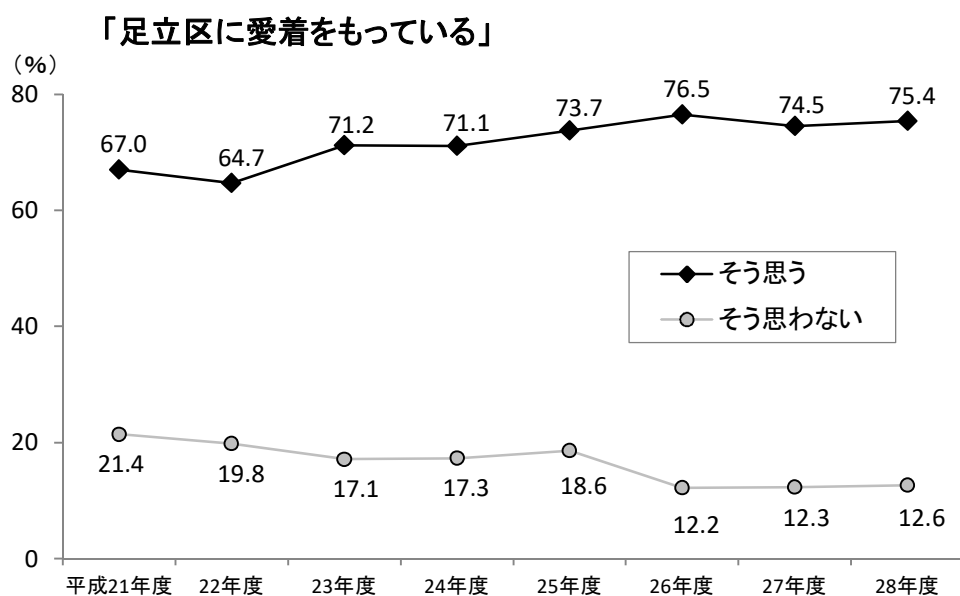
次に、協力意向のある人では、「体調の変化、悩み相談などをうかがいながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」が今回49.3%と、平成27年度調査結果（56.0%）より低下したものの、依然として第1位を占めているほか、『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動も3割台半ばを占めている。

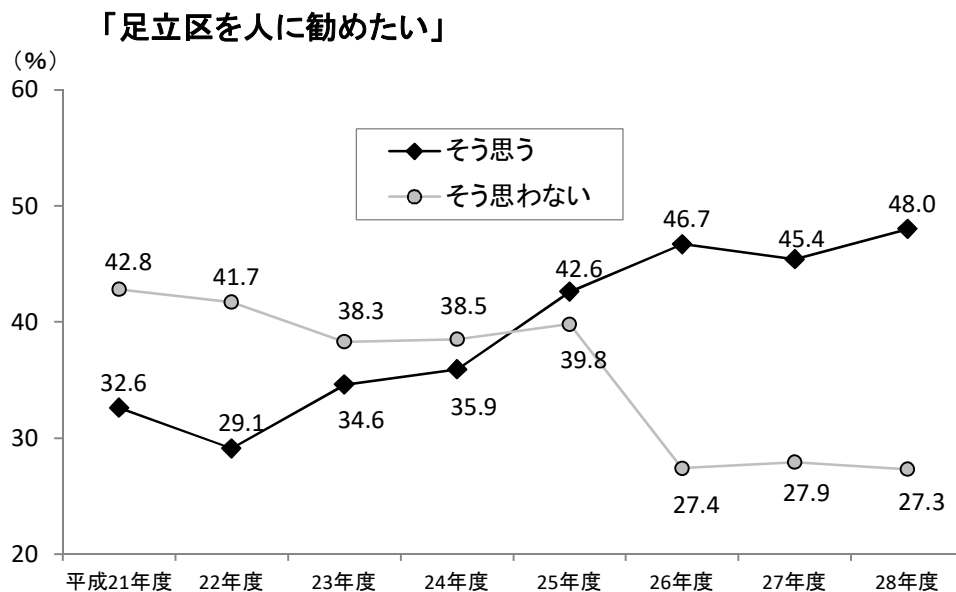
また、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などの権利を擁護するための成年後見制度が注目されている。この制度を【知っている】（「内容まで知っている」＋「名前は知っているが、内容はわからない」）は今回59.8%と、平成27年度結果（57.4%）より微増し、ここ数年の増加傾向は続いている。

以上のように、地域包括支援センターの認知度や成年後見制度の認知度は、いずれも増加しているものの、孤立ゼロプロジェクトの認知状況や高齢者の孤立防止・見守り活動への参加意向の状況はここ数年ほとんど変わっていない。地域福祉を推進する上で、これらの取り組みは極めて重要な役割を果たすものであり、今後も、事業の周知に粘り強く取り組むとともに、活動への協力を促進していくことが重要である。

10. 区を取り組み

区に対する気持ちを〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目に分けて聞くと、【**そう思う**】（「**そう思う**」＋「**どちらかといえばそう思う**」）は、〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉のいずれも、今回それぞれ75.4%、51.4%、48.0%と、平成27年度の調査結果を上回り、とくに〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉は、過去最高の数値となっている。このことは、区民の区に対する愛着の深まりを端的に示しているといえるだろう。





また、前述したように、足立区の重要な政策課題である治安の問題についても、【良い】との評価が今回54.1%と、平成23年度調査結果（39.9%）から14.2ポイント増加しており、ここ数年で大きく改善されている。

さらに、地域の暮らしやすさへの評価や定住意向は横ばい気味であるものの、区全体に対する満足度は、今回【満足層】（「満足」＋「やや満足」）は今回57.7%と、平成27年調査結果（53.3%）より増加している。

今回調査においても、前回調査と同様に、区の各分野への取り組みへの現状評価（満足度）と重要度の関係を数値化（算出方法の詳細は230頁を参照のこと）してみると、足立区の場合、「重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）が、平均値より低い」分野、つまり、今後、重点的に取り組む必要のある分野が、「高齢者支援」「障がい者支援」「防災対策」「治安対策」「行政改革」「交通対策」であるとの結果は変わっていない。しかし、今回すべての分野で【満足層】（「満足」＋「やや満足」）が、平成27年度の調査結果を上回っており、「治安対策」をはじめとした各分野への満足度の高まりが、区全体への評価の向上につながっているといえる。

また、区政全体に対する満足度が高くなるほど、区への愛着、誇り、そして「足立区を人に勧めたい」とも増加しており、両者の間の相関関係は明らかである。

今後も、「高齢者支援」「障がい者支援」「防災対策」「治安対策」「防災対策」「行政改革」などの区の重点的課題の解決に、行政と区民、関係機関が連携し、一層積極的に取り組むことによって、区民の区政全体への満足度を向上させ、それを区民の定住意向の高まりへとつなげ、足立区を、すべての区民が愛着と誇りの持てる「まち」に発展させていくことが求められよう。

区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

1 足立区に愛着をもっている

全体	24年	25年	26年	27年	28年
	71.1	73.7	76.5	74.5	75.4

（%）

男性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	63.5	62.4	77.0	82.0	66.7
30代	68.0	69.8	77.2	67.3	67.7
40代	78.2	75.3	76.6	76.5	74.8
50代	65.0	78.6	80.6	73.0	82.1
60代	77.7	73.6	76.6	77.7	82.6
70以上	81.8	77.3	85.9	76.0	82.4

女性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	56.1	70.6	67.1	67.5	66.3
30代	59.9	64.9	77.6	69.0	66.7
40代	70.6	73.3	71.4	75.1	73.5
50代	63.2	73.6	68.7	74.7	75.7
60代	75.1	77.0	76.9	77.1	73.9
70以上	82.2	77.7	76.5	76.5	80.0

2 足立区に誇りをもっている

全体	24年	25年	26年	27年	28年
	40.0	45.2	49.4	48.8	51.4

男性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	28.1	24.7	44.3	54.1	44.9
30代	38.1	45.0	47.5	37.6	47.5
40代	44.2	47.6	50.6	48.8	51.9
50代	32.1	44.8	50.4	47.6	52.7
60代	45.3	52.3	51.5	52.2	59.7
70以上	61.7	59.1	65.9	63.0	68.2

女性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	24.5	30.6	35.4	37.7	33.7
30代	27.1	28.2	38.8	40.1	41.5
40代	29.4	33.0	42.3	42.8	42.7
50代	27.6	41.0	38.1	39.9	45.1
60代	45.2	50.3	50.0	51.4	50.3
70以上	57.4	58.3	57.3	57.7	60.0

3 足立区を人に勧めたい

全体	24年	25年	26年	27年	28年
	35.9	42.6	46.7	45.4	48.0

男性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	24.0	23.5	62.3	44.3	43.6
30代	37.4	47.3	49.5	36.6	48.5
40代	42.9	47.1	49.4	51.2	55.6
50代	31.4	42.8	48.2	49.2	50.9
60代	40.2	45.4	46.1	48.9	54.2
70以上	46.1	51.5	55.1	54.0	59.1

女性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	23.5	37.6	39.2	32.5	41.6
30代	31.1	38.5	42.5	41.5	40.0
40代	32.0	44.3	43.9	41.3	42.7
50代	29.6	42.4	40.3	39.9	47.9
60代	35.9	34.0	42.9	45.7	43.0
70以上	44.2	44.1	46.3	50.0	49.0

第3章 調査結果の分析

1 定 住 性

-
- (1) 居住地域の評価
 - (2) 居住地域評価の経年比較
 - (3) 地域の暮らしやすさ
 - (4) 特に暮らしにくいと感ずること
 - (5) 定住意向
-

1. 定住性

(1) 居住地域の評価

■ 〈普段の買い物が便利である〉と感じている人は7割台半ば

問1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

図1-1-1-① 経年比較／居住地域の評価

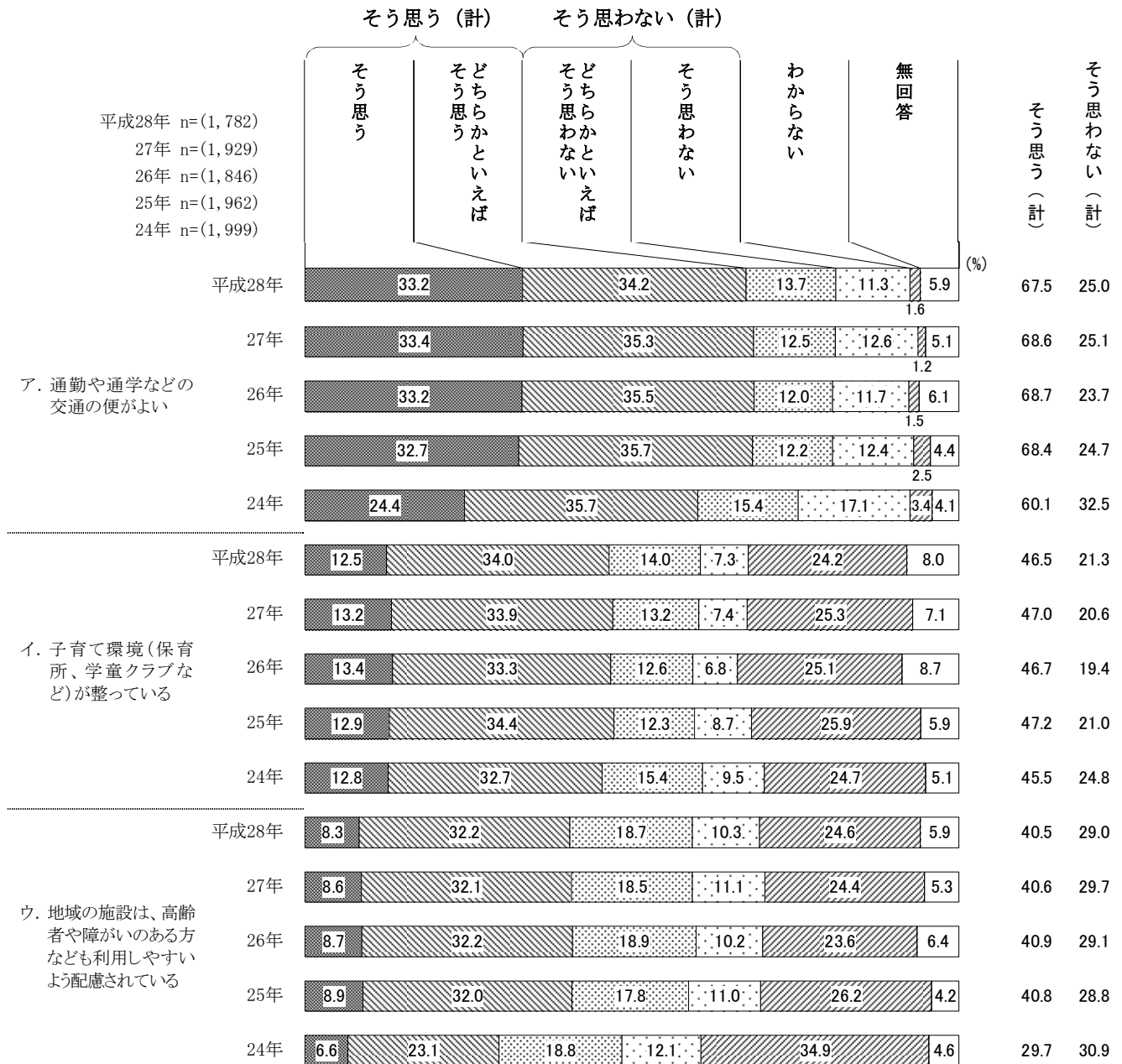


図1-1-1-② 経年比較／居住地域の評価

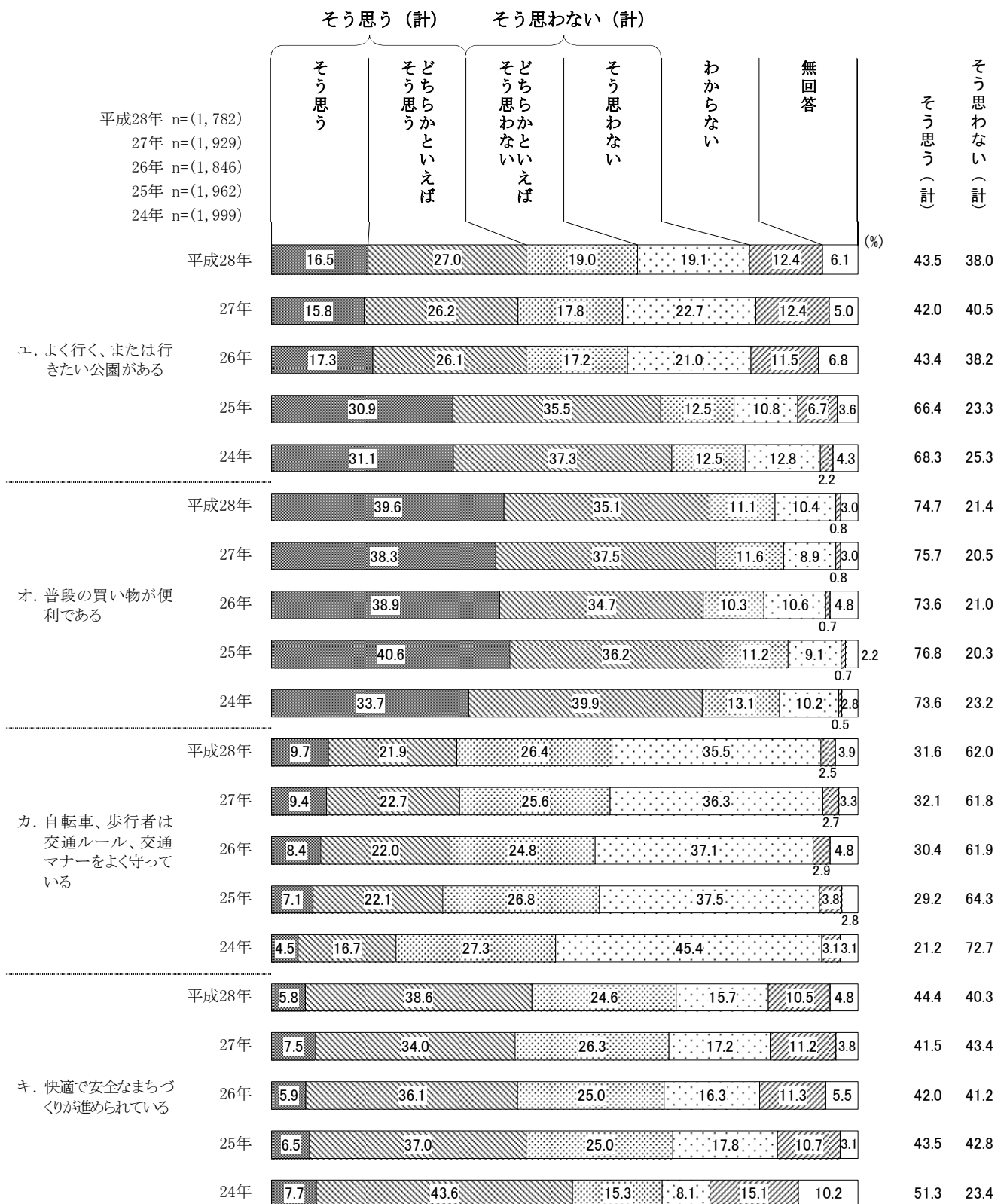
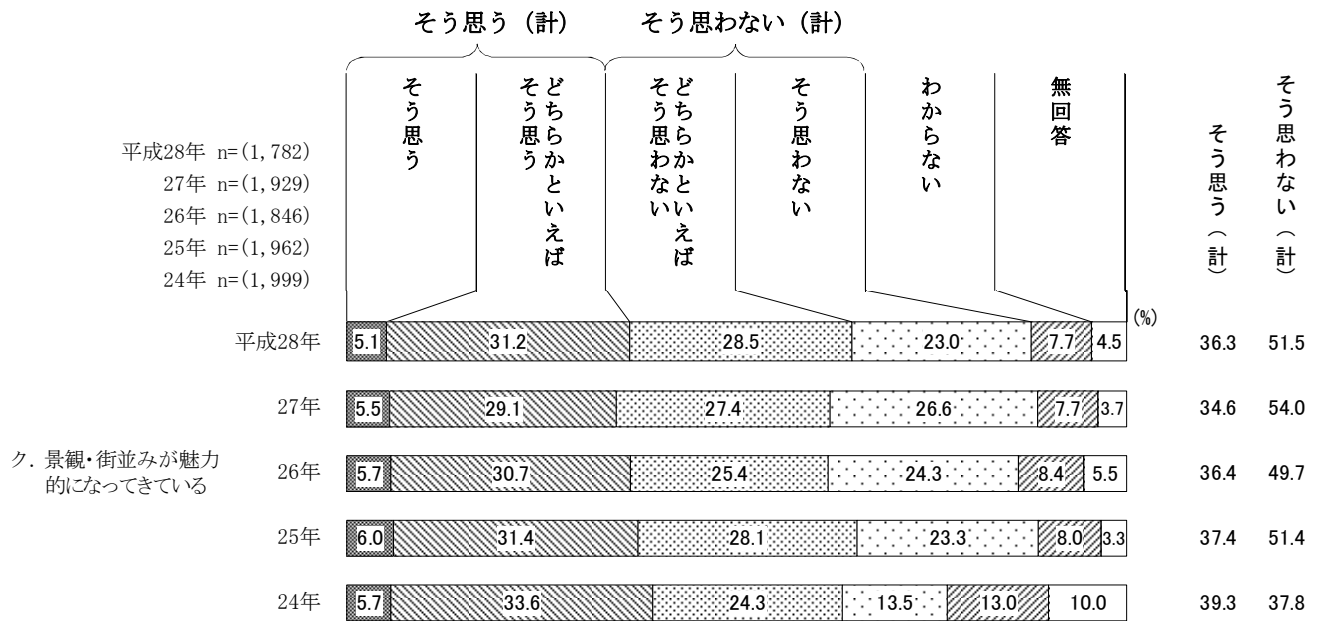


図1-1-1-③ 経年比較／居住地域の評価



※ウは、24年度「高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい」から表現をかえた。

※エは、25年度「利用しやすい公園がある」から表現をかえた。

住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、〈普段の買い物が便利である〉が74.7%で最も高く、以下〈通勤や通学など交通の便がよい〉67.5%、〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉46.5%の順となっている。

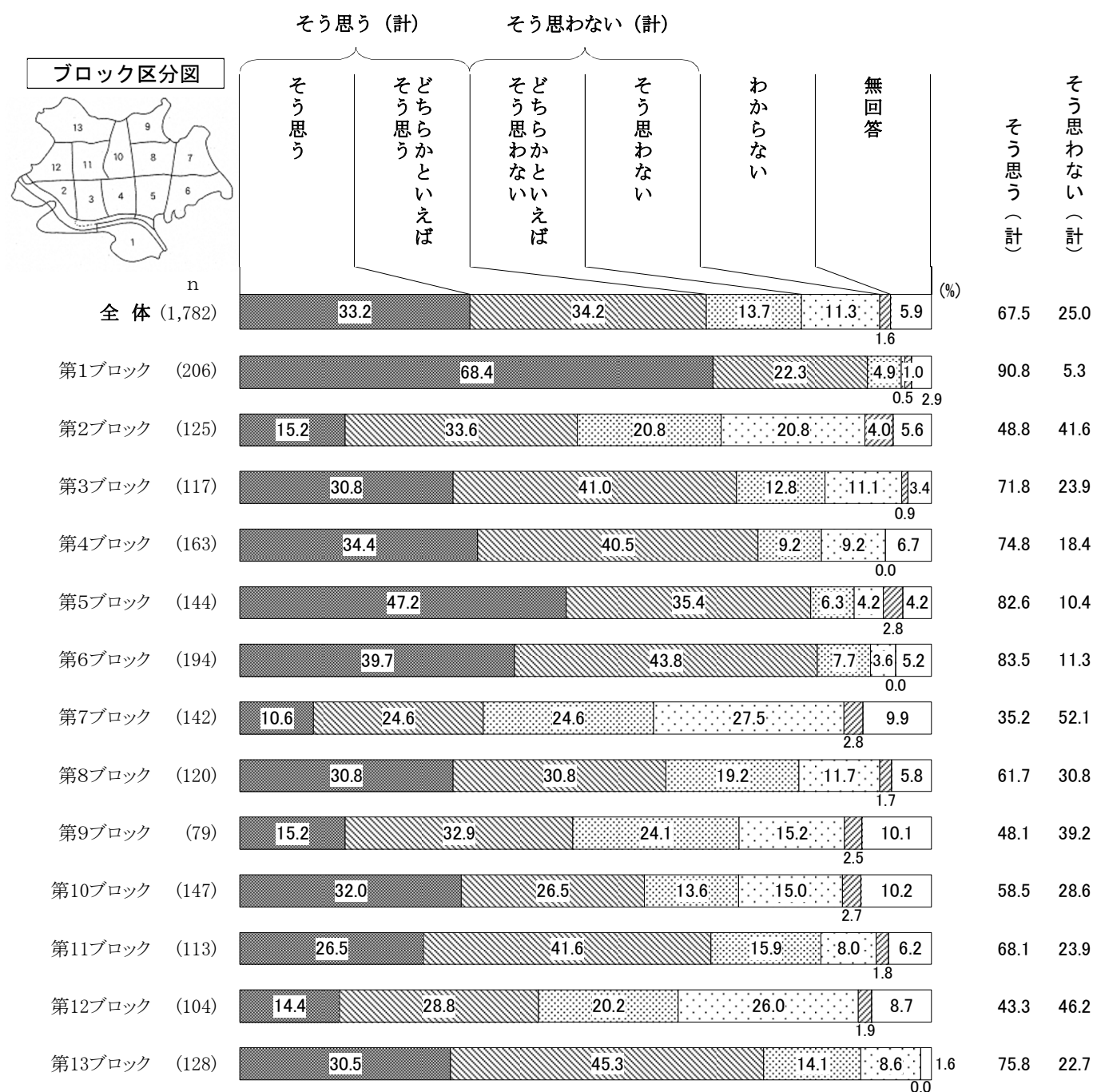
経年で比較すると、今回の調査では、8項目のうち3項目で【そう思う】が平成27年調査に比べて微増しているが、他の項目はやや減少する傾向にある。

第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

次に、各項目について、地域ブロック別でみた。

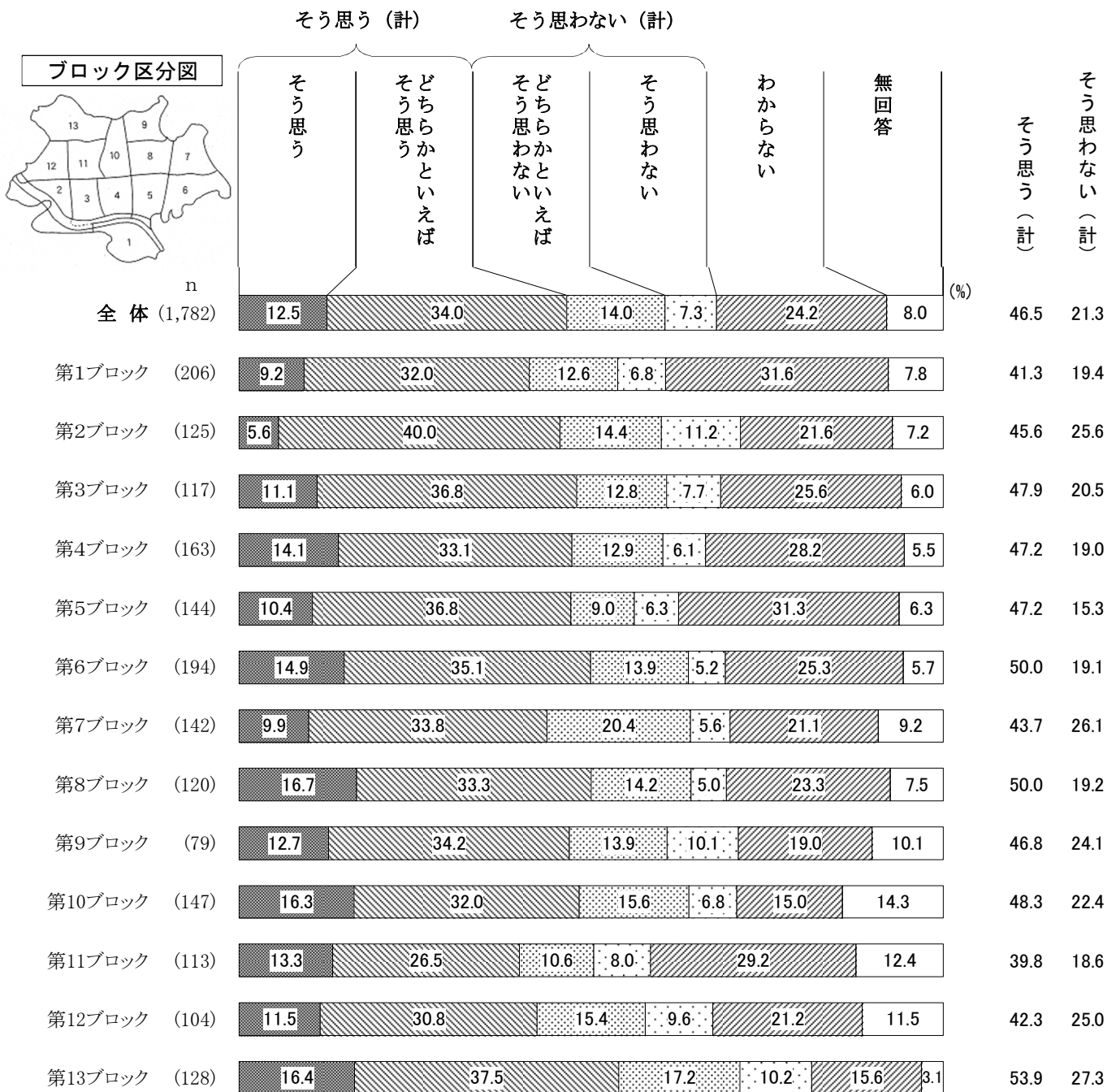
〈通勤や通学などの交通の便がよい〉について、【そう思う】は第1ブロックが90.8%と最も高く、次いで第6ブロックが83.5%となっている。【そう思わない】は、第7ブロックで52.1%と高く、これに第12ブロックが46.2%で次いでいる。

図1-1-2-① 地域ブロック別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便がよい



〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【そう思う】は第6ブロック、第8ブロック、第13ブロックでは、いずれも5割台前半となっている。【そう思わない】は、第2ブロック、第7ブロック、第9ブロック、第12ブロック、第13ブロックで、2割台半ばと、やや高くなっている。

図1-1-2-② 地域ブロック別／居住地域の評価／子育て環境が整っている

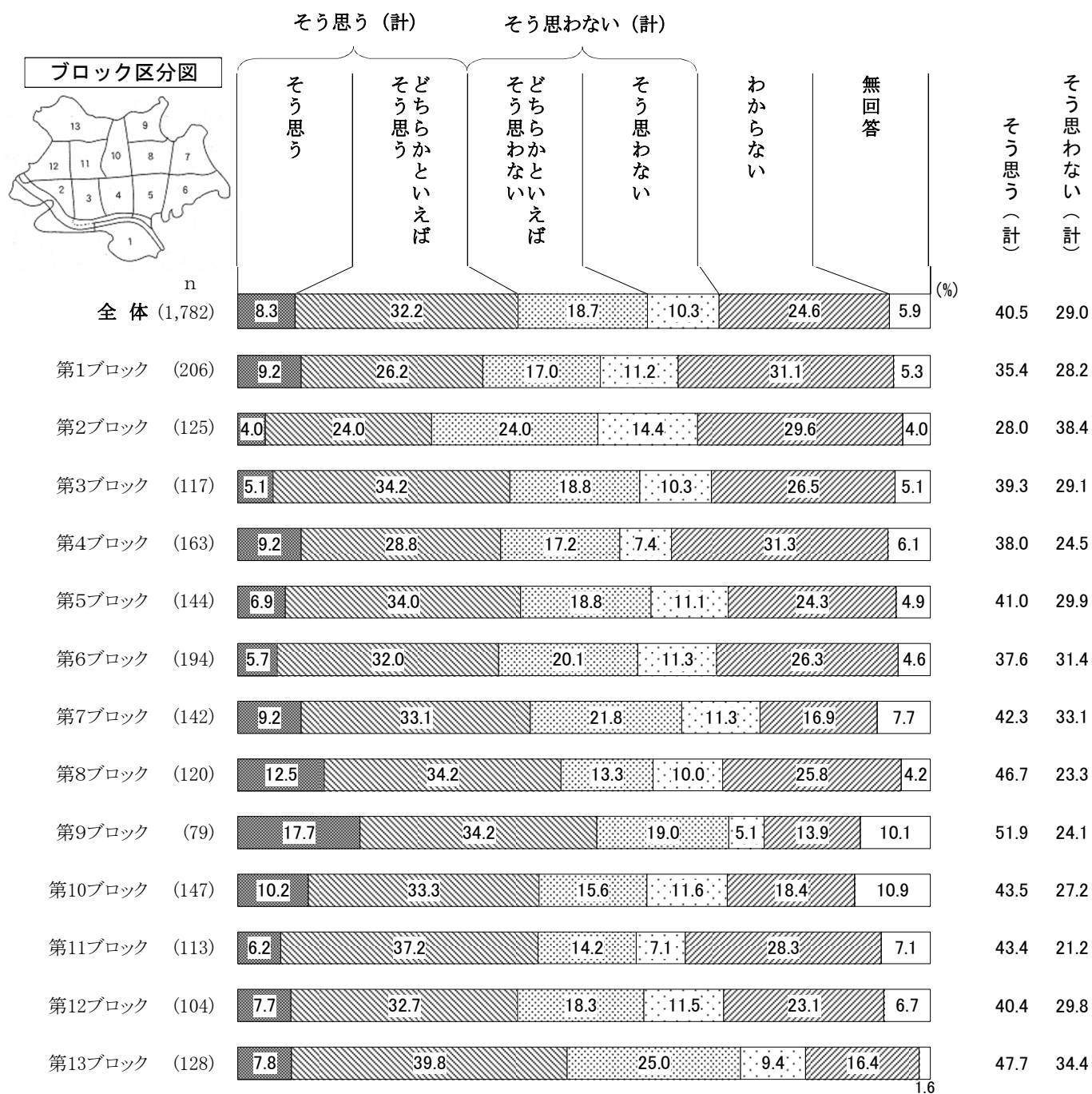


第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について
【そう思う】は、第9ブロックが51.9%で最も高く、次いで第13ブロックが47.7%となっている。
【そう思わない】は、第2ブロックで38.4%と最も高くなっている。

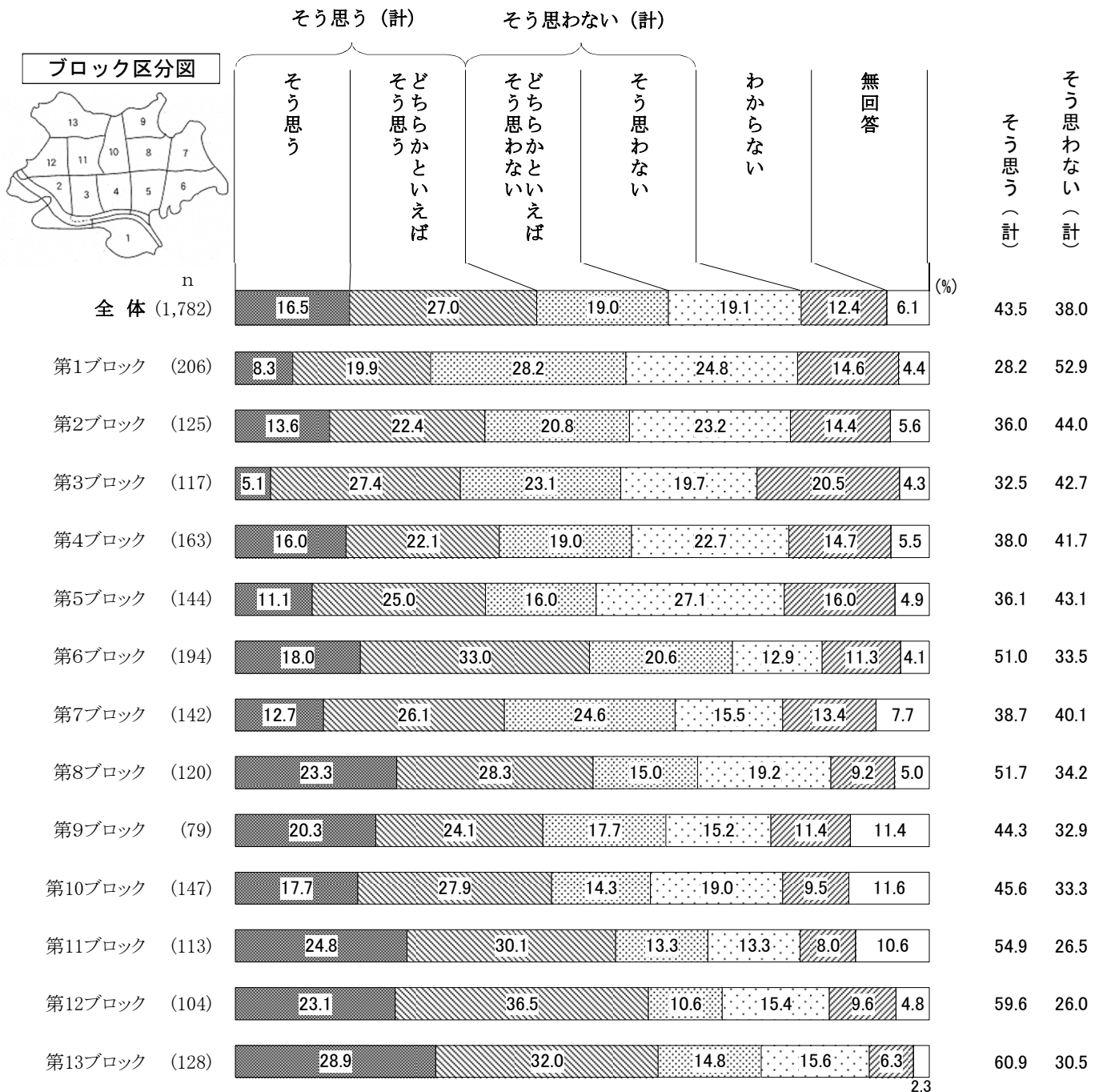
図1-1-2-③ 地域ブロック別／居住地域の評価

／地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



〈よく行く、または行きたい公園がある〉について【そう思う】は第12ブロック、第13ブロックで、いずれも6割前後を占めて、他の地区より高くなっている。【そう思わない】は、第1ブロックで52.9%と、他の地区より高くなっている。

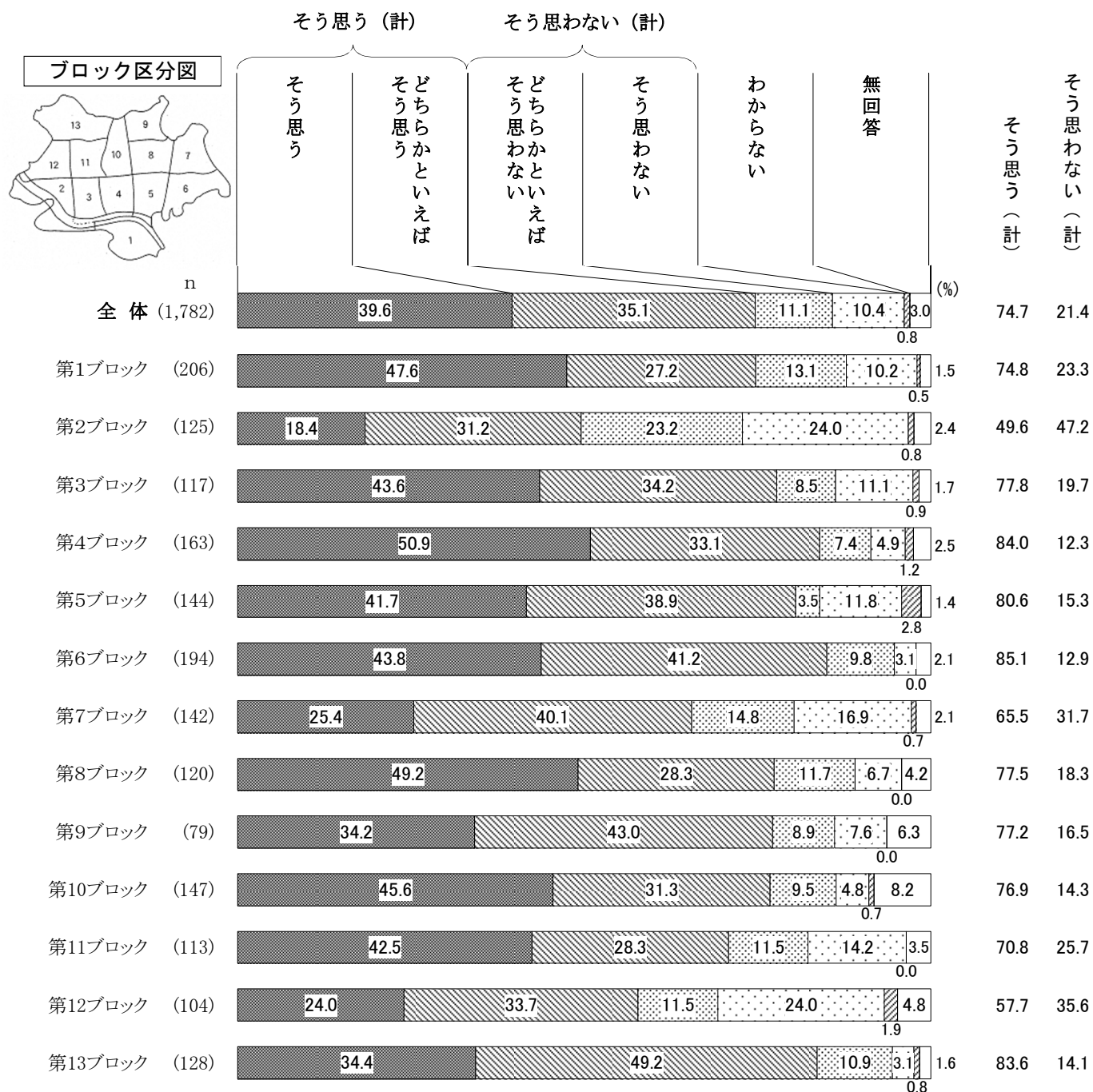
図1-1-2-④ 地域ブロック別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある



第3章 調査結果の分析〈定住性〉

〈普段の買い物が便利である〉について【そう思う】は、第6ブロックが85.1%で最も高く、以下、第4ブロックが84.0%、第13ブロックが83.6%が続いている。【そう思わない】は、第2ブロックで47.2%と最も高く、次いで第12ブロックが35.6%となっている。

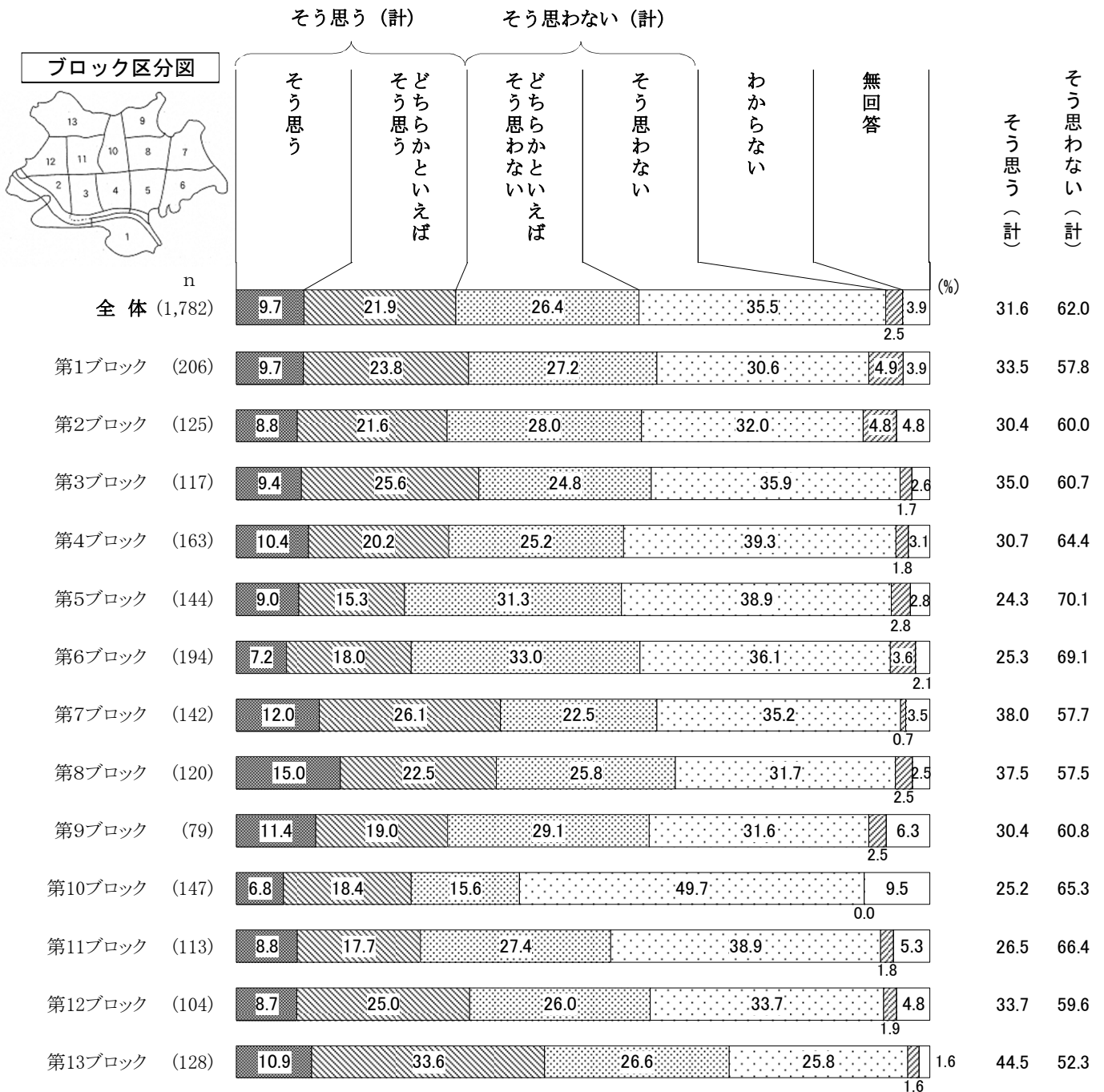
図1-1-2-⑤ 地域ブロック別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である



〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉について【そう思う】は、第13ブロックで44.5%と、他のブロックに比べて高くなっている。【そう思わない】は、第5ブロックで70.1%と高くなっているほか、第2ブロックから第4ブロック、第6ブロック、第9ブロックから第11ブロックでも6割以上となっている。

図1-1-2-⑥ 地域ブロック別／居住地域の評価

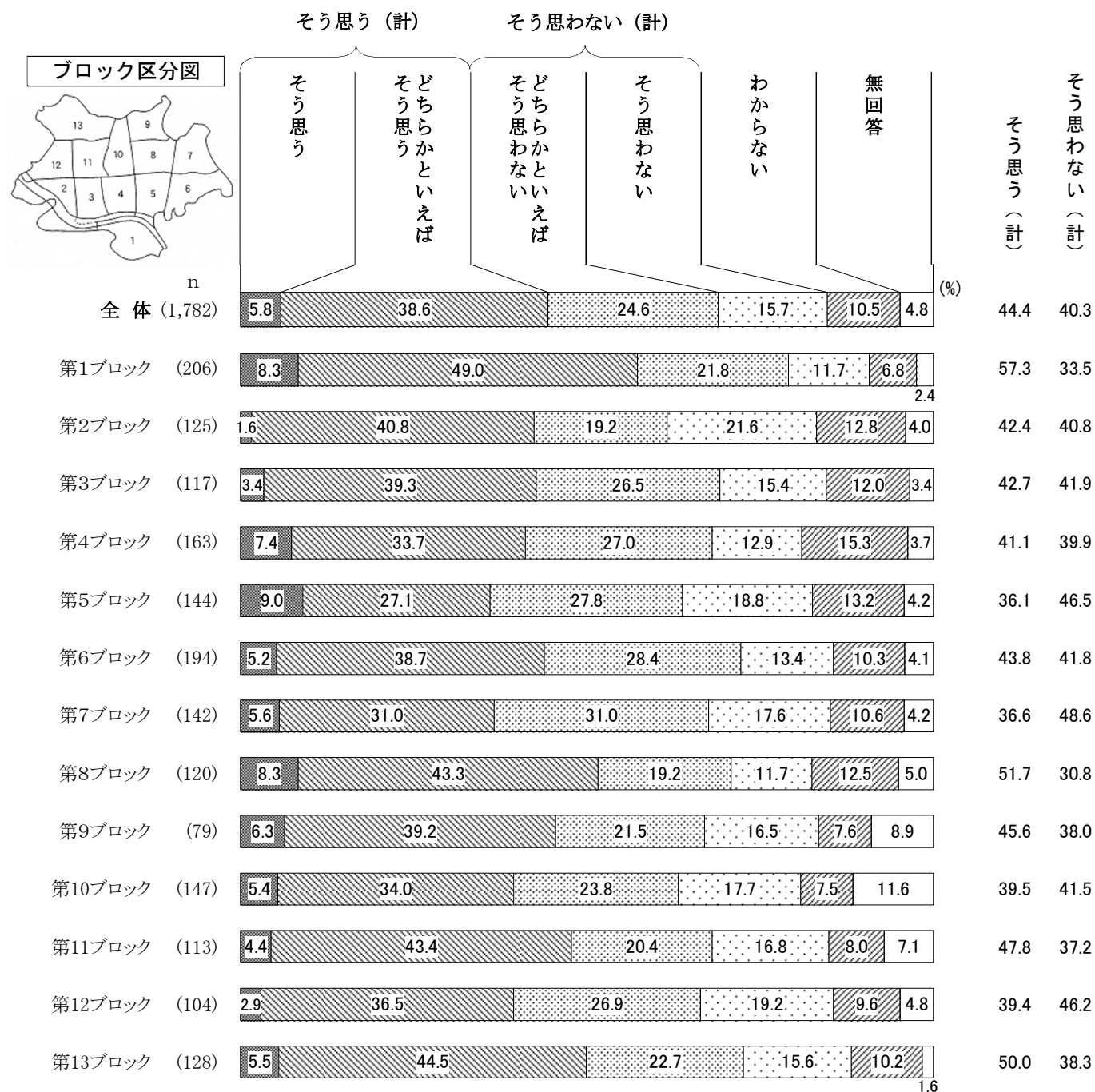
／自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている



第3章 調査結果の分析〈定住性〉

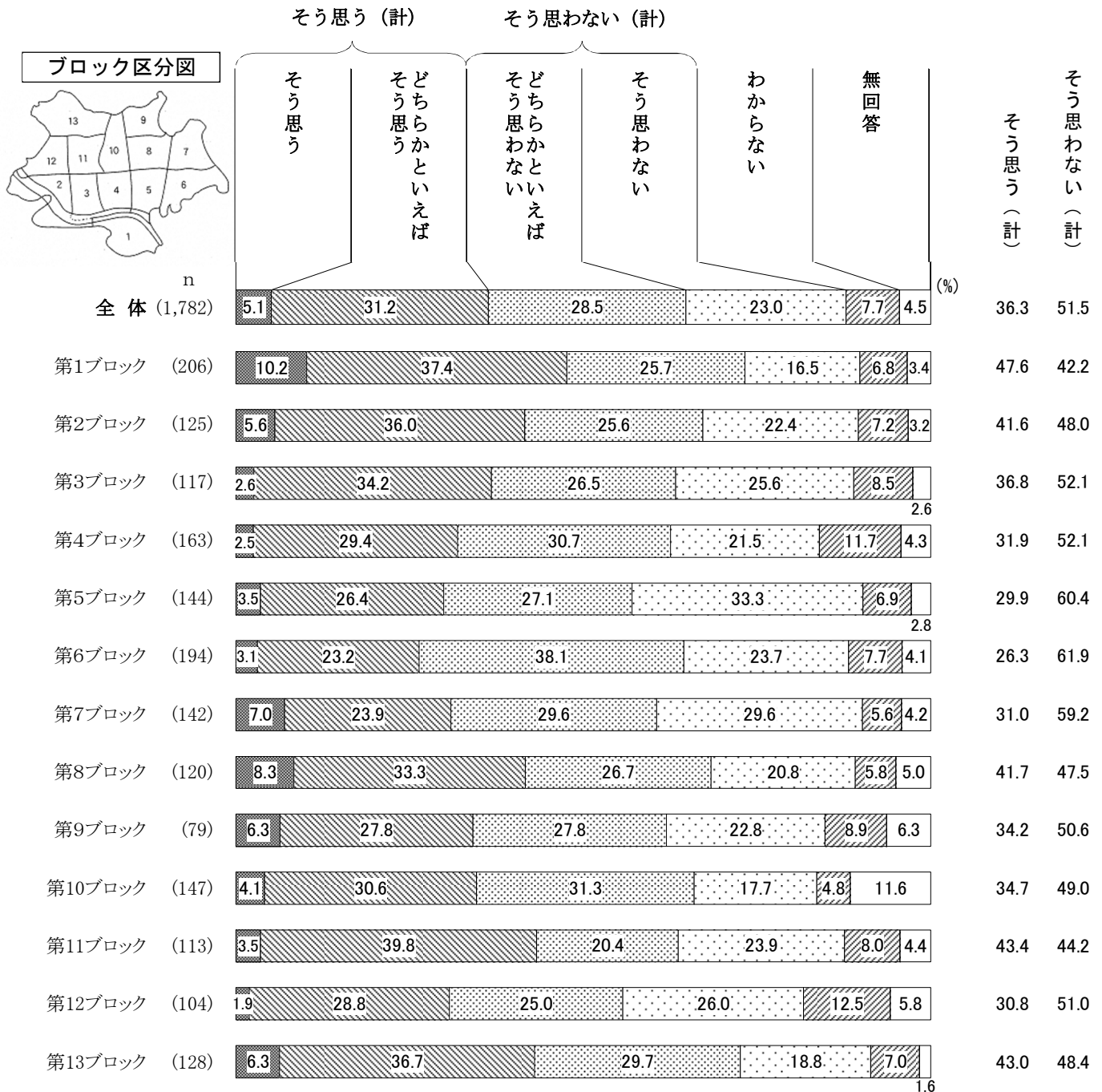
〈快適で安全なまちづくりが進められている〉について、【そう思う】は、第1ブロックで57.3%と高くなっているほか、第8ブロック、第13ブロックでも5割台となっている。【そう思わない】は、第5ブロック、第7ブロック、第12ブロックで4割台半ばを超えている。

図1-1-2-⑦ 地域ブロック別／居住地域の評価／快適で安全なまちづくりが進められている



〈景観・町並みが魅力的になってきている〉について、【そう思わない】は、第5ブロック、第6ブロックで、それぞれ60.4%、61.9%と6割を超えている。【そう思う】は、第1ブロック、第2ブロック、第8ブロック、第11ブロック、第13ブロックで4割を超えている。

図1-1-2-⑧ 地域ブロック別／居住地域の評価／景観・街並みが魅力的になってきている



(2) 居住地域評価の経年比較

■ 〈ペットのふん〉が【減っている】と感じている人は5割を超える

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのようにお感じになっていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

図1-2-1-① 経年比較／居住地域評価

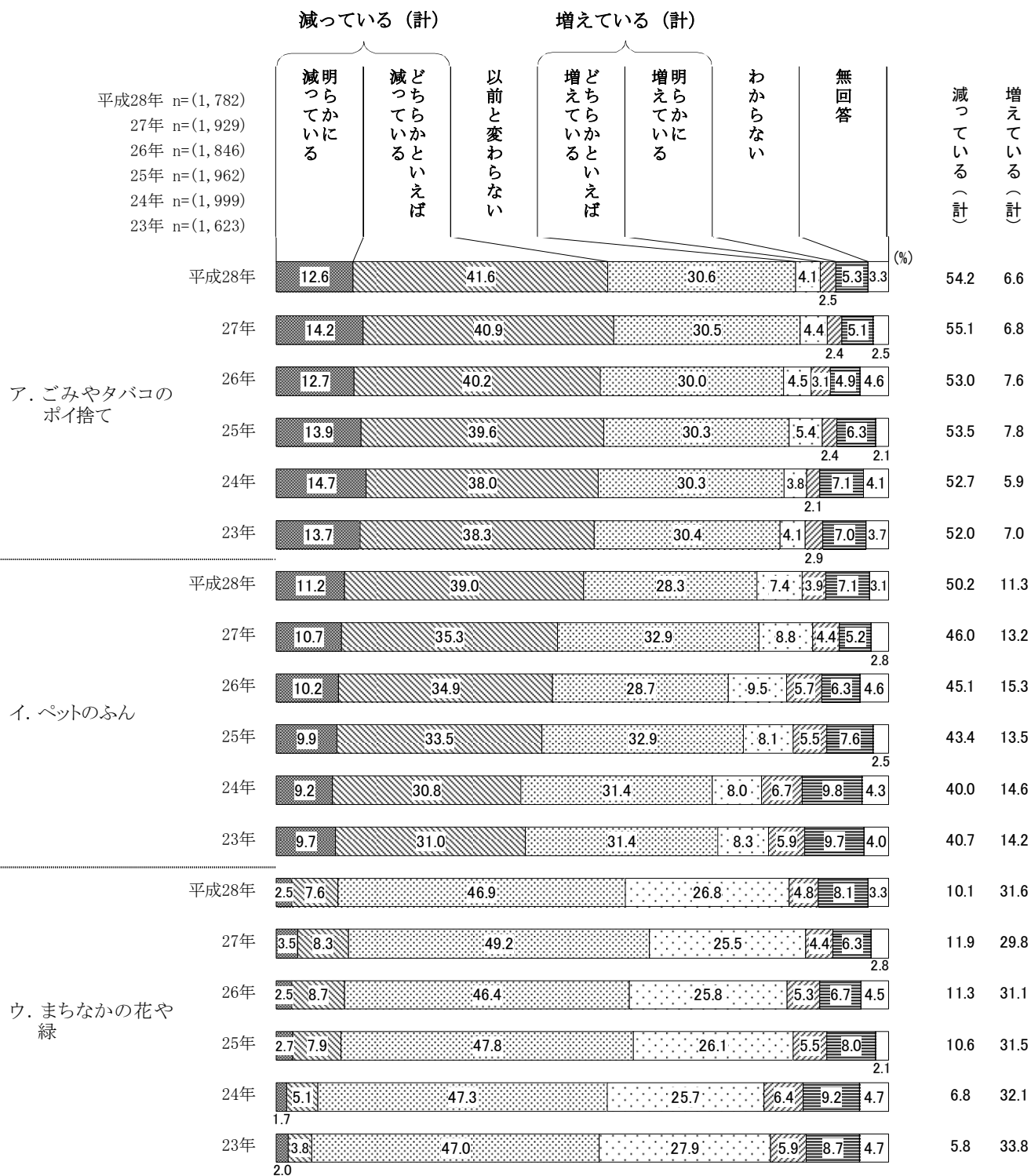
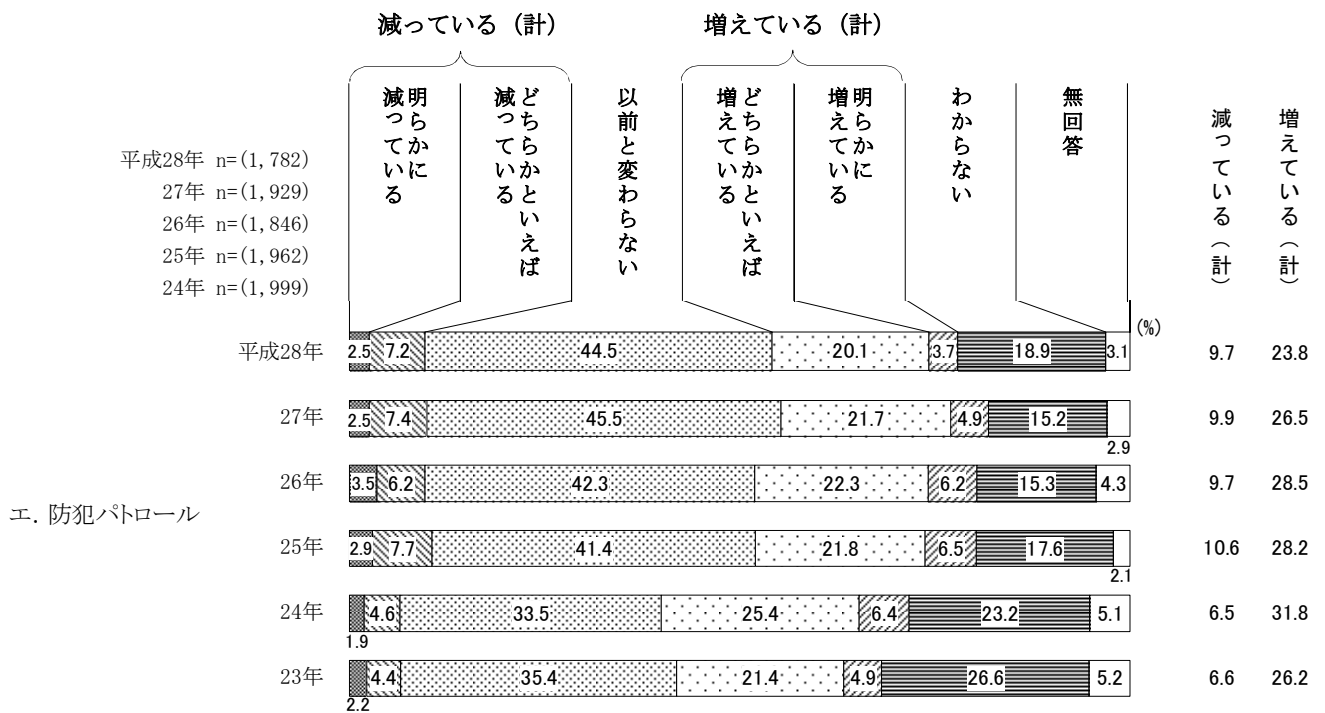


図1-2-1-② 経年比較／居住地域評価



お住まいの地域の状況について、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」を合わせた【減っている】の高い順にみると、〈ごみやタバコのポイ捨て〉が54.2%で最も高く、次いで〈ペットのふん〉の50.2%となっている。一方、〈まちなかの花や緑〉、〈防犯パトロール〉については、いずれも「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」を合わせた【増えている】が、それぞれ31.6%、23.8%と高くなっている。

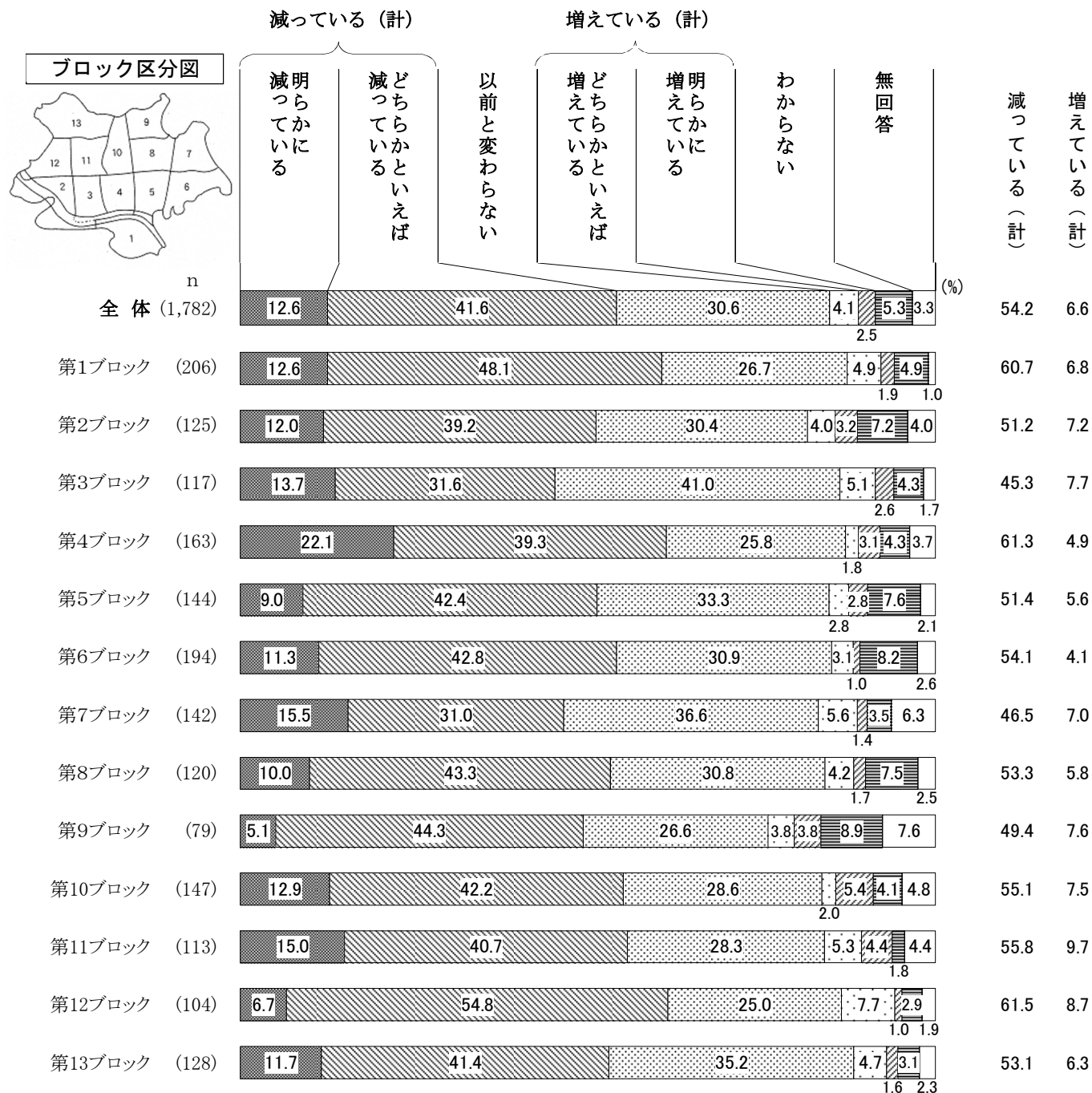
経年で比較すると、〈ペットのふん〉について、【減っている】が今回50.2%と、平成27年の46.0%より4.2ポイント増加している。一方、〈まちなかの花や緑〉は【増えている】が微増、〈防犯パトロール〉については、【増えている】が微減している。

第3章 調査結果の分析〈定住性〉

各項目について、地域ブロック別でみた。

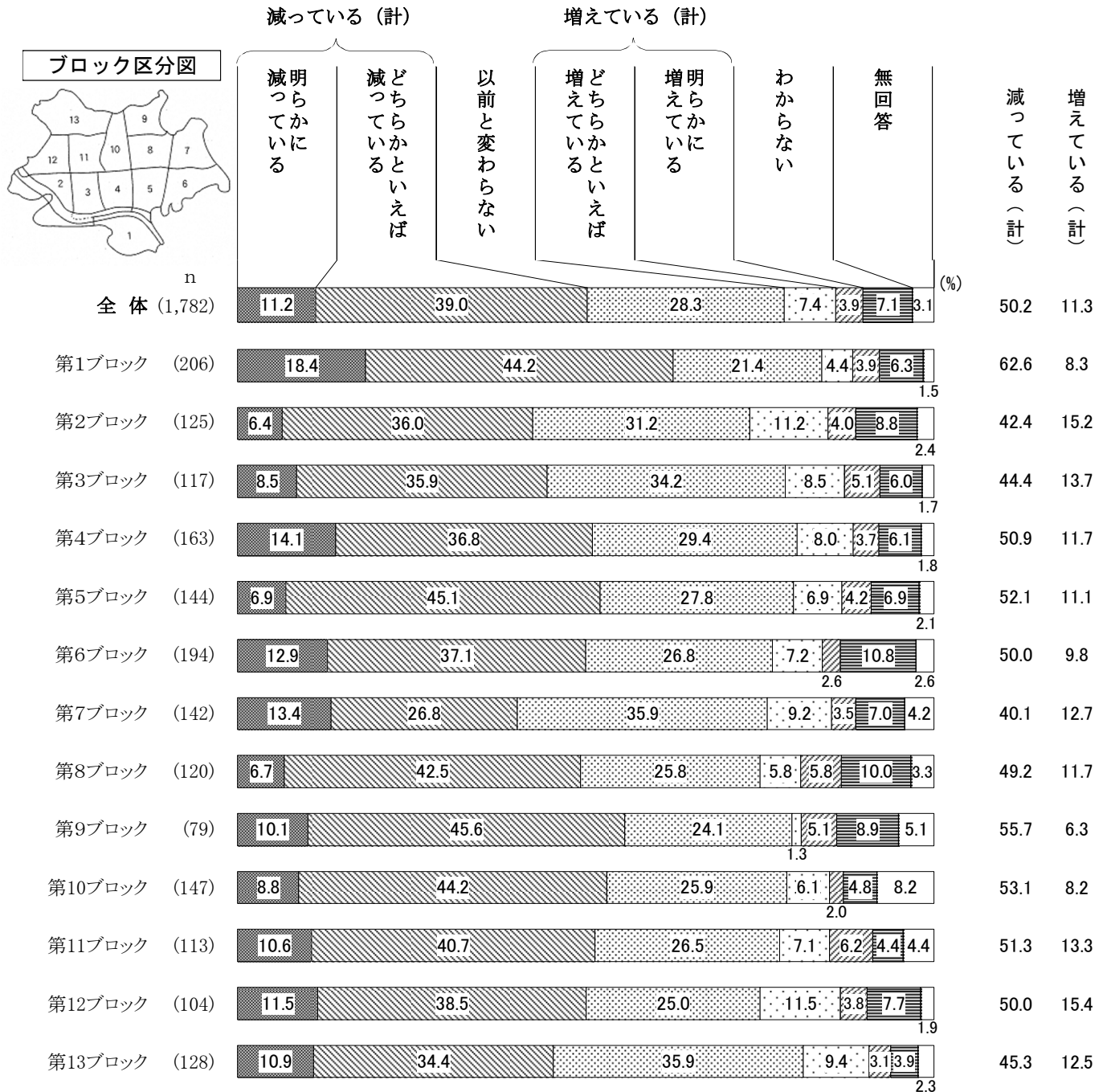
〈ごみやタバコのポイ捨て〉について、【減っている】は、第1ブロック、第4ブロック、第12ブロックで6割を超えている。【増えている】は、いずれのブロックでも1割以下に留まっている。

図1-2-2-① 地域ブロック別／ごみやタバコのポイ捨て



〈ペットのふん〉について、【減っている】は、第1ブロックで62.6%と高くなっているほか、第4ブロックから第6ブロック、第9ブロックから第12ブロックでも5割台となっている。【増えている】は、いずれのブロックでも2割以下となっている。

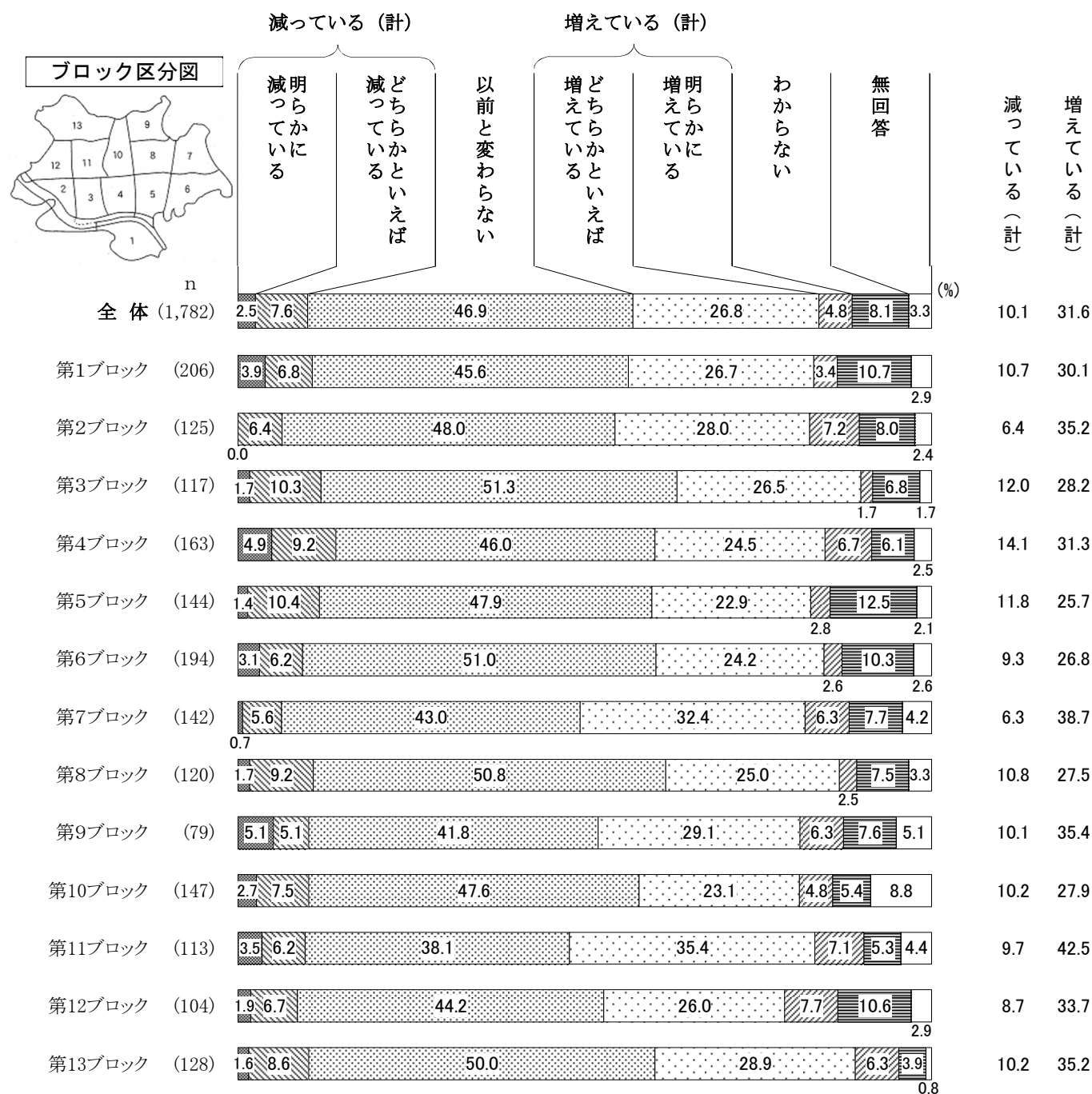
図1-2-2-② 地域ブロック別／ペットのふん



第3章 調査結果の分析〈定住性〉

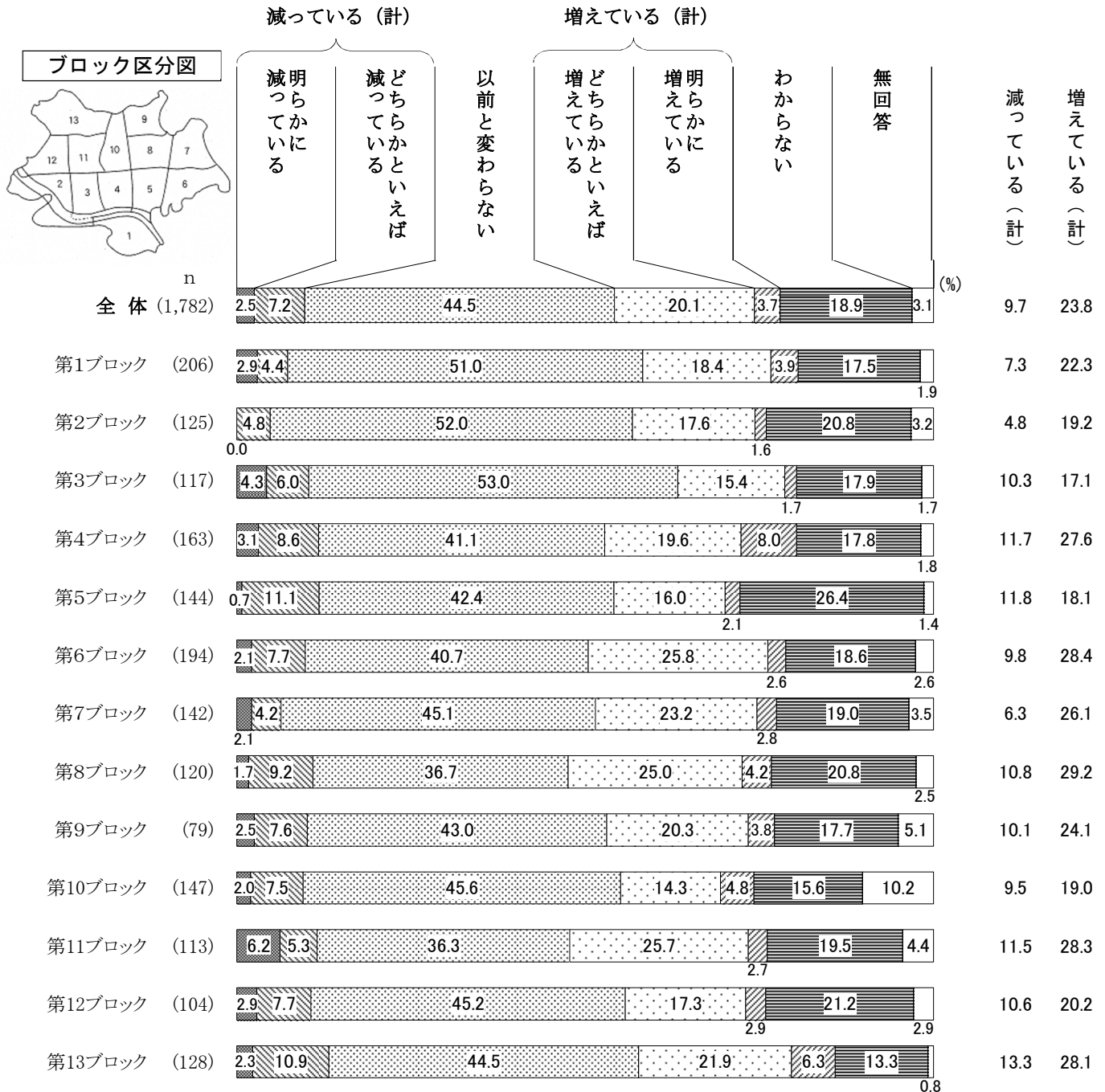
〈まちなかの花や緑〉について、【増えている】は、第11ブロックで42.5%と最も高く、以下、第7ブロック（38.7%）、第9ブロック（35.4%）の順となっている。【減っている】については、いずれのブロックとも2割以下となっている。

図1-2-2-③ 地域ブロック別／まちなかの花や緑



〈防犯パトロール〉について、【増えている】は、第6ブロック、第8ブロック、第11ブロック、第13ブロックで3割近くとなっている。【減っている】は、いずれのブロックでも1割台半ばから1割未満となっている。

図1-2-2-④ 地域ブロック別／防犯パトロール

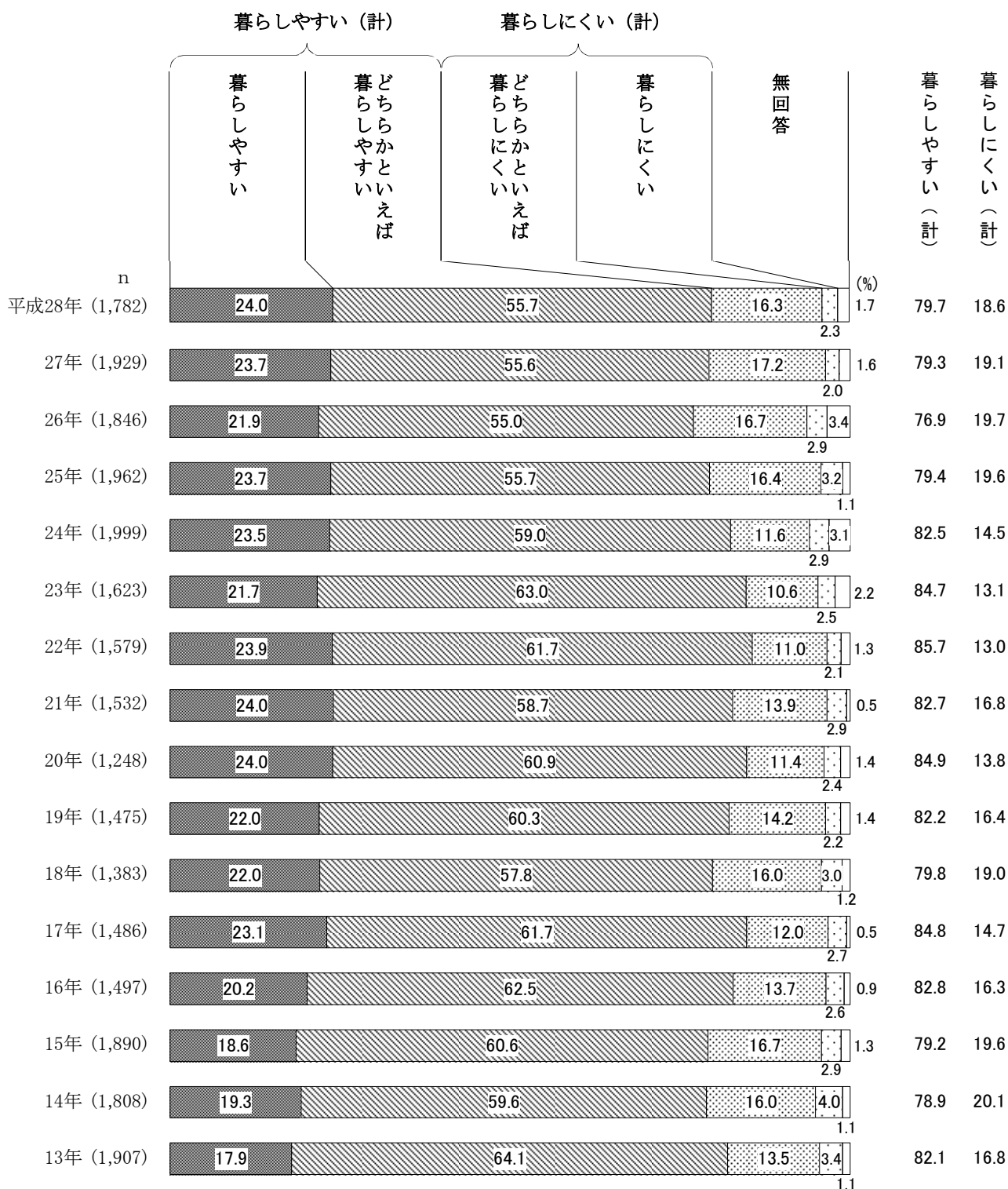


(3) 地域の暮らしやすさ

■ 【暮らしやすい】は、昨年とほぼ同じの約8割

問3 問1、問2を踏まえてお聞きます。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか（○は1つだけ）。

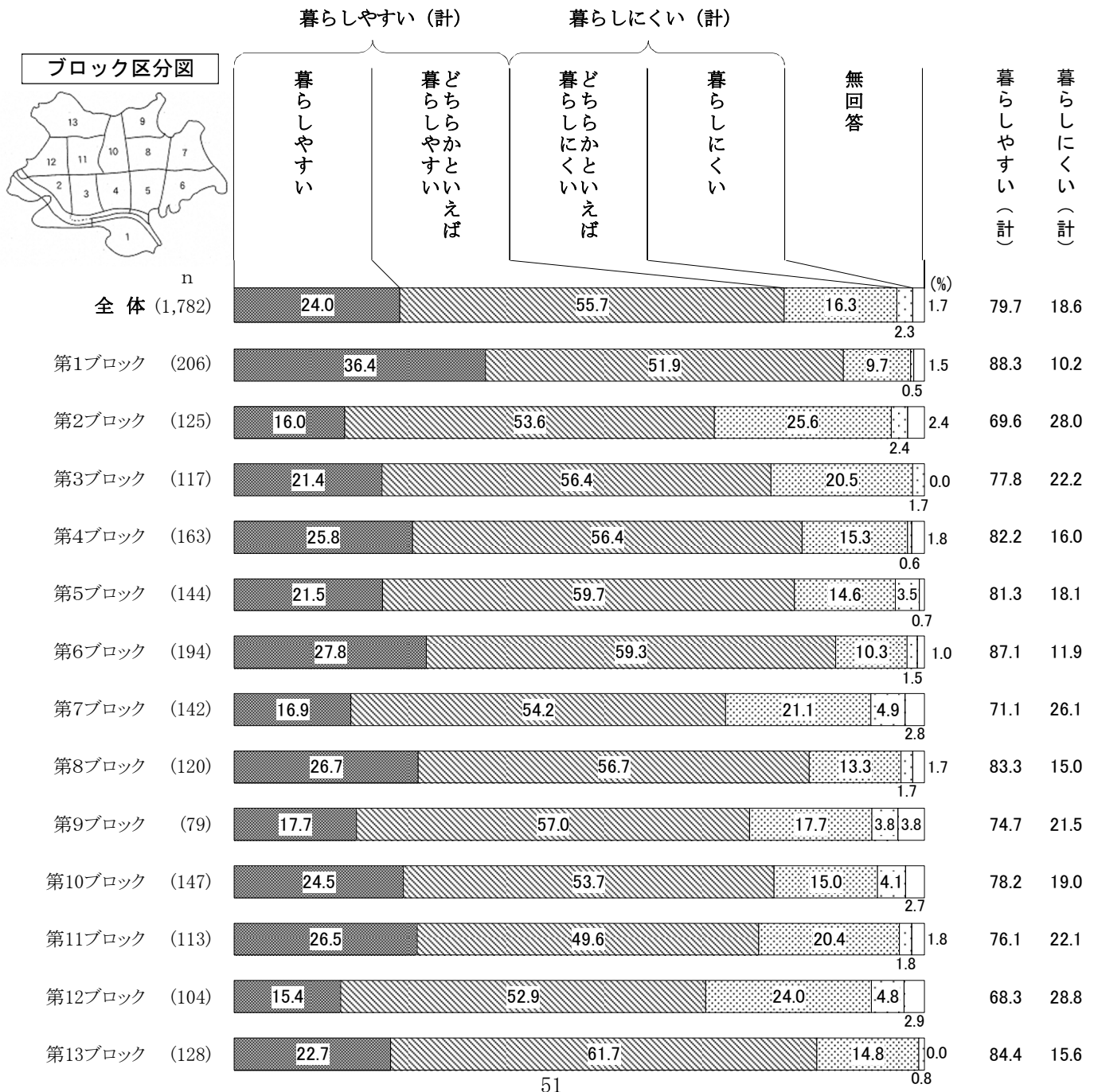
図1-3-1 経年比較／地域の暮らしやすさ



暮らしやすさを経年で比較すると、「暮らしやすい」と「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせた【暮らしやすい】は、平成22年の85.7%を頂点として微減傾向にあったが、平成27年調査で79.3%と増加に転じ、今回調査でも79.7%と僅かながら増加している。一方、「どちらかといえば暮らしにくい」と「暮らしにくい」を合わせた【暮らしにくい】は、今回の調査では18.6%と、平成26年以降微減傾向を示している。

地域ブロック別でみると、【暮らしやすい】は、第1ブロックで88.3%と最も高く、以下第6ブロック（87.1%）、第13ブロック（84.4%）の順となっている。一方、第2ブロック、第3ブロック、第7ブロック、第9ブロック、第11ブロック、第12ブロックでは、【暮らしにくい】が、いずれも2割を超え、他のブロックより高くなっている。

図1-3-2 地域ブロック別／地域の暮らしやすさ



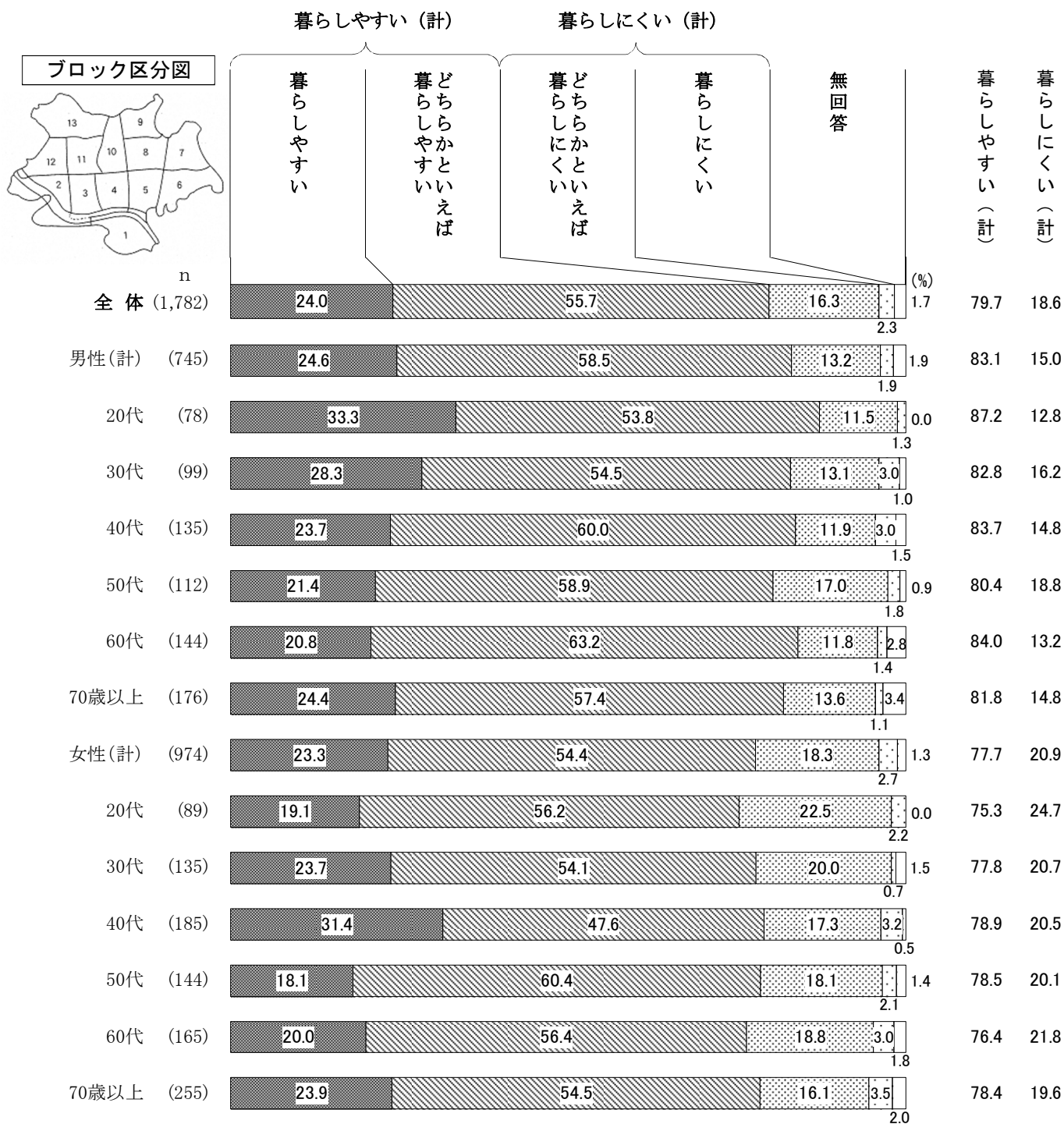
第3章 調査結果の分析〈定住性〉

性別でみると、【暮らしやすい】は、男性83.1%、女性77.7%と、女性より男性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、全年代で【暮らしやすい】が8割を超えている。

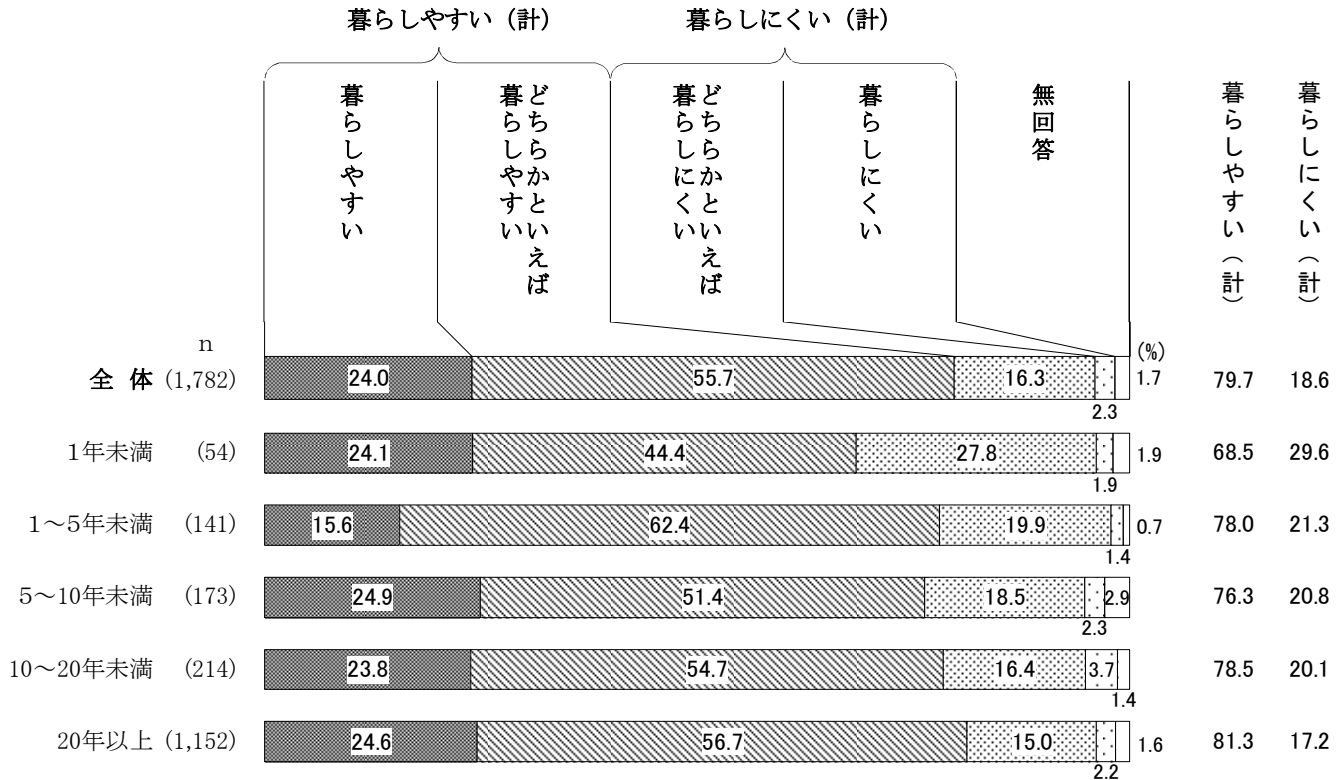
女性では、全年代で【暮らしやすい】が7割台半ばを超えている。

図1-3-3 性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ



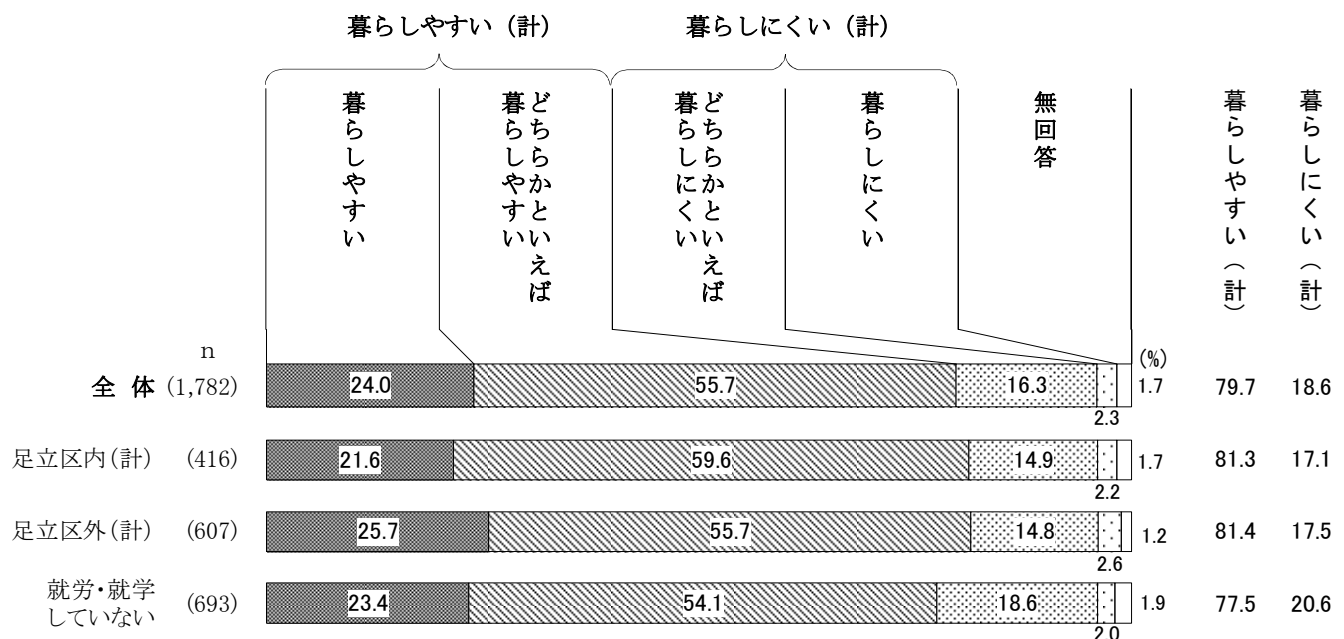
居住年数別でみると、【暮らしやすい】は、1年未満が6割台、1～20年未満で7割台となり、20年以上では81.3%を占め、年数が長くなるとともに増加傾向にある。

図1-3-4 居住年数別／地域の暮らしやすさ



就労・就学場所別にみても、大きな差はみられない。

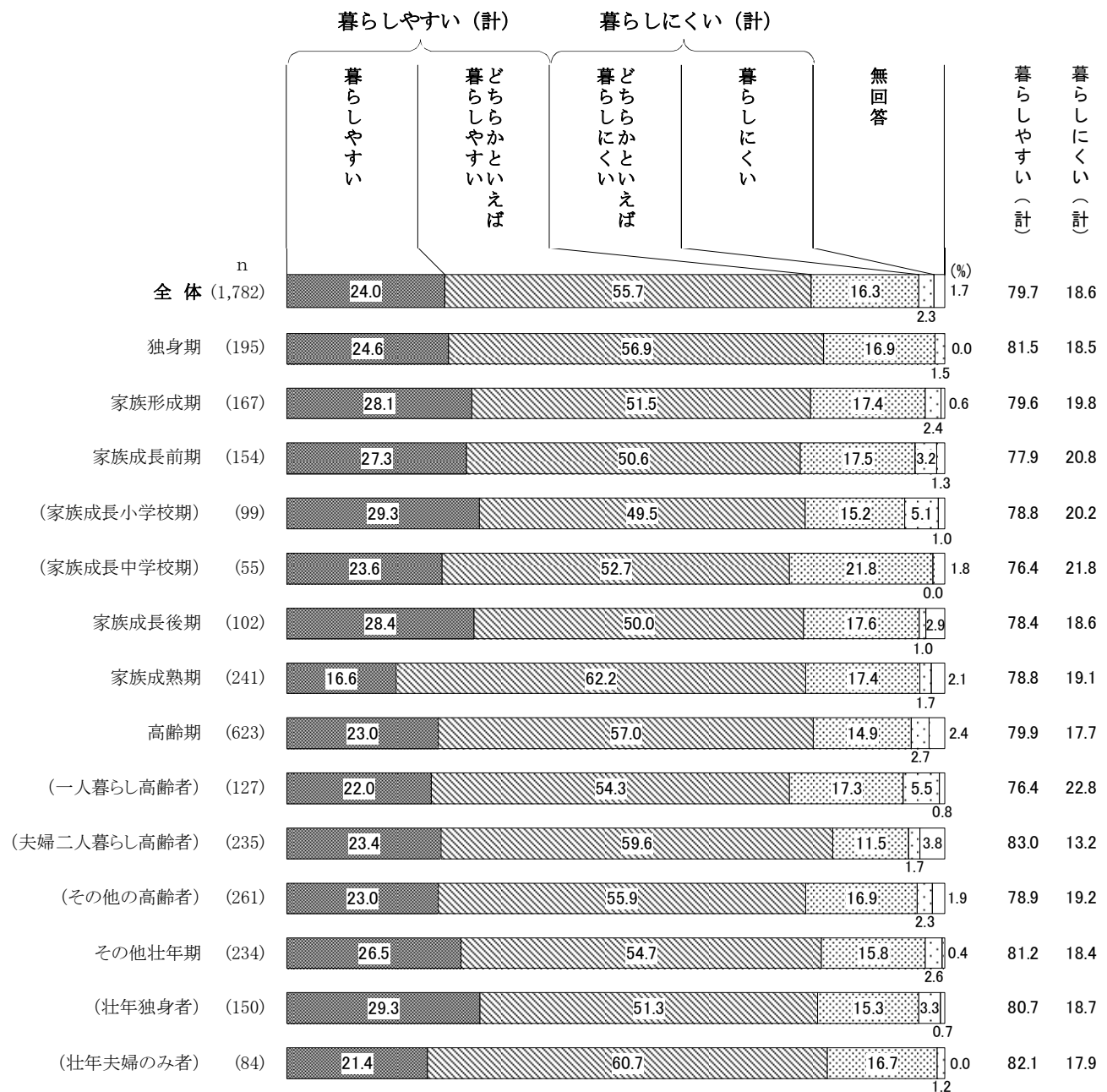
図1-3-5 就労・就学場所別／地域の暮らしやすさ



第3章 調査結果の分析〈定住性〉

ライフステージ別でみると、ほぼすべてのステージで【暮らしやすい】が8割前後を占めている。

図1-3-6 ライフステージ別／地域の暮らしやすさ

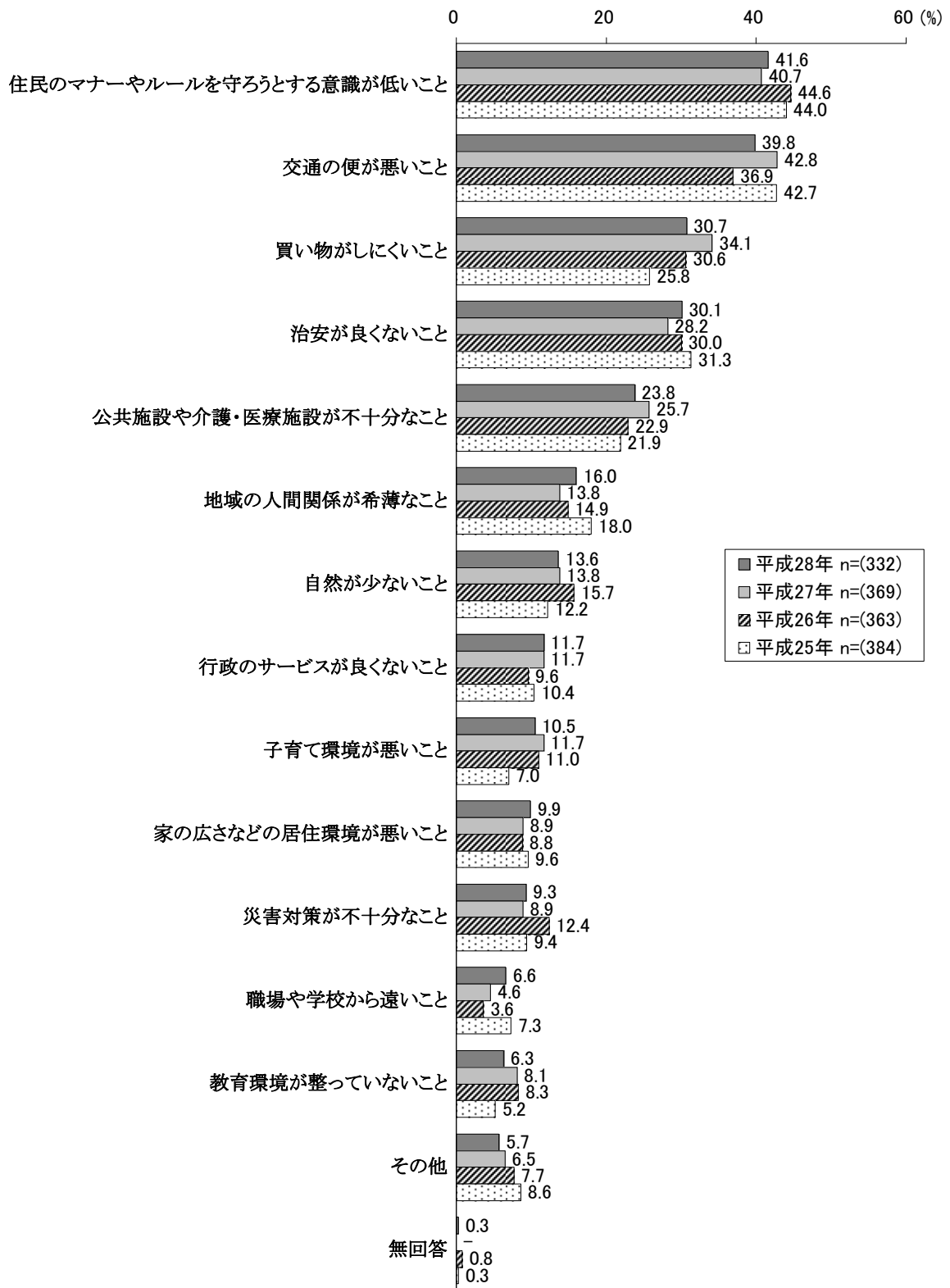


(4) 特に暮らしにくいと感じること

■ “マナーやルールへの意識の低さ” “交通の便の悪さ” が4割前後

問3で「3. どちらかといえば暮らしにくい」、または「4. 暮らしにくい」とお答えの方に
問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（○は3つまで）。

図1-4-1 経年比較／特に暮らしにくいと感じること



第3章 調査結果の分析〈定住性〉

【暮らしにくい】という人に、その理由を聞いたところ、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」（41.6％）と「交通の便が悪いこと」（39.8％）の2項目が、いずれも4割前後を占め、とくに高くなっている。また、「買い物がしにくいこと」と「治安が良くないこと」についても、それぞれ30.7％、30.1％と高くなっている。

経年でみると、平成27年調査に比べて、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」や「治安が良くないこと」が微増し、「交通の便が悪いこと」「買い物がしにくいこと」については微減している。

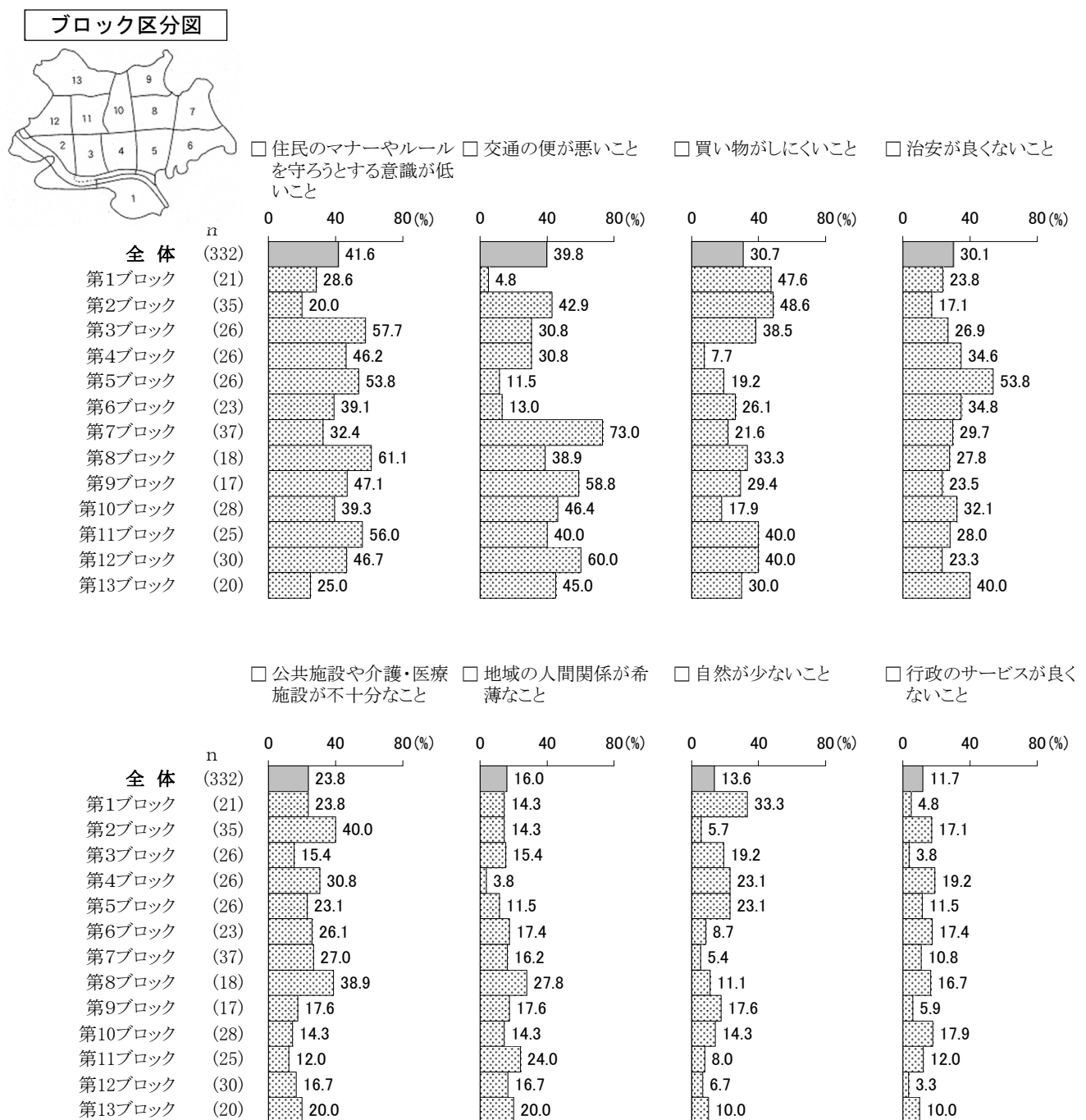
地域ブロック別でみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」については、第8ブロックで61.1%と高くなっているほか、第3ブロック、第5ブロック、第11ブロックでも5割を超えている。

「交通の便が悪いこと」については、第7ブロックで73.0%と高くなっているほか、第9ブロック、第12ブロックでも6割前後を占めている。

また、「買い物がしにくいこと」については、第1ブロック、第2ブロックで、それぞれ47.6%、48.6%と5割近くを占めている。

さらに、「治安が良くないこと」については、第5ブロックで53.8%と、全ブロック中最も高くなっているほか、第13ブロックでも40.0%となっている。

図1-4-2 地域ブロック別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

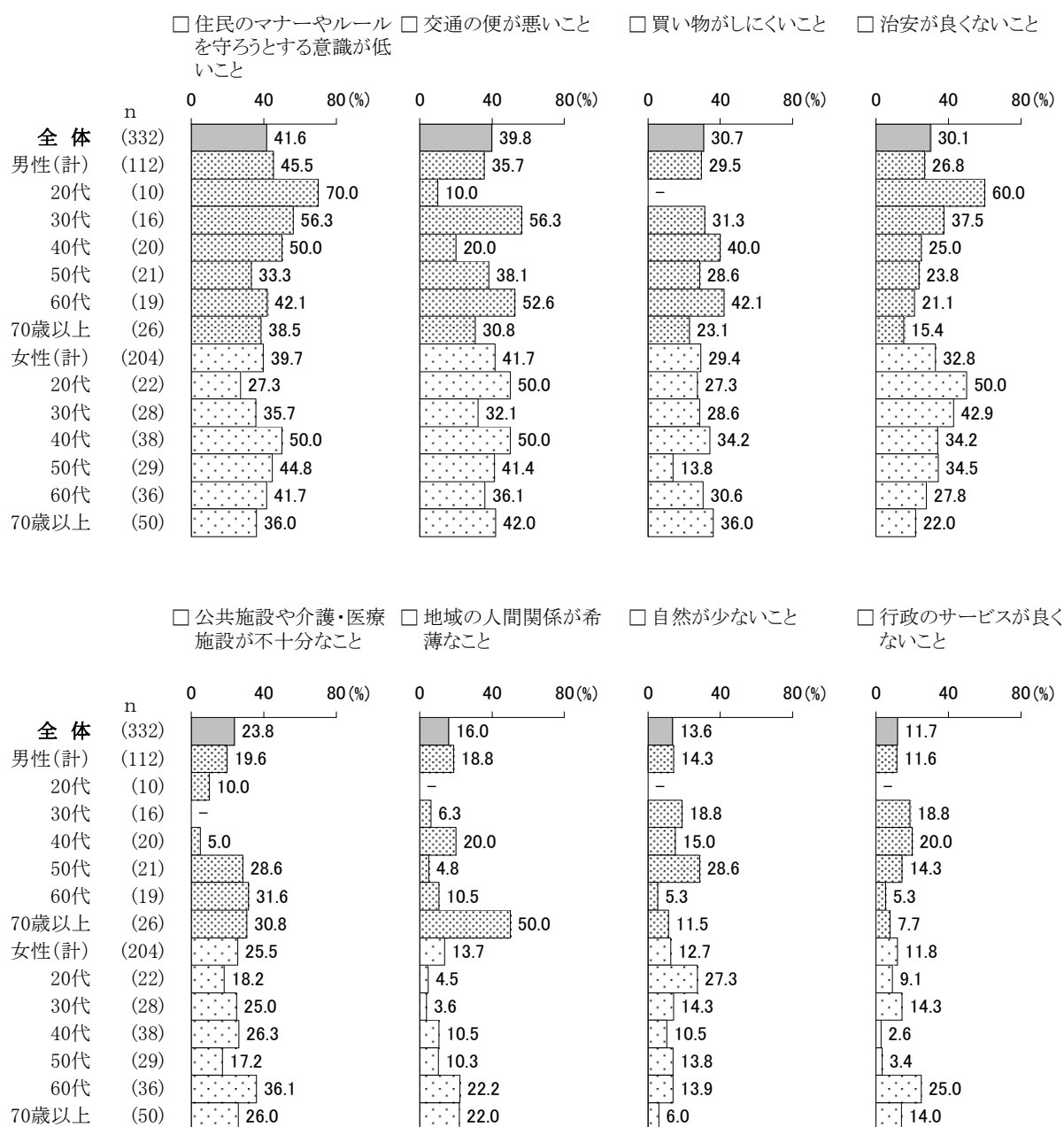


第3章 調査結果の分析〈定住性〉

性別でみると、男性では「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が45.5%と、女性（39.7%）より高くなっている。一方、女性では「交通の便が悪いこと」が41.7%と、男性（35.7%）を上回っている。

性・年代別でみると、女性では「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」について、40代で50.0%と高くなっている。「交通の便が悪いこと」については、20代、40代で50.0%となっている。

図1-4-3 性別、性・年代別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

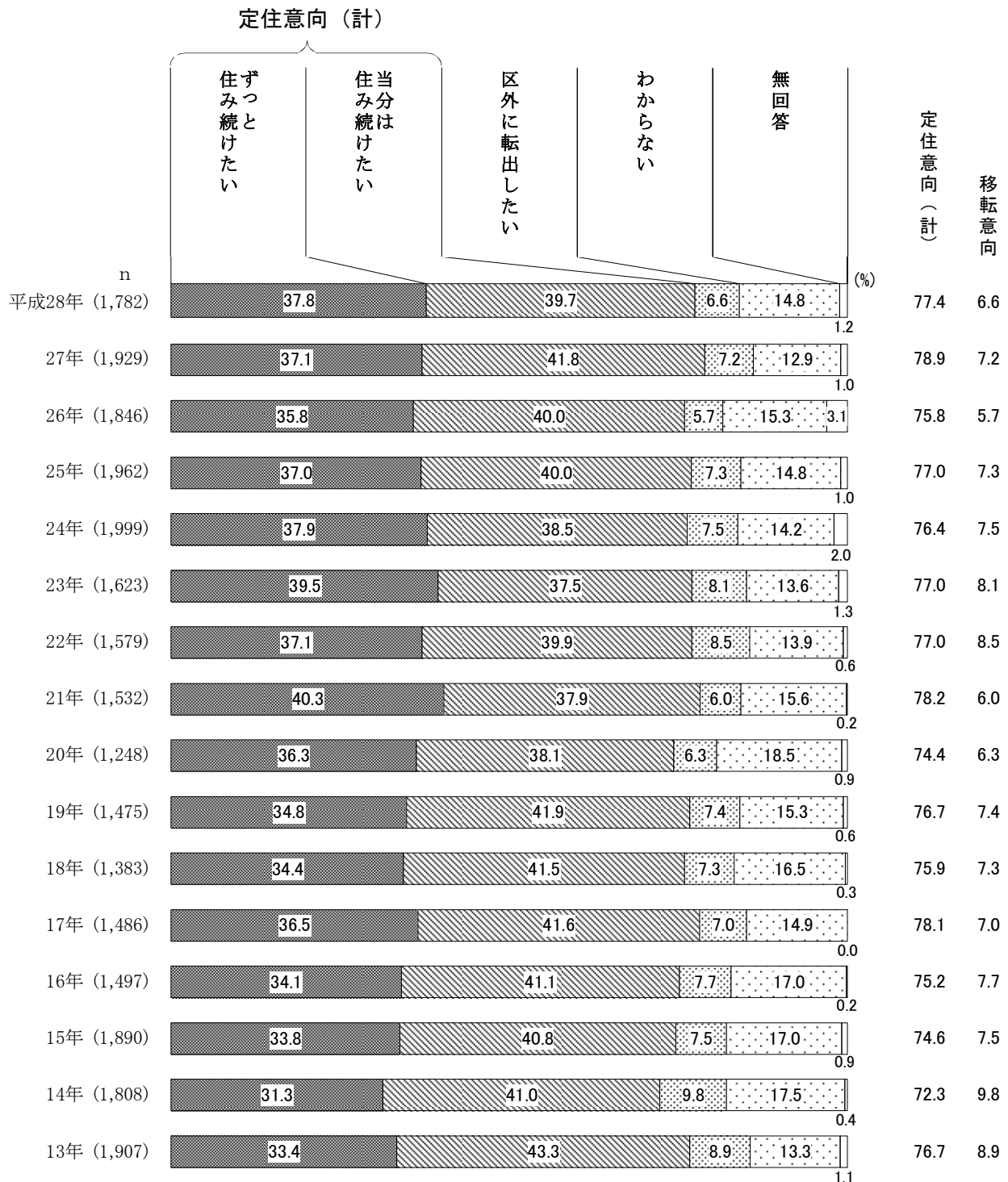


(5) 定住意向

■ 【定住意向】がある人は、昨年から微減するも、7割台後半を維持

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（○は1つだけ）。

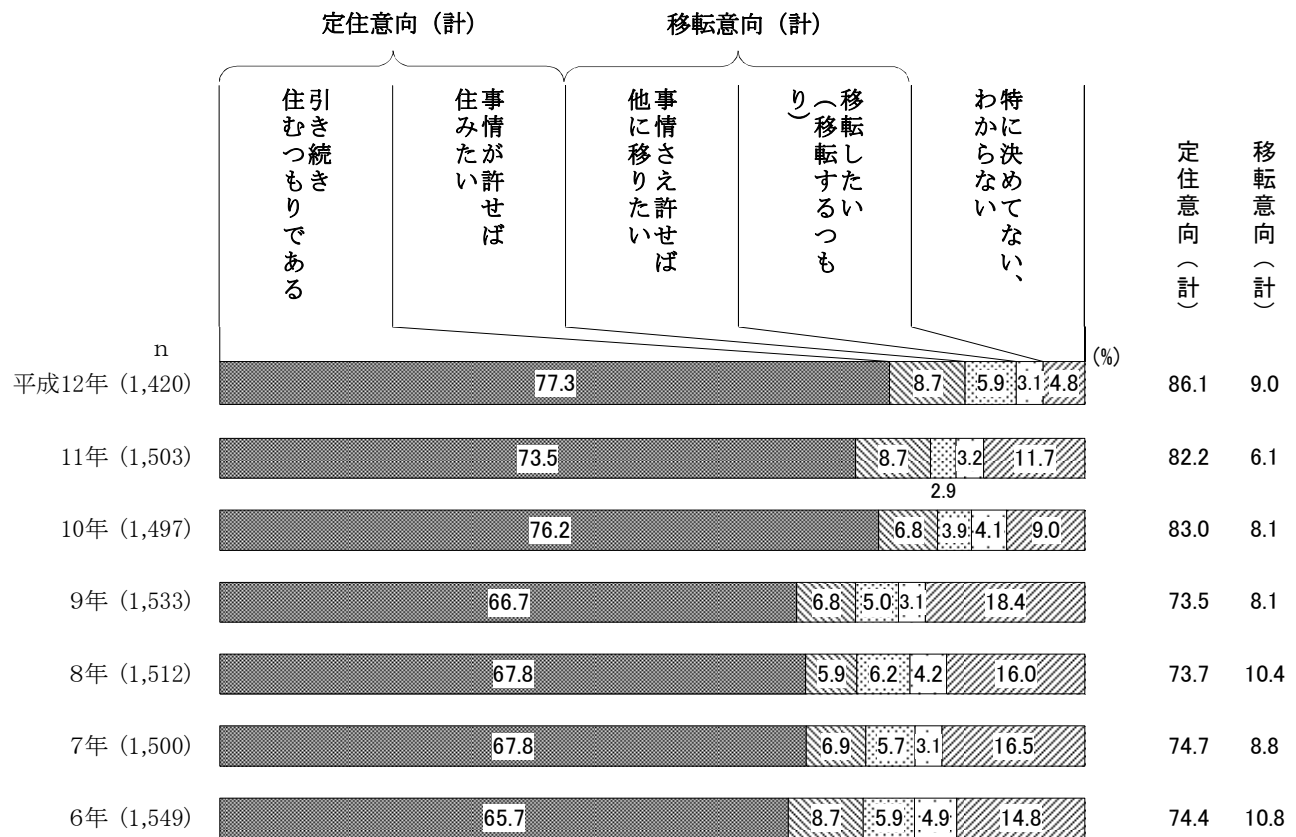
図1-5-1 経年比較／定住意向



足立区への定住意向を経年でみると、今回調査では、「ずっと住み続けたい」と「当分はすみ続けたい」を合わせた【定住意向】は今回77.4%とほぼ横ばいとなっている。

参考／定住・移転意向の推移

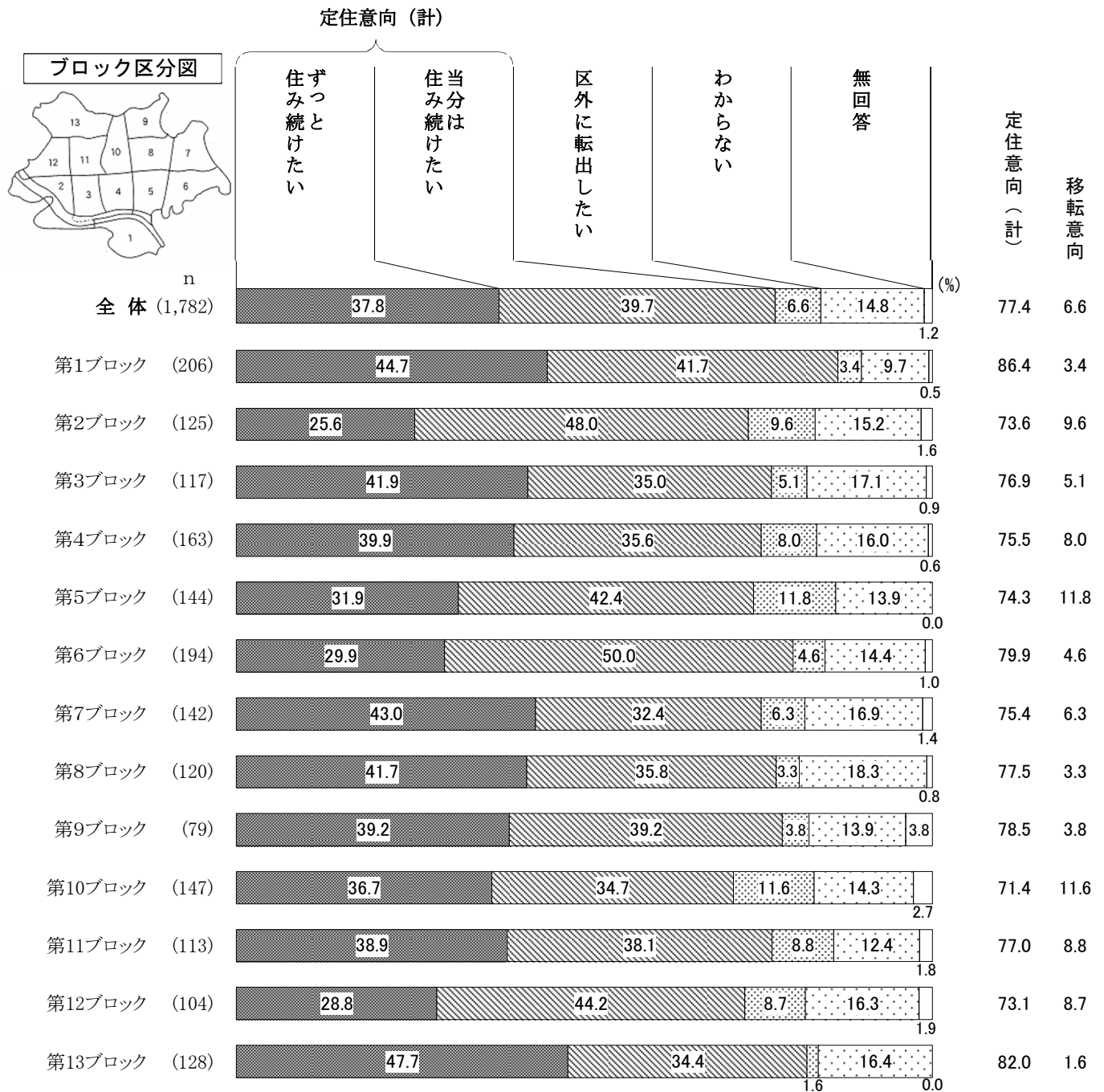
問 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。この中から1つにお答えください。
(○は1つ)



※ 平成12年までと平成13年以降では、調査方法（平成12年までは訪問面接法、平成13年以降は郵送配布郵送回収法）、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域ブロック別でみると、【定住意向】は、第1ブロックで86.4%と最も高く、以下、第13ブロック（82.0%）、第6ブロック（79.9%）の順となっている。

図1-5-2 地域ブロック別／定住意向



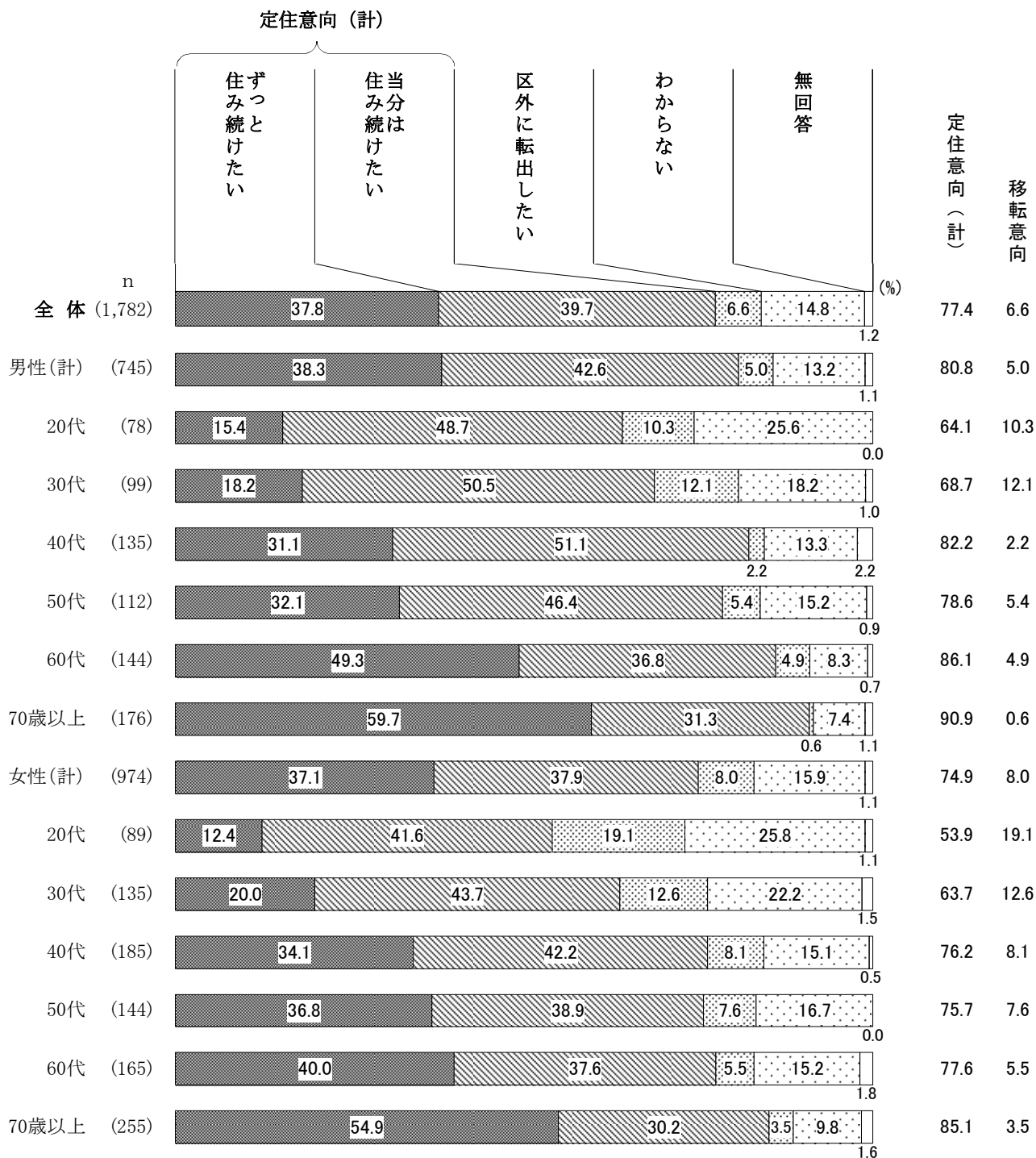
第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

性別でみると、【定住意向】は、男性80.8%、女性74.9%と、女性より男性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、【定住意向】は60代、70歳以上で、それぞれ86.1%、90.9%と高くなっている。

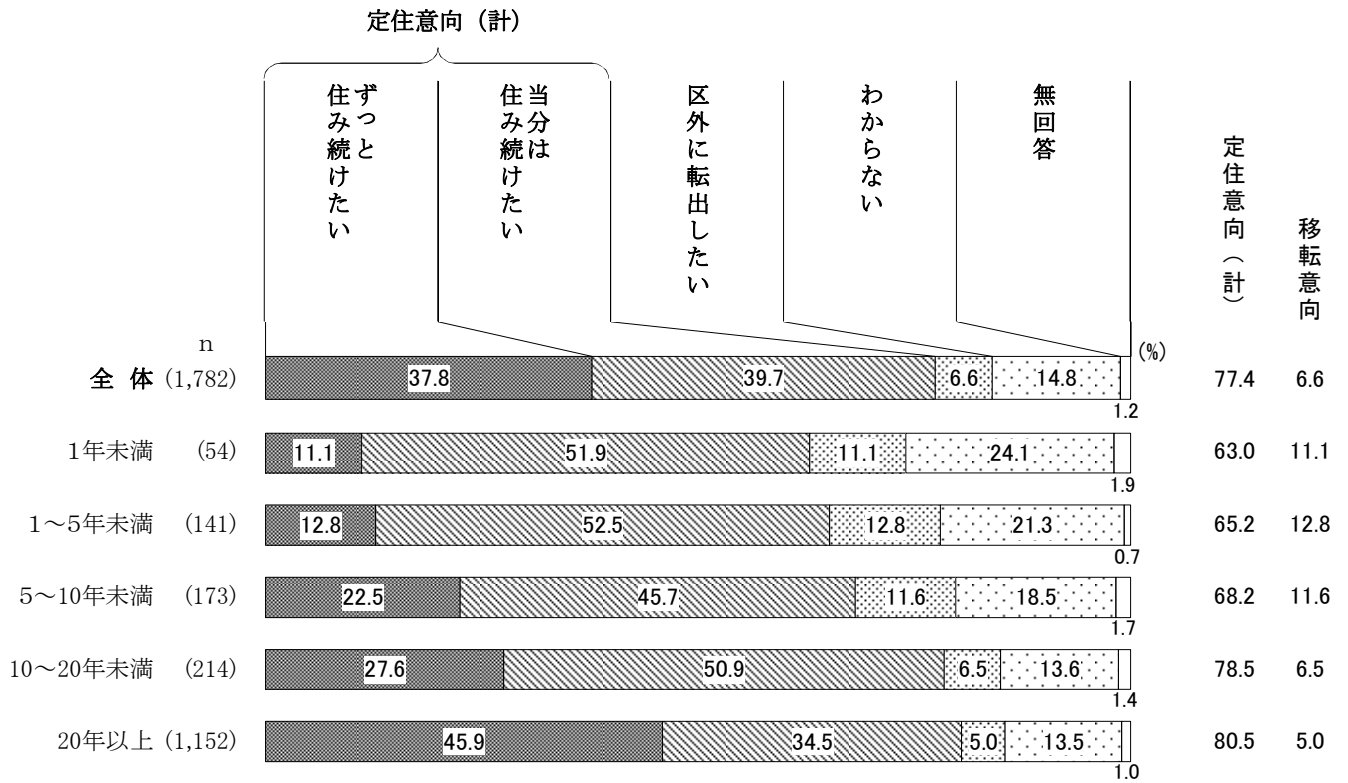
女性では、40代以上では、【定住意向】は各年代とも7割を超え、とくに70歳以上では85.1%となっている。

図1-5-3 性別、性・年代別／定住意向



定住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれて、増加する傾向を示している。

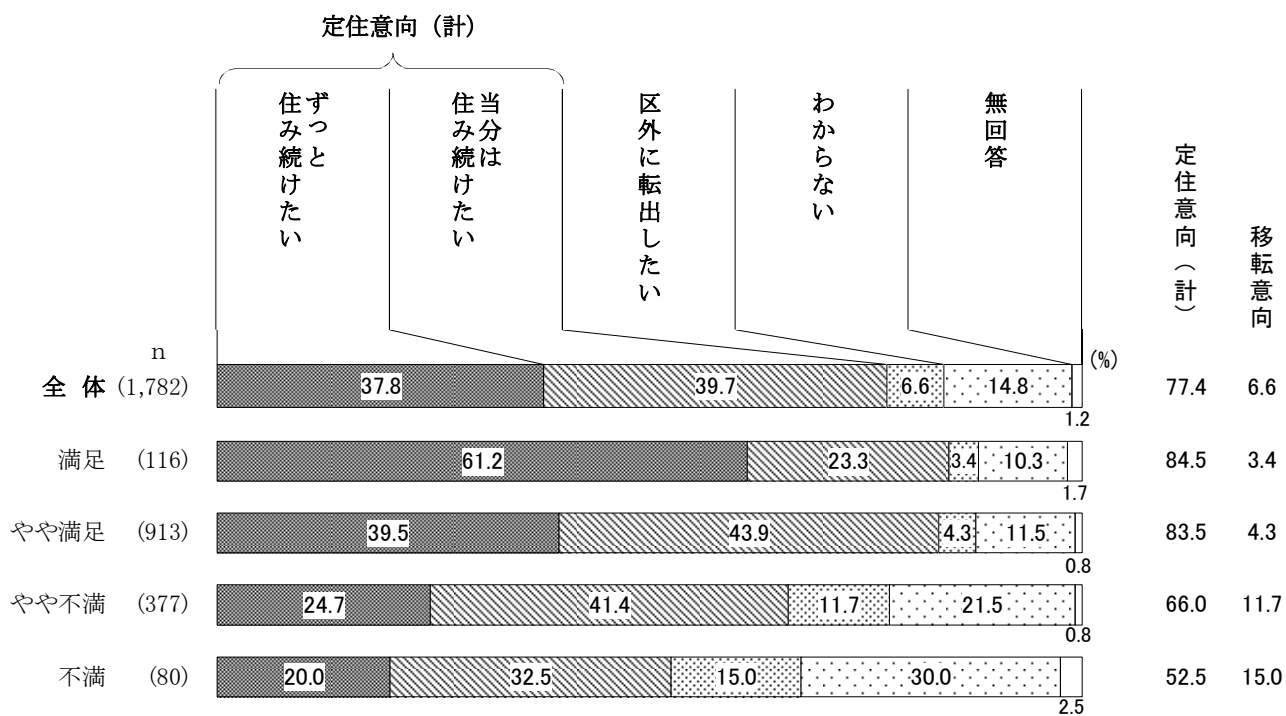
図1-5-4 居住年数別／定住意向



第3章 調査結果の分析〈定住性〉

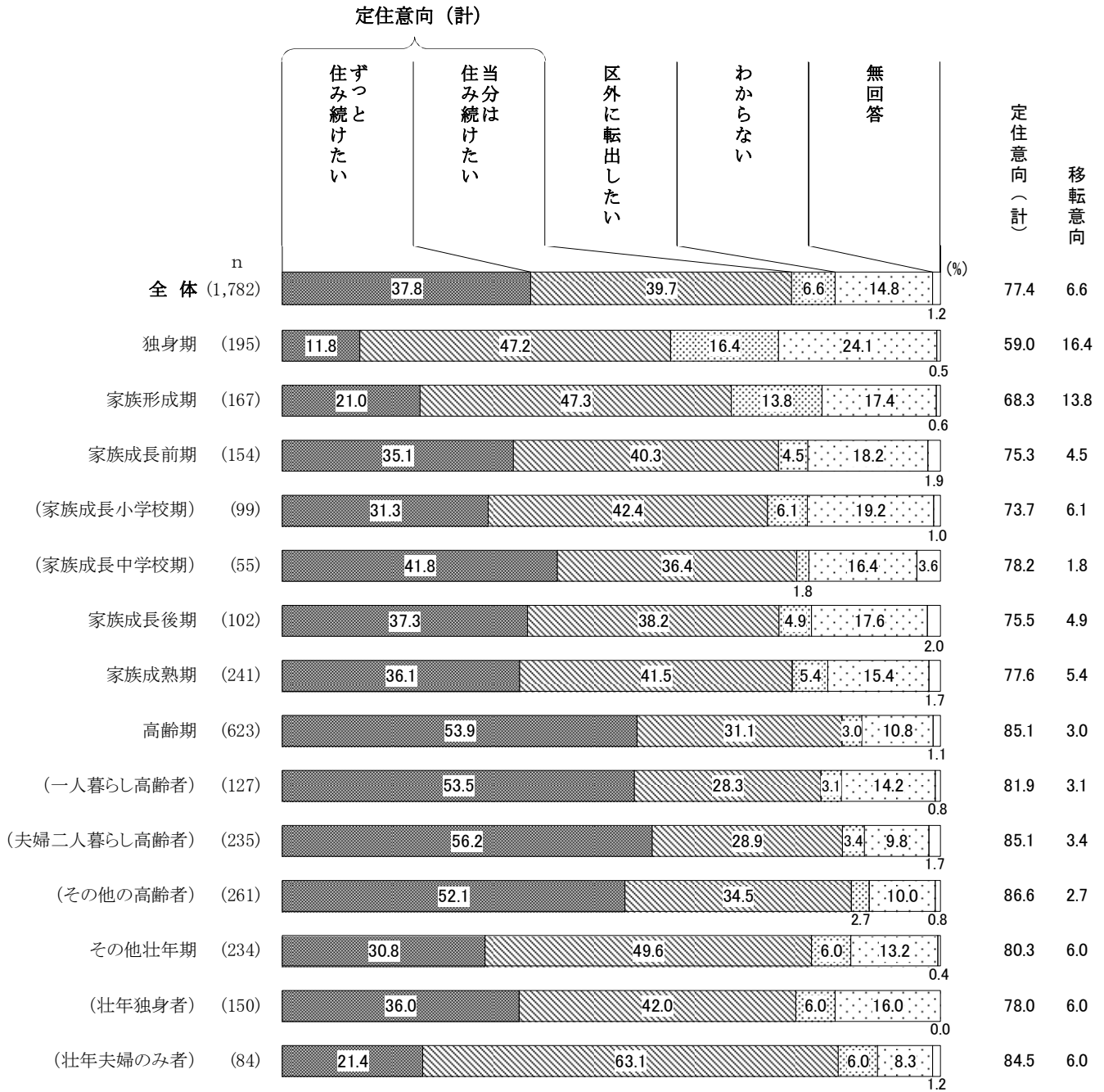
区政への満足度別にみると、満足度が高くなるにつれて、【定住意向】は高くなり、満足という層では84.5%となっている。

図1-5-5 区政満足度別／定住意向



ライフステージ別でみると、高齢期で【定住意向】が85.1%と高くなっている。

図1-5-6 ライフステージ別／定住意向



2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 災害発生時の水や食料の確保
 - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
 - (6) 対策をしていない理由
 - (7) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-

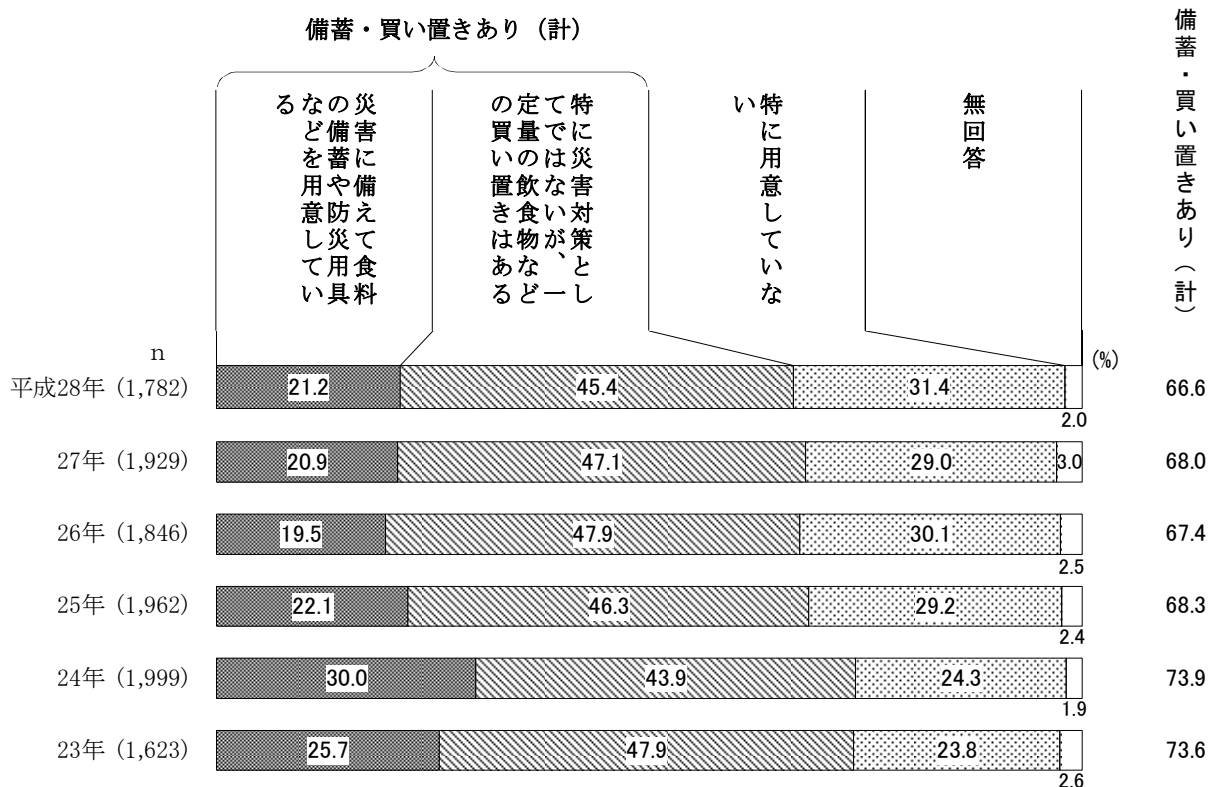
2. 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

■ 用意していない方が3割を超える

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が21.2%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が45.4%で、両者を合わせて【備蓄・買い置きあり】は66.6%となっている。一方、「特に用意していない」は31.4%となっている。

経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回の20.9%から、今回21.2%と微増している。一方、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は、前回47.1%から今回45.4%へと微減している。

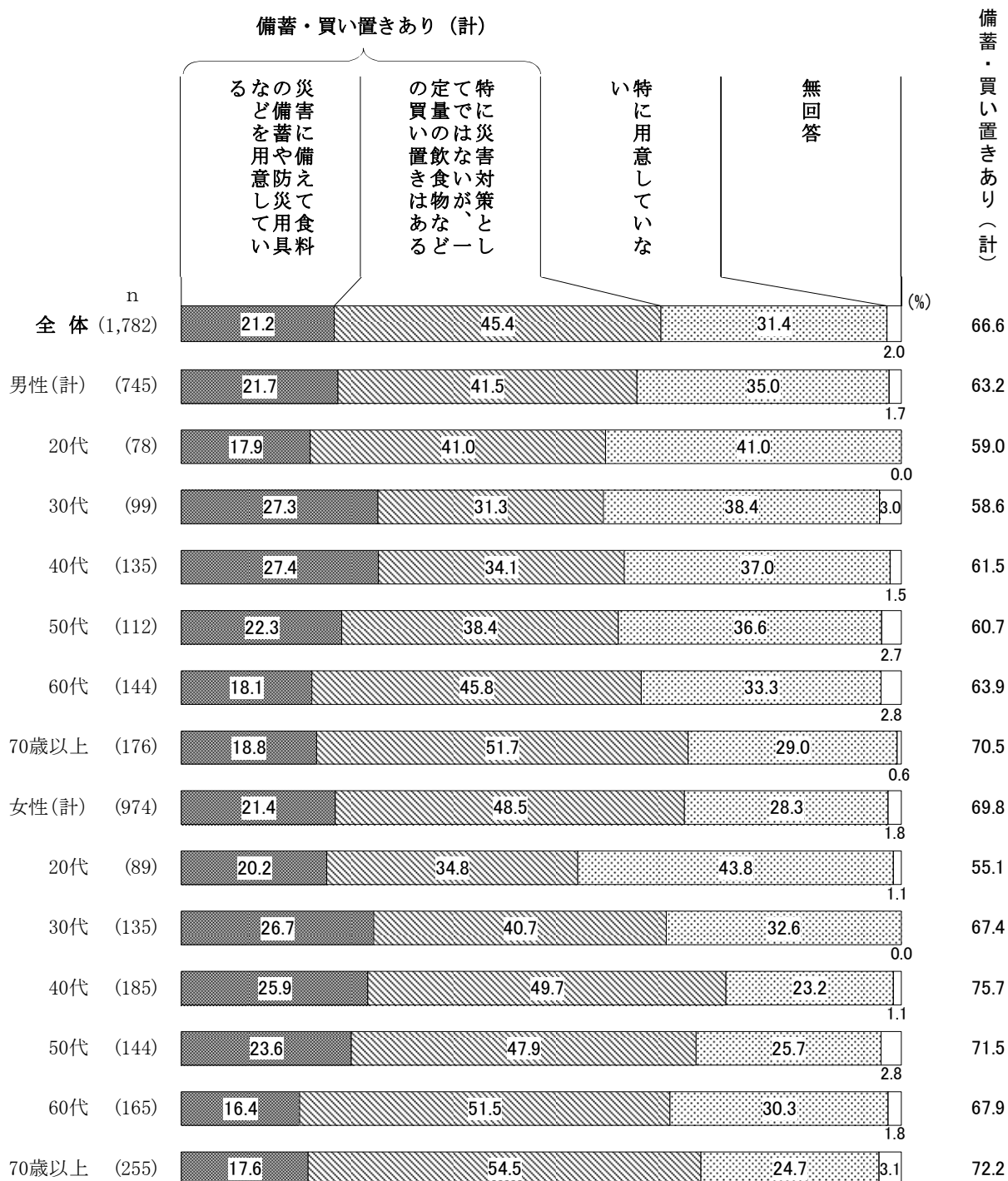
第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

性別でみると、女性では【備蓄・買い置きあり】が69.8%と、男性（63.2%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、20代、30代を除く各年代で【備蓄・買い置きあり】が6割を超えている。

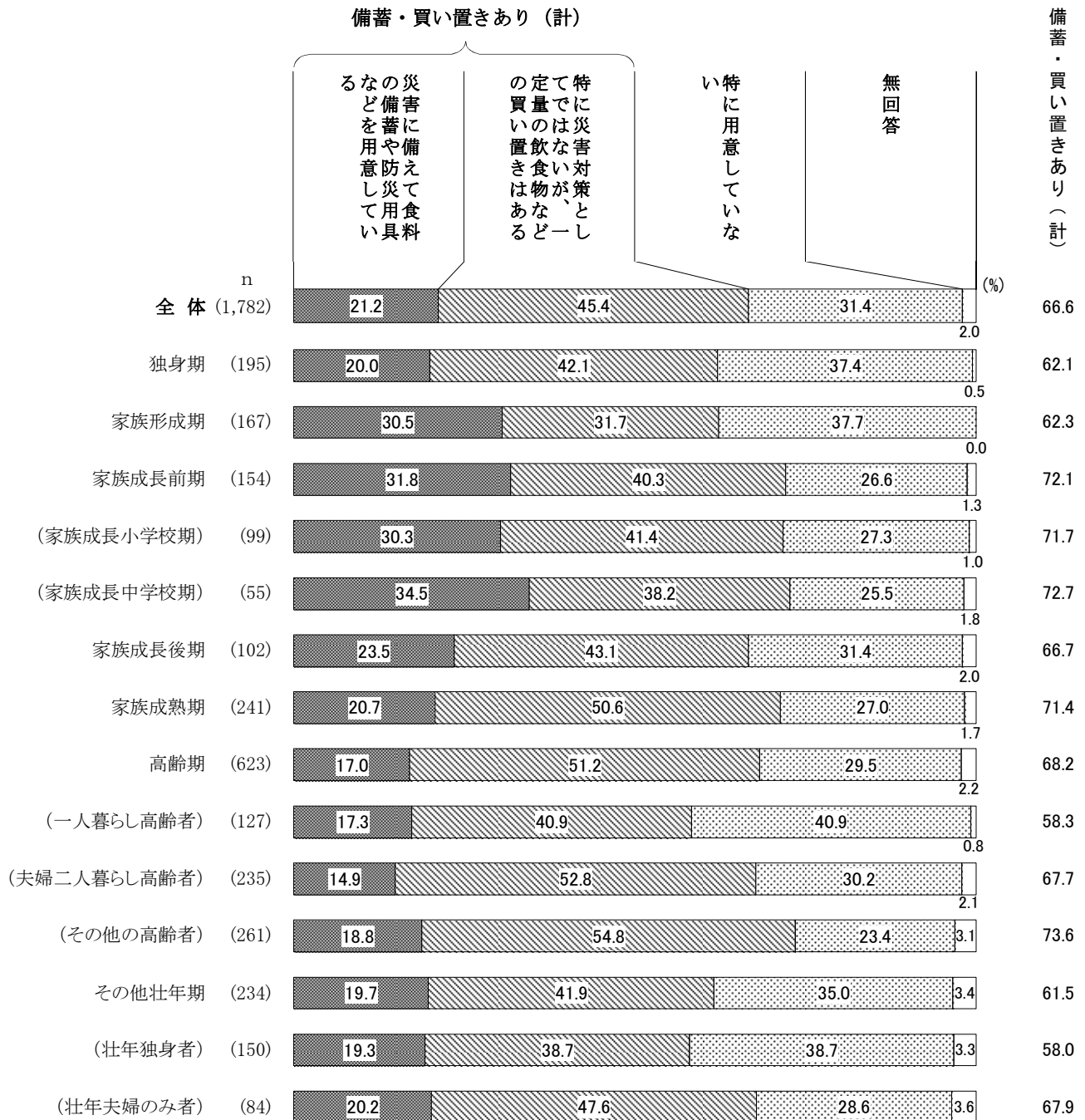
女性では、20代を除く各年代で【備蓄・買い置きあり】が6割を超えている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ライフステージ別でみると、家族成長前期、家族成熟期で【備蓄・買い置きあり】は、それぞれ72.1%、71.4%と高くなっている。

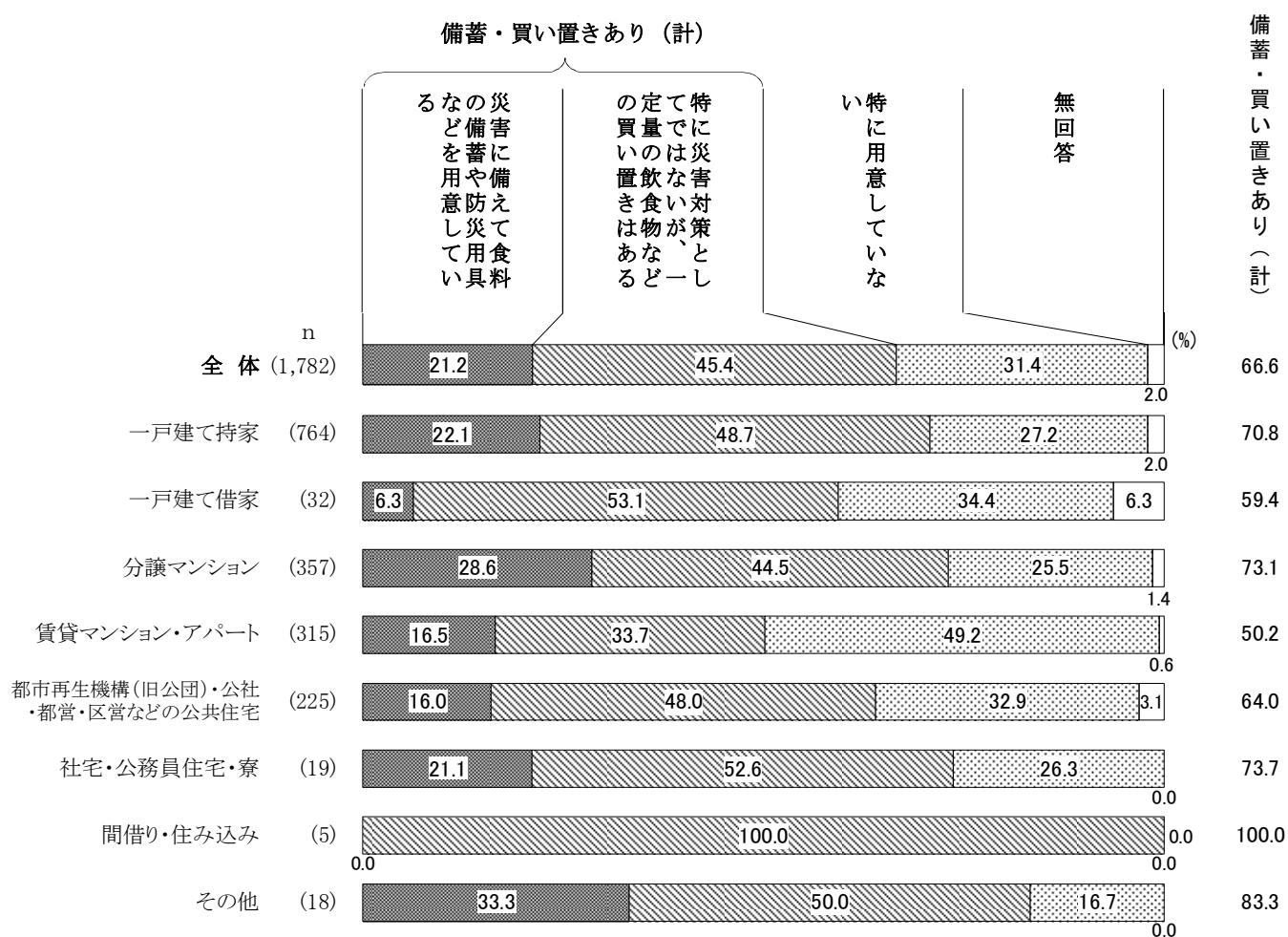
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンション、社宅・公務員住宅・寮では、【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ70.8%、73.1%、73.7%と高くなっている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパートでは【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ59.4%、50.2%と、他の住居形態に比べて低くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■ 「水」「食料」は9割前後、「あかり」が約8割

問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

(○はあてはまるものすべて)

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

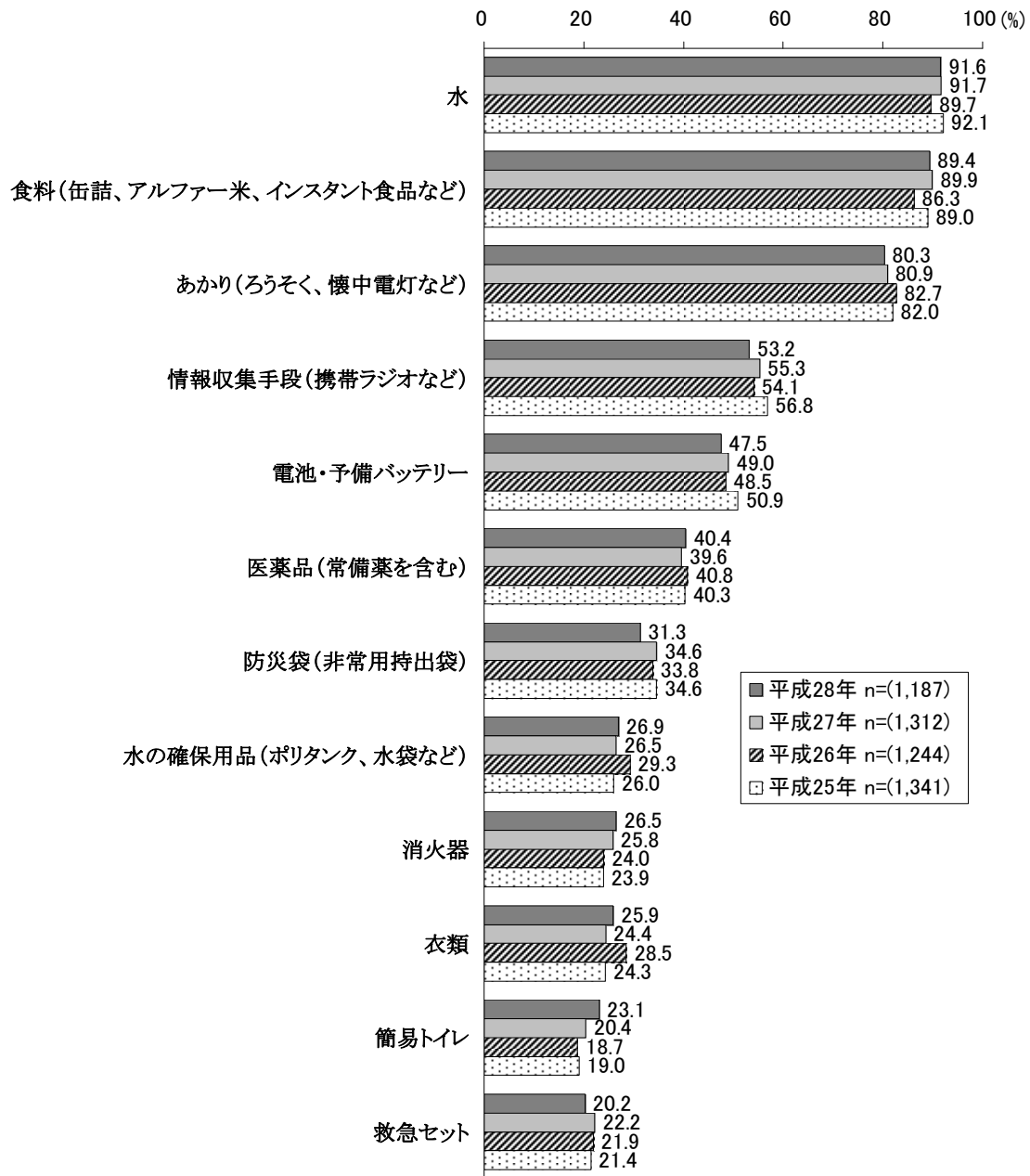
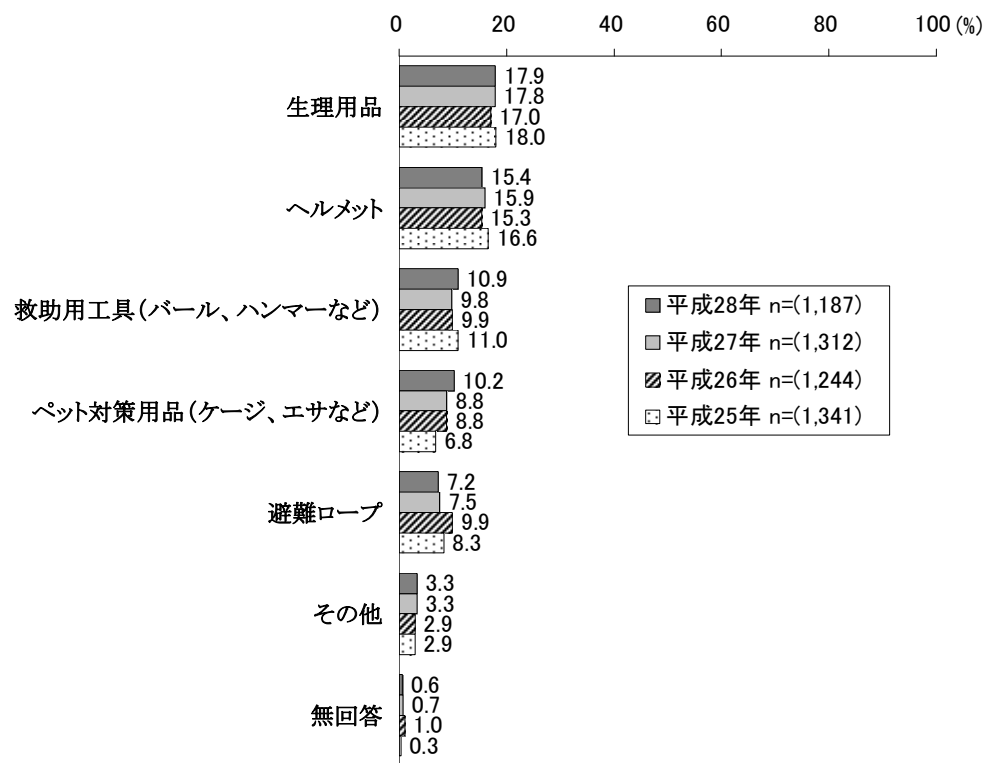


図 2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



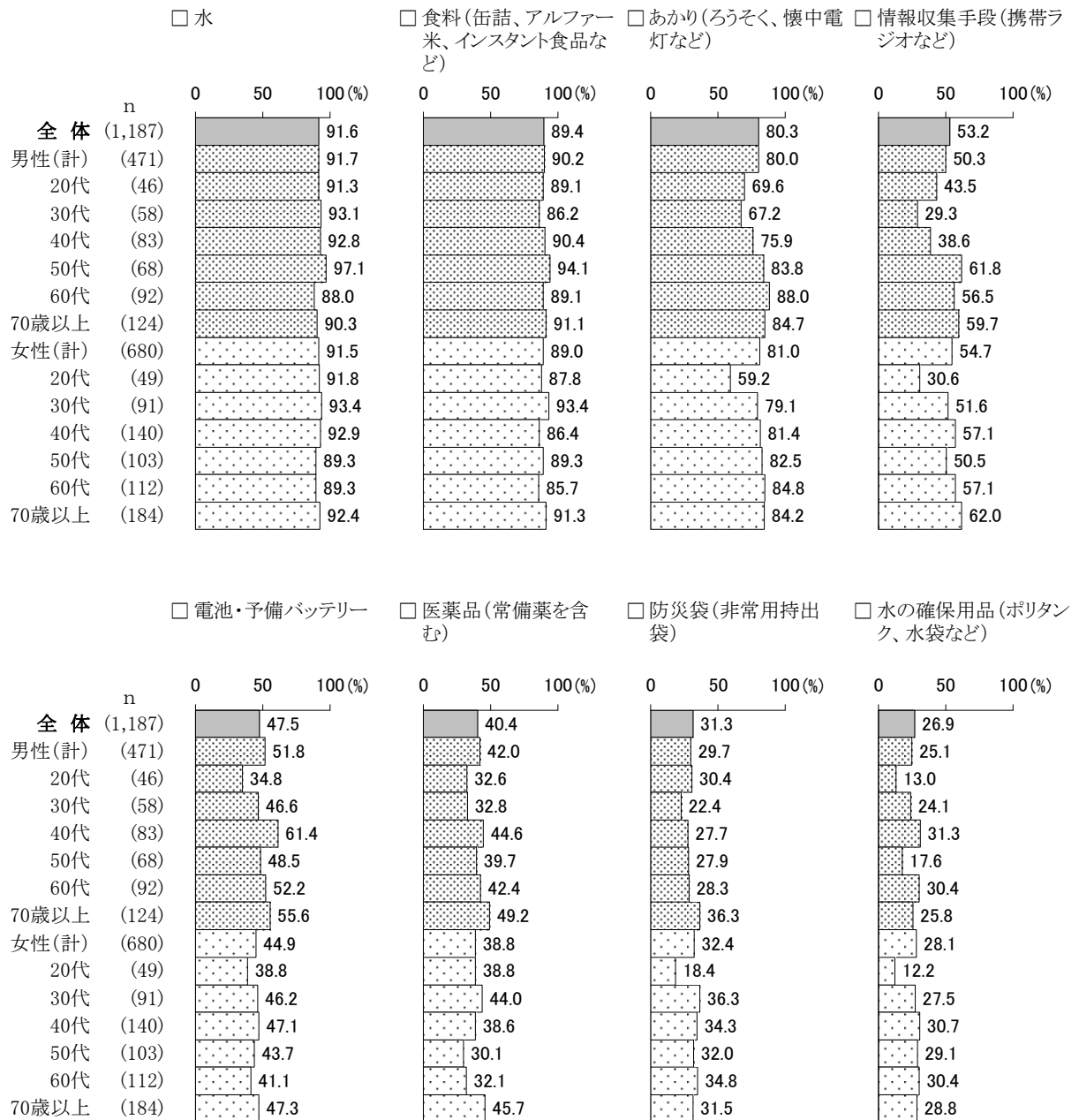
【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が91.6%で最も高く、以下「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（89.4%）、「あかり（そうそく、懐中電灯など）」（80.3%）の順となっている。

経年でみると、上位3位の順位や数値に大きな変化はみられない。

性別でみると、上位3位について、男女差はみられない。

性・年代別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファーマ、インスタント食品など）」については、男女とも各年代にわたって高くなっている。また、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」については、50代から70歳以上までの男性、30代から70歳以上の女性で、いずれも5割を超えている。

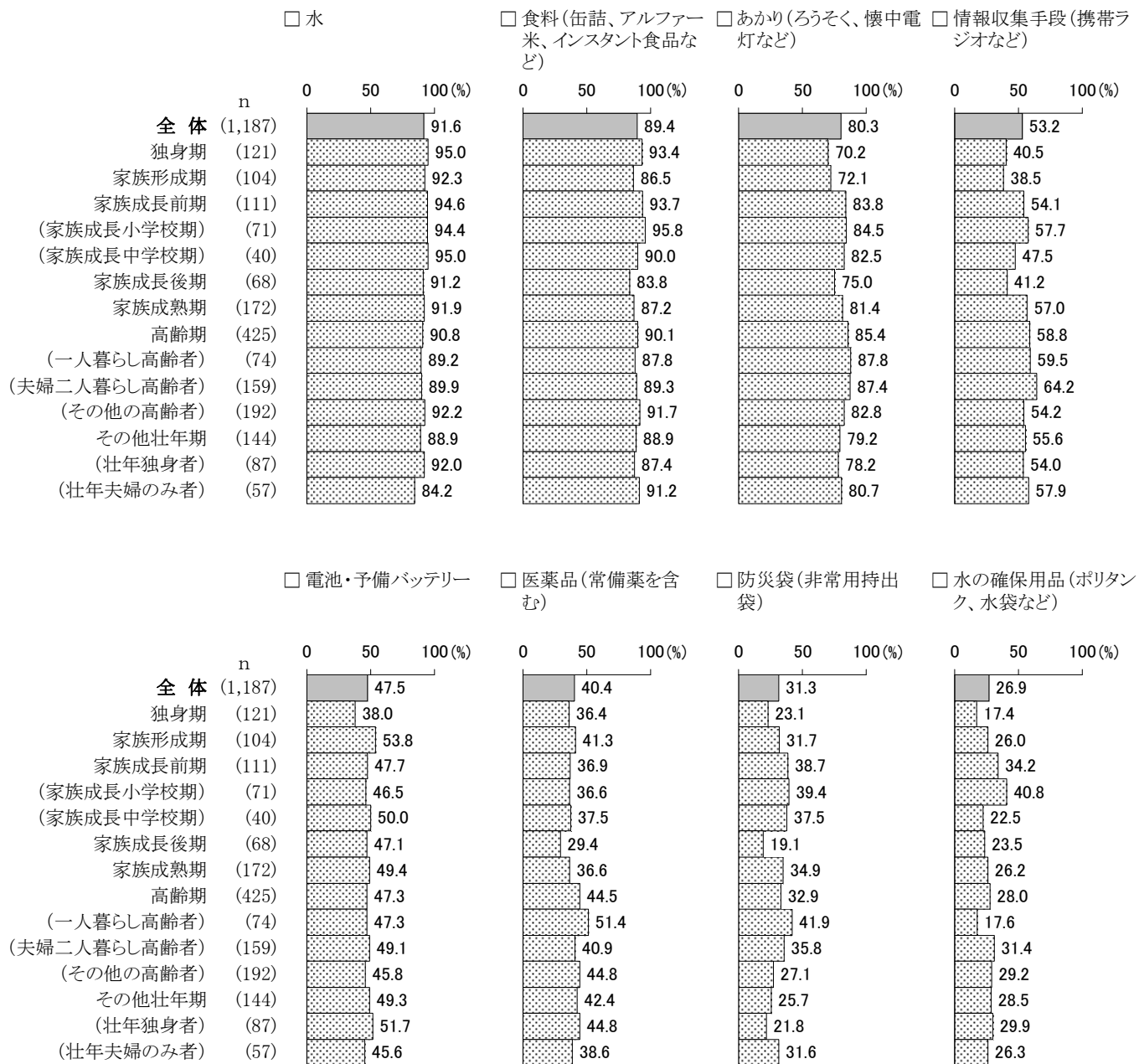
図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

ライフステージ別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は、各ステージを通じて高くなっている。また、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」は、家族成長前期、家族成熟期、高齢期、その他壮年期で5割を超えて高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

■ 〈水〉〈食料〉とも「1日分以上3日分未満」の備蓄が多く、〈食料〉では5割

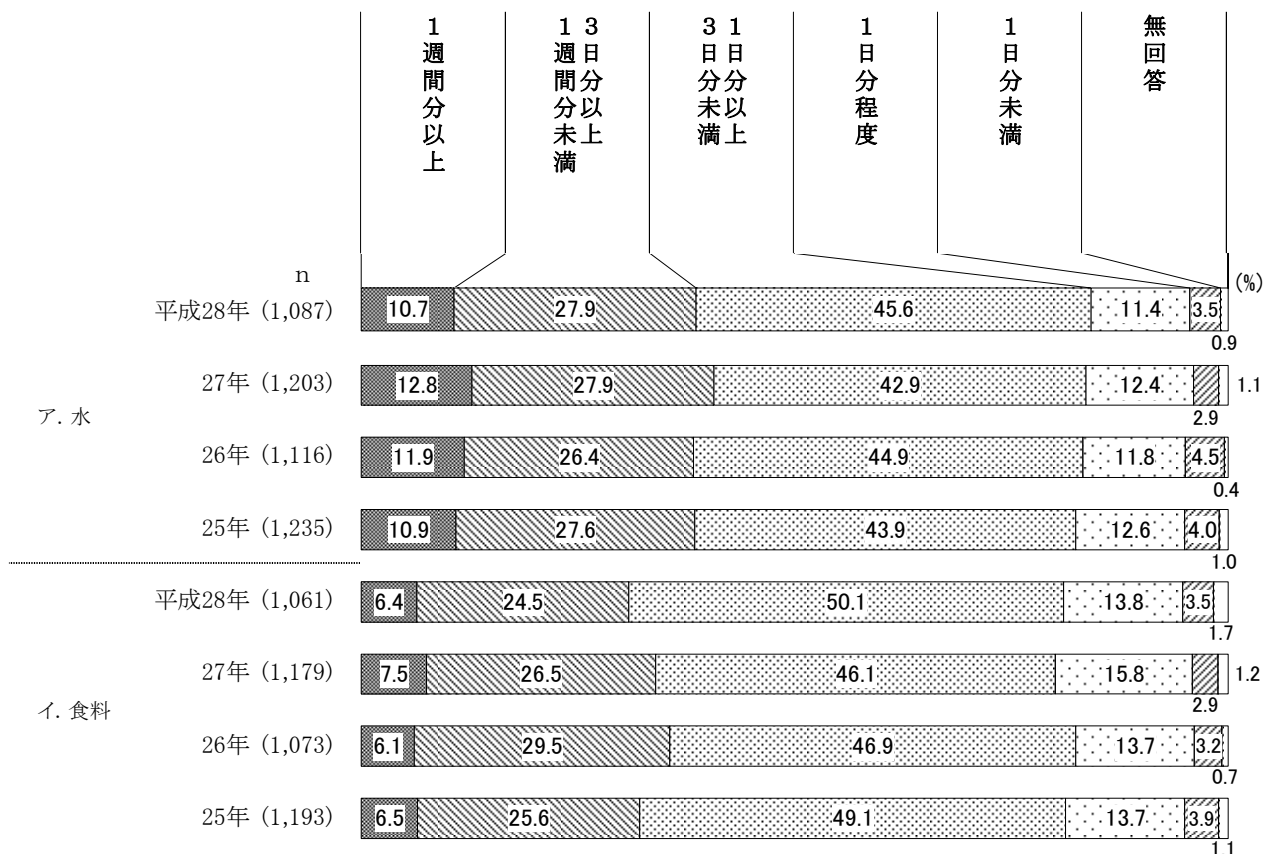
問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に

問5-1-1 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

(○はそれぞれ1つつ)

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

図2-3-1 経年比較／備蓄量



「水」、「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」を備蓄している人に、その量を聞いたところ、〈水〉については、「1日分以上3日分未満」が45.6%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」（27.9%）となっている。

〈食料〉については、「1日分以上3日分未満」が50.1%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」（24.5%）となっている。

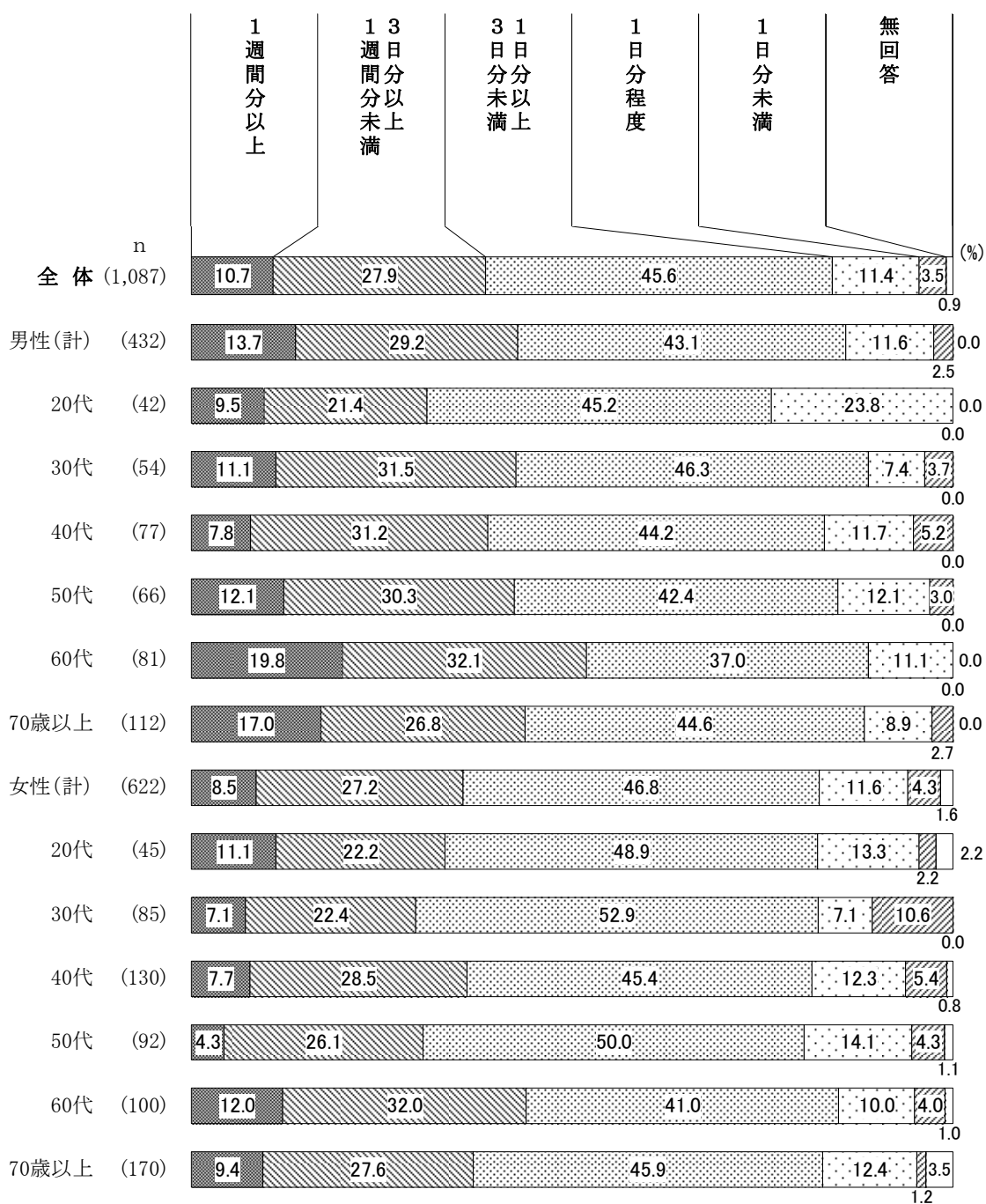
経年でみると、〈食料〉〈水〉とも大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

水の備蓄量を性別でみると、女性では、「1日分以上3日分未満」が46.8%と、男性（43.1%）を上回っている。

性・年代別でみると、男女とも「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

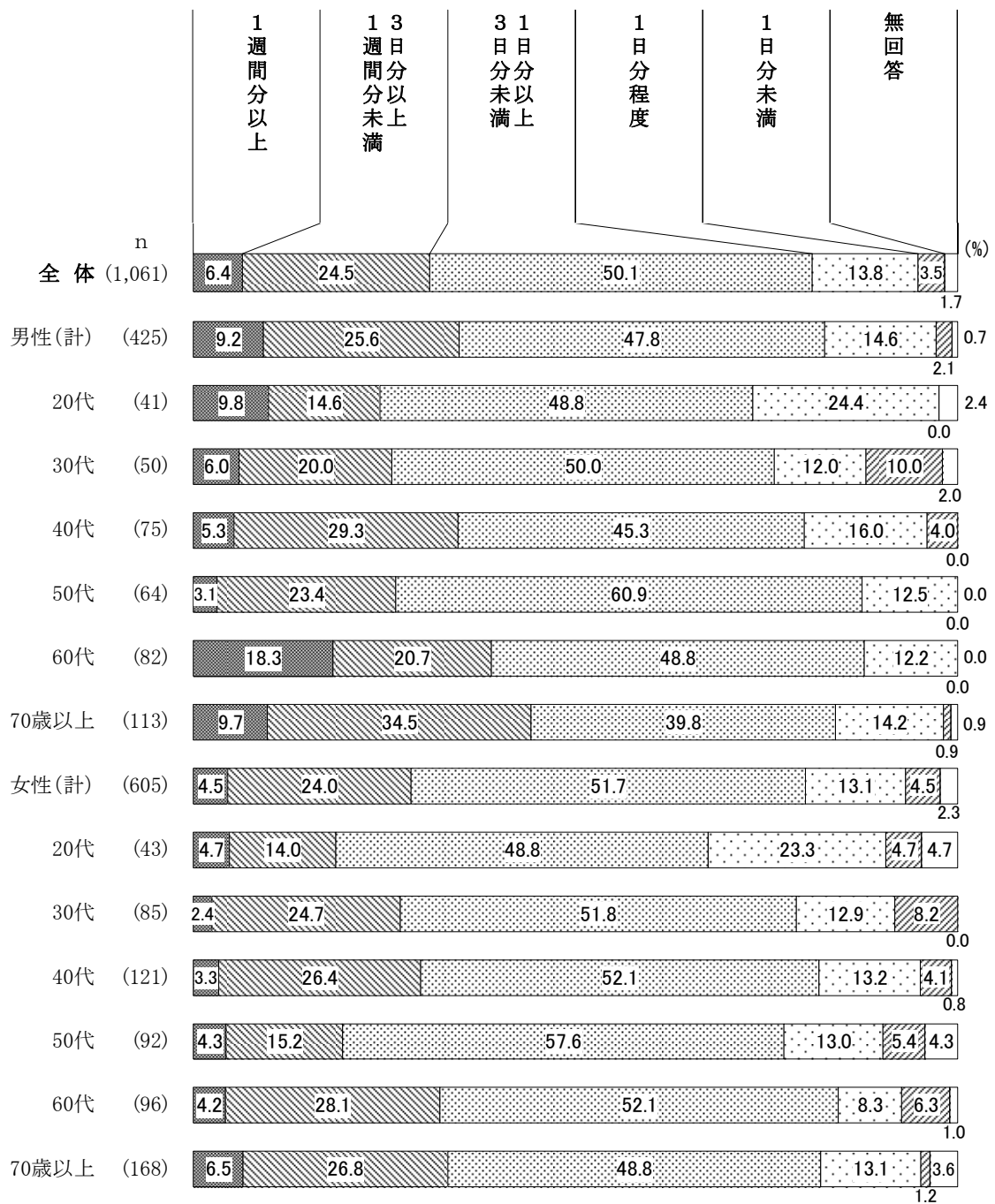
図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水



食料の備蓄量を性別でみると、女性では「1日分以上3日分未満」が51.7%と、男性（47.8%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男女とも、全年代で「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

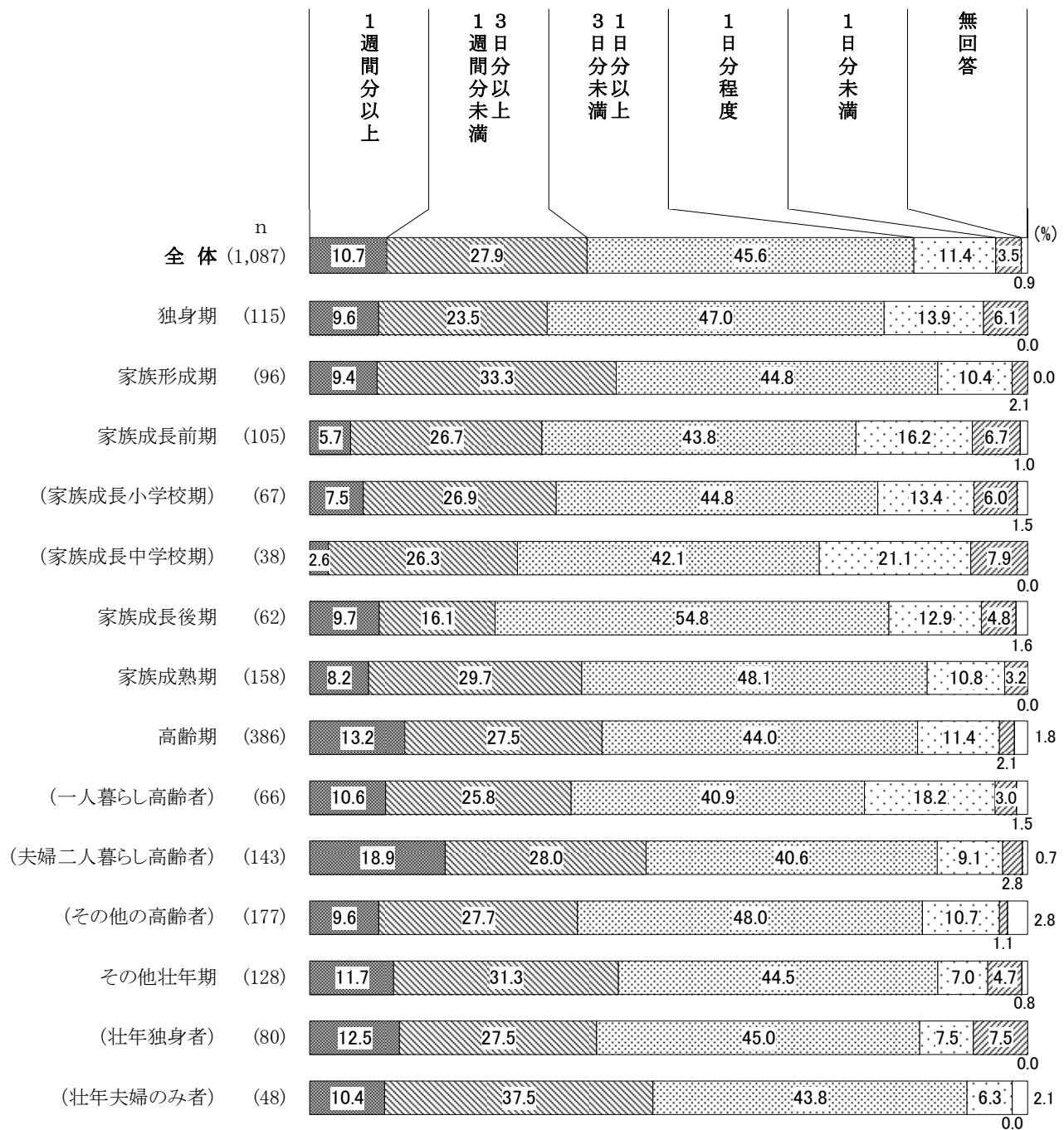
図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

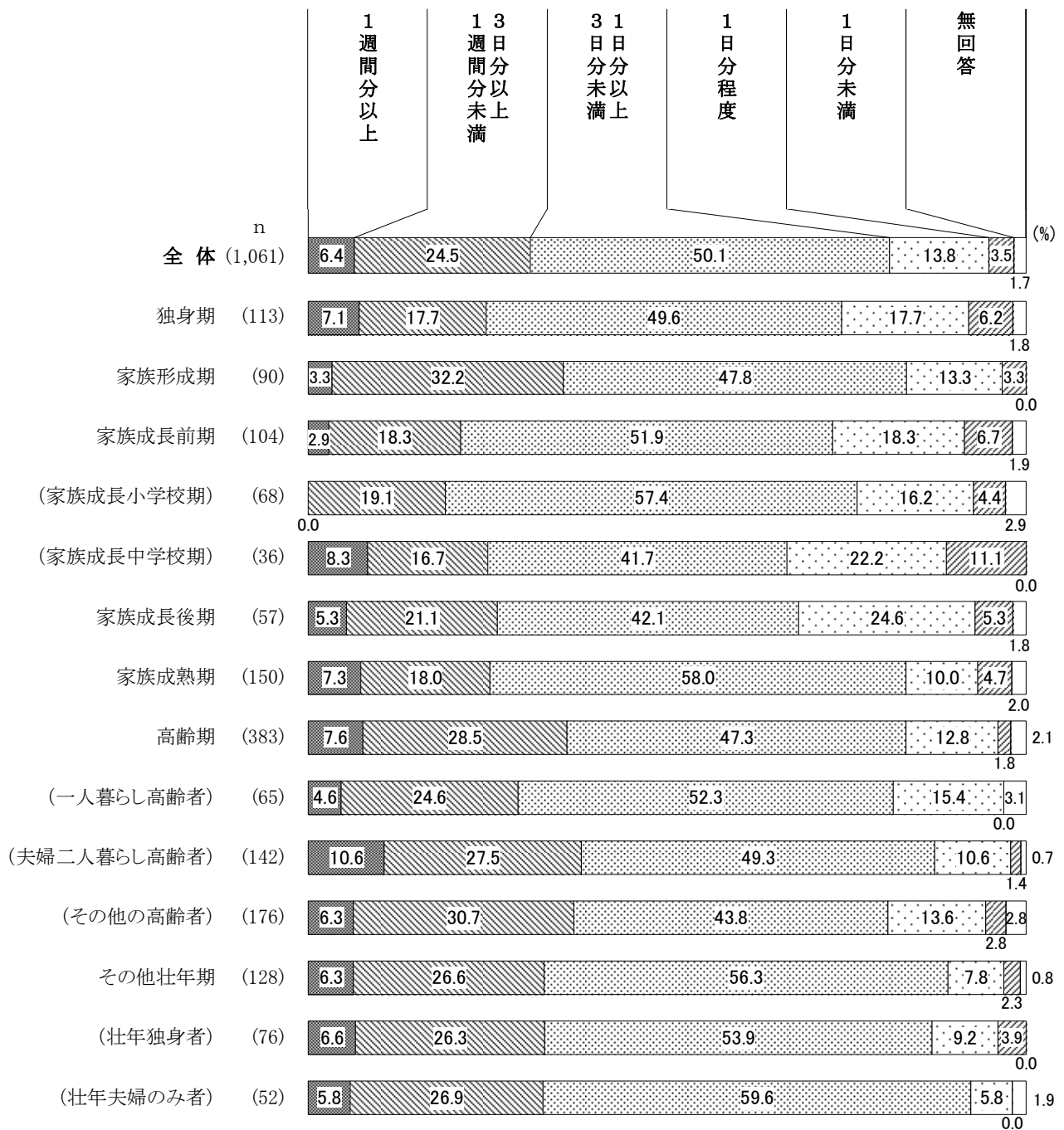
水の備蓄量をライフステージ別でみると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



食料の備蓄量をみると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



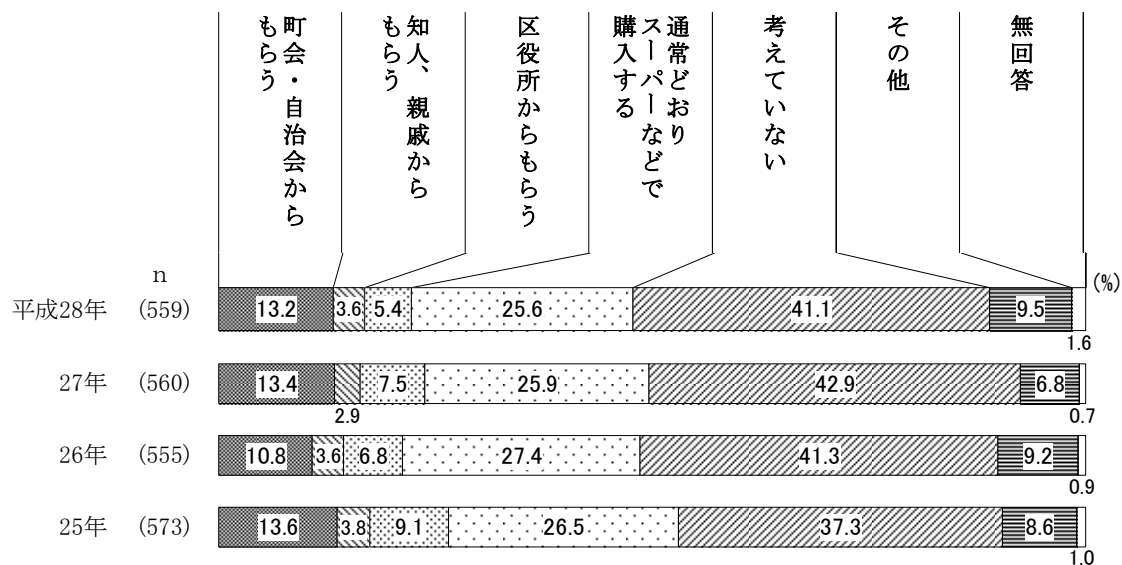
(4) 災害発生時の水や食料の確保

■ 「考えていない」が最も高くなっているも、昨年からは微減

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいたします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか（○は1つだけ）。

図2-4-1 経年比較／災害発生時の水や食料の確保



【備蓄・買い置きをしていない】という人に、災害発生時の水や食糧の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が25.6%で最も高く、次いで「町会・自治会からもらう」(13.2%)となっている。一方、「考えていない」が41.1%を占めている。

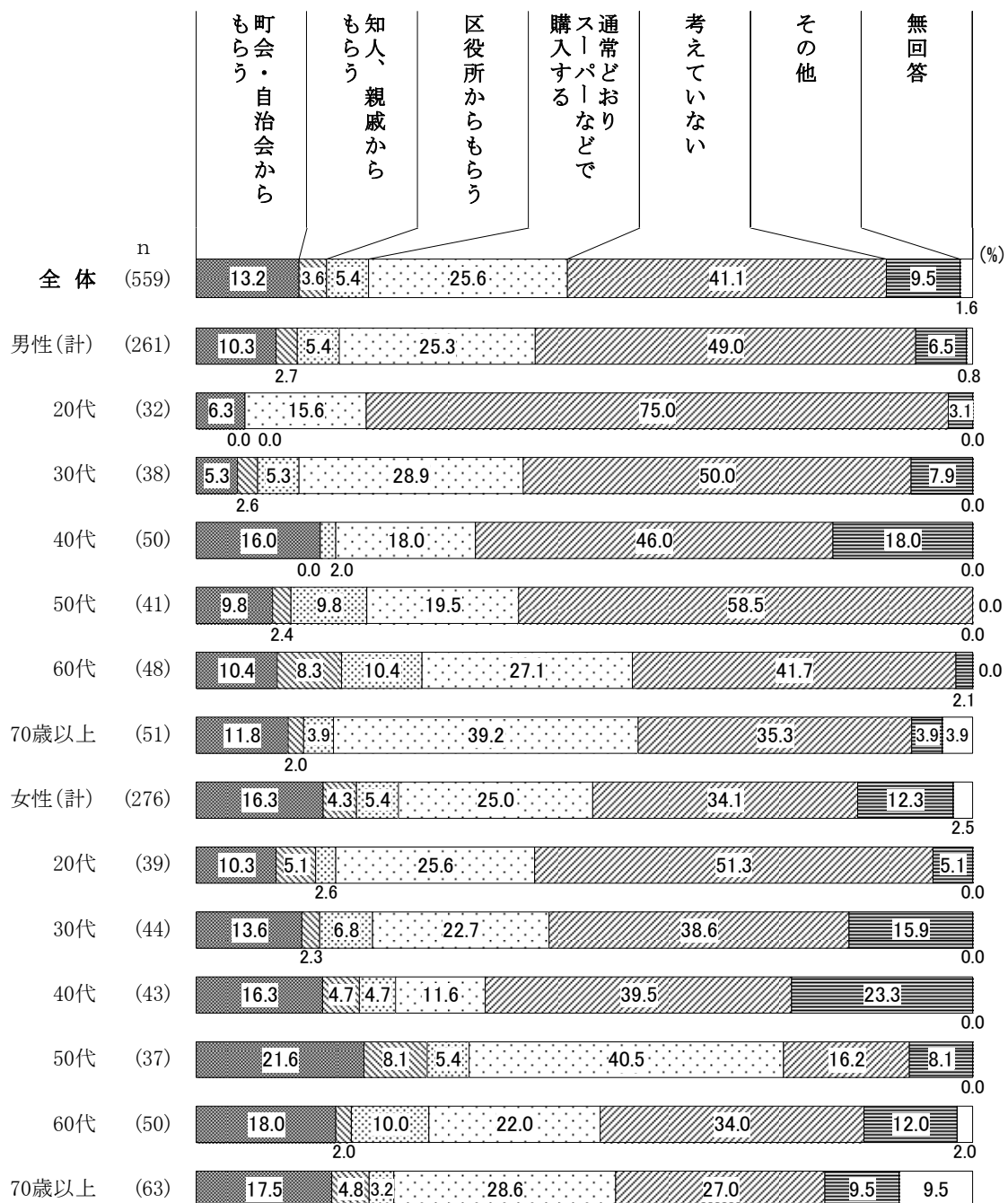
経年でみると、「考えていない」が、平成26年以降横ばい状態にある。

性別でみると、男性では「考えていない」が49.0%と、女性（34.1%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、20代では「考えていない」が75.0%を占めているほか、30代、50代で5割台となっている。また、30代、60代では、「通常どおりスーパーなどで購入する」が、それぞれ28.9%、27.1%と、他の年代より高くなっている。

女性の場合、20代で「考えていない」が51.3%を占めているほか、30代、40代でも4割近くとなっている。また、50代では「通常どおりスーパーなどで購入する」が40.5%と、他の年代より高くなっている。

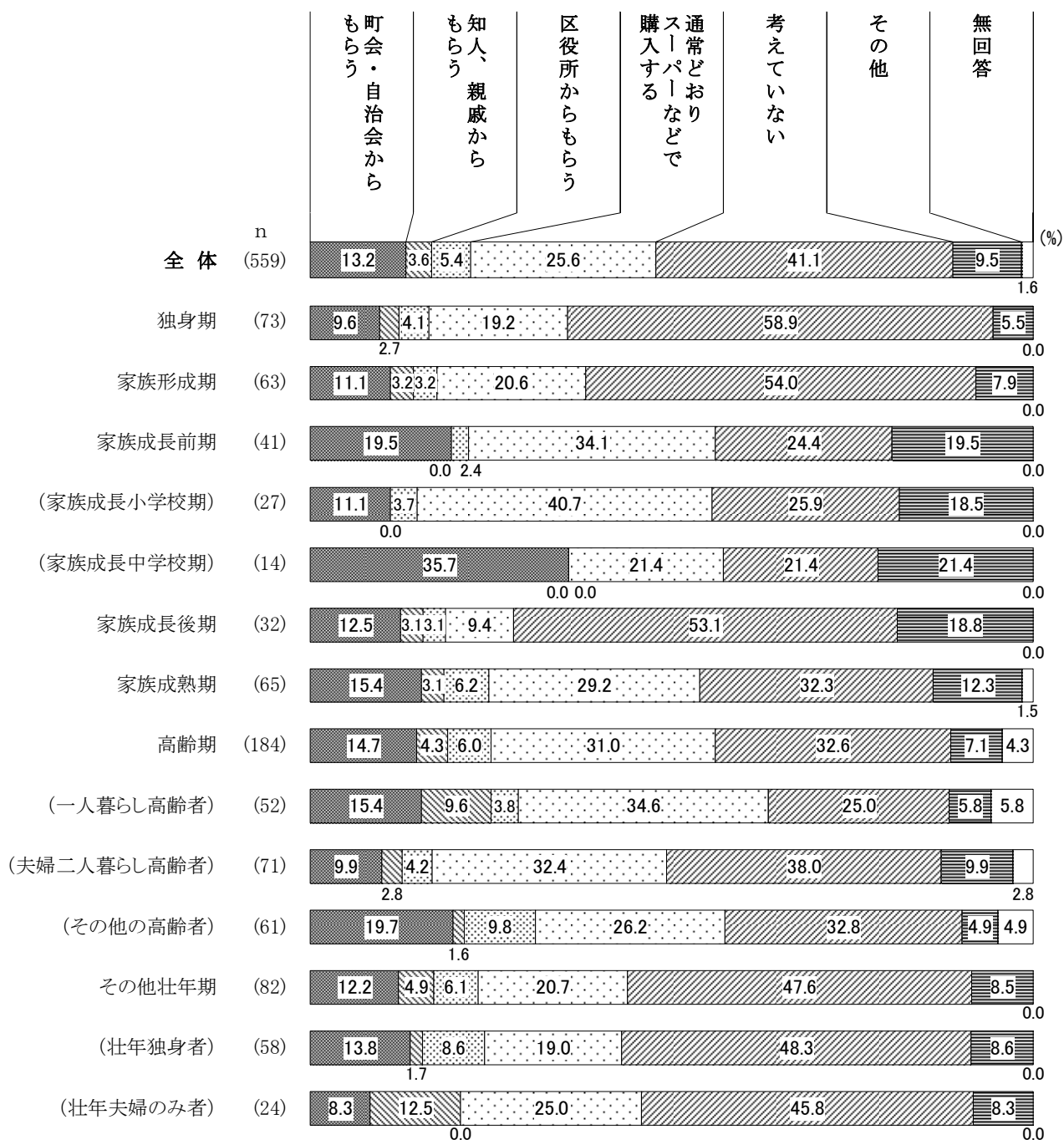
図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

ライフステージ別でみると、独身期、家族形成期、家族成長後期では「考えていない」が、いずれも5割を超えている。また、家族成長前期、高齢期では「通常どおりスーパーなどで購入する」が3割を超えている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保



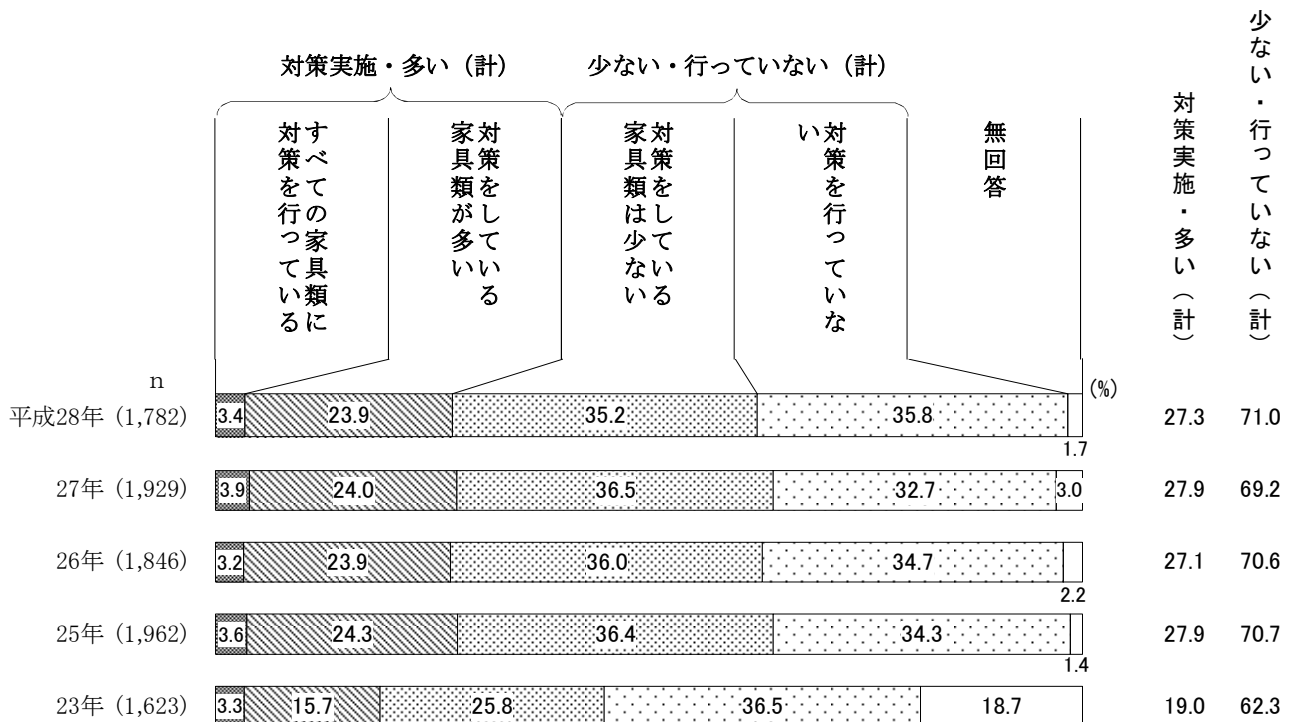
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策をしていない方が7割を超える

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類(※)の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか(○は1つだけ)。

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は3.4%で、これに「対策をしている家具類が多い」の23.9%を合わせた【対策実施・多い】が27.3%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は35.2%、「対策を行っていない」は35.8%となっている。

経年でみると、【対策実施・多い】は、平成25年以降横ばい状態となっている。また、【少ない・行っていない】も、平成25年以降ほぼ横ばいとなっている。

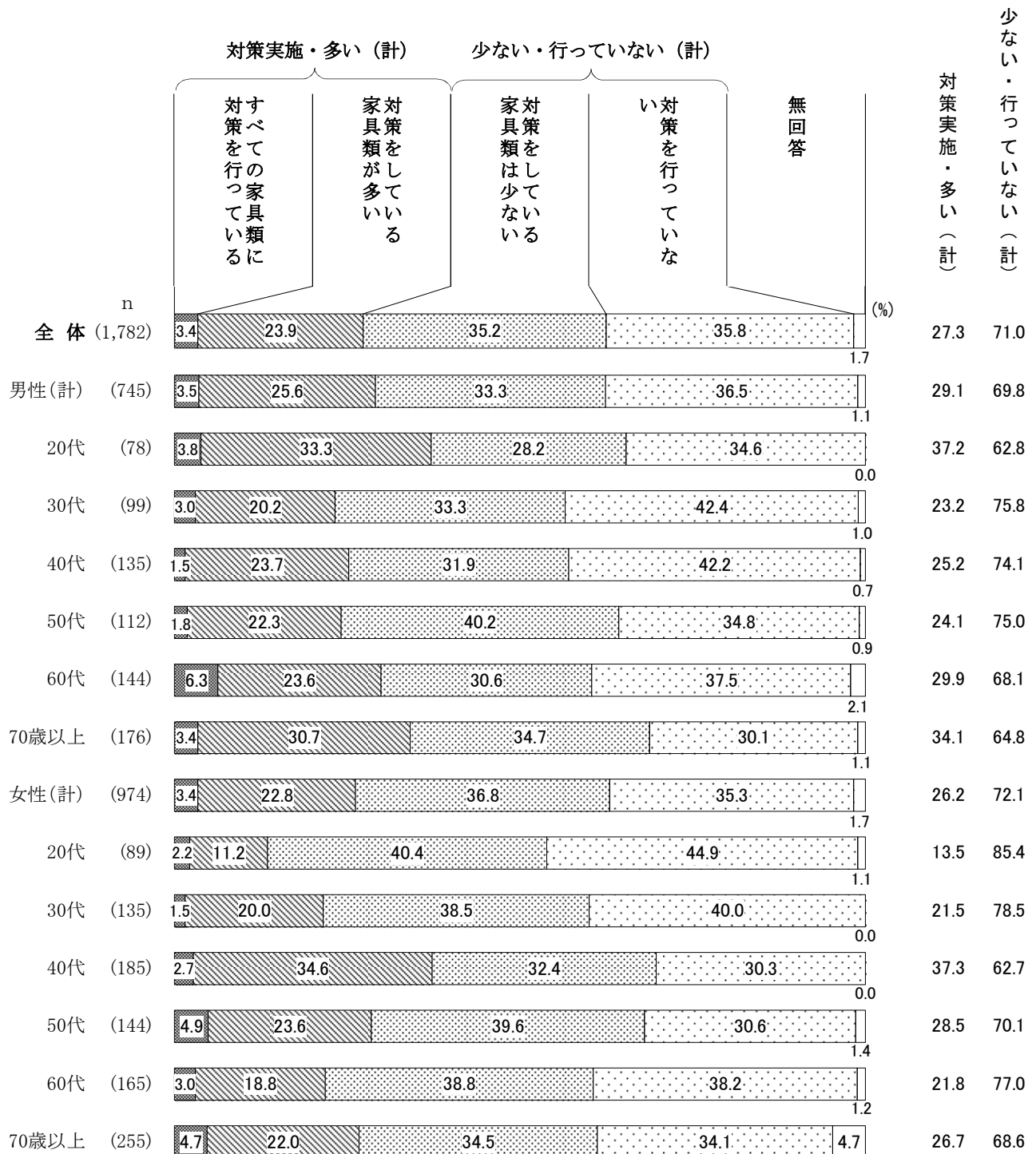
第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、20代、70歳以上で【対策実施・多い】が、それぞれ37.2%、34.1%と、他の年代より高くなっている。

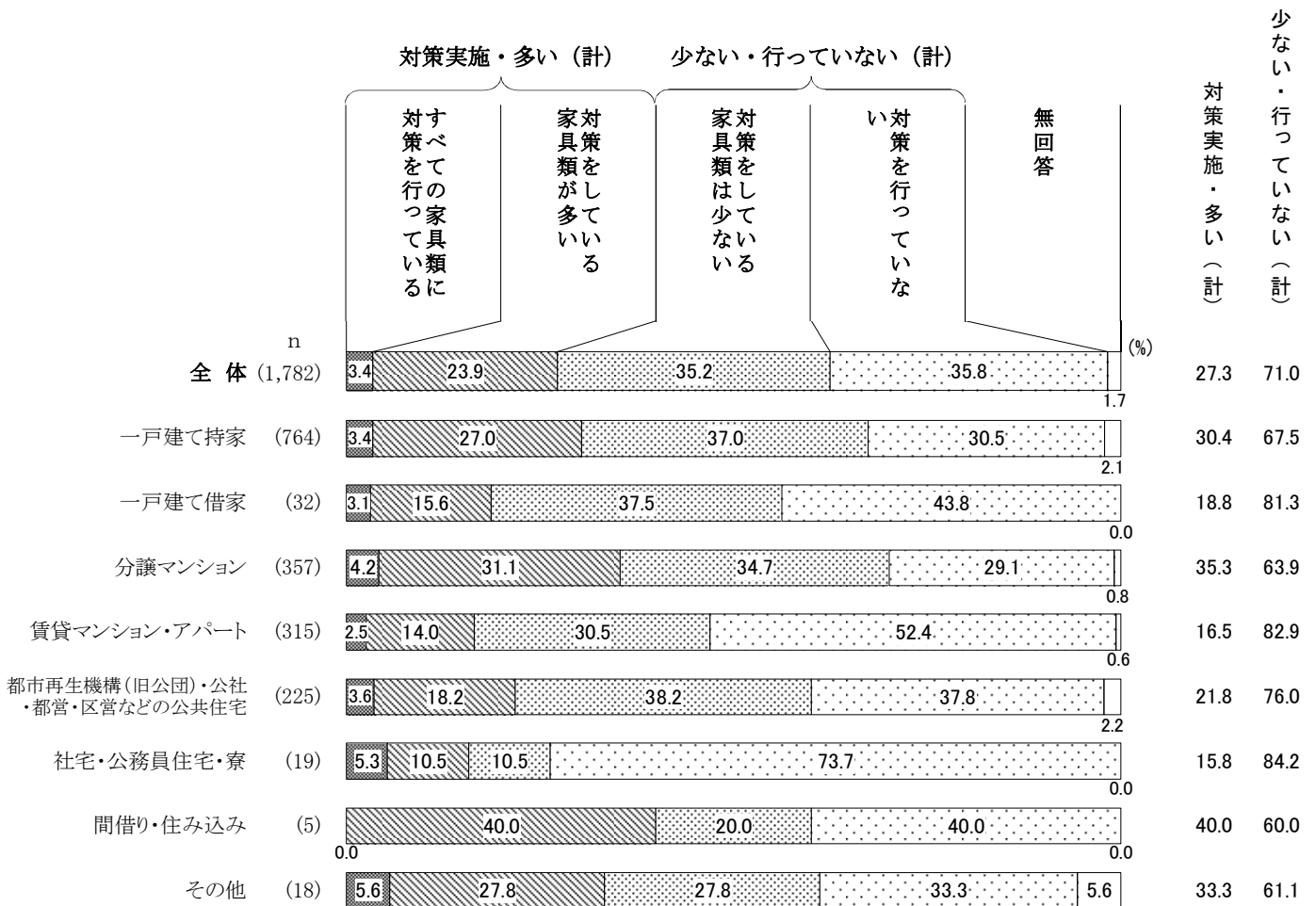
女性では、40代で【対策実施・多い】が37.3%を占めている。

図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



住居形態別でみると、分譲マンションでは【対策実施・多い】が35.3%と高くなっているほか、一戸建て持家でも30.4%を占めている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパート、社宅・公務員住宅・寮では【少ない・行っていない】が8割を超えている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



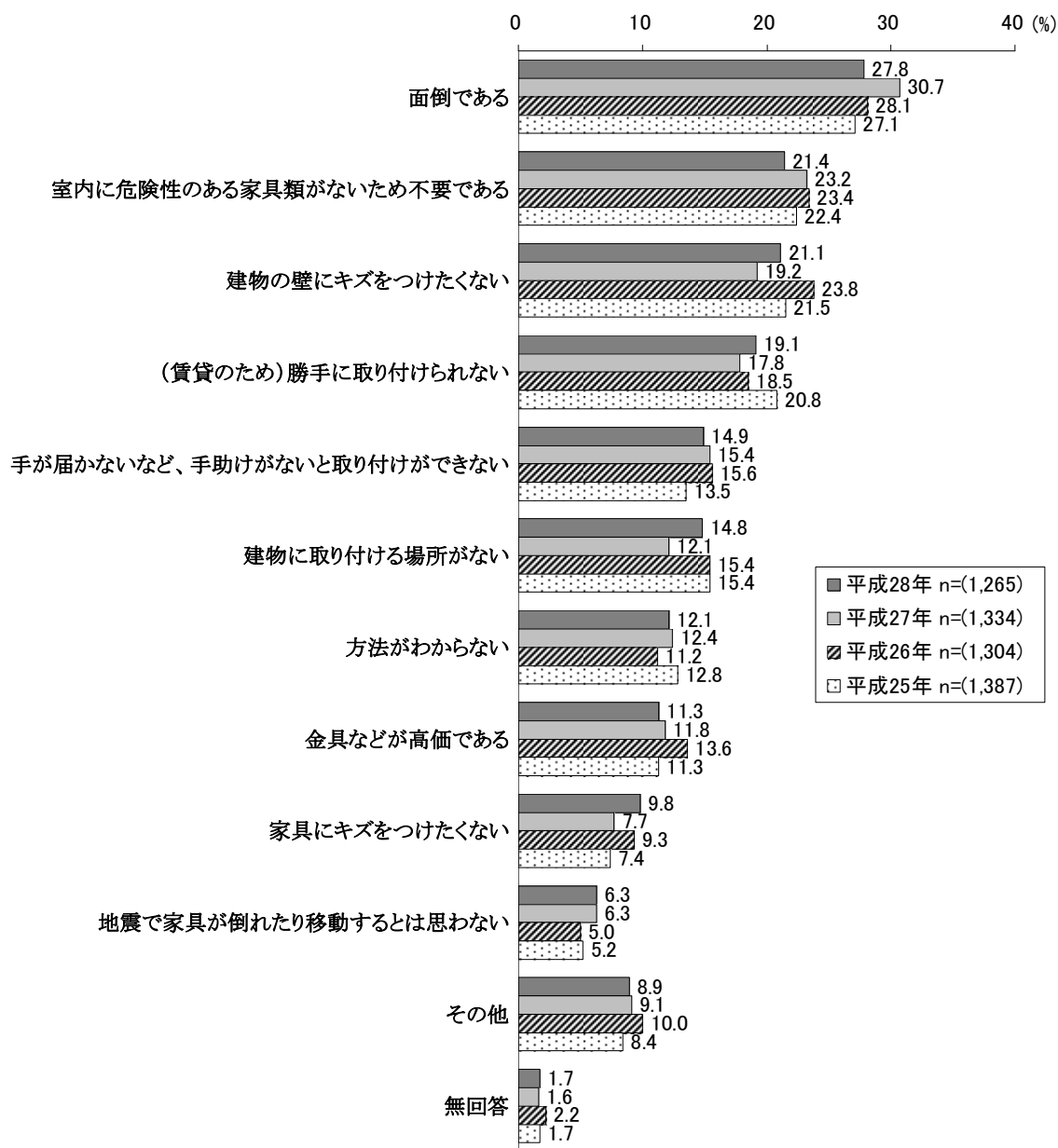
(6) 対策をしていない理由

■ “面倒”が最も高くなっているも、昨年からは微減

問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方に

問7—1 どのような理由からですか（〇はあてはまるものすべて）。

図2-6-1 経年比較／対策をしていない理由

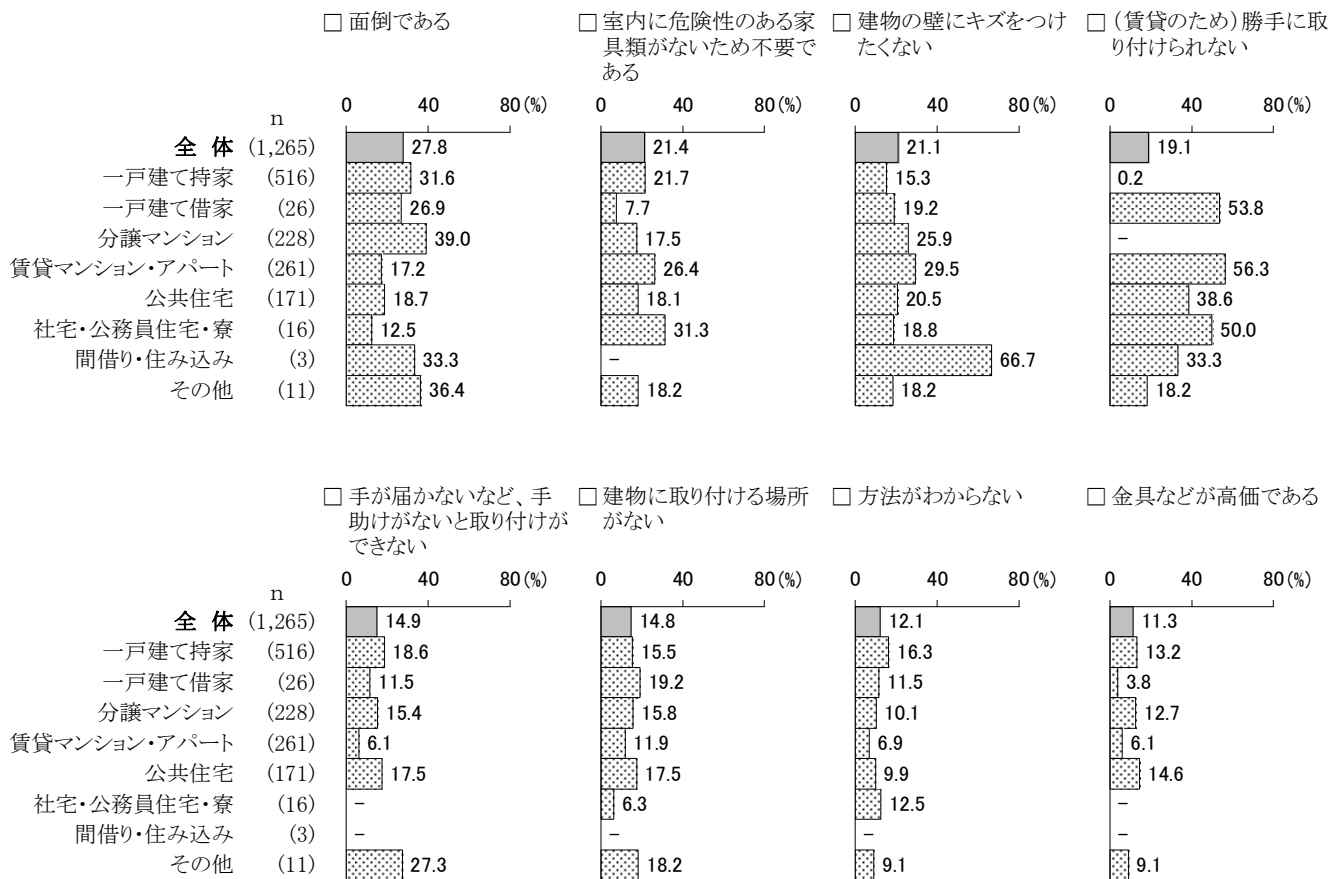


【少ない・行っていない】という人に、その理由を聞いたところ、「面倒である」が27.8%で最も高く、以下「室内に危険性のある家具類がないため不要である」（21.4%）、「建物の壁にキズをつけたくない」（21.1%）、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（19.1%）の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位、数値に大きな変化はみられない。

住居形態別でみると、分譲マンションでは「面倒である」が39.0%を占めているほか、一戸建て持家でも31.6%と、3割を超えている。一方、賃貸マンション・アパートでは、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」が56.3%を占めているほか、一戸建て借家、社宅・公務員住宅・寮でも5割台となっている。

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



(7) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “衛生対策の充実” “備蓄の充実” “ライフラインやエネルギーの確保” が5割台で上位

問8 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します

図2-7-1-① 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

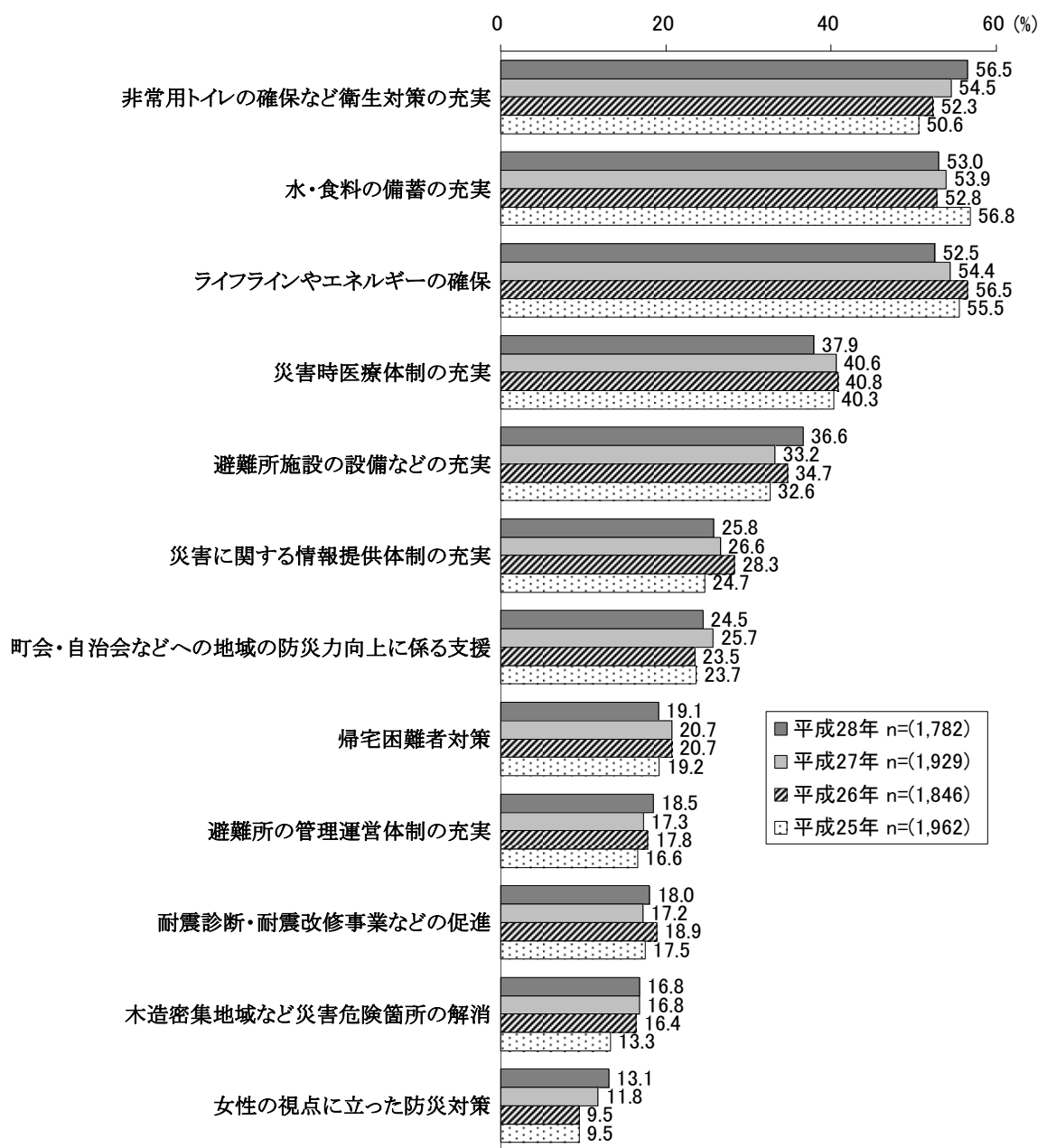
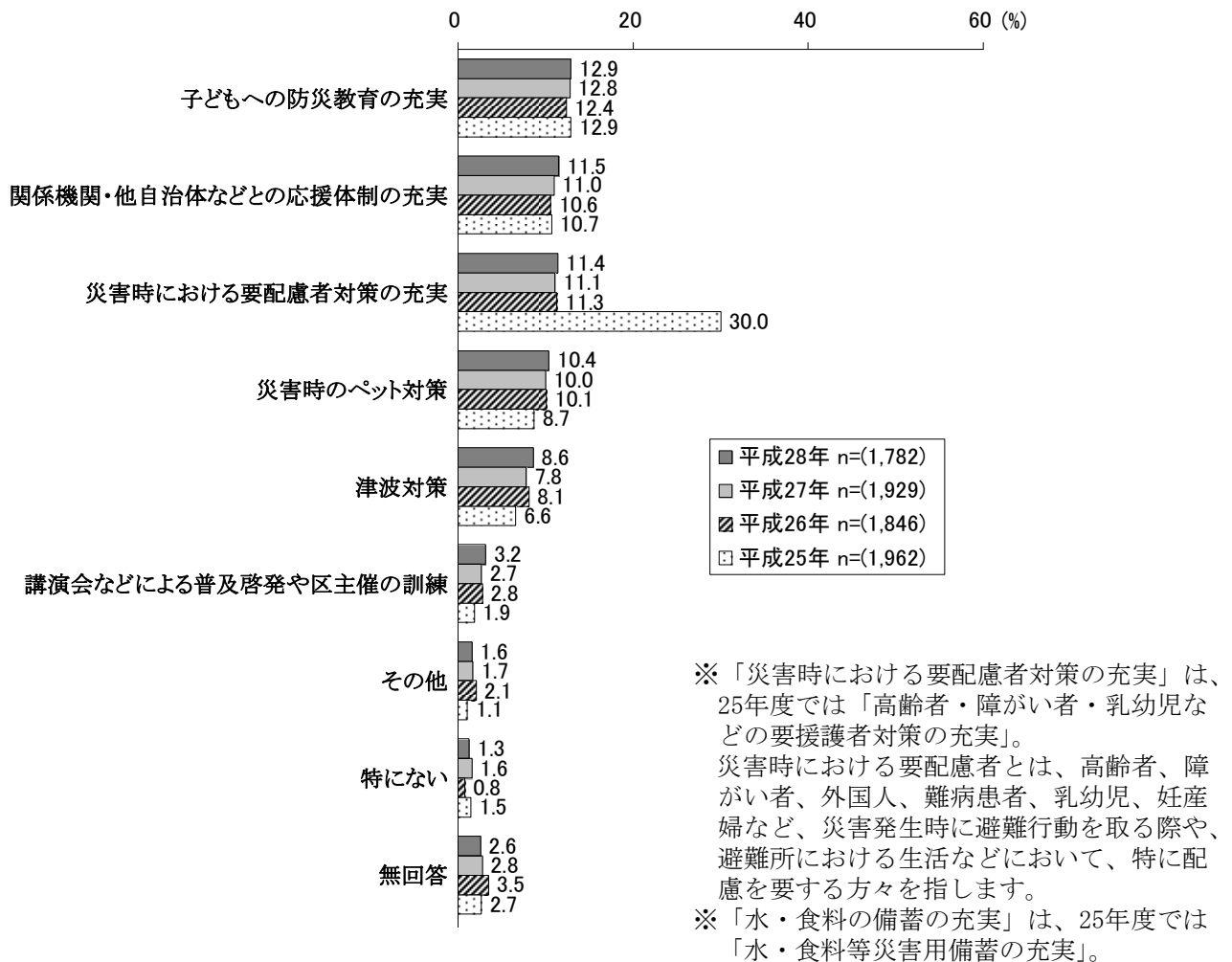


図2-7-1-② 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



大地震の防災対策として力を入れてほしいことは「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」（56.5%）、「水・食料の備蓄の充実」（53.0%）、「ライフラインやエネルギーの確保」（52.5%）の3項目が、いずれも5割を超えてとくに高くなっている。

経年でみると、上位3項目に回答が集中する傾向に大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

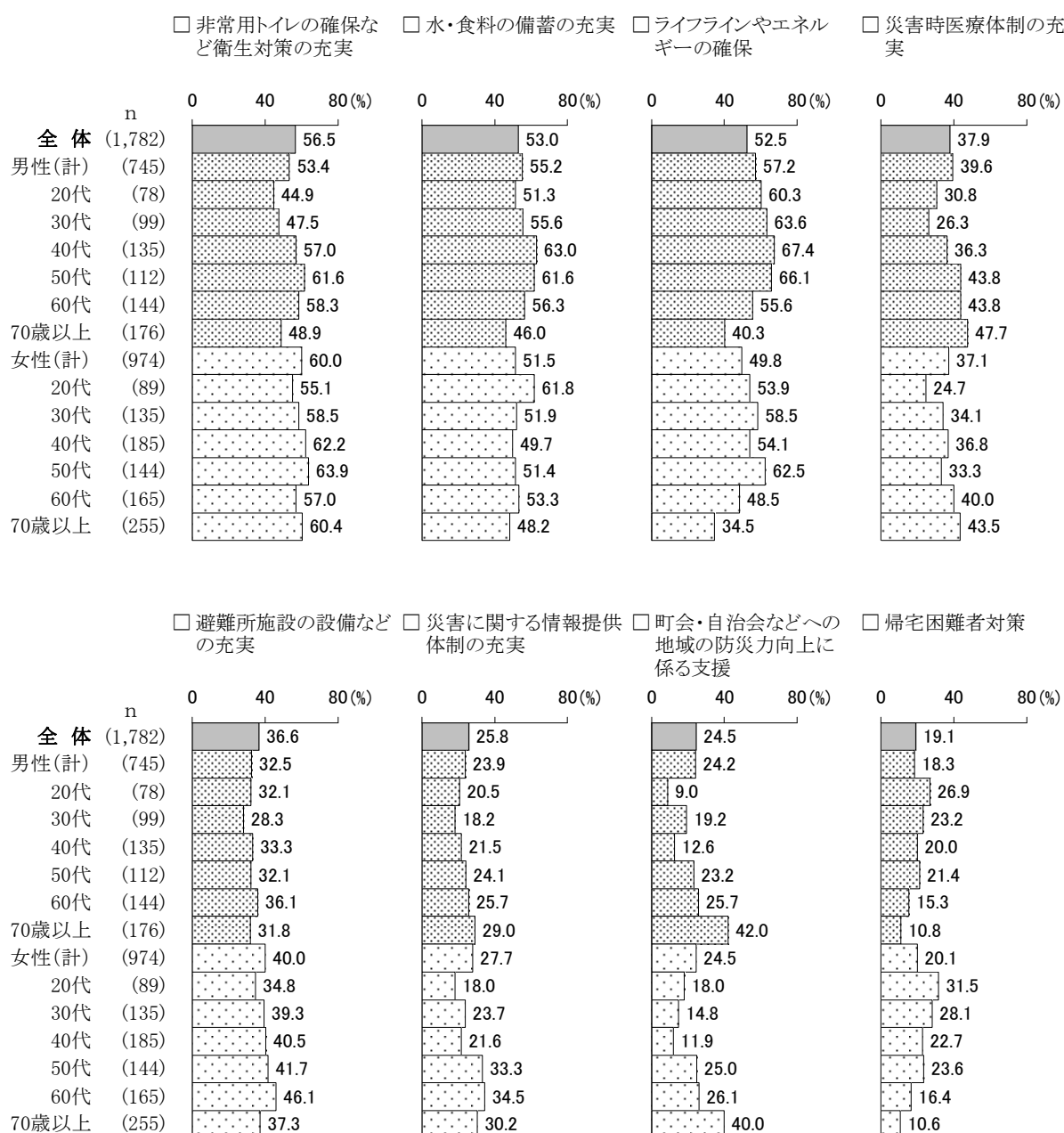
性別でみると、男性では「ライフラインやエネルギーの確保」が57.2%と、女性（49.8%）より高くなっている。一方、女性では「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が60.0%と、男性（53.4%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」について、40代から60代で、いずれも6割前後を占めている。「ライフラインやエネルギーの確保」については、20代から50代で6割を超えている。

女性では、「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」について、40代、50代、70歳以上で、いずれも6割を超え、他の年代より高くなっている。「ライフラインやエネルギーの確保」については、30代、50代で6割前後を占めている。

図2-7-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

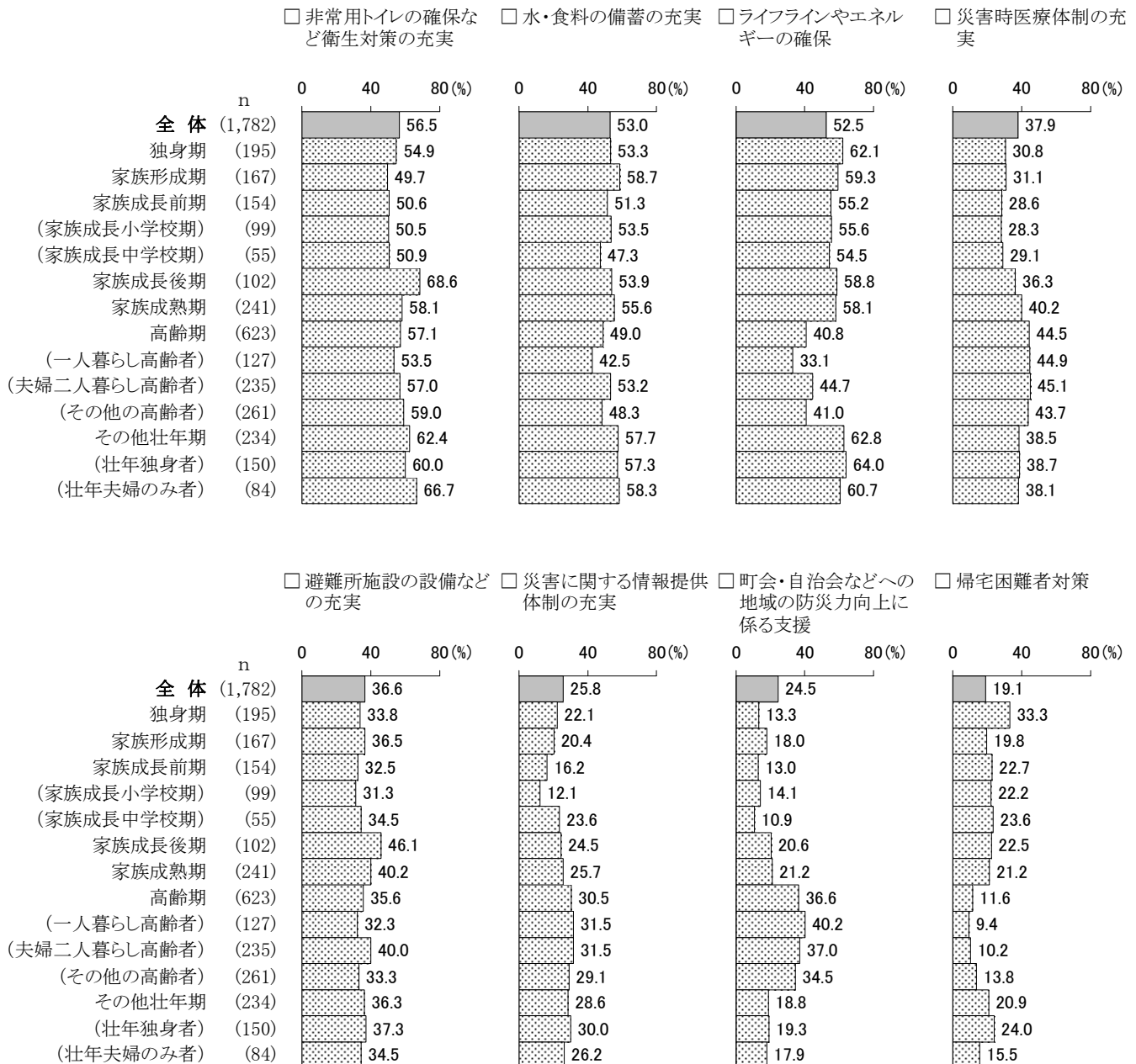
／上位8項目



ライフステージ別でみると、家族成長後期、その他壮年期では、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が、それぞれ68.6%、62.4%と高くなっている。また、「ライフラインやエネルギーの確保」については、独身期、家族形成期、家族成長前期、家族成熟期、その他壮年期で6割前後を占めている。

図2-7-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目



3 洪水対策

-
- (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知
 - (2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処
 - (3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先
-

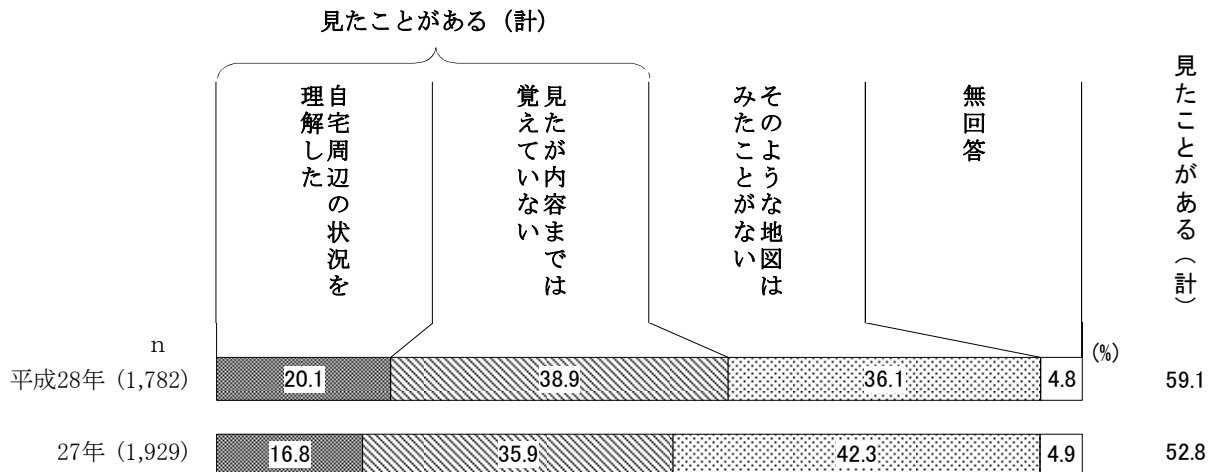
3. 洪水対策

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知

■ 【見たことがある】は6割弱

問9 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」をご覧になったことがありますか（○は1つだけ）。

図3-1-1 前回調査比較／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



※「自宅周辺の状況を理解した」は、27年度「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

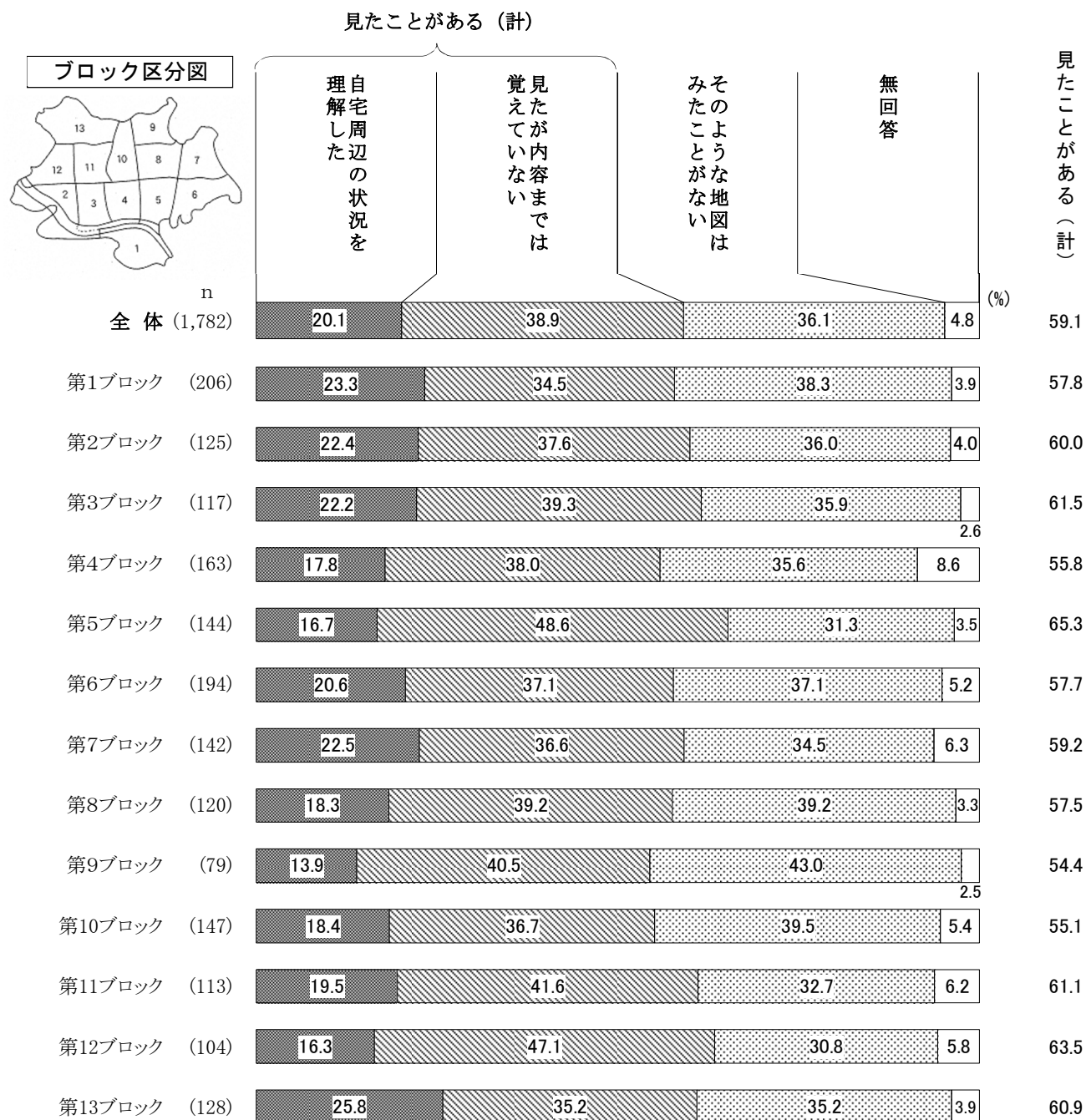
『足立区洪水ハザードマップ』で「自宅周辺の状況を理解した」が20.1%であり、これに「見たが内容までは覚えていない」（38.9%）を合わせた【見たことがある】は59.1%を占めている。一方、「そのような地図は見たことがない」は36.1%となっている。

経年でみると、【見たことがある】は、平成27年の52.8%から、今回59.1%へと増加している。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

ブロック別でみると、第5ブロックで【見たことがある】が65.3%と最も高く、これに第12ブロックが63.5%で次いでいる。

図3-1-2 地域ブロック別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

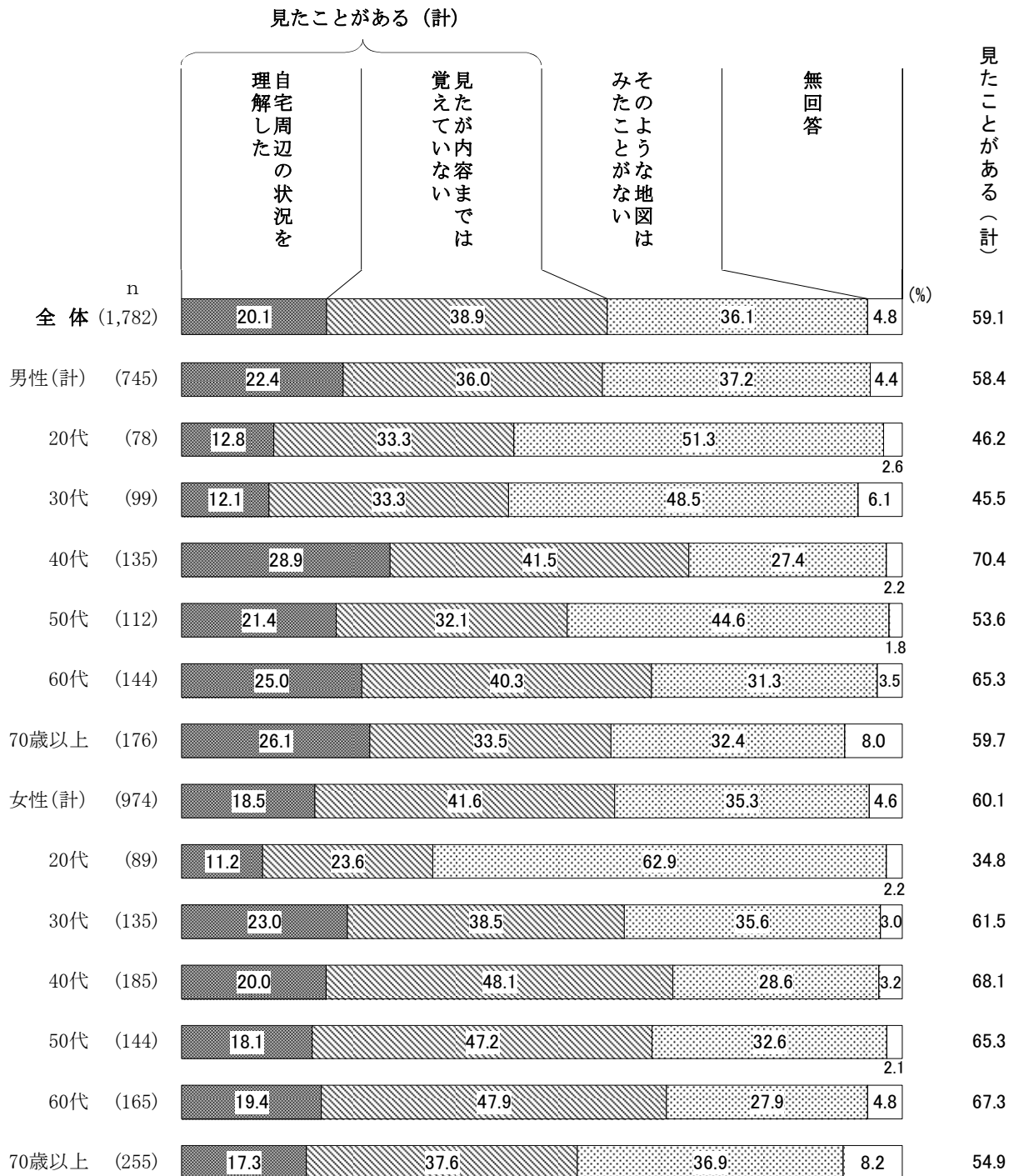


性別でみると、【見たことがある】については、ほとんど男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、40代で【見たことがある】が70.4%と、他の年代より高くなっている。

女性では、30代から60歳代で【見たことがある】が6割を超えている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

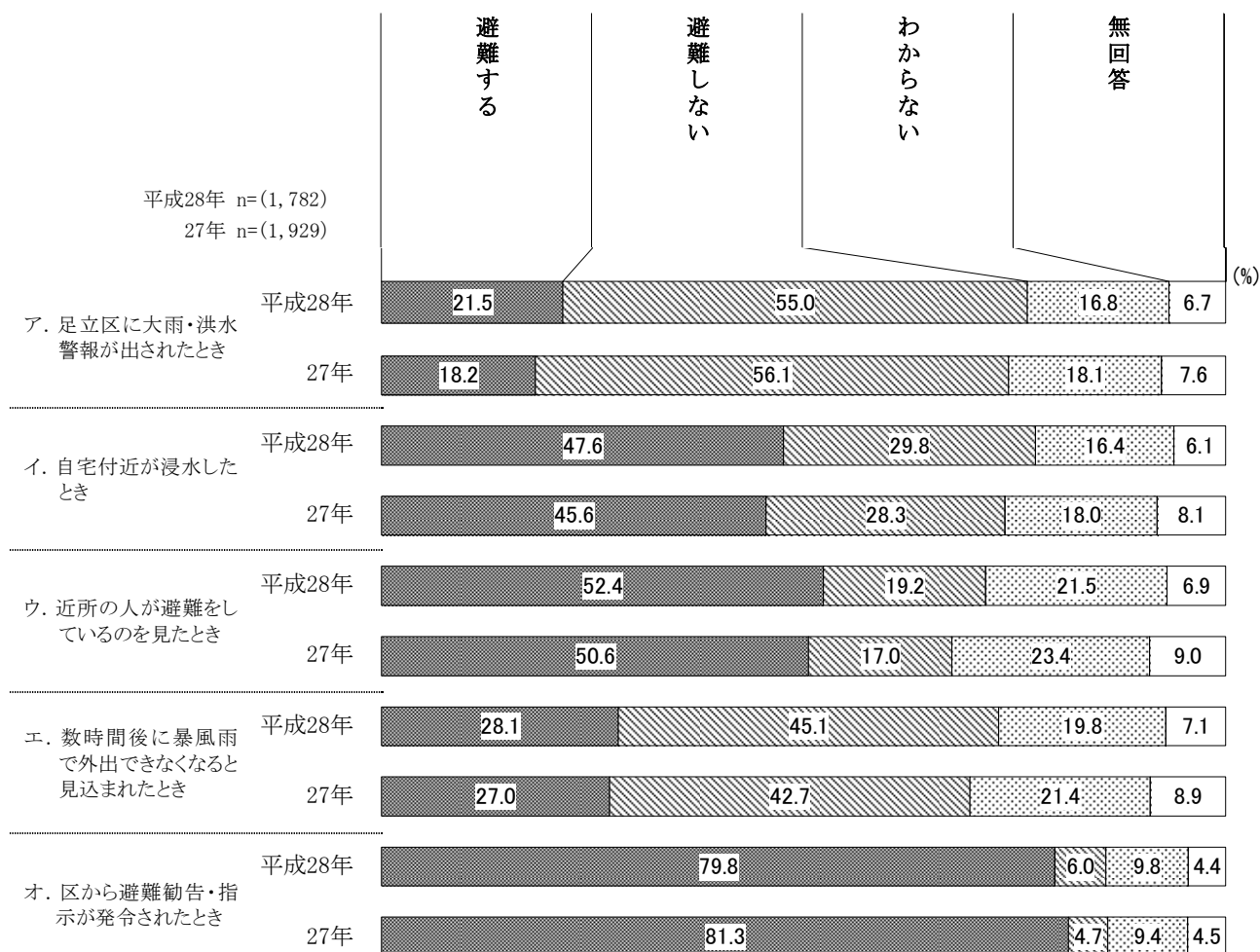


(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処

■ 〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉は「避難する」が8割

問10 河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、以下のア～オまでの情報を知ったとき、あなたは自宅から避難しますか。
(○はそれぞれ1つつ)

図3-2-1 前回調査比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



河川が氾濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、どのような情報を知って避難するかを聞いた。

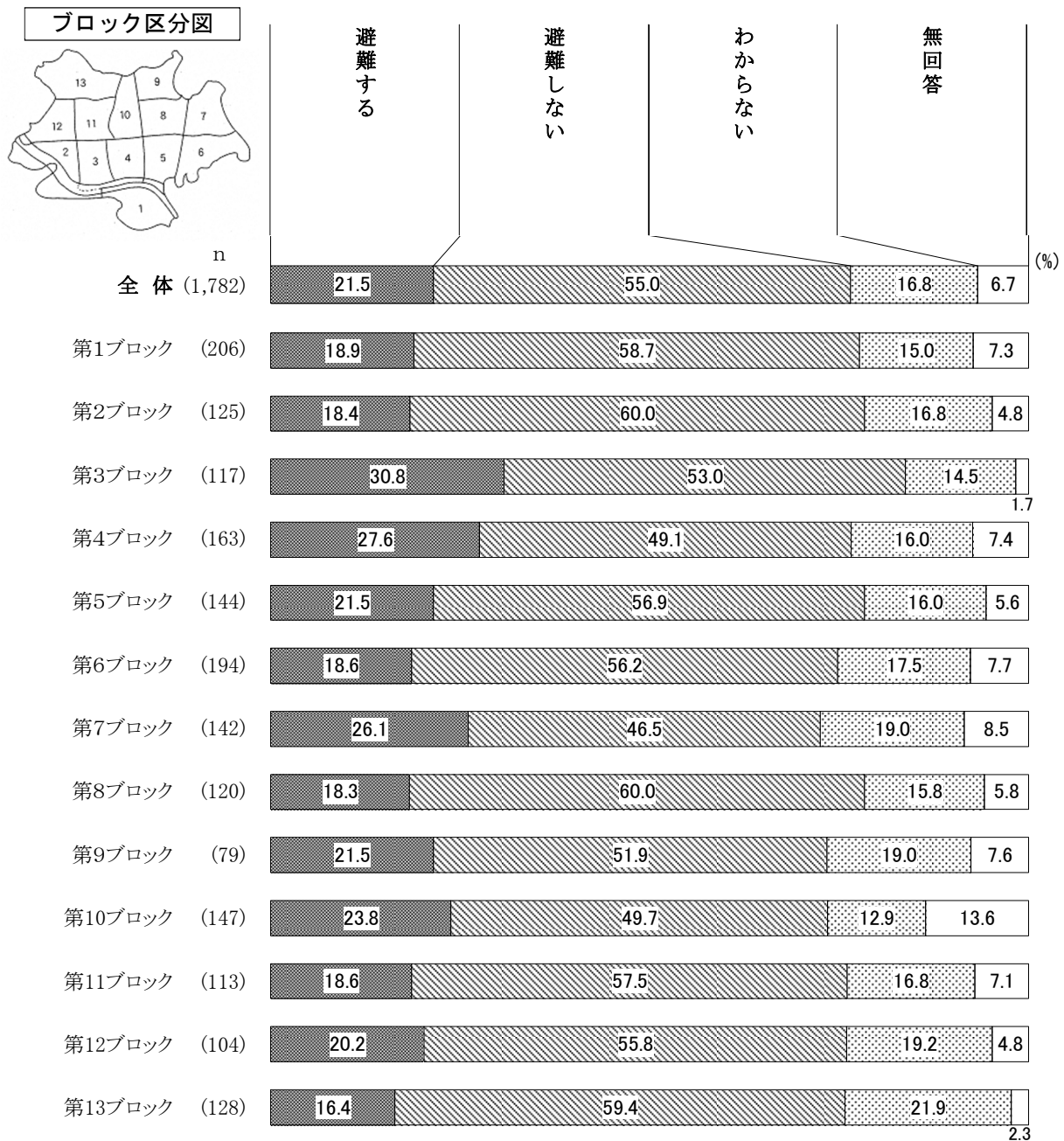
「避難する」が高い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が79.8%で最も高く、以下〈近所の人が避難しているのを見たとき〉(52.4%)、〈自宅付近が浸水したとき〉(47.6%)の順で続いている。

経年でみると、回答の順位に変動はなく、比率にも大きな変化はない。

〈足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉について、ブロック別でみると、第2ブロック、第8ブロックでは、「避難しない」が60.0%と高くなっているほか、第1ブロック、第11ブロック、第13ブロックでも5割台後半となっている。

図3-2-2-① 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

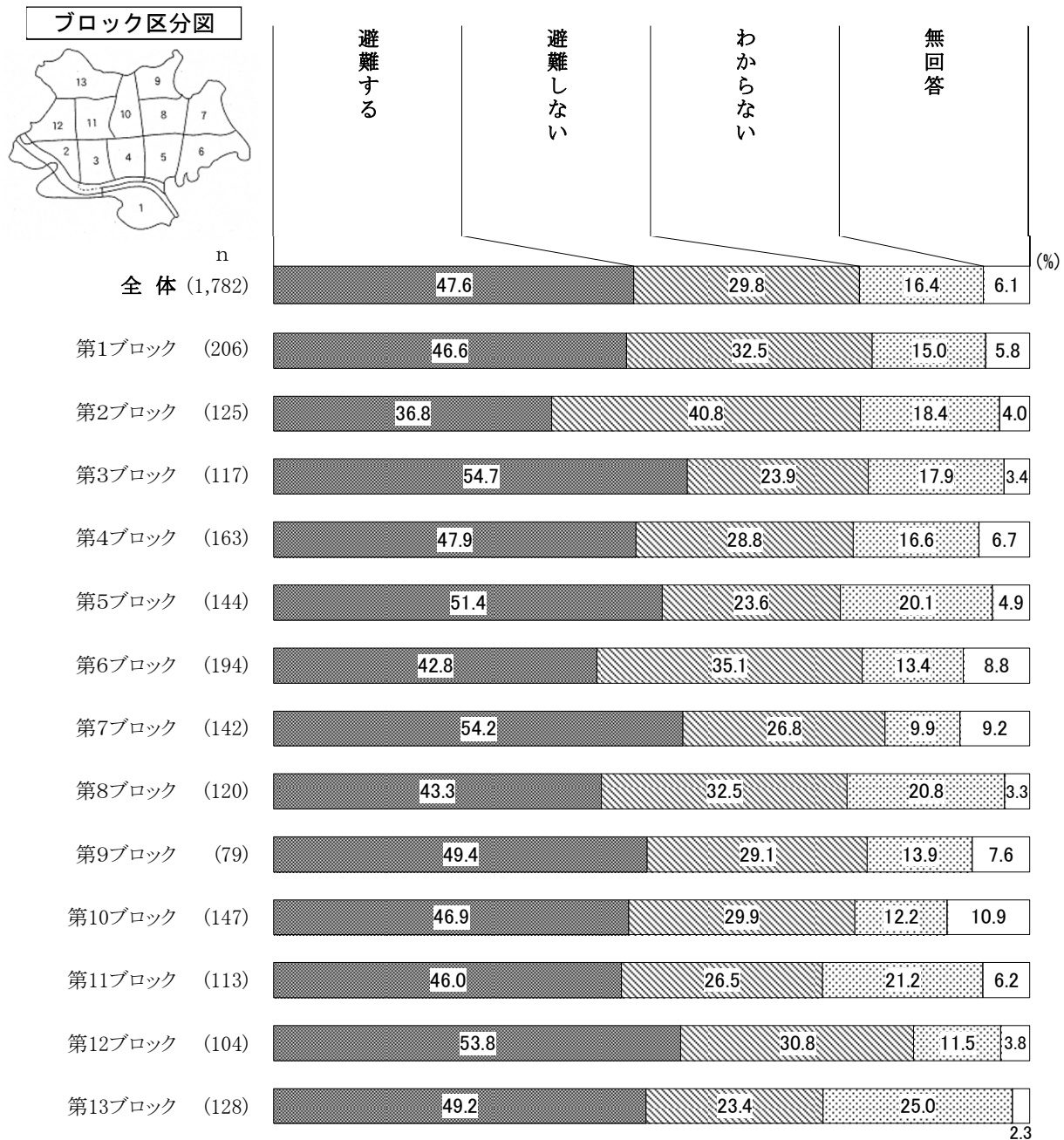
／足立区に大雨・洪水警報が出たとき



第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

〈自宅付近が浸水したとき〉について、ブロック別でみると、第3ブロック、第5ブロック、第7ブロック、第12ブロックでは「避難する」が5割を超え、他のブロックより高くなっている。

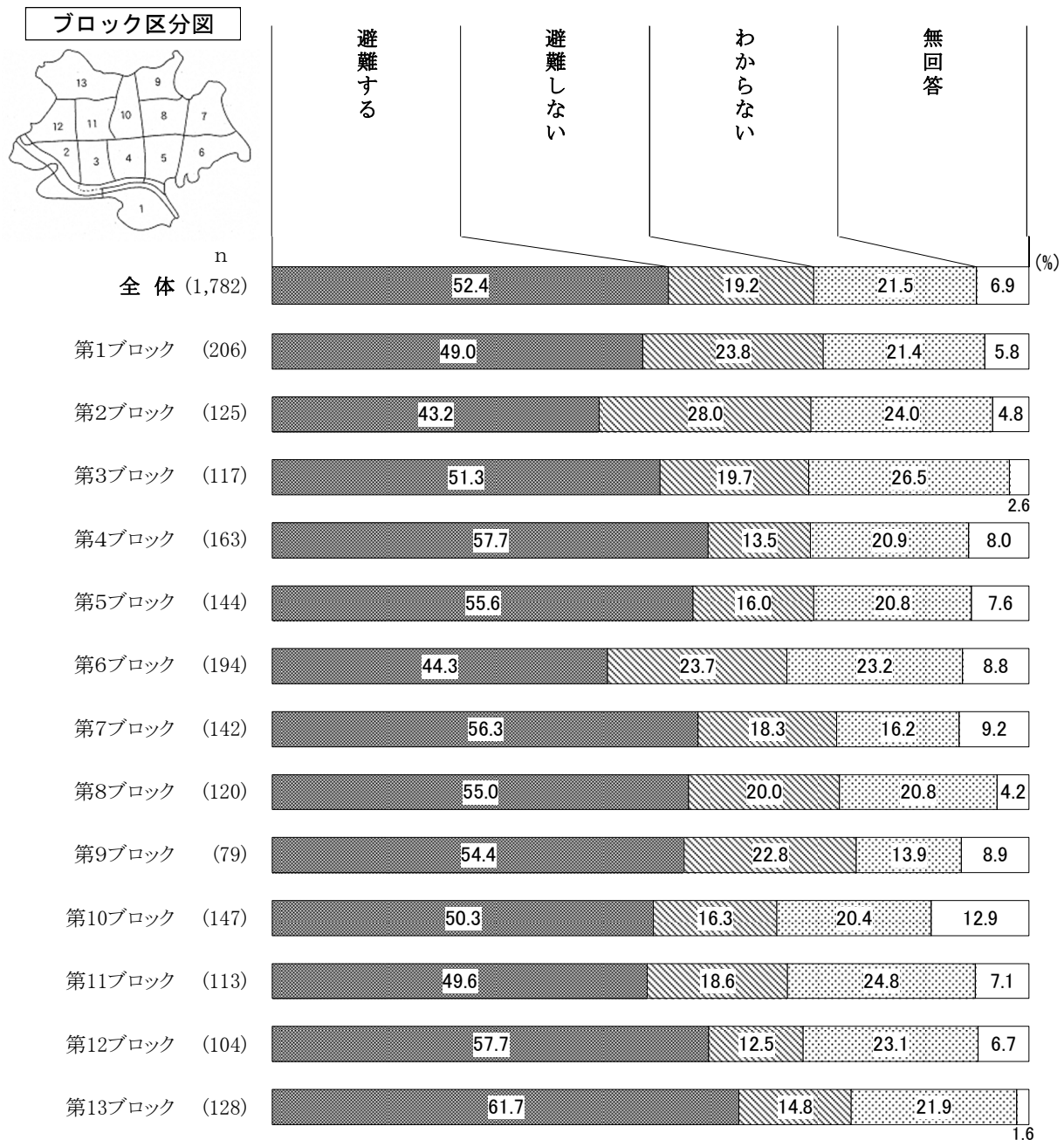
図3-2-2-② 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処／自宅付近が浸水したとき



〈近所の人が避難をしているのを見たとき〉について、ブロック別でみると、第13ブロックで「避難する」が61.7%と最も高くなっているほか、第4ブロック、第5ブロック、第7ブロック、第8ブロック、第9ブロック、第12ブロックでも5割台半ば前後を占めている。

図3-2-2-③ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／近所の人が避難をしているのを見たとき

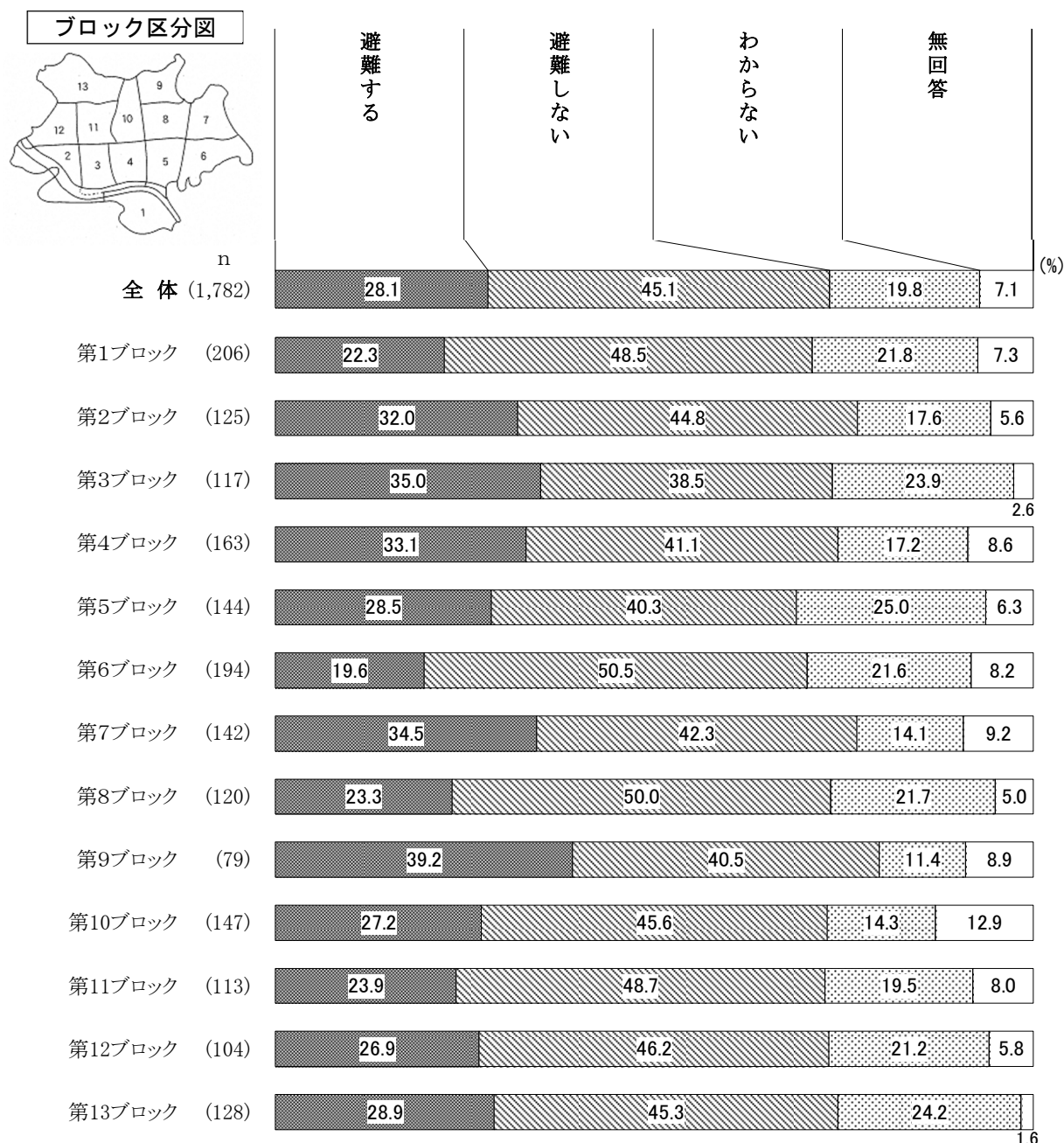


第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉については、第9ブロックで「避難する」が39.2%と最も高くなっているほか、第2ブロック、第3ブロック、第4ブロック、第7ブロックでも3割を超えている。

図3-2-2-④ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

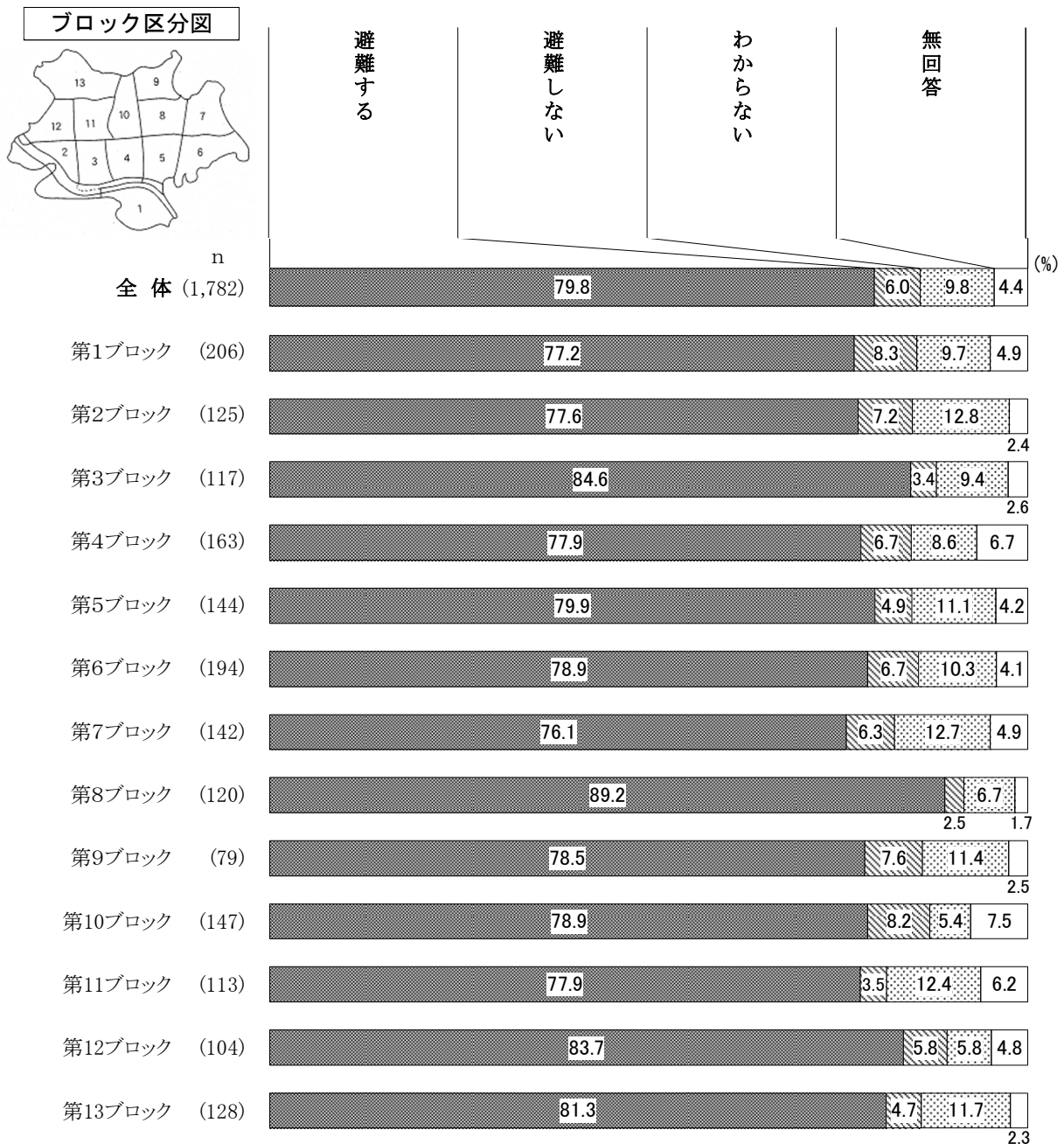
／数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき



〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉について、ブロック別でみると、第8ブロック、で、「避難する」が89.2%と最も高くなっているほか、第3ブロック、第12ブロック、第13ブロックでも8割を超えている。

図3-2-2-⑤ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／区から避難勧告・指示が発令されたとき

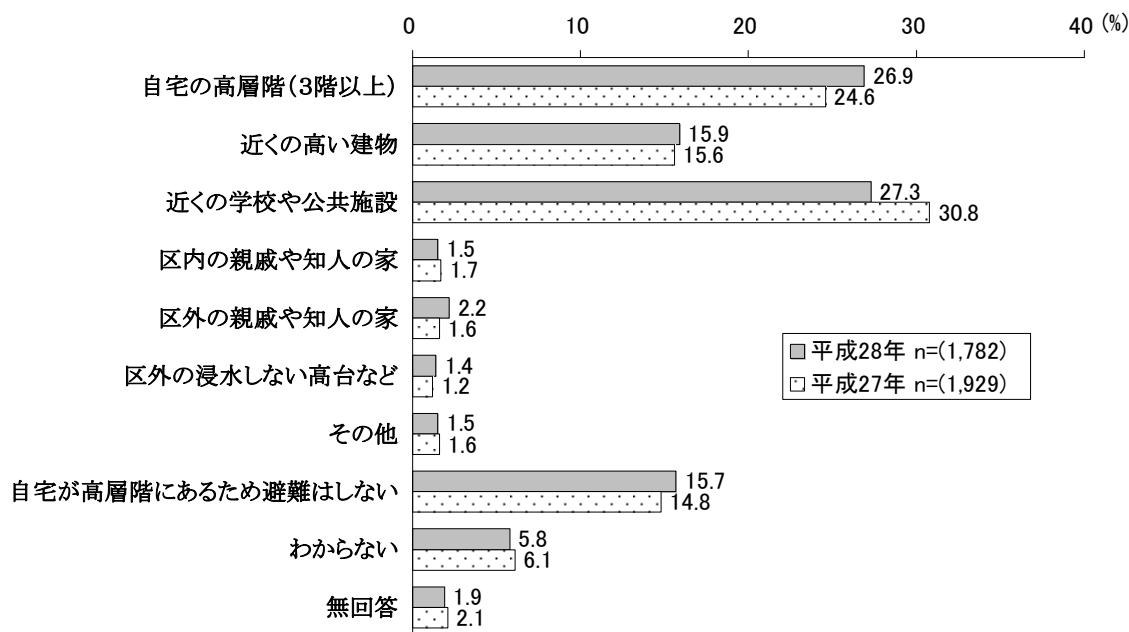


(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先

■ 「近くの学校や公共施設」「自宅の高層階（3階以上）」が2割台後半

問11 荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されます。そのとき、あなたは最初にどこに避難しようと思いますか（○は1つだけ）。

図3-3-1 前回調査比較／荒川がはん濫した際の最初の避難先

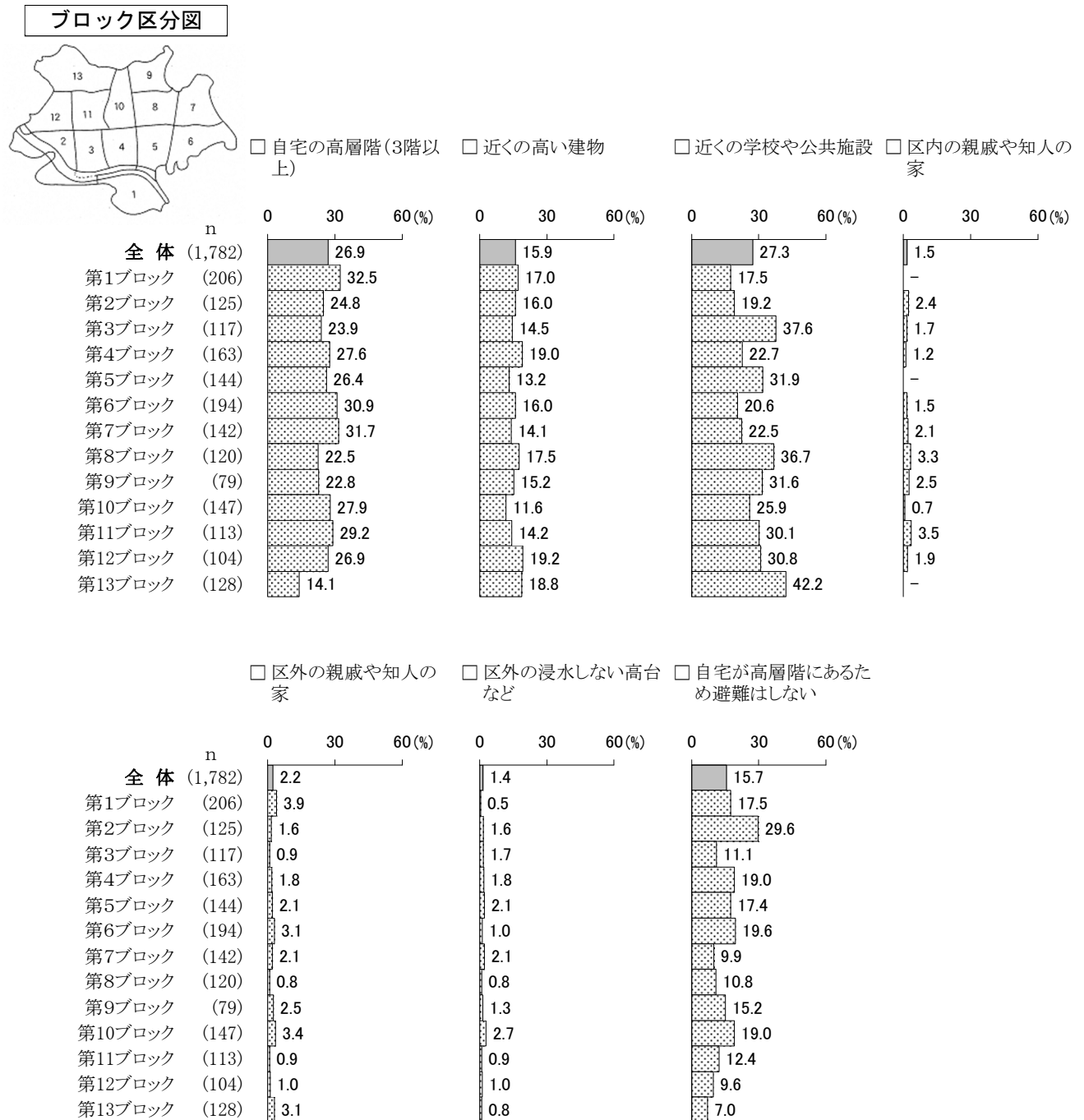


荒川がはん濫したときの最初の避難先としては、「近くの学校や公共施設」が27.3%で最も高く、以下「自宅の高層階（3階以上）」（26.9%）、「近くの高い建物」（15.9%）の順で続いている。

経年でみると、「近くの学校や公共施設」は、平成27年の30.8%から、今回、27.3%へと微減している。

ブロック別でみると、「近くの学校や公共施設」については、第13ブロックで42.2%と、最も高くなっているほか、第3ブロック、第8ブロックでも3割台半ばを超えている。「自宅の高層階（3階以上）」は、第1ブロック、第6ブロック、第7ブロックで3割を超えている。また、「自宅が高層階にあるため避難はしない」については、第2ブロックで29.6%と、他の地区に比べて際立って高くなっている。

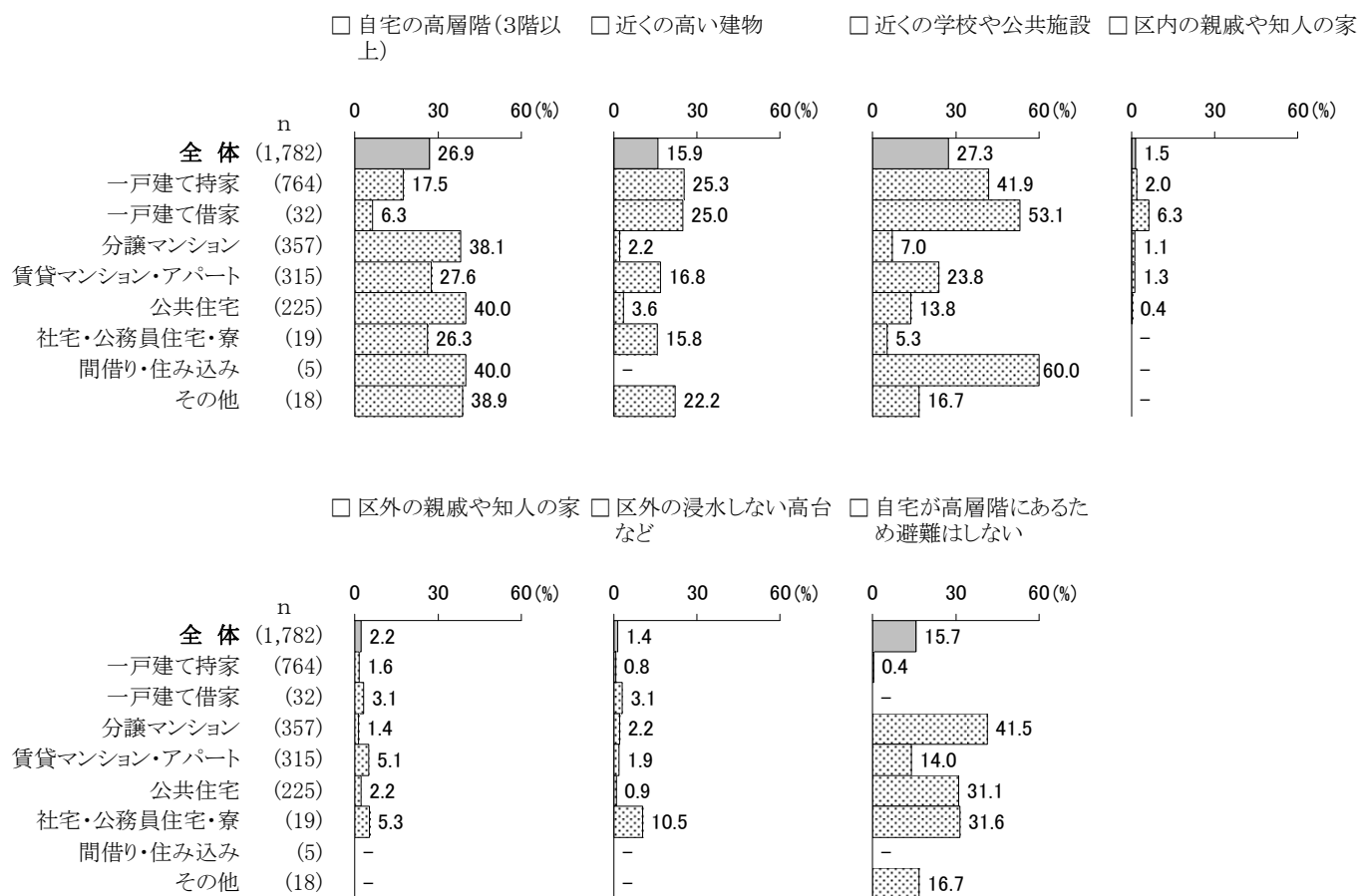
図3-3-2 地域ブロック別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家では「近くの学校や公共施設」が、それぞれ41.9%、53.1%と高くなっている。一方、分譲マンション、都市再生機構（旧公団）・公社・都営・区営などの公共住宅では「自宅の高層階（3階以上）」が4割前後を占めている。また、分譲マンションでは、「自宅が高層階にあるため避難はしない」も41.5%と高くなっている。

図3-3-3 住居形態別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



4 区の情報発信のあり方

-
- (1) 区に関する情報の入手手段
 - (2) 区が発信する必要がある情報
 - (3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況
 - (4) 区の情報得られない理由
 - (5) 区の情報得られない理由の詳細
 - (6) 「お問い合わせコールあだち」の利用状況
-

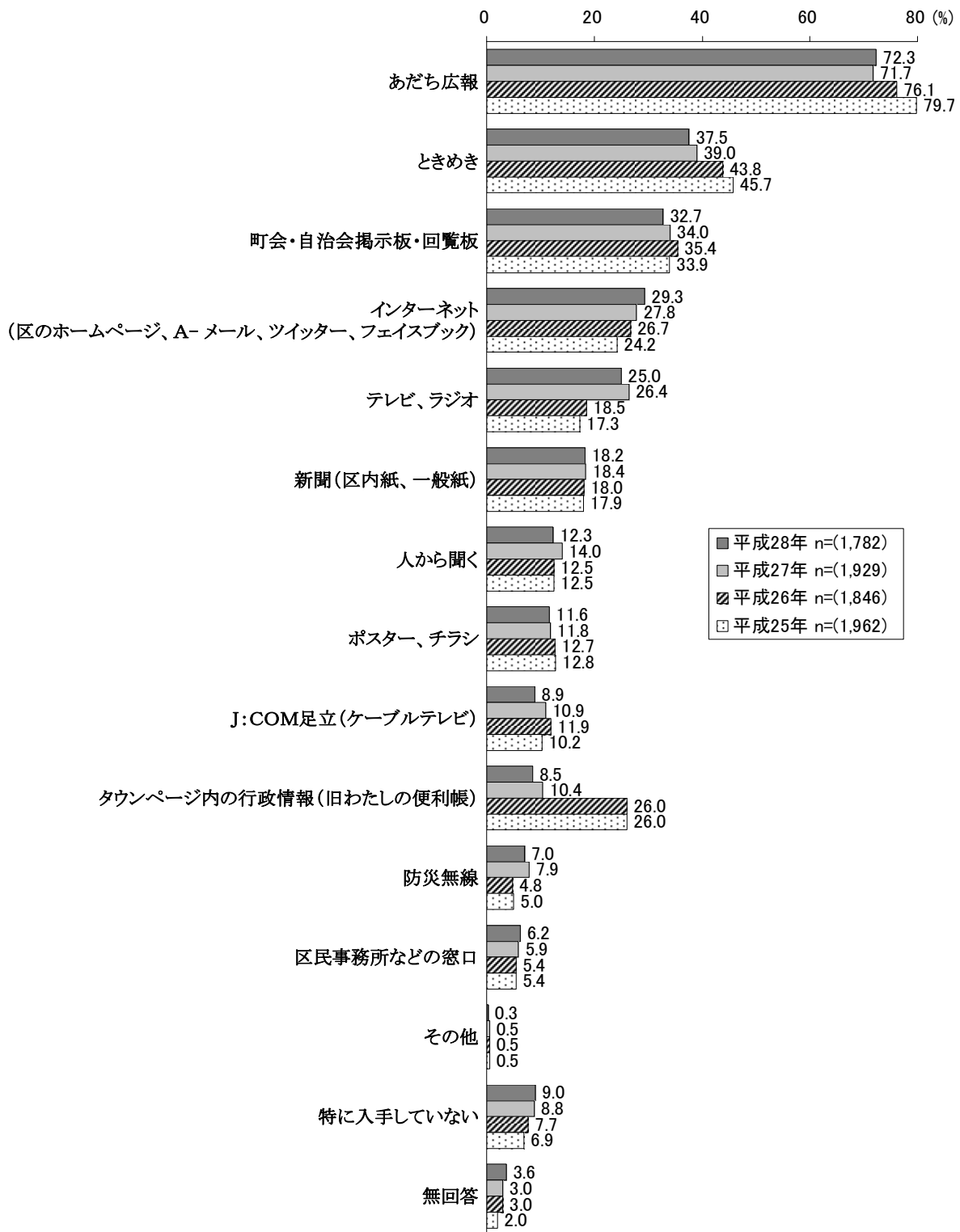
4. 区の情報発信のあり方

(1) 区に関する情報の入手手段

■ 「あだち広報」が7割強、次位の「ときめき」は3割台後半で減少傾向

問12 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか。
(○はあてはまるものすべて)

図4-1-1 経年比較／区に関する情報の入手手段



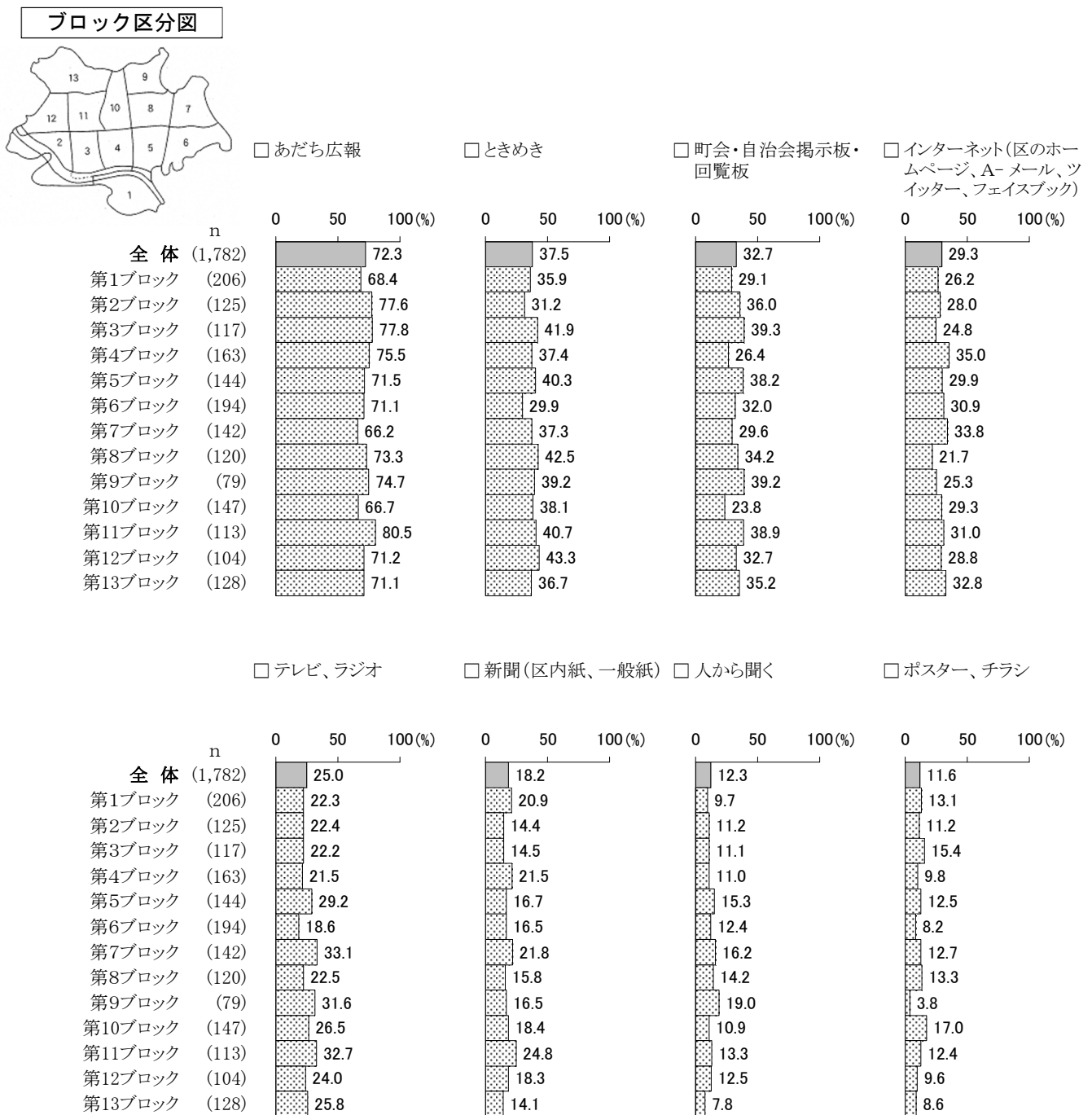
第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

足立区に関する情報の入手媒体としては、「あだち広報」が72.3%で最も高く、以下「ときめき」(37.5%)、「町会・自治会掲示板・回覧板」(32.7%)の順となっている。

経年でみると、「あだち広報」は今回72.3%と、平成27年の71.7%から微増している。

ブロック別でみると、すべてのブロックで「あだち広報」は高くなっている。また、「ときめき」については、第3ブロック、第5ブロック、第8ブロック、第11ブロック、第12ブロックで4割を超えている。「町会・自治会掲示板・回覧板」は、第3ブロック、第5ブロック、第9ブロック、第11ブロックで4割近くを占め、他のブロックよりやや高くなっている。

図4-1-2 地域ブロック別／区に関する情報の入手手段／上位8項目



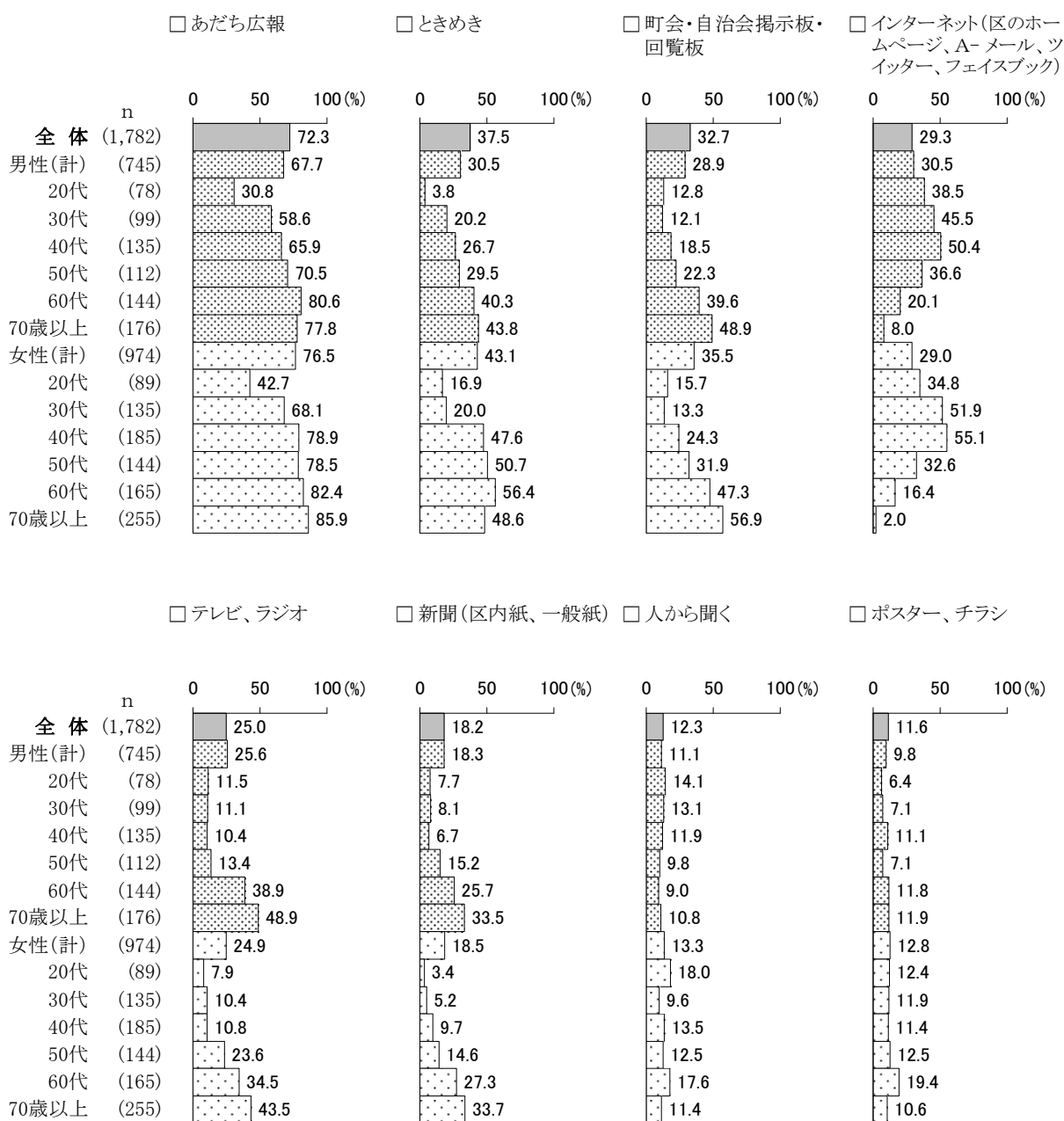
第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

性別でみると、「あだち広報」は男性67.7%、女性76.5%、「ときめき」は男性30.5%、女性43.1%と、いずれも男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、60代、70歳以上で「あだち広報」が、いずれも8割前後を占めている。また、「ときめき」についても、この年代では4割を超えている。

女性の場合、「あだち広報」は加齢とともに増加し、「ときめき」についても60代までは増加傾向を示している。また、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」については、男性の30代、40代で4割以上、女性の30代、40代で5割以上と、他の年代より高くなっている。

図4-1-3 性別、性・年代別／区に関する情報の入手手段／上位8項目

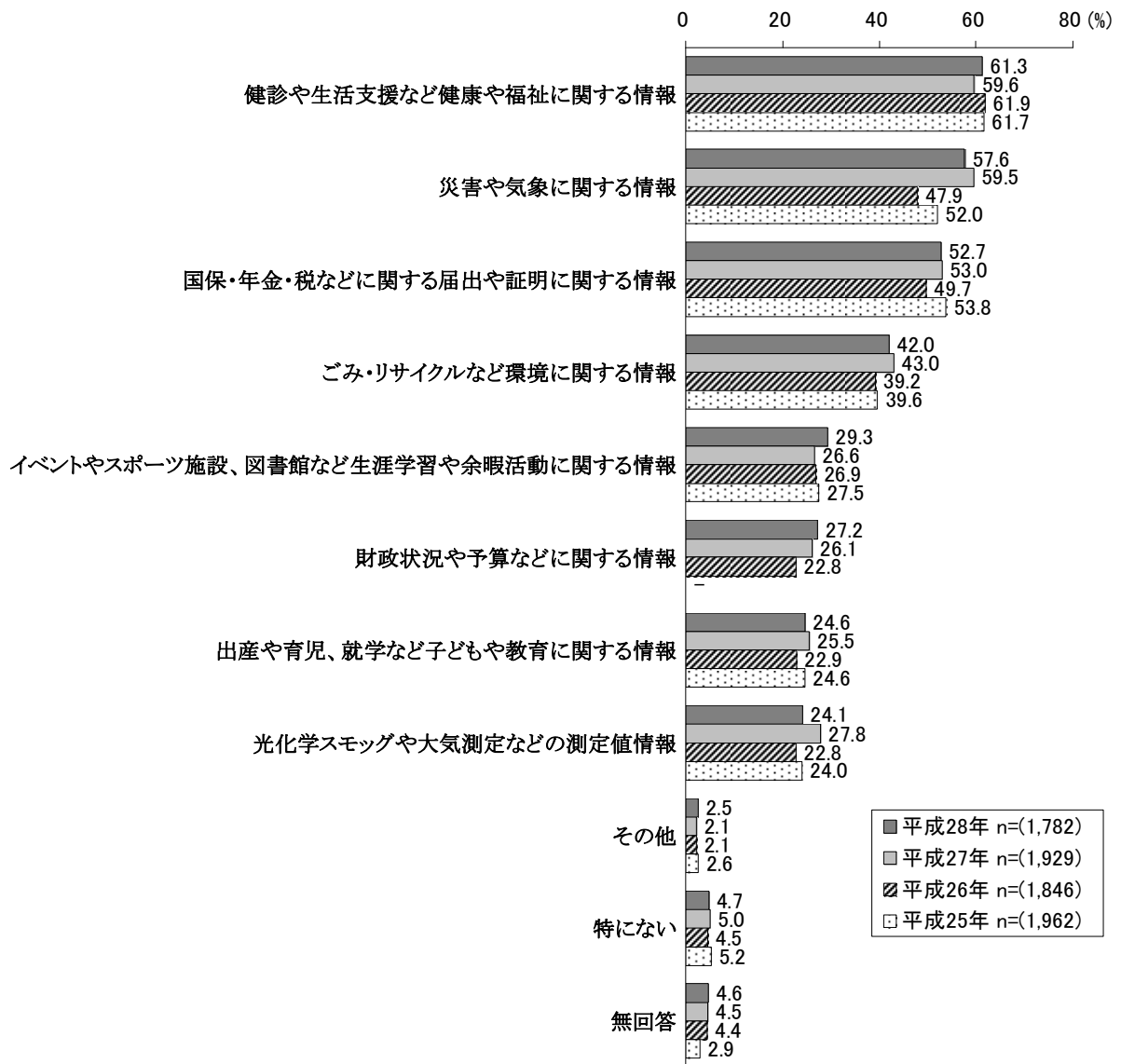


(2) 区が発信する必要がある情報

■ “健康や福祉” が6割を超え、“災害や気象” が次位

問13 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか（〇はあてはまるものすべて）。

図4-2-1 経年比較／区が発信する必要がある情報



※「財政状況や予算などに関する情報」は、26年度新設。

必要とする区の情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が61.3%で最も高く、以下「災害や気象に関する情報」(57.6%)、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(52.7%)の順で続いている。

経年でみると、上位項目について、順位、比率に大きな変動はない。

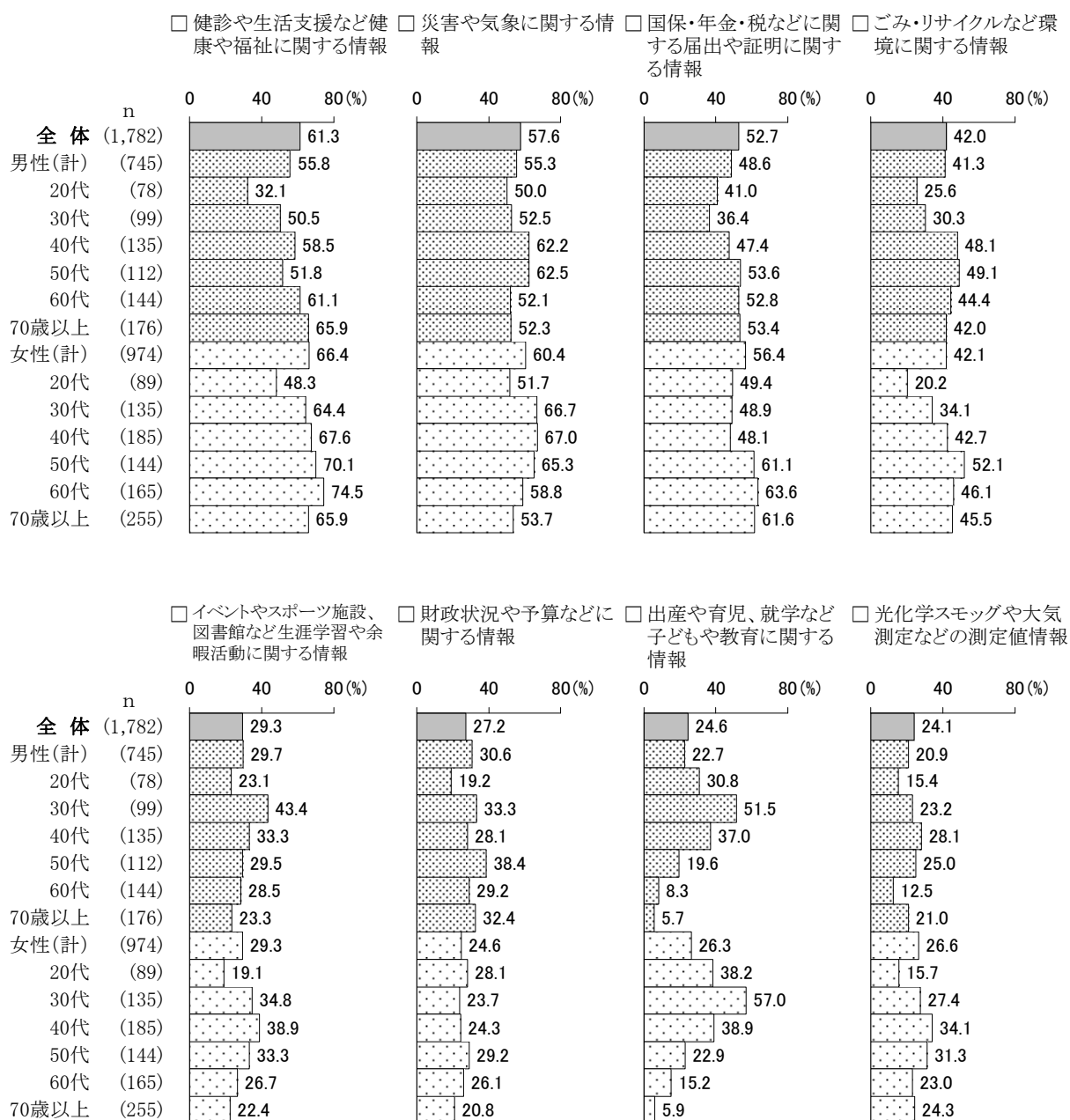
第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

性別でみると、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」は男性55.8%、女性66.4%と、男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が、70歳以上で65.9%と最も高くなっているほか、40代、60代でも6割前後となっている。また、40代、50代では「災害や気象に関する情報」が6割を超えて、他の年代より高くなっている。

女性では「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が、50代、60代で、それぞれ70.1%、74.5%と、他の年代より高くなっている。「災害や気象に関する情報」については、30代から50代で6割を超えている。また、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」については、50代以上で6割を超えている。

図4-2-2 性別、性・年代別／区が発信する必要がある情報

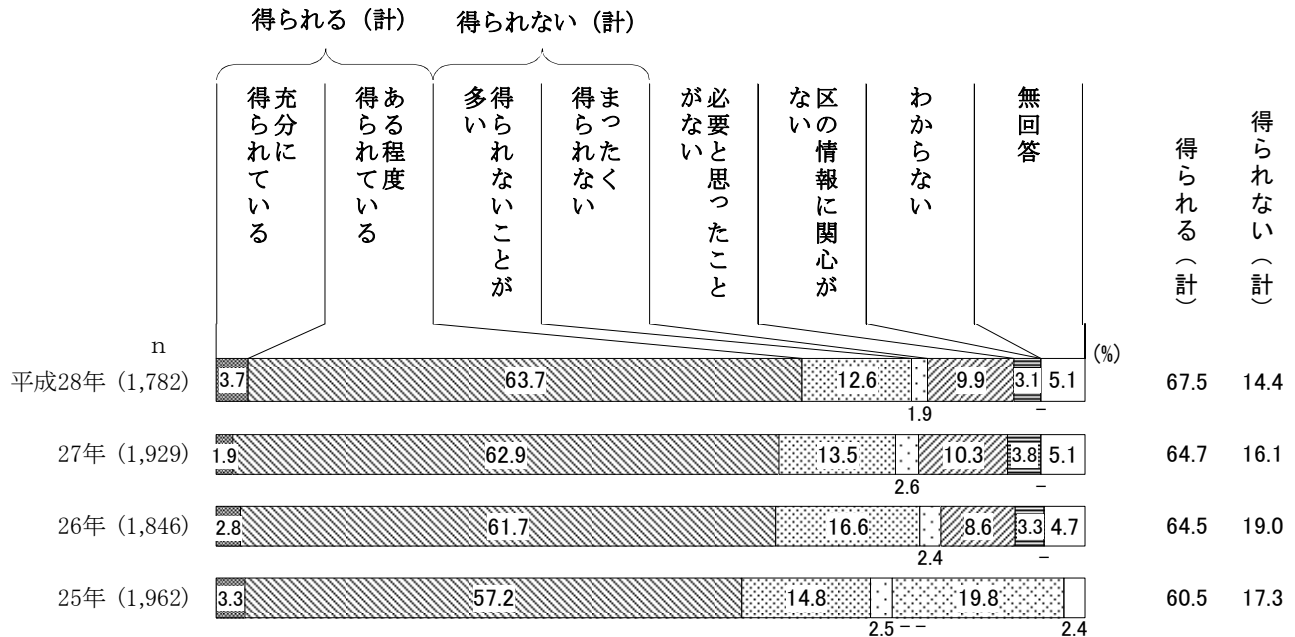


(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況

■ 必要なときに【得られる】が6割台後半で増加傾向

問14 あなたは、必要な時に必要とする区の情報を得られていますか（○は1つだけ）。

図4-3-1 経年比較／必要な時に必要とする区の情報入手状況



※「必要と思ったことがない」「区の情報に関心がない」は、26年度新設。

※「わからない」は、26年度から削除。

必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「充分に得られている」が3.7%で、これに「ある程度得られている」の63.7%を合わせた【得られる】は67.5%となっている。一方、「得られないことが多い」は12.6%、「まったく得られない」は1.9%となっている。

経年でみると、【得られている】は、平成27年の64.7%から今回67.5%へと微増している。

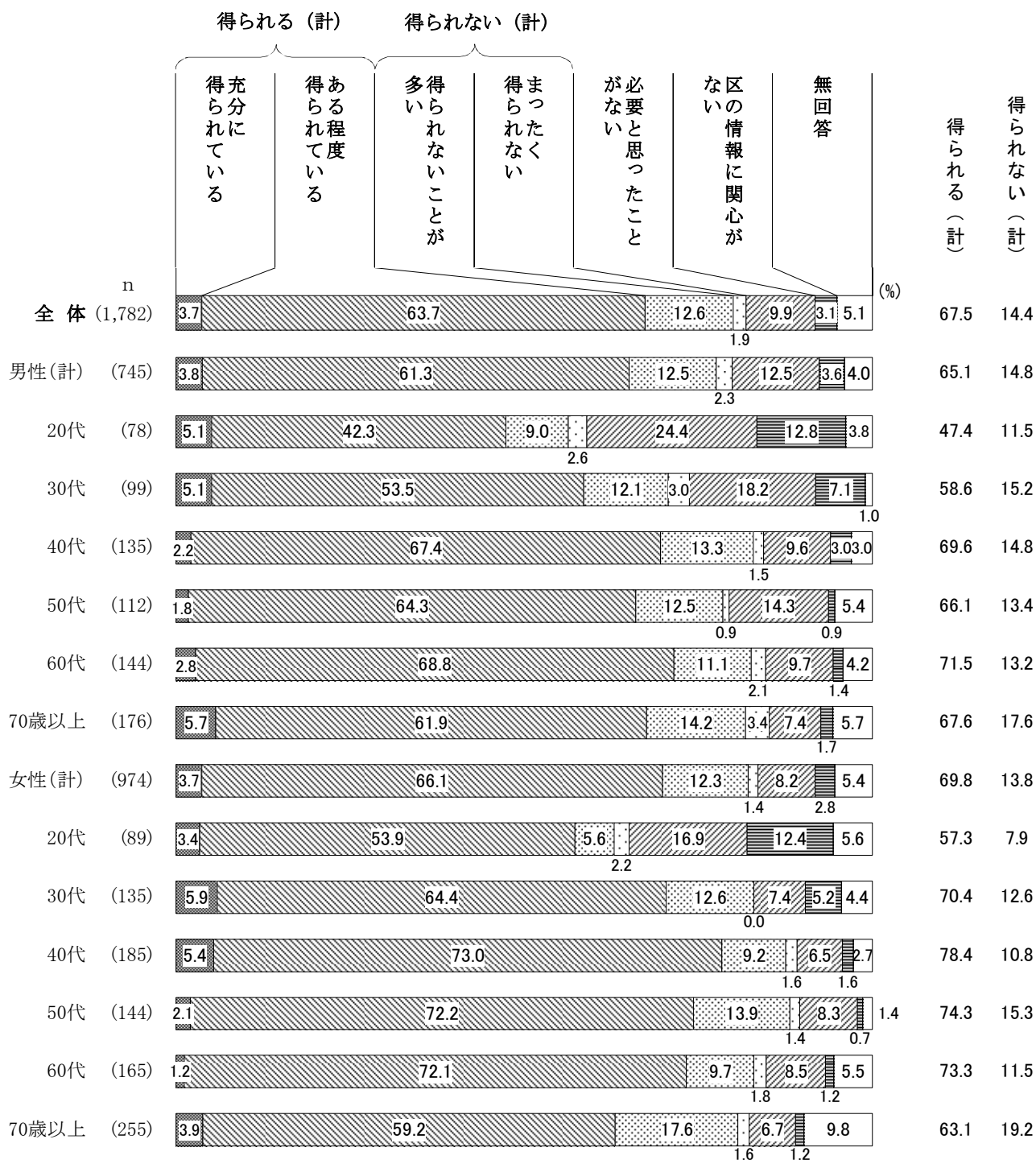
第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

性別でみると、【得られる】は男性65.1%、女性69.8%と、男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、60代で【得られる】が71.5%を占めているほか、40代、50代、70歳以上でも6割を超えている。

女性では、30代から60代にかけて【得られる】が7割を超えている。

図4-3-2 性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報入手状況

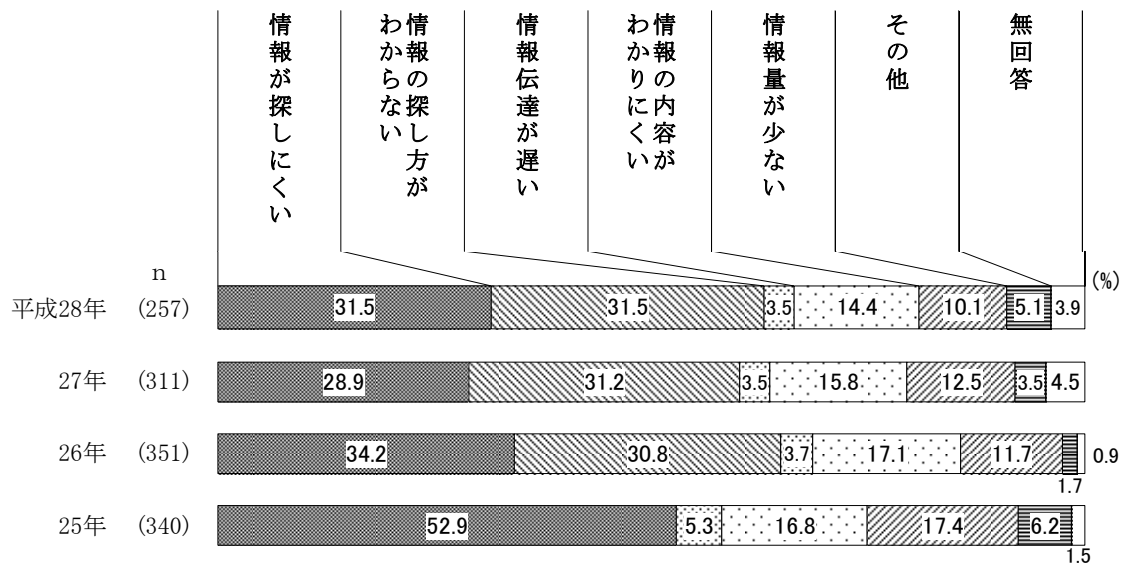


(4) 区の情報 that 得られない理由

■ “探しにくい” “探し方がわからない” で二分

問14で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に
問14－1 どのような理由からですか（○は1つだけ）。

図4－4－1 経年比較／区の情報 that 得られない理由



※「情報の探し方がわからない」は、26年度新設。

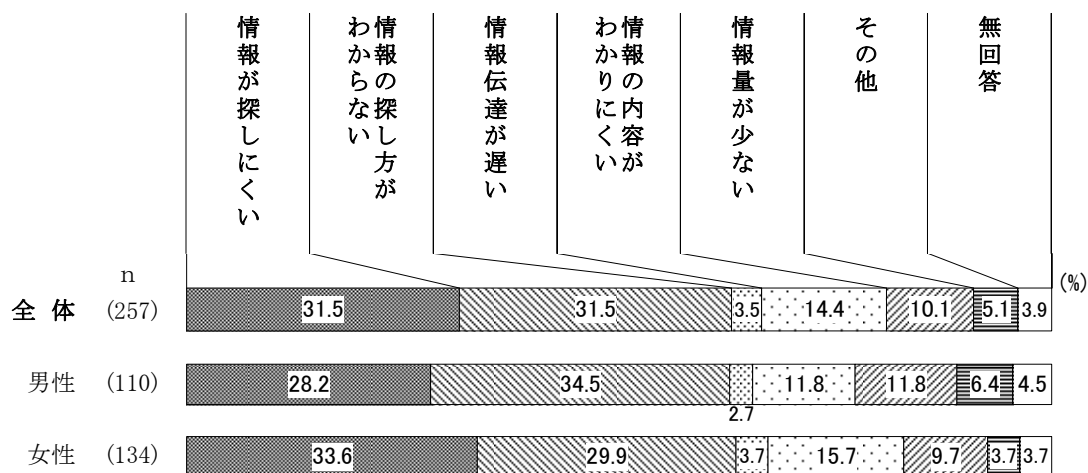
【得られない】という人に、その理由を聞いたところ、「情報の探し方がわからない」（31.5%）と「情報が探しにくい」（31.5%）の2項目が、いずれも3割を超えて、とくに高くなっている。

経年でみると、上位2項目は、ほぼ横ばい状況にある。

第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

性別でみると、「情報が探しにくい」は男性28.2%、女性33.6%と、男性より女性が高くなっている。一方、「情報の探し方がわからない」は男性34.5%、女性29.9%と、女性より男性が高くなっている。

図4-4-2 性別／区の情報 that 得られない理由



(5) 区の情報が得られない理由の詳細

問14で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に
問14-2 問14-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

あだち広報（80名、延べ81件の回答）	件数
読みづらい、わかりづらいから	28
内容が少ない、薄いから	24
関心がないから	16
欲しい情報のタイミングが合わないから	8
その他	5

区ホームページ（75名の回答）	件数
探しにくい、わかりづらいから	26
インターネットネットを使用できる環境がないから	17
見ない、あまり見ないから	16
情報が不足しているから	5
パソコンを使わない、使えないから	4
インターネットネットでは調べないから	4
その他	3

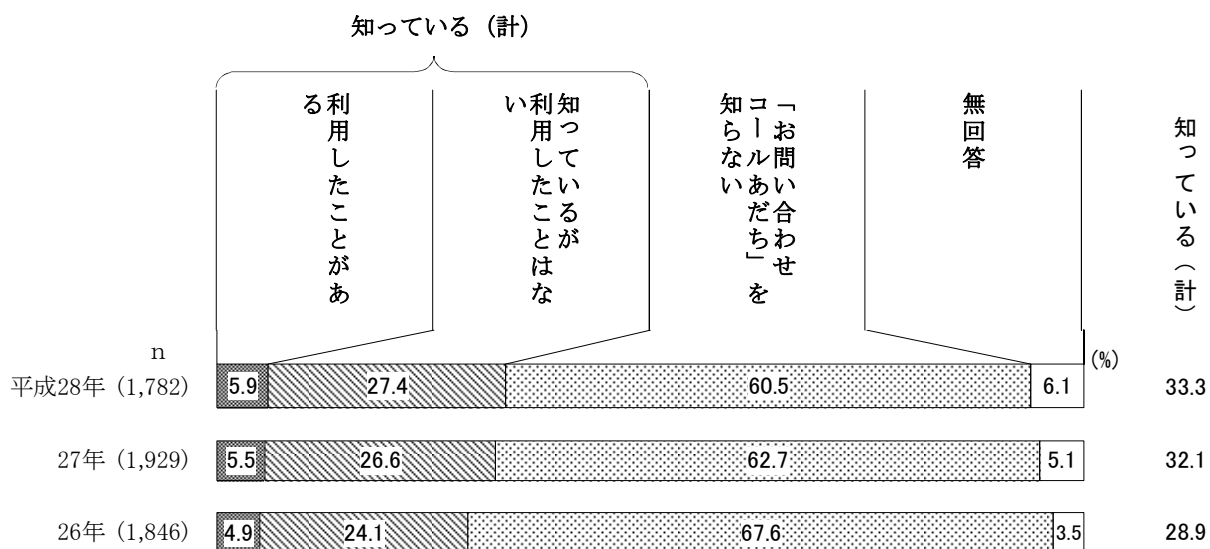
その他（25名の回答）	件数
情報をみつけられない、入手方法がわからないから	12
その他	13

(6) 「お問い合わせコールあだち」の利用状況

■ 【知っている】は微増

問15 あなたは、「お問い合わせコールあだち」を利用したことがありますか（○は1つだけ）。

図4-6-1 経年比較／「お問い合わせコールあだち」の利用状況



「お問い合わせコールあだち」について、「利用したことがある」は5.9%で、これに「知っているが利用したことはない」(27.4%)を合わせた【知っている】は33.3%となっている。一方、「『お問い合わせコールあだち』を知らない」は60.5%を占めている。

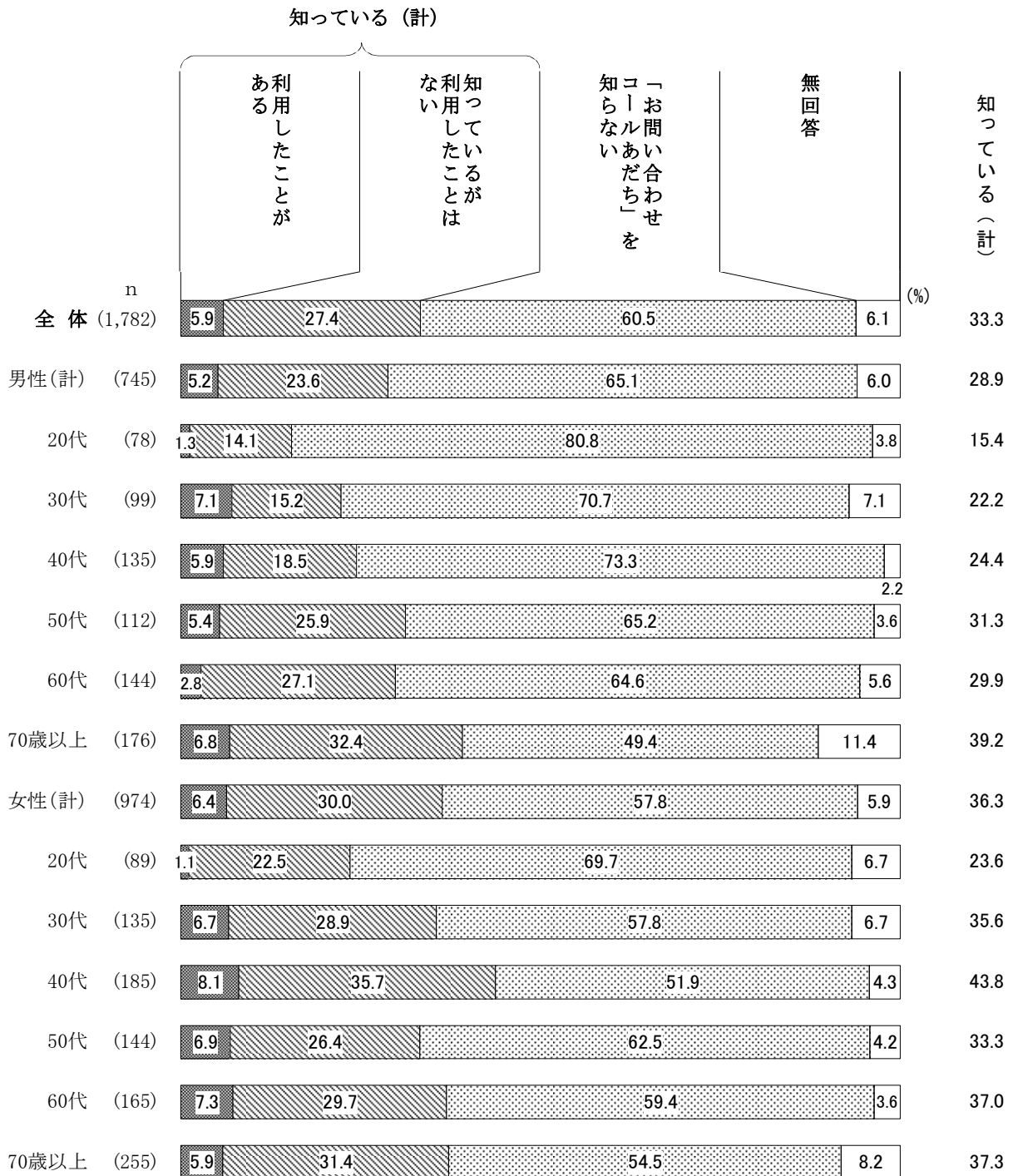
経年でみると、【知っている】は今回33.3%で、平成26年以降、微増傾向を示している。

性別でみると、女性では【知っている】が36.3%と、男性（28.9%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で【知っている】が39.2%と高くなっているほか、50代、60代でも3割前後となっている。

女性では、30代から70歳以上で各年代とも【知っている】が3割を超え、とくに40代では43.8%となっている。

図4-6-2 性別、性・年代別／「お問い合わせコールあだち」の利用状況



5 健康

-
- (1) 区のキャッチフレーズの認知状況
 - (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識
 - (3) 野菜から食べ始めることの実践状況
 - (4) 1日野菜350g以上の摂取
 - (5) 体調や習慣
 - (6) 健康維持のために実行している、心がけているもの
-

5. 健康

(1) 区のキャッチフレーズの認知状況

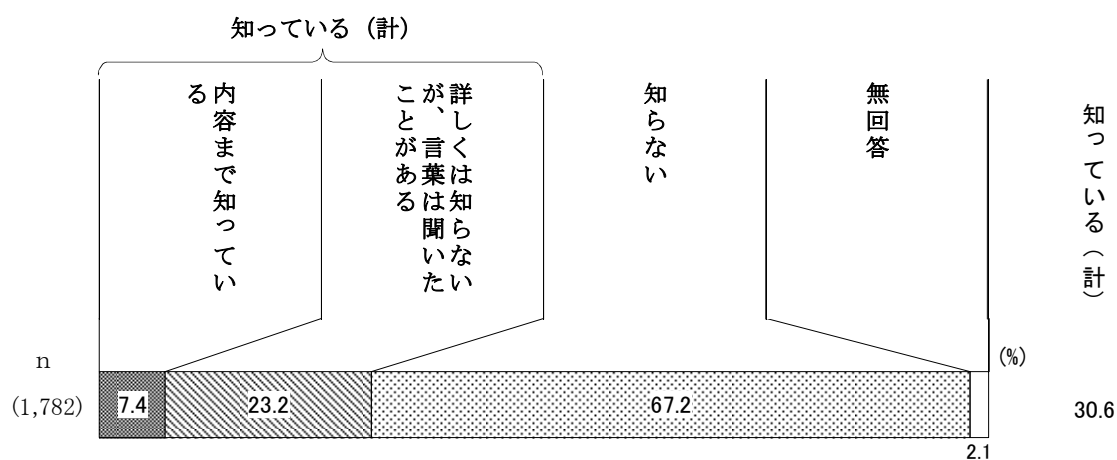
■ 【知っている】は約3割

問16 あなたは、「あだちベジタライフ～そうだ、野菜を食べよう～」を知っていますか。

(○は1つだけ)

※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

図5-1-1 区のキャッチフレーズの認知状況



『あだちベジタライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」は7.4%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(23.2%)を合わせた【知っている】は30.6%を占めている。一方、「知らない」は67.2%となっている。

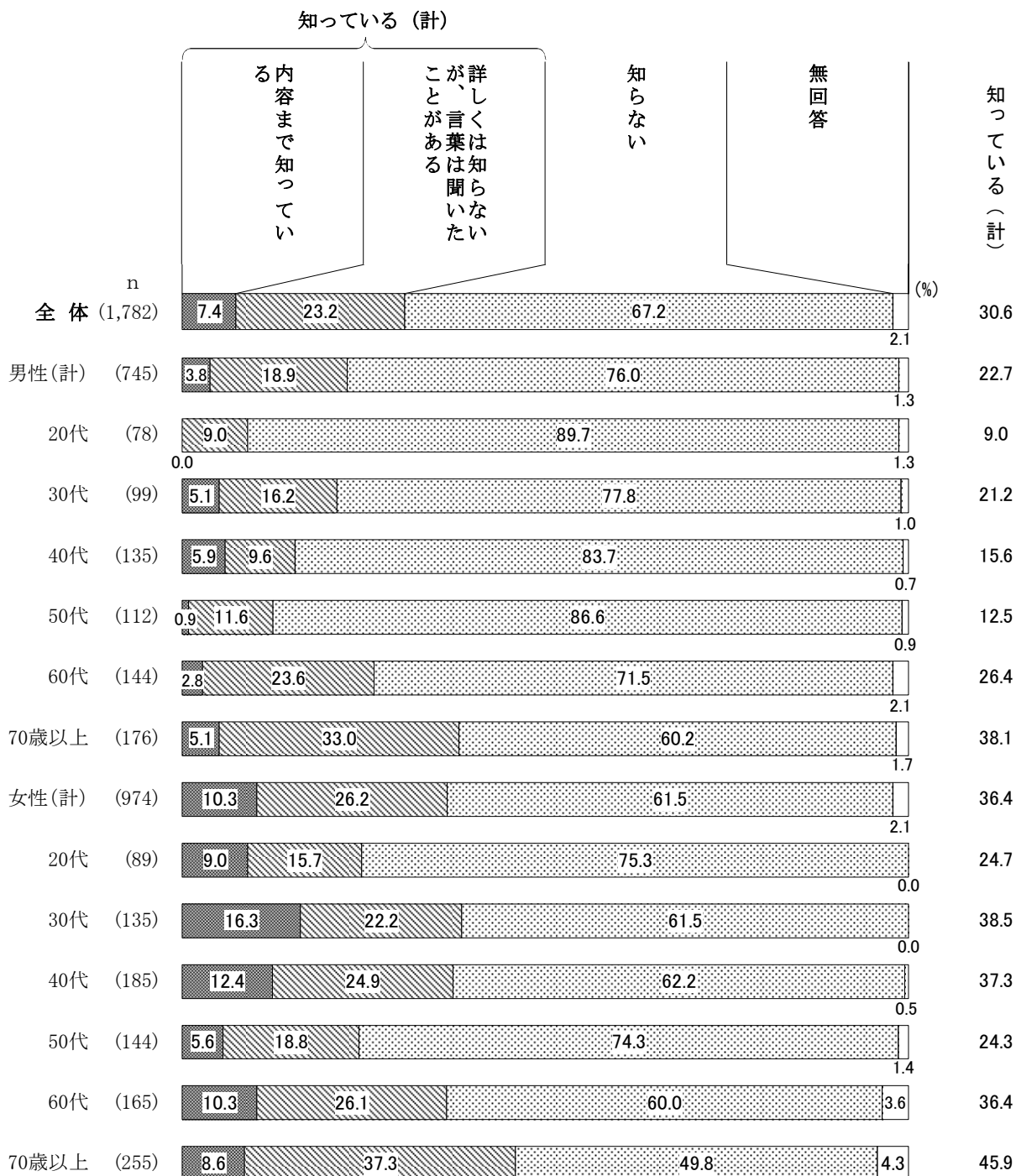
第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別でみると、女性では【知っている】が36.4%と、男性（22.7%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で【知っている】が38.1%と4割近くを占めているほか、30代、60代でも2割を超えている。

女性では、70歳以上で【知っている】が45.9%と高くなっているほか、30代、40代、60代で3割台半ばを超えている。

図5-1-2 性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況

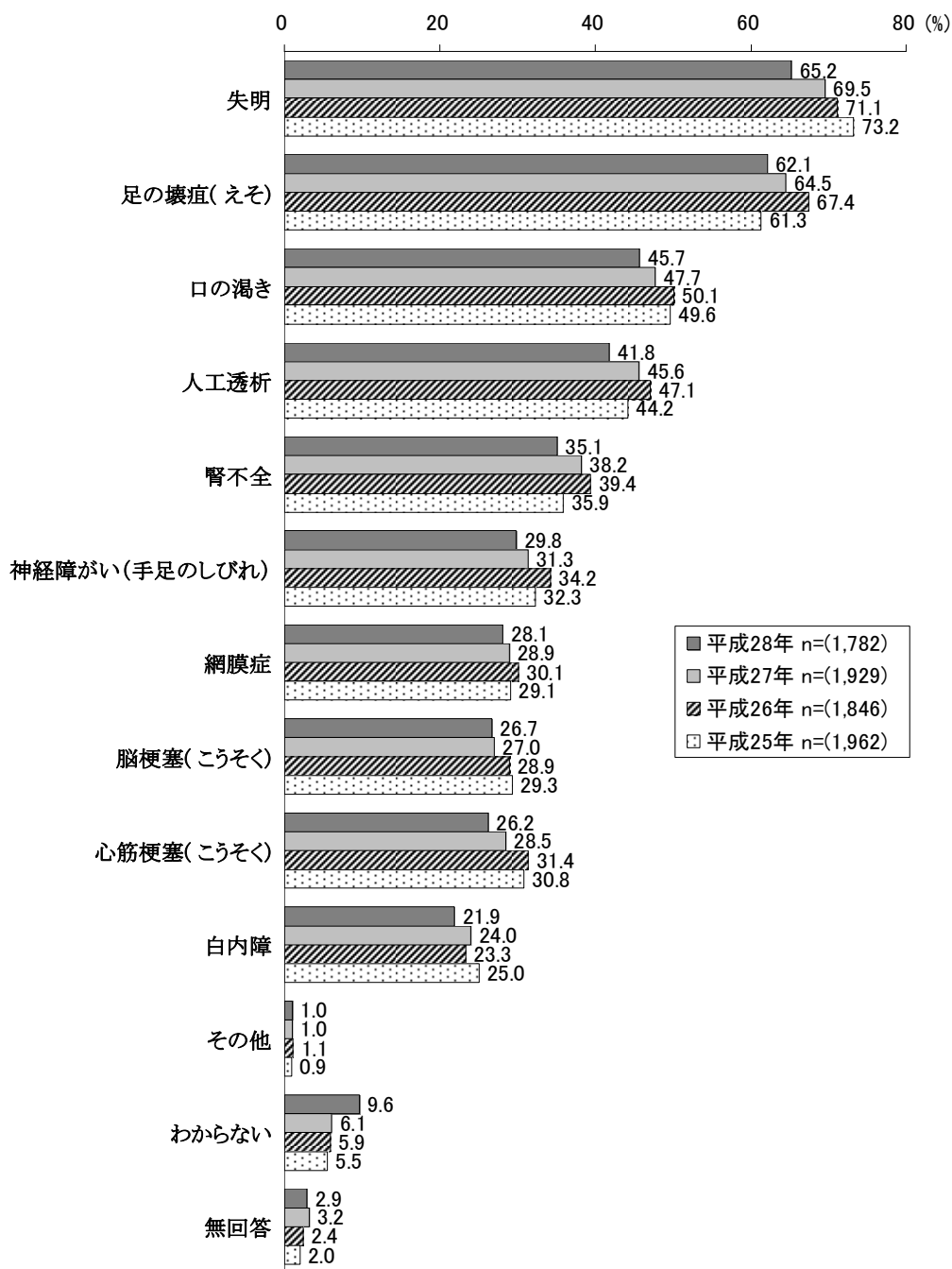


(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

■ 「失明」が6割台半ばも減少傾向

問17 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか（〇はあてはまるものすべて）。

図5-2-1 経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識



糖尿病が進行すると現れると思う病気や障がいとしては、「失明」が65.2%で最も高く、以下「足の壊疽」(62.1%)、「口の渇き」(45.7%)、「人工透析」(41.8%)の順となっている。

経年でみると、数値は微減しているものの、上位項目に大きな変動はみられない。

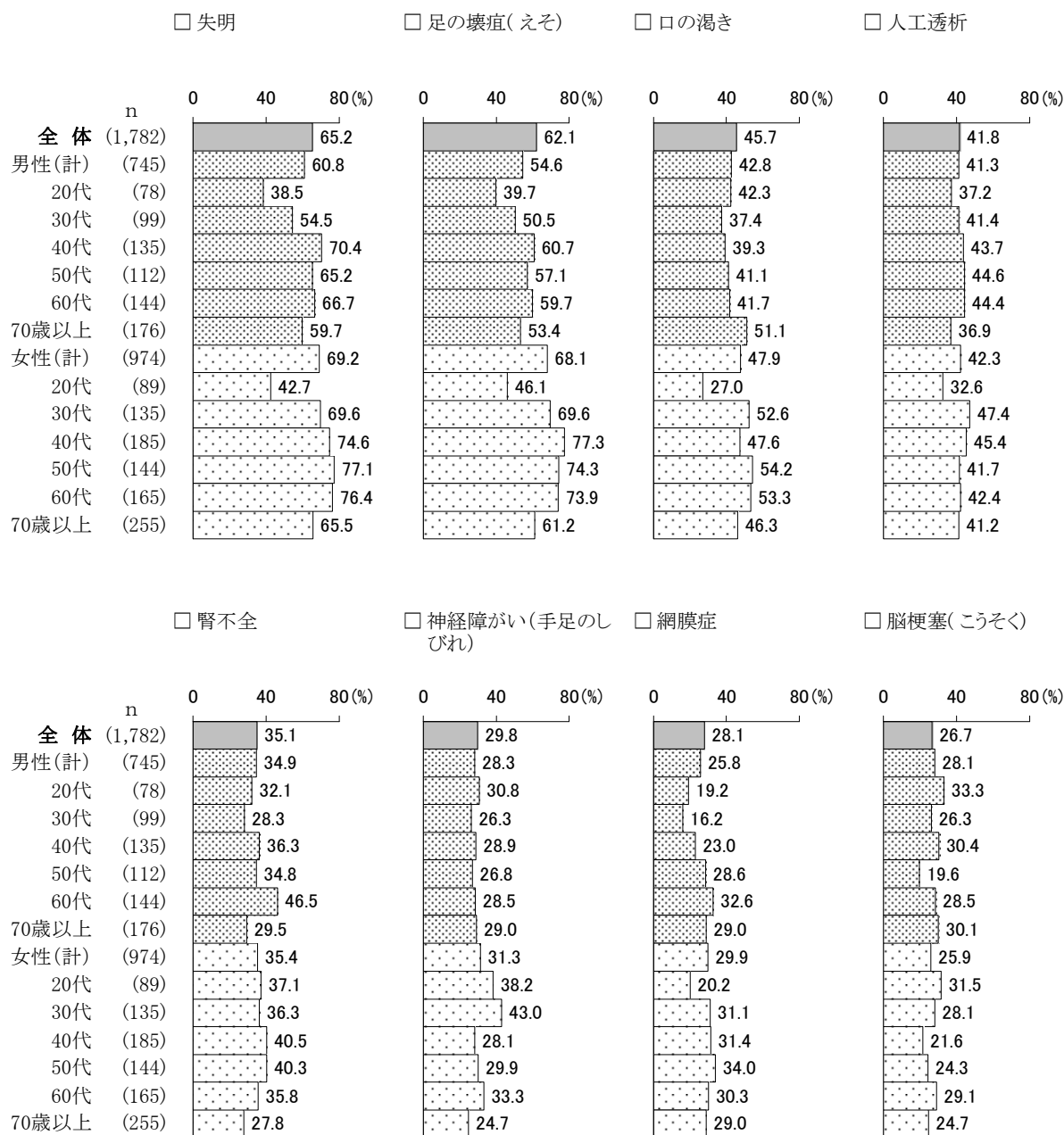
第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別でみると、女性では「失明」が69.2%と、男性（60.8%）を上回っているほか、「足の壊疽」も68.1%と、男性（54.6%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では「失明」が40代から60代で6割を超えている。また、「足の壊疽」については、40代から60代で6割前後を占めている。

女性では、40代から60代で各年代とも「失明」が7割を超えている。また、「足の壊疽」についても、この年代では7割を超えている。

図5-2-2 性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識／上位8項目



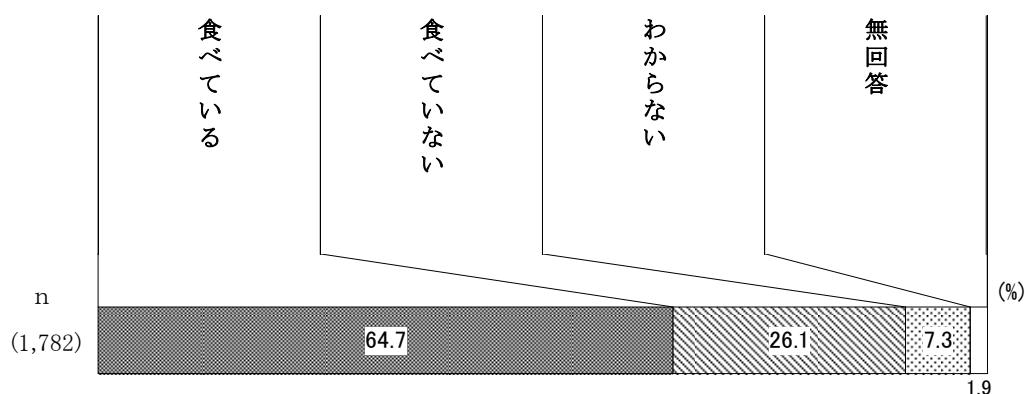
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況

■ 「食べている」が6割台半ば

問18 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べることが効果的です。

図5-3-1 野菜から食べ始めることの実践状況



食事の際に野菜から食べ始めることは、糖尿病予防に効果がありますが、野菜から「食べている」は64.7%を占めている。一方、「食べていない」は26.1%となっている。

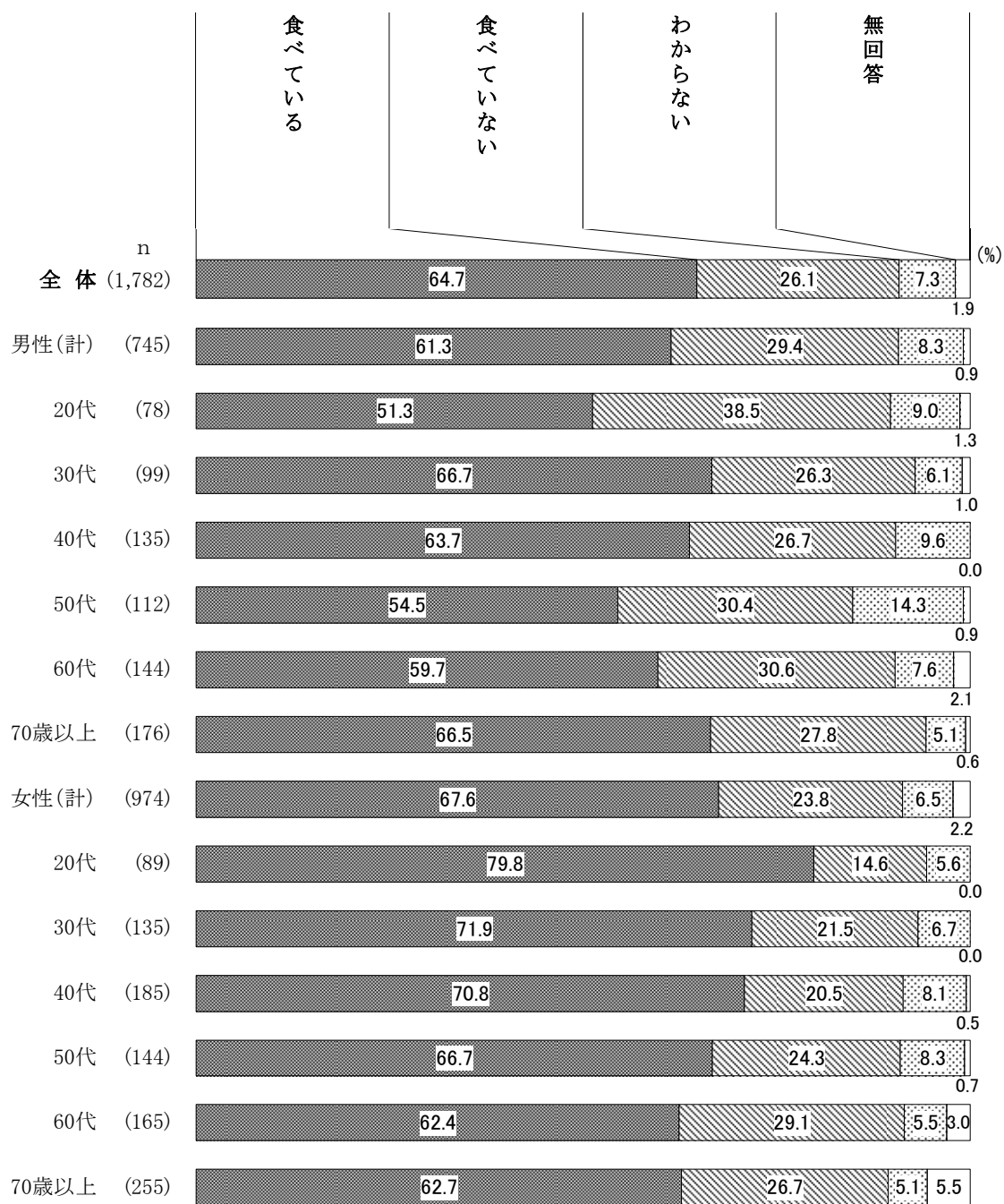
第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別でみると、女性では「食べている」が67.6%と、男性（61.3%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、30代、40代、70歳以上で「食べている」が6割を超えて、他の年代より高くなっている。

女性では、20代で「食べている」が79.8%を占めているほか、30代、40代でも7割を超えている。

図5－3－2 性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況



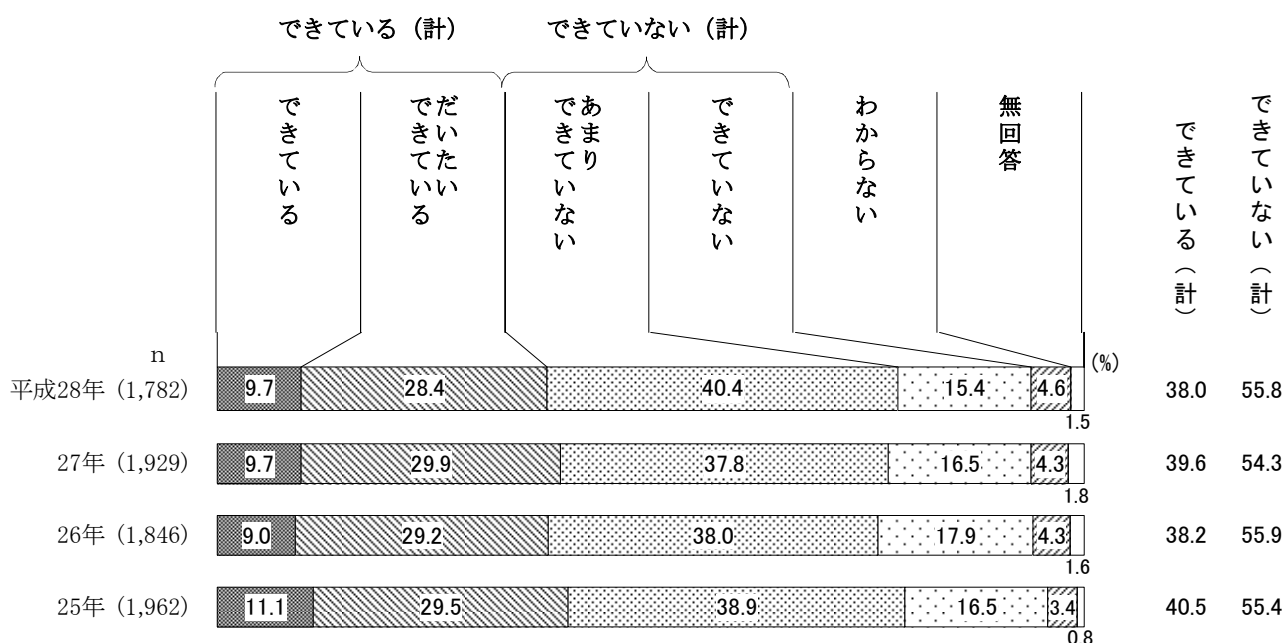
(4) 1日野菜350g以上の摂取

■ 【できていない】人が半数を超えるも、【できている】という人も4割弱

問19 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

図5-4-1 経年比較／1日野菜350g以上の摂取



毎日350g以上の野菜を摂取しているかについては、「できている」が9.7%で、これに「だいたいできている」の28.4%を合わせた【できている】は38.0%となっている。一方、「あまりできていない」(40.4%)と、「できていない」(15.4%)を合わせた【できていない】は55.8%となっている。

経年でみると、【できている】【できていない】とも、平成26年以降、ほぼ横ばいとなっている。

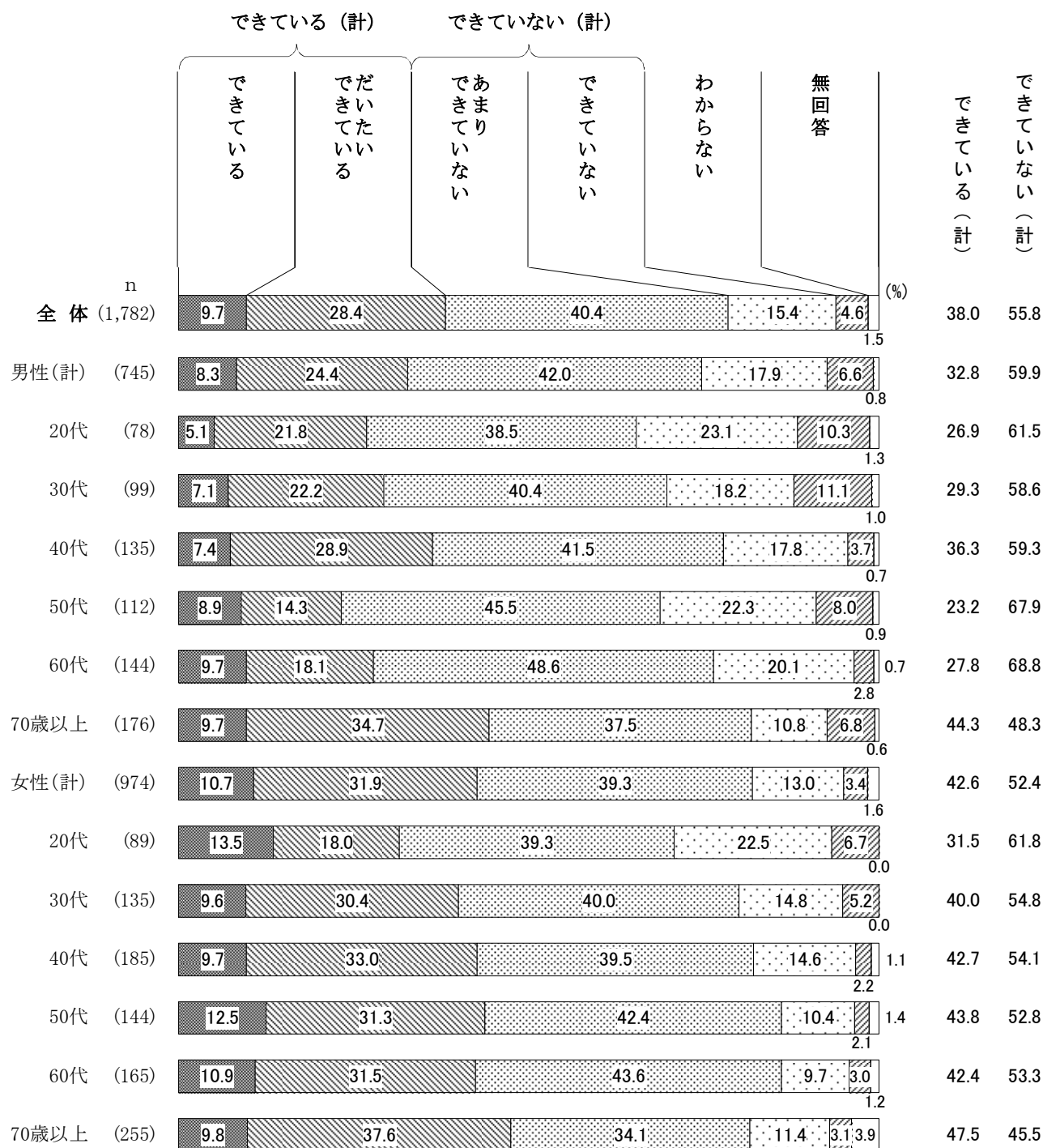
第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別でみると、【できている】は女性が42.6%と、男性（32.8%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上では【できている】が44.3%と高くなっているほか、40代でも36.3%を占めている。

女性では、20代を除く年代では【できている】が4割を超えている。

図5－4－2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取

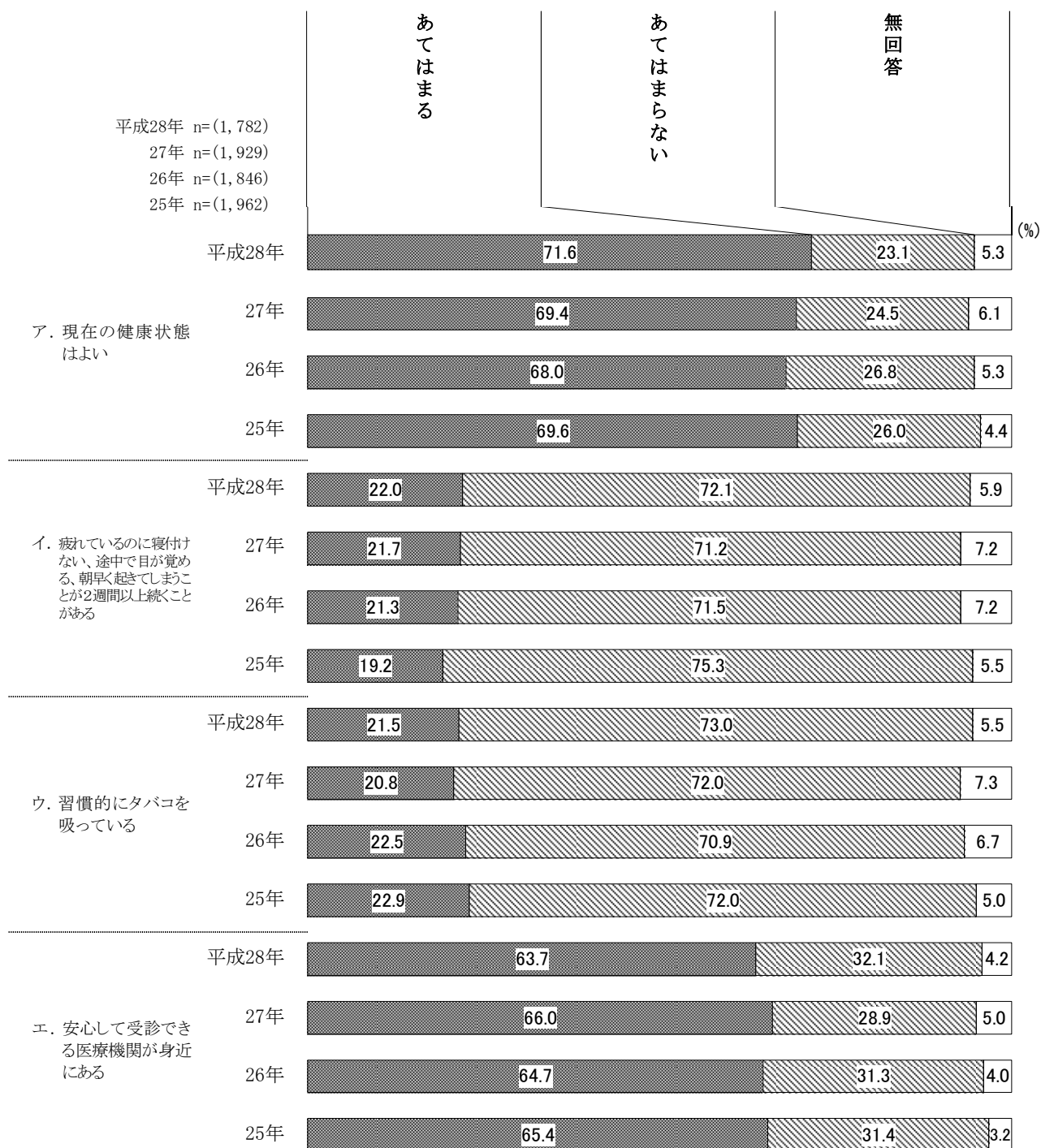


(5) 体調や習慣

■ 〈現在の健康状態はよい〉という人は7割強

問20 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください（○はそれぞれ1つつ）。

図5-5-1 経年比較／体調や習慣



第3章 調査結果の分析 〈健康〉

体調や習慣について、「あてはまる」の高い順にみると、〈現在の健康状態はよい〉（71.6%）と〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉（63.7%）が、いずれも6割を超えている。一方、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉〈習慣的にタバコを吸っている〉は、「あてはまる」が、それぞれ22.0%、21.5%と、2割前後となっている。

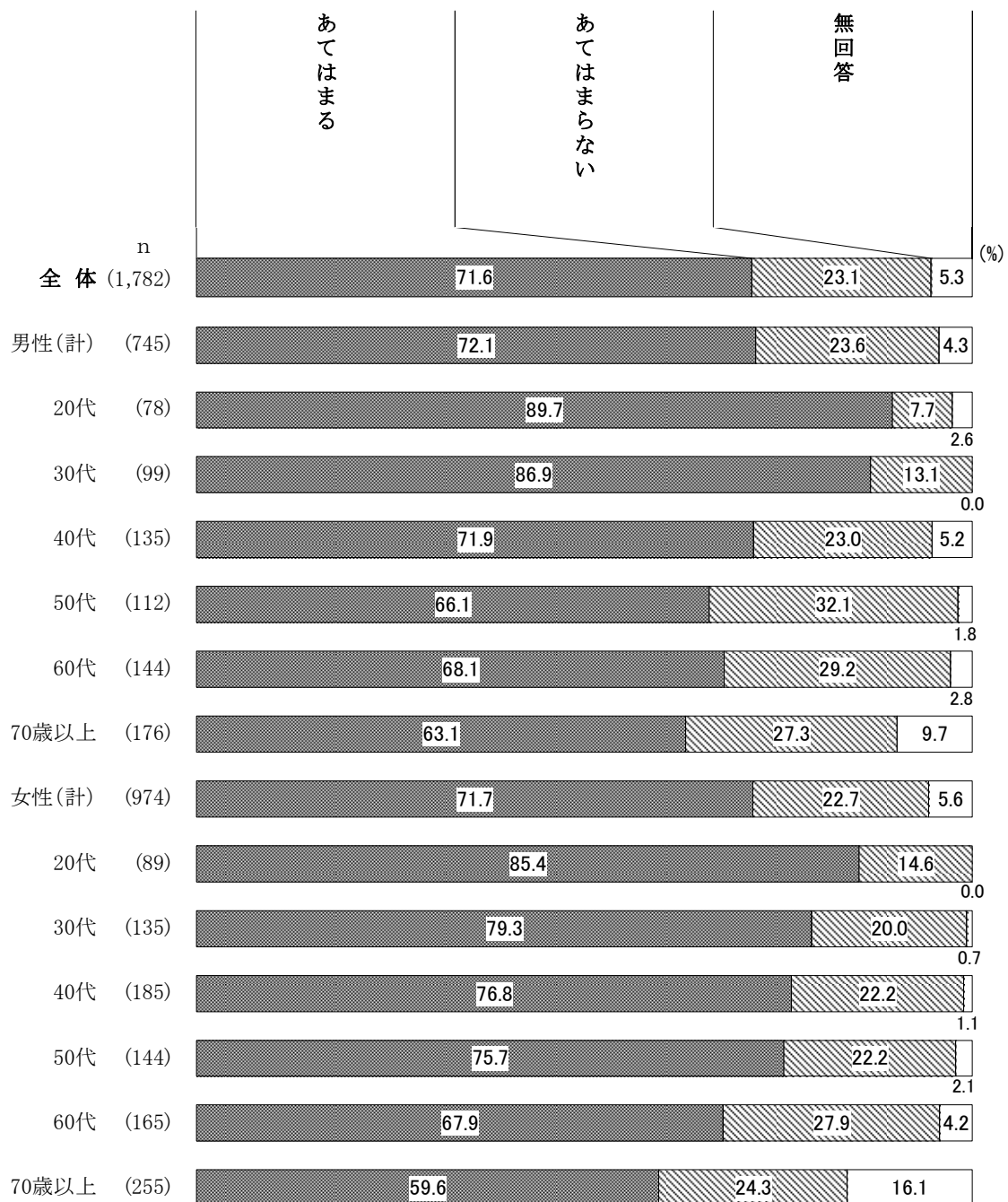
経年でみると、各項目とも、大きな変化はみられない。

〈現在の健康状態はよい〉については、性別でみると、「あてはまる」は男性72.1%、女性71.7%となっている。

性・年代別でみると、男性の20代では「あてはまる」が89.7%であるが、加齢とともに減少し、70歳以上では63.1%となっている。

女性の20代では「あてはまる」が85.4%を占めているが、加齢とともに低下し、70歳以上では59.6%となっている。

図5-5-2-① 性別、性・年代別／体調や習慣／現在の健康状態はよい



第3章 調査結果の分析 〈健康〉

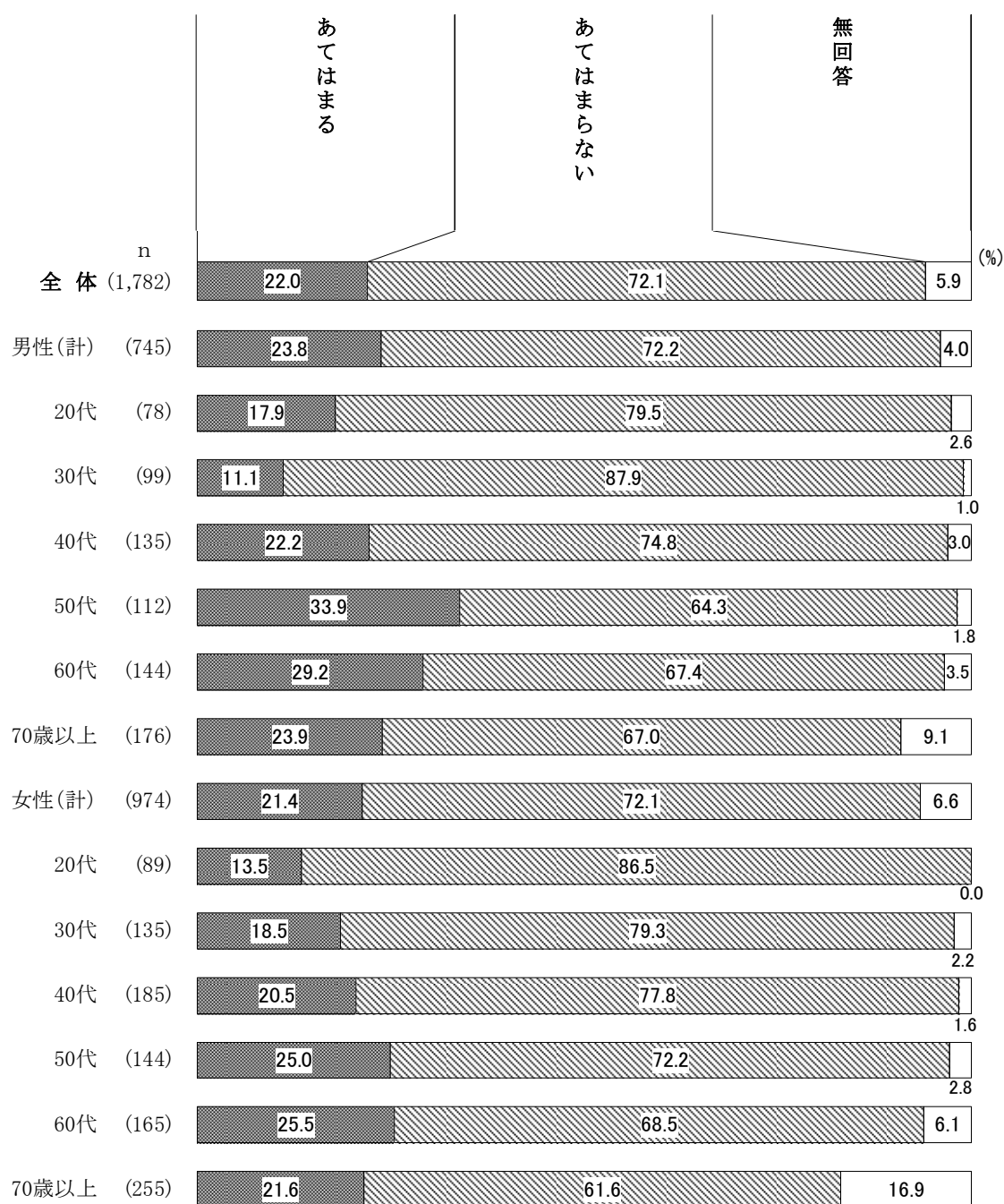
〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉について、性別でみると、「あてはまる」は男性23.8%、女性21.4%となっている。

性・年代別でみると、男性では、50代で「あてはまる」が33.9%と、他の年代より高くなっている。

女性では、20代、30代除くと、各年代とも「あてはまる」が2割を超えている。

図5-5-2-② 性別、性・年代別／体調や習慣

／疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある

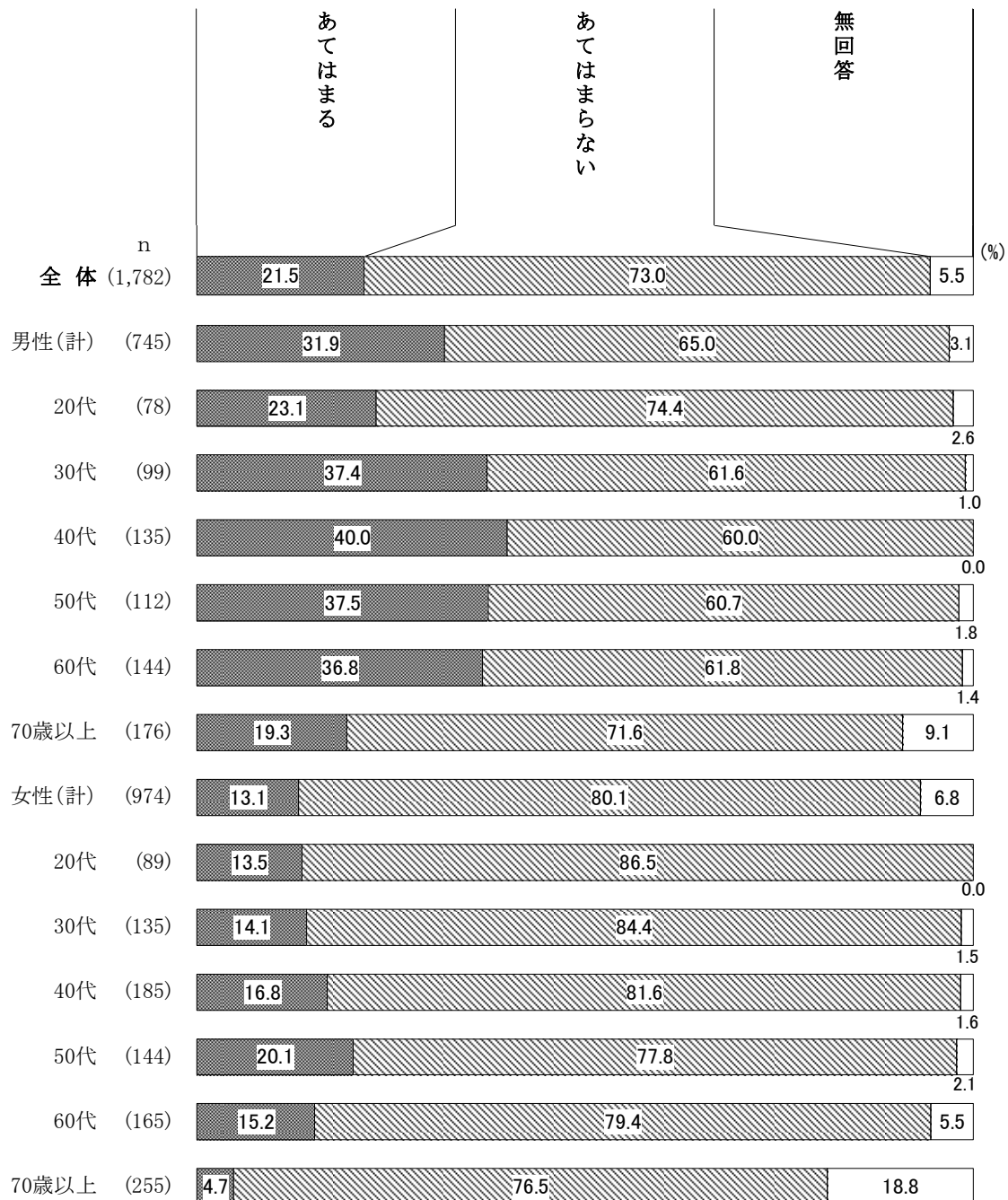


〈習慣的にタバコを吸っている〉について、性別でみると、「あてはまる」は男性31.9%、女性13.1%と、男性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、30代から60代にかけて「あてはまる」が3割台半ばを超えている。

女性では、20代から60代で「あてはまる」が1割を超えている。

図5-5-2-③ 性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている



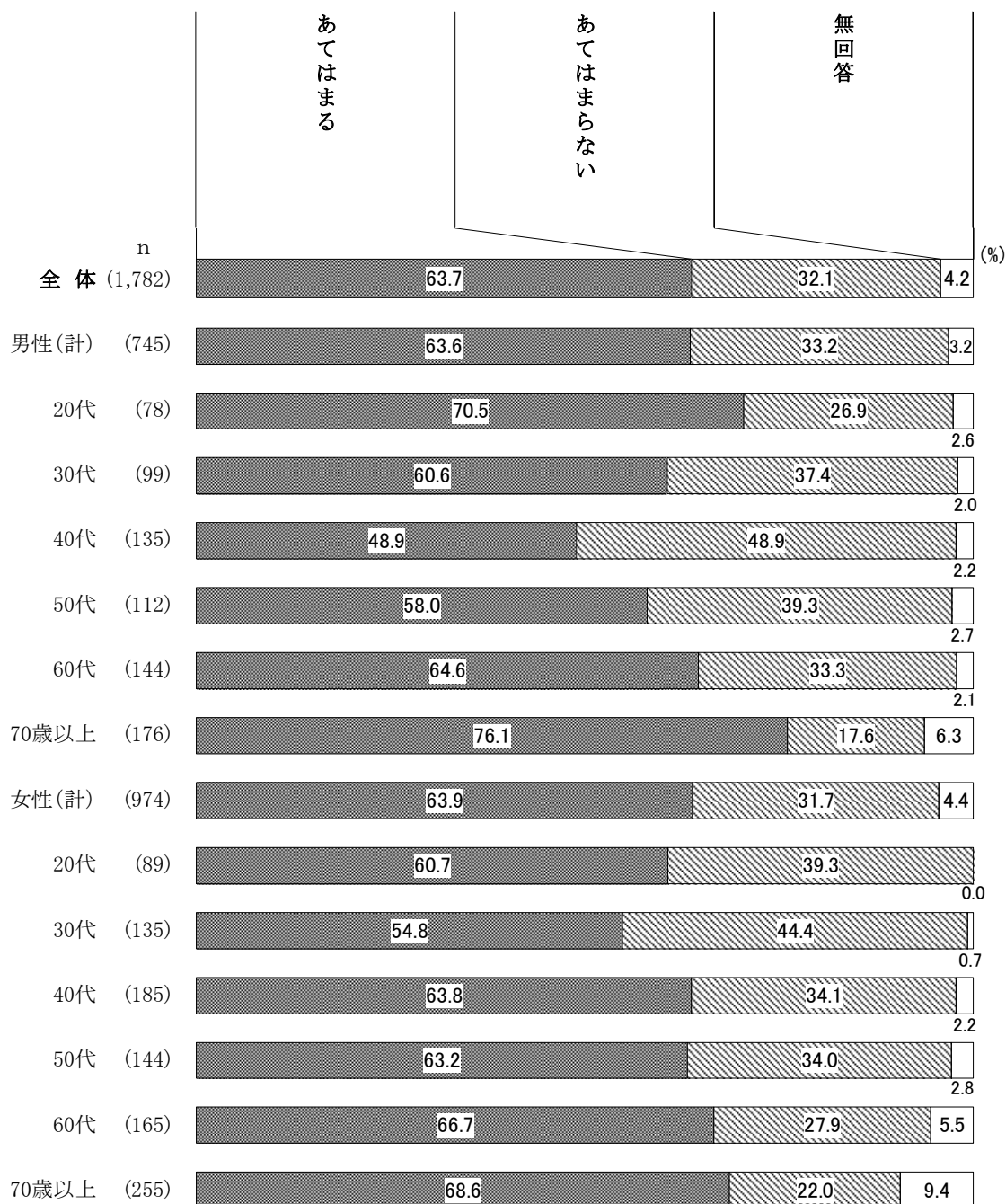
第3章 調査結果の分析 〈健康〉

〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉について、性別でみると、「あてはまる」は男性63.6%、女性63.9%となっている。

性・年代別でみると、男性では、「あてはまる」は、20代、70歳以上ではそれぞれ70.5%、76.1%と、7割を超えている

女性では、30代を除く各年代で「あてはまる」が6割を超えている。

図5-5-2-④ 性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある

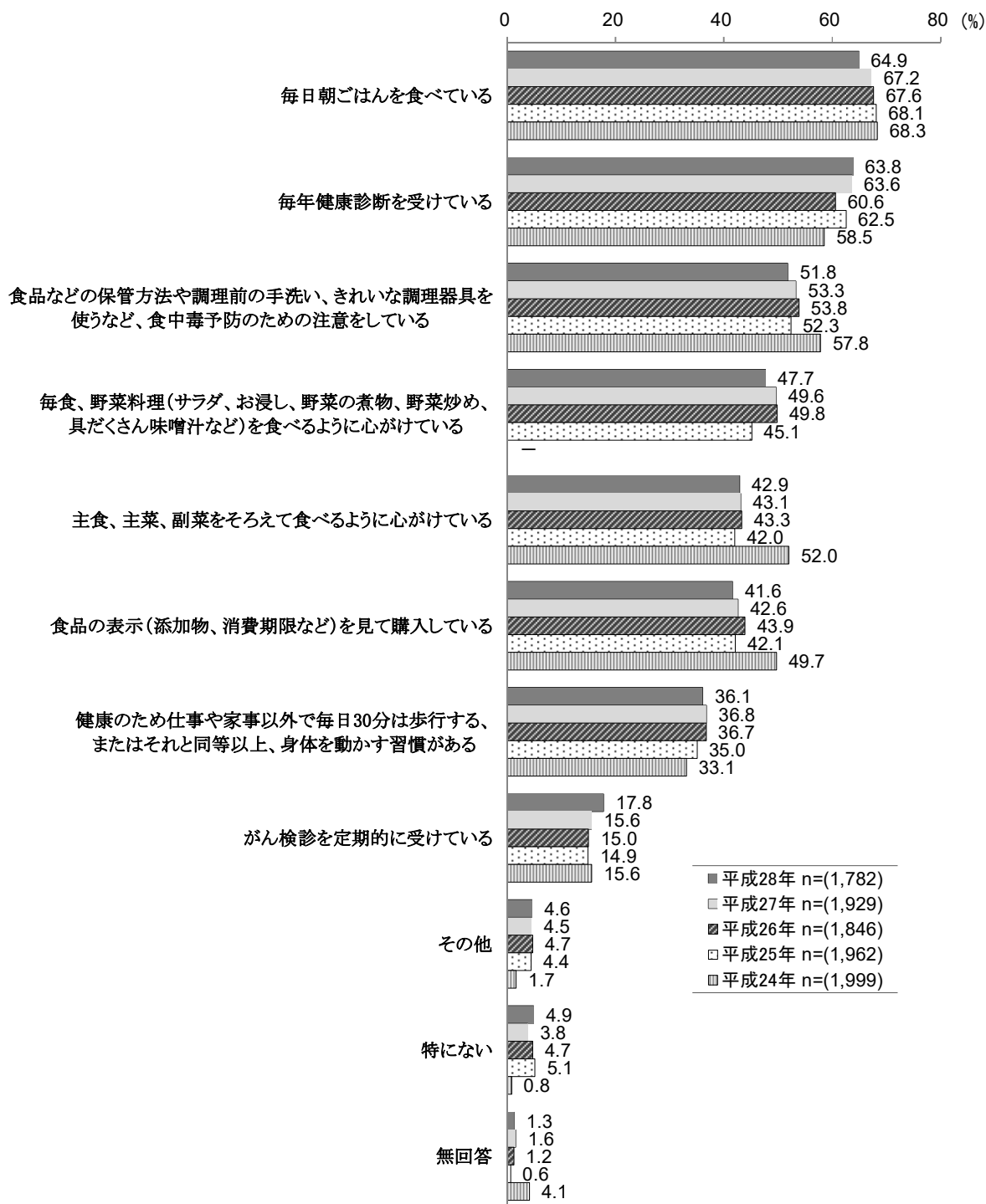


(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの

■ 「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」が6割台

問21 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください（〇はあてはまるものすべて）。

図5-6-1 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの



※「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」は、25年度新設。

※「健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある」は、25年度では「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」。

第3章 調査結果の分析〈健康〉

健康維持のために心がけていることとしては、「毎日朝ごはんを食べている」が64.9%で最も高く、以下「毎年健康診断を受けている」(63.8%)、「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」(51.8%)の順となっている。

経年でみると、上位項目について、順位、数値に大きな変動はみられない。

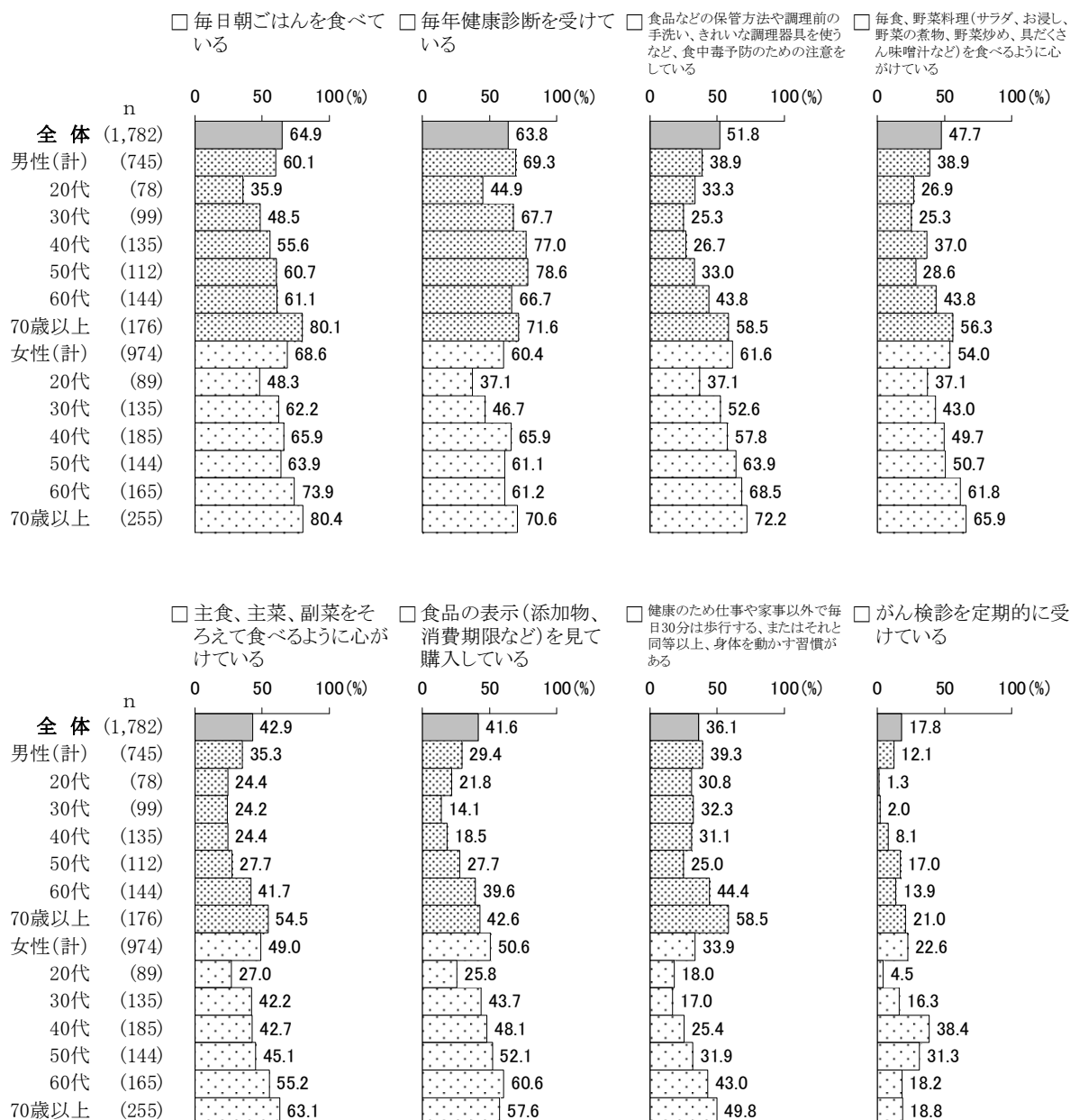
性別でみると、「毎日朝ごはんを食べている」は男性60.1%、女性68.6%、「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は男性38.9%、女性61.6%、「毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など）を食べるよう心がけている」は男性38.9%、女性54.0%等の項目では、いずれも男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「毎日朝ごはんを食べている」は加齢とともに増加する傾向があり、70歳以上では80.1%となっている。

「毎年健康診断を受けている」については、40代、50代、70歳以上で7割を超え、他の年代より高くなっている。

女性では、「毎日朝ごはんを食べている」「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は加齢とともに増加する傾向がある。「毎年健康診断を受けている」は、70歳以上で70.6%と高くなっている。

図5-6-2 性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの



6 スポーツ

-
- (1) 日常的な運動・スポーツの実施状況
 - (2) 継続的に実施している運動・スポーツ
 - (3) 障がい者スポーツへの意識・行動
 - (4) スポーツボランティア活動への意識・行動
 - (5) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の実践に関心があること
 - (6) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識
-

6. スポーツ

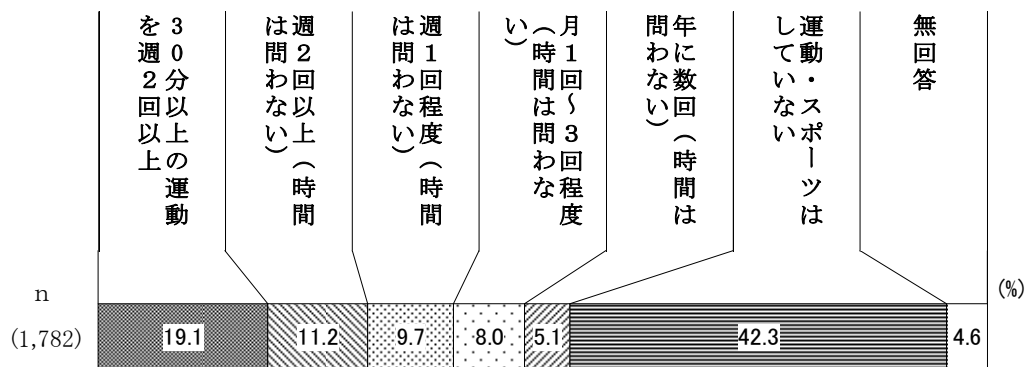
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況

■ 「運動・スポーツはしていない」という方が4割を超える

問22 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

図6-1-1 日常的な運動・スポーツの実施状況



日常的に行っている運動・スポーツについては、「30分以上の運動を週に2回以上」が19.1%で最も高く、以下「週2回以上（時間は問わない）」（11.2%）、「週1回程度（時間は問わない）」（9.7%）の順が続いている。一方、「運動・スポーツはしていない」は42.3%を占めている。

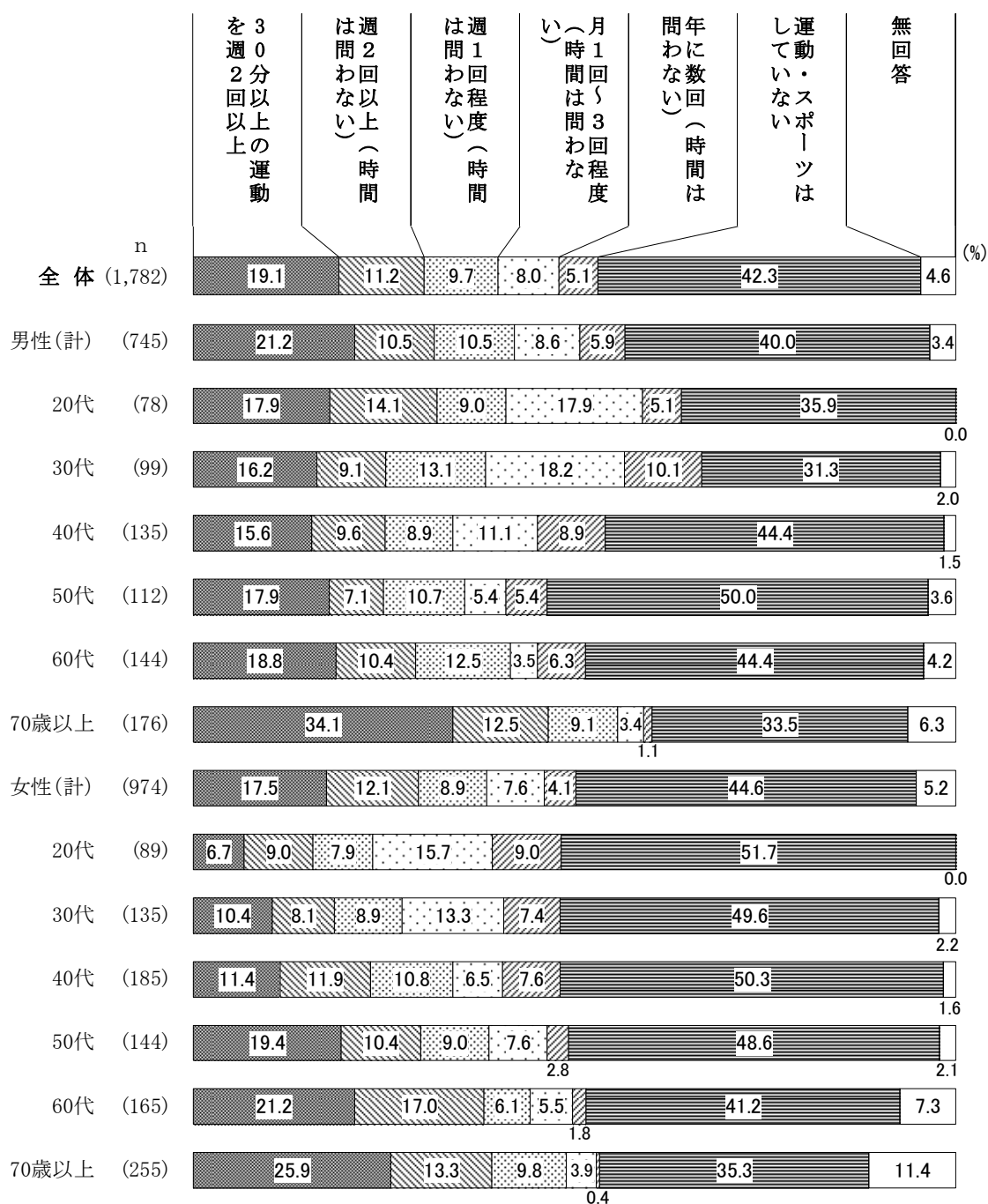
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、男性では「30分以上の運動を週に2回以上」が21.2%と、女性（17.5%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で「30分以上の運動を週に2回以上」が34.1%と、他の年代より高くなっている。一方、40代から60代では「運動・スポーツをしていない」が4割を超え、とくに50代では50.0%となっている。

女性では、70歳以上で「30分以上の運動を週に2回以上」が25.9%を占めているほか、50代、60代でも2割前後となっている。一方、20代から50代では各年代とも「運動・スポーツはしていない」が5割前後を占めている。

図6-1-2 性別、性・年代別／日常的な運動・スポーツの実施状況



(2) 継続的に実施している運動・スポーツ

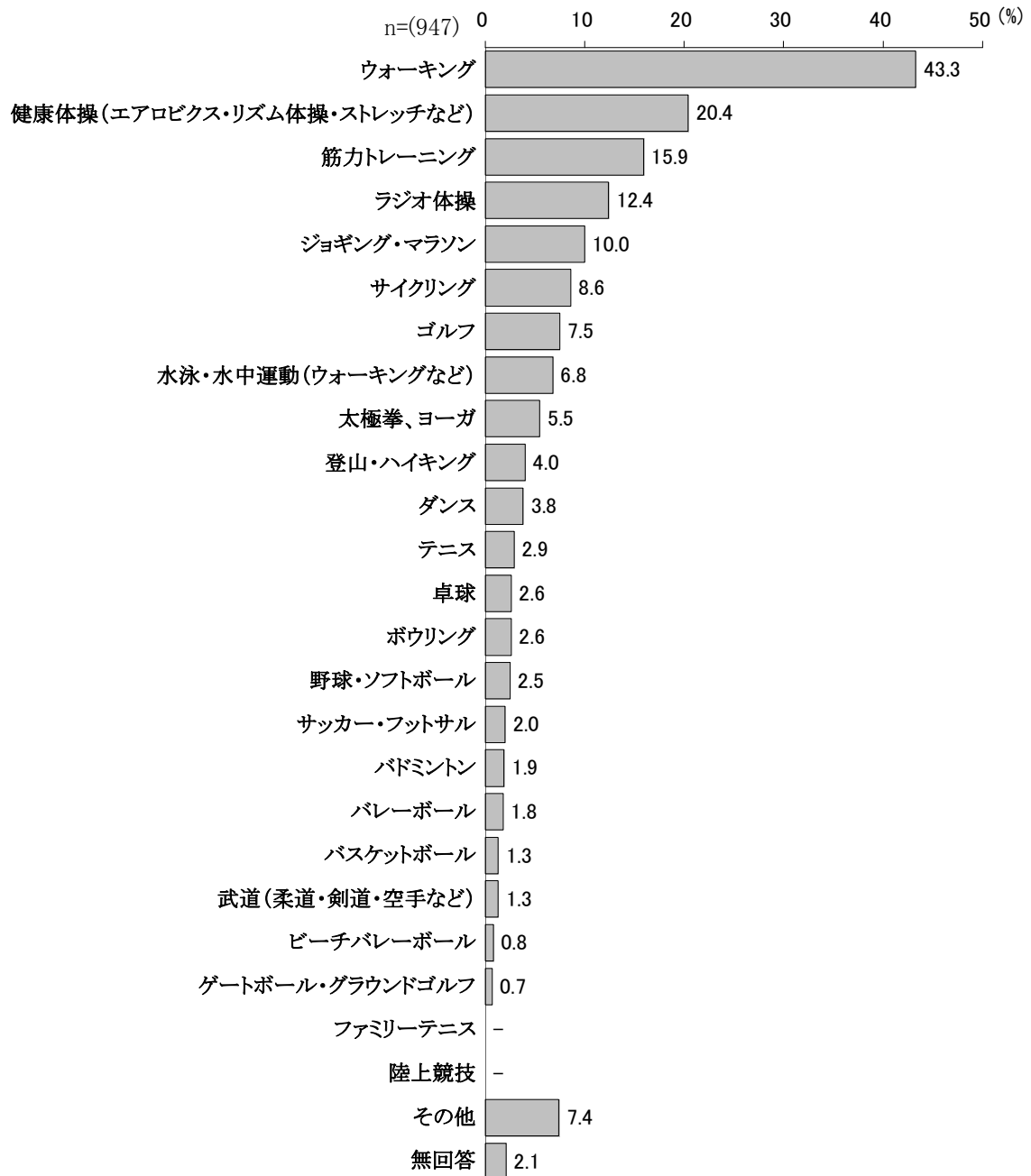
■ 「ウォーキング」が4割台半ばで突出

問22で1～5のいずれかをお答えの方に

問22-1 あなたが最近、継続的にやっている運動・スポーツは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

図6-2-1 継続的に実施している運動・スポーツ



何らかの運動・スポーツを行っている人に、その内容を聞いたところ、「ウォーキング」が43.3%で最も高く、以下「健康体操(エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど)」(20.4%)、「筋力トレーニング」(15.9%)の順で続いている。

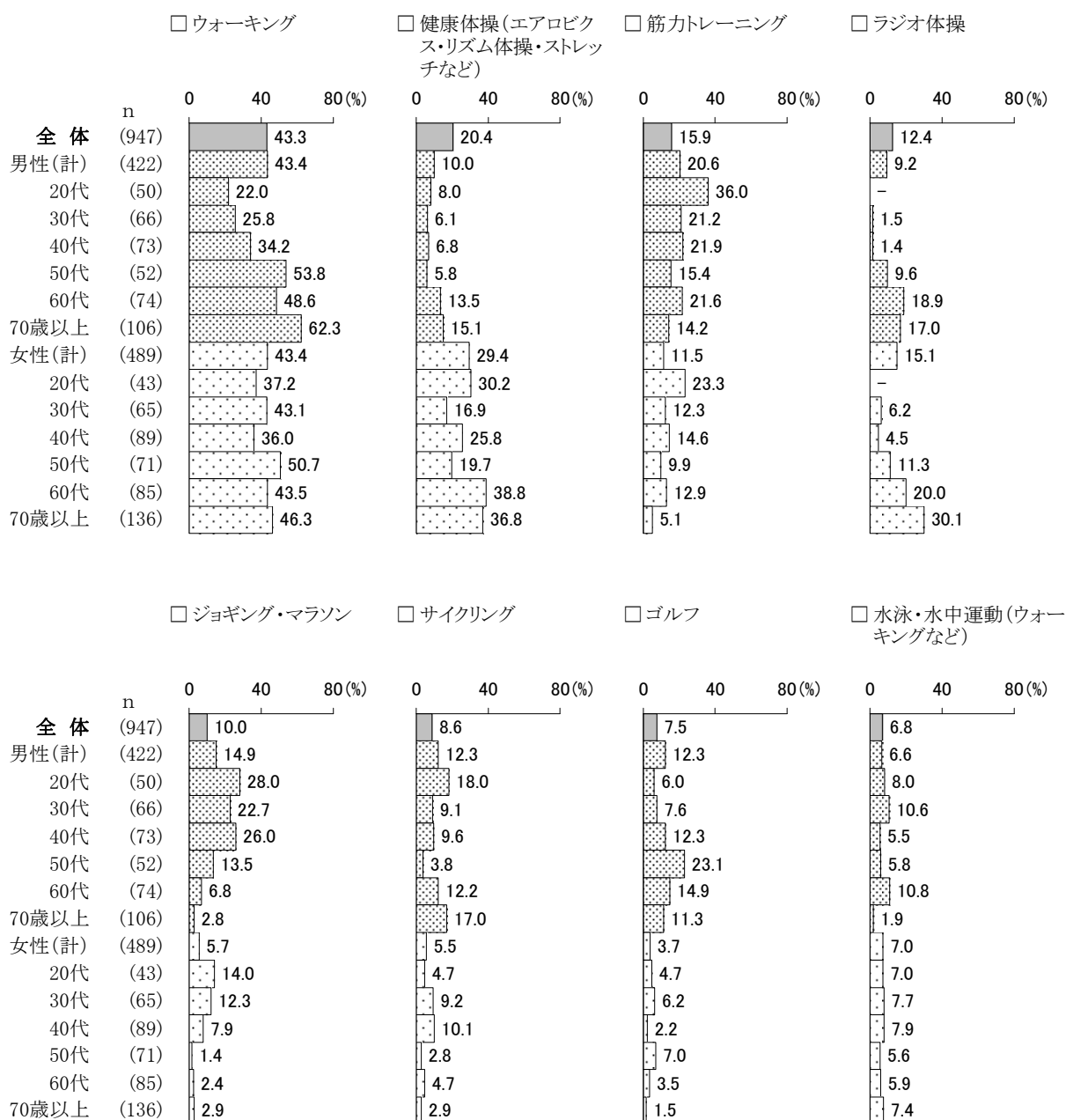
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、男性では「筋力トレーニング」が20.6%と、女性（11.5%）を上回っている。一方、女性では「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が29.4%と、男性（10.0%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、20代で「筋力トレーニング」が36.0%と、他の年代より高くなっている。70歳以上では「ウォーキング」が62.3%と高くなっているほか、50代、60代でも5割前後となっている。

女性では、20代、60代、70歳以上で各年代とも「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が3割を超えている。50代では「ウォーキング」が50.7%を占めているほか、30代、60代、70歳以上でも4割を超えている。

図6-2-2 性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ／上位8項目

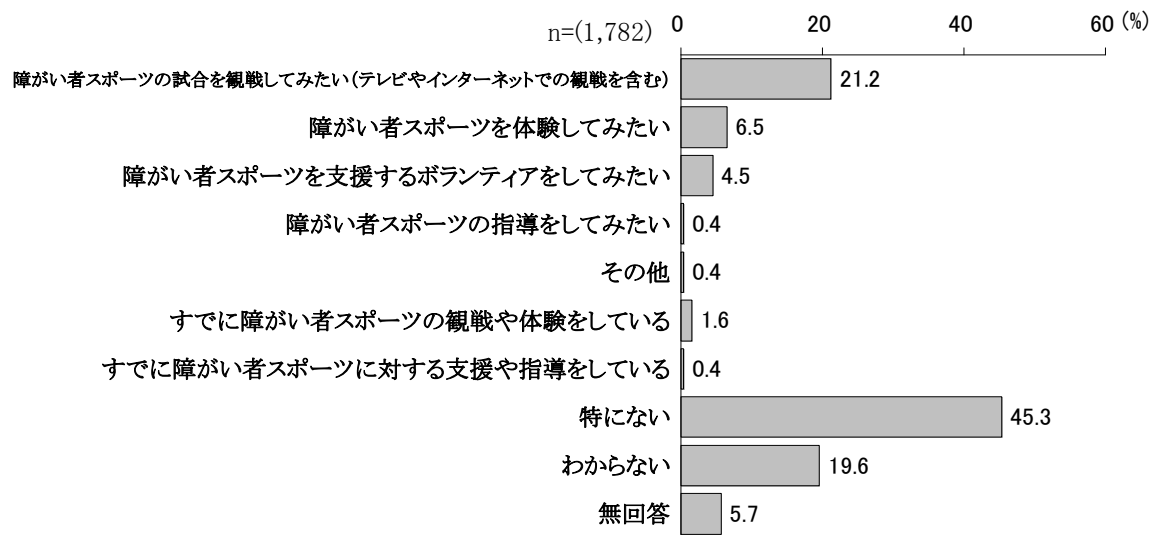


(3) 障がい者スポーツへの意識・行動

■ “観戦してみたい” が2割強

問23 あなたは障がい者スポーツについてどのようなことをしてみたいですか。
(○はあてはまるものすべて)

図6-3-1 障がい者スポーツへの意識・行動



障がい者スポーツについては、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が21.2%で最も高く、以下「障がい者スポーツを体験してみたい」（6.5%）、「障がい者スポーツを支援するボランティアをしてみたい」（4.5%）の順で続いている。一方、「特にない」は45.3%となっている。

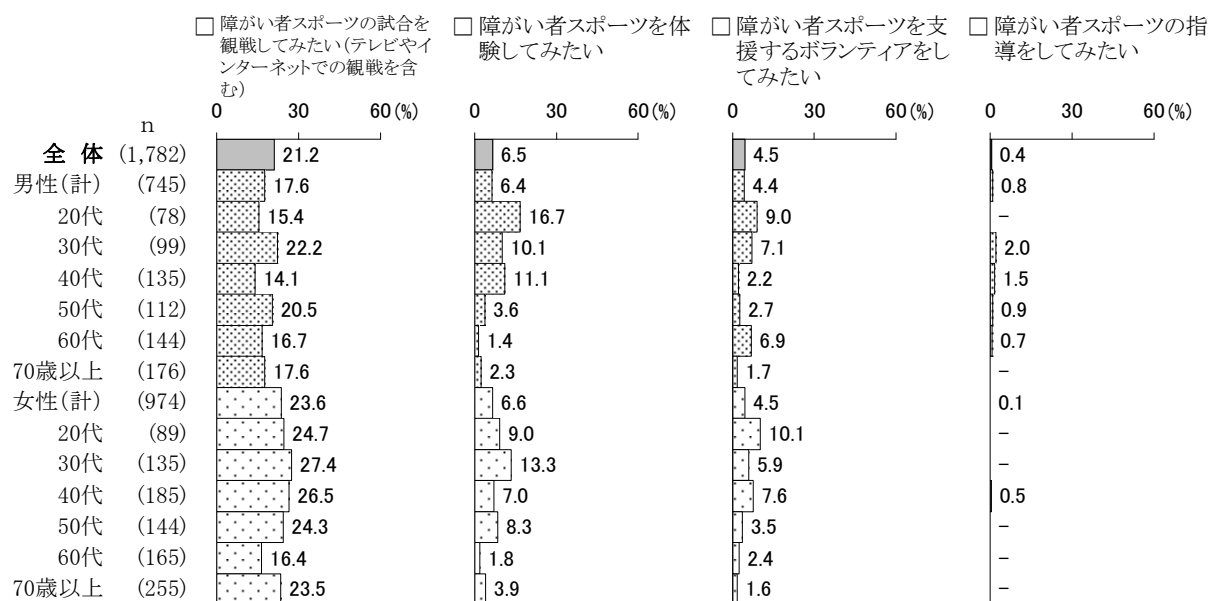
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、女性では「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が23.6%と、男性（17.6%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、30代、50代で「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が、それぞれ22.2%、20.5%と、他の年代よりやや高くなっている。

女性では、60代を除く各年代で「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が2割台半ば前後を占めている。

図6-3-2 性別、性・年代別／障がい者スポーツへの意識・行動

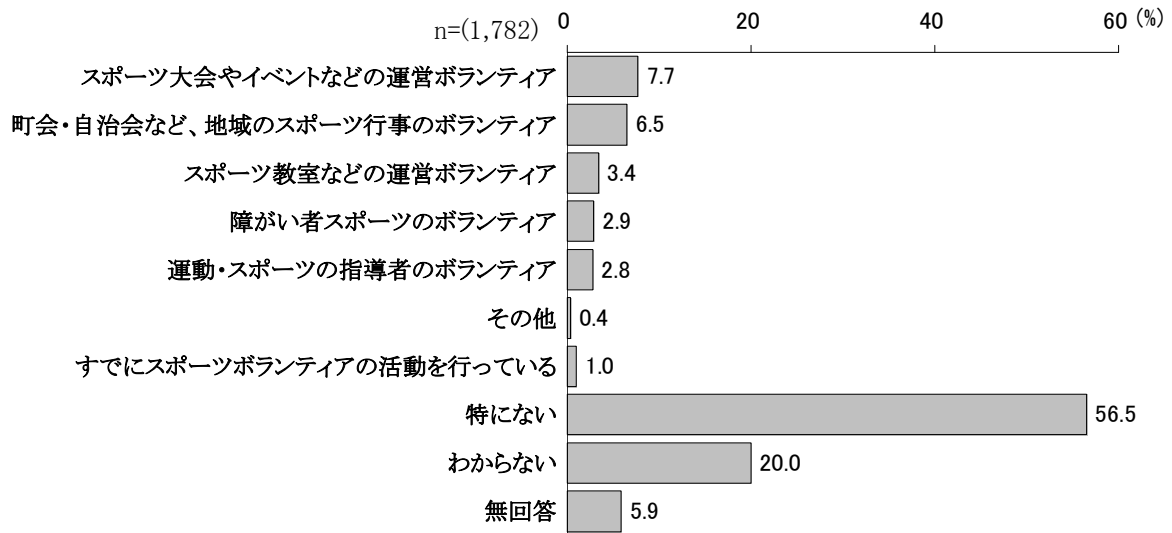


(4) スポーツボランティア活動への意識・行動

■ “運営ボランティア” “スポーツ行事のボランティア” が上位も6～7%

問24 あなたはスポーツボランティア活動についてどのようなことをしてみたいですか。
(○はあてはまるものすべて)

図6-4-1 スポーツボランティア活動への意識・行動



スポーツボランティア活動については、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が7.7%で最も高く、以下「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」(6.5%)、「スポーツ教室などの運営ボランティア」(3.4%)の順で続いている。一方、「特にない」は56.5%となっている。

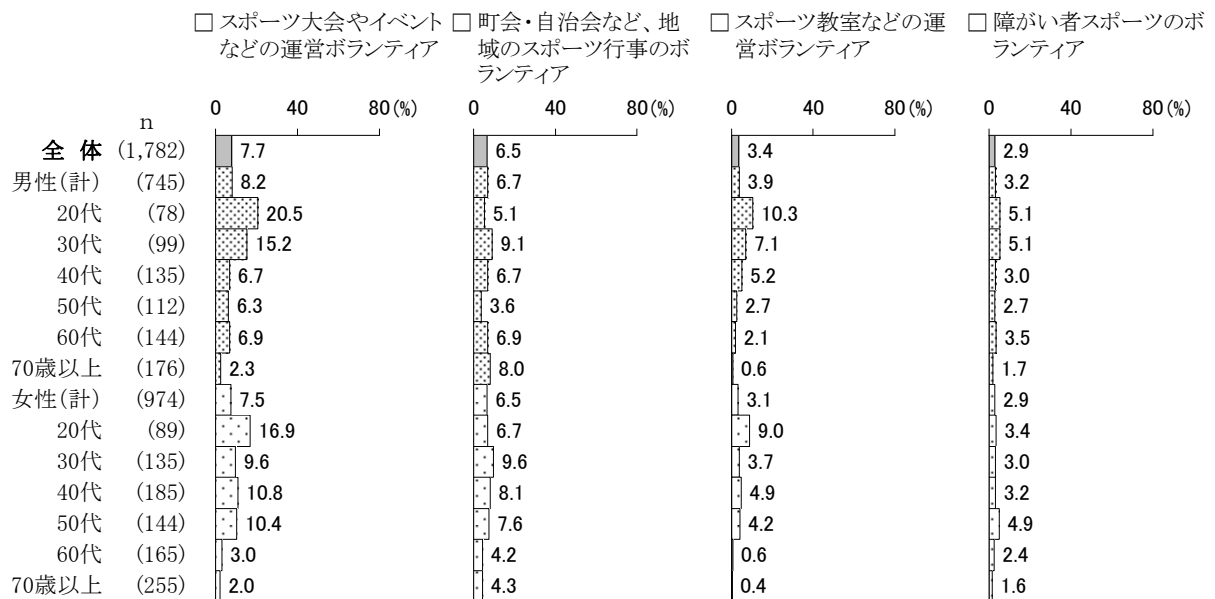
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、20代、30代で「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が、それぞれ20.5%、15.2%と、他の年代より高くなっている。

女性では、20代、40代、50代で「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が、いずれも1割を超えている。

図6-4-2 性別、性・年代別／スポーツボランティア活動への意識・行動／上位4項目

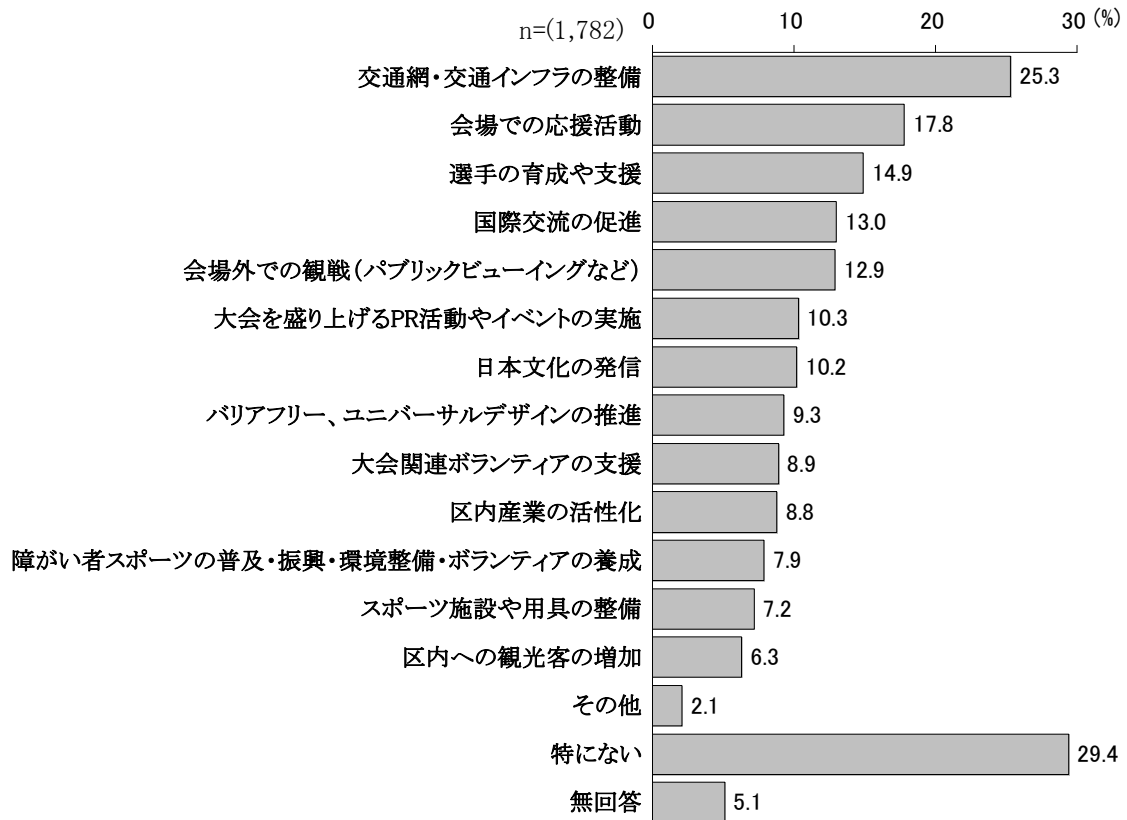


(5) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の実施で関心があること

■ 「交通網・交通インフラの整備」が2割台半ばも、「特になし」が約3割

問25 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の実施で関心があることは何ですか（○は3つまで）。

図6-5-1 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の実施で関心があること



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、関心のあることとしては、「交通網・交通インフラの整備」が25.3%で最も高く、以下「会場での応援活動」(17.8%)、「選手の育成や支援」(14.9%)、「国際交流の促進」(13.0%)の順が続いている。一方、「特になし」は29.4%となっている。

第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

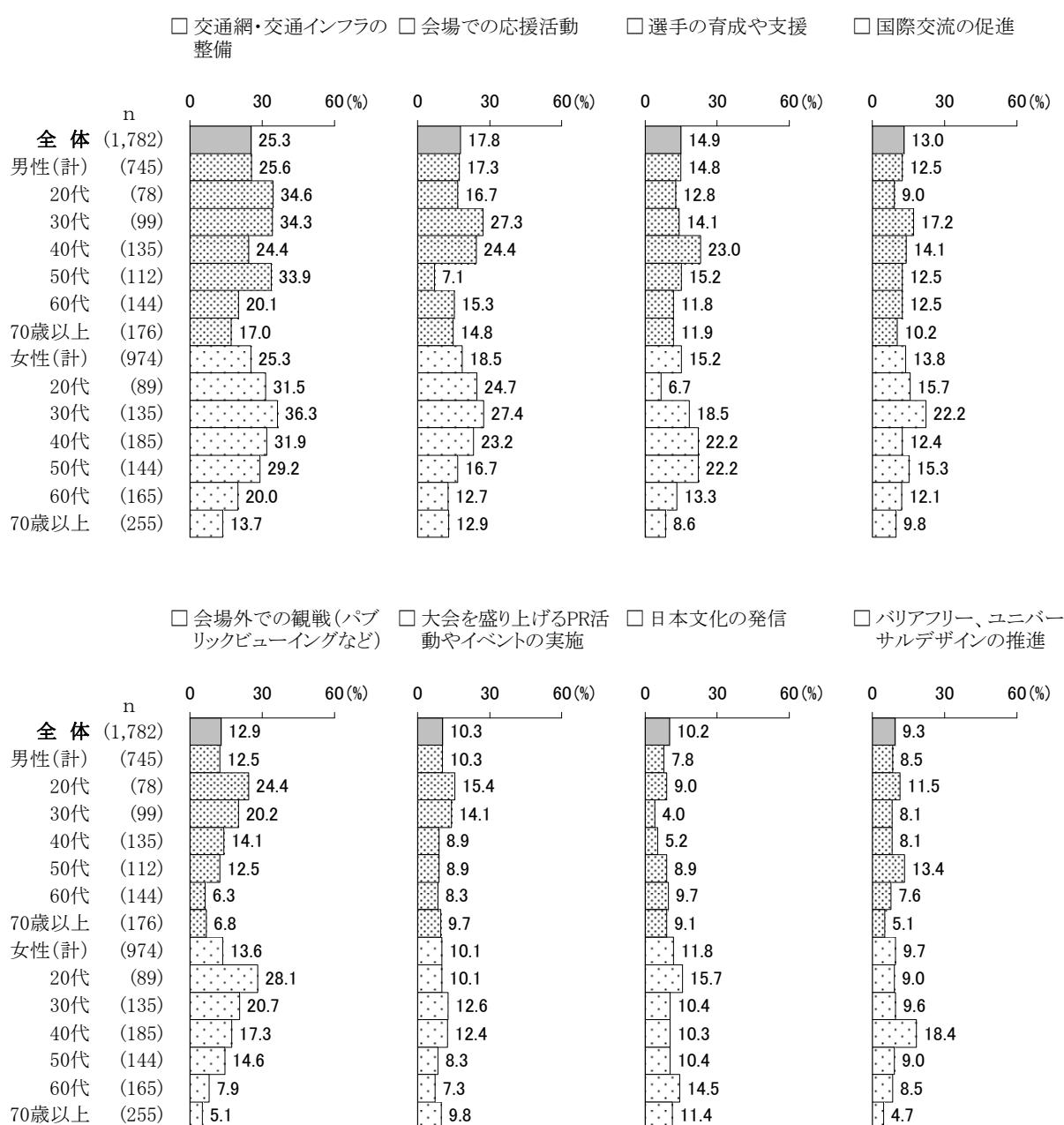
性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、20代、30代、50代で「交通網・交通インフラの整備」が3割を超えている。また、30代、40代では「会場での応援活動」が、それぞれ27.3%、24.4%と、他の年代より高くなっている。

女性では、30代で「交通網・交通インフラの整備」が36.3%となっているほか、20代、40代でも3割を超えている。また、20代から40代の各年代とも「会場での応援活動」が2割を超えている。

図6-5-2 性別、性・年代別

／2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の実施で関心があること／上位8項目

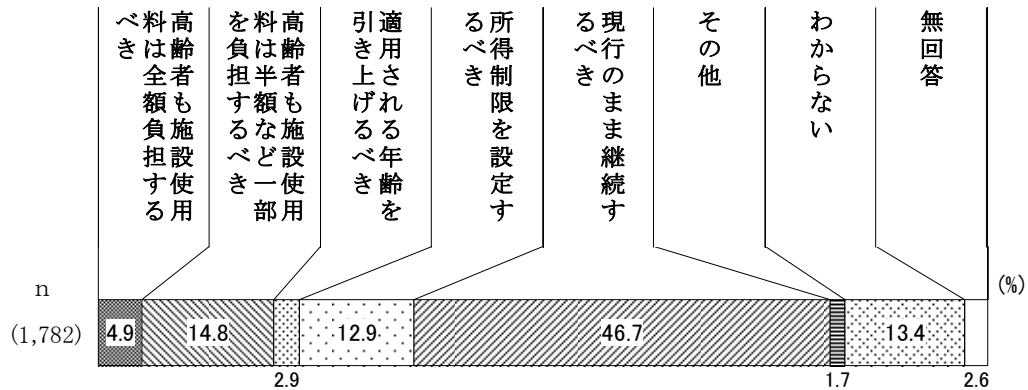


(6) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

■ 「現行のまま継続するべき」が4割台半ば

問26 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民（高齢者）は無料で使用できます。この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（○は1つだけ）。

図6-6-1 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識



スポーツ施設における高齢者免除制度については、「現行のまま継続するべき」が46.7%で最も高く、以下「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担するべき」(14.8%)、「所得制限を設定するべき」(12.9%)の順で続いている。

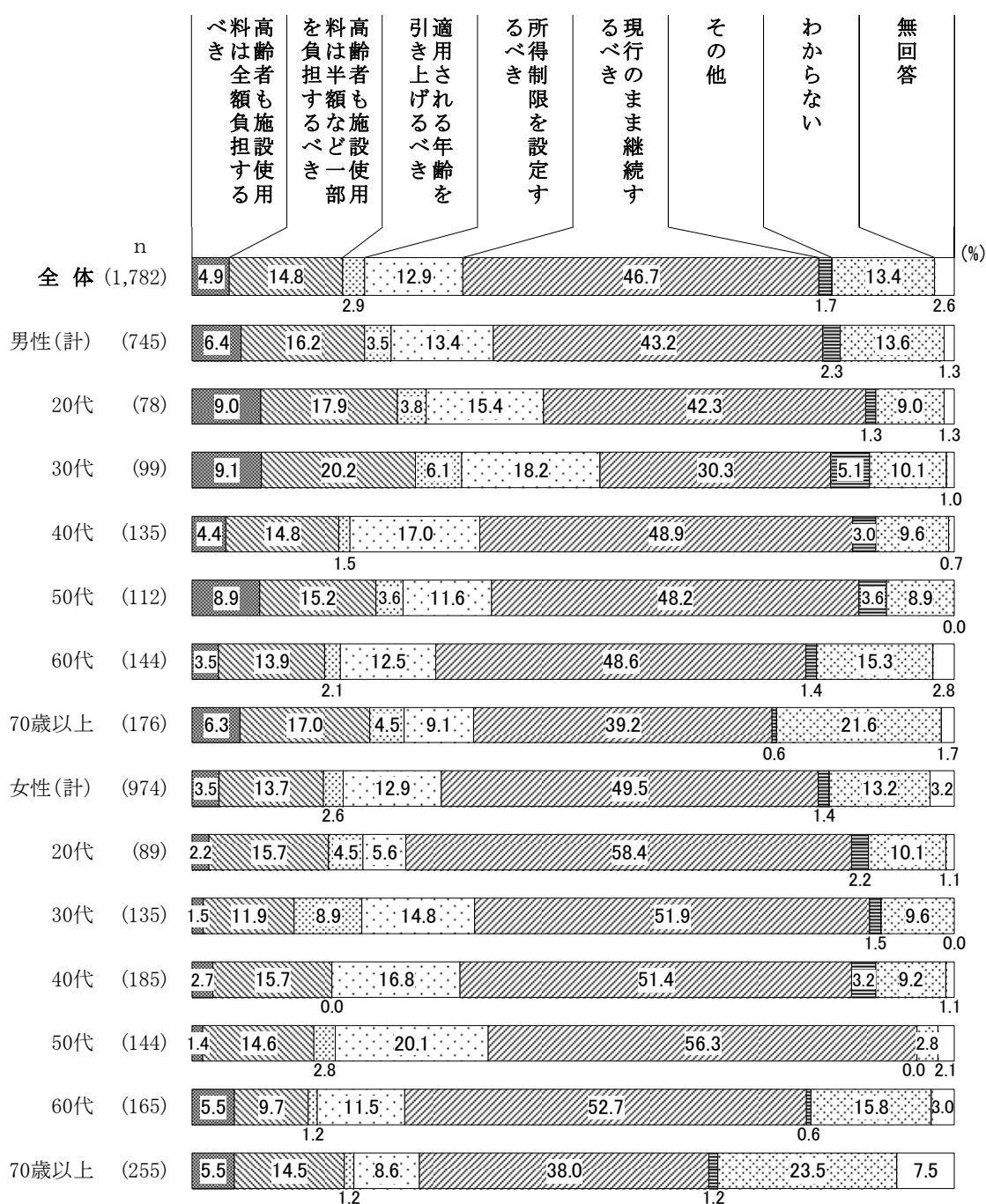
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、女性では「現行のまま継続すべき」が49.5%と、男性（43.2%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、40代から60代の各年代で「現行のまま継続すべき」が5割近くを占めている。

女性では、70歳以上を除く各年代で「現行のまま継続すべき」が5割を超え、とくに20代では58.4%と6割近くを占めている。

図6-6-2 性別、性・年代別／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識



7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

-
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況
 - (2) 治安が改善していることの認知
 - (3) 居住地域の治安状況
 - (4) 区内の治安が良いと感じる点
 - (5) 区内の治安が悪いと感じる点
 - (6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと
 - (7) 駐輪時の鍵かけ状況
-

7. ビューティフル・ウィンドウズ運動

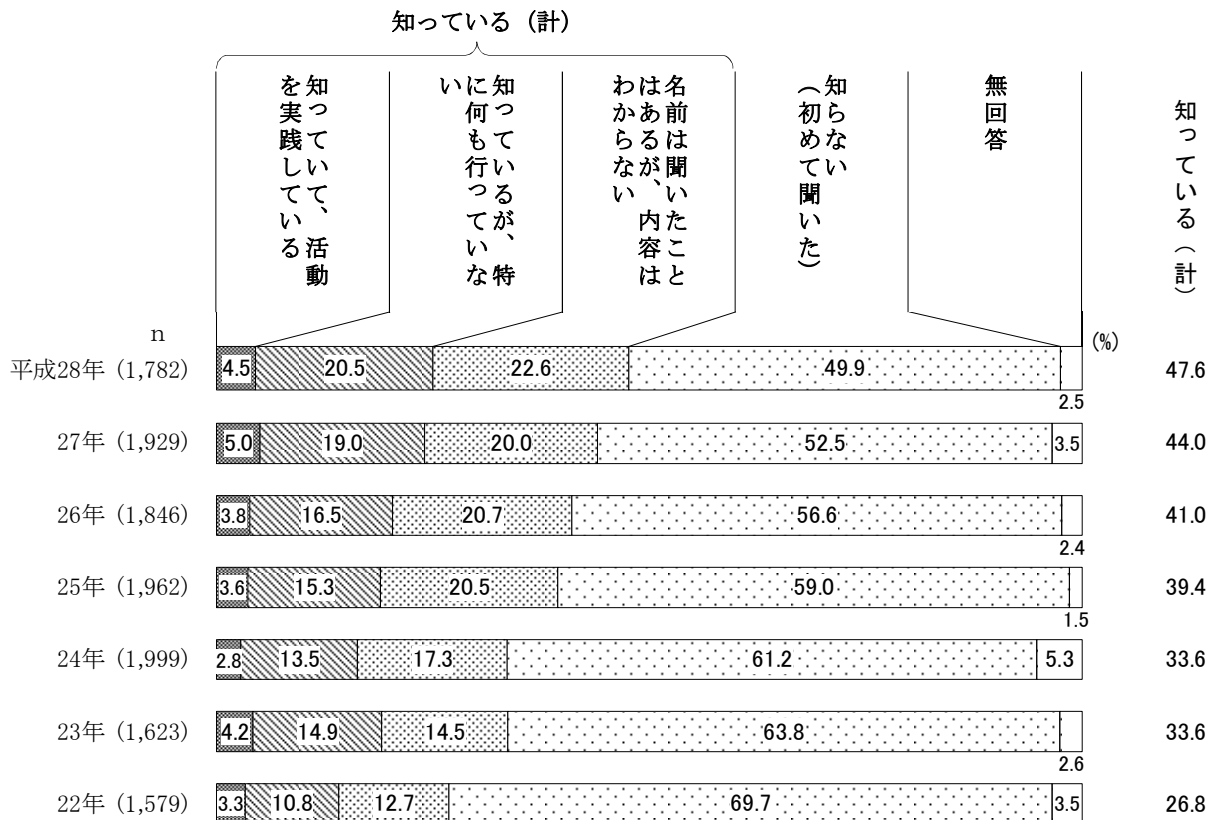
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

■ 【知っている】は4割台後半になり、認知度は年々上昇している

問27 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※ 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

図7-1-1 経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



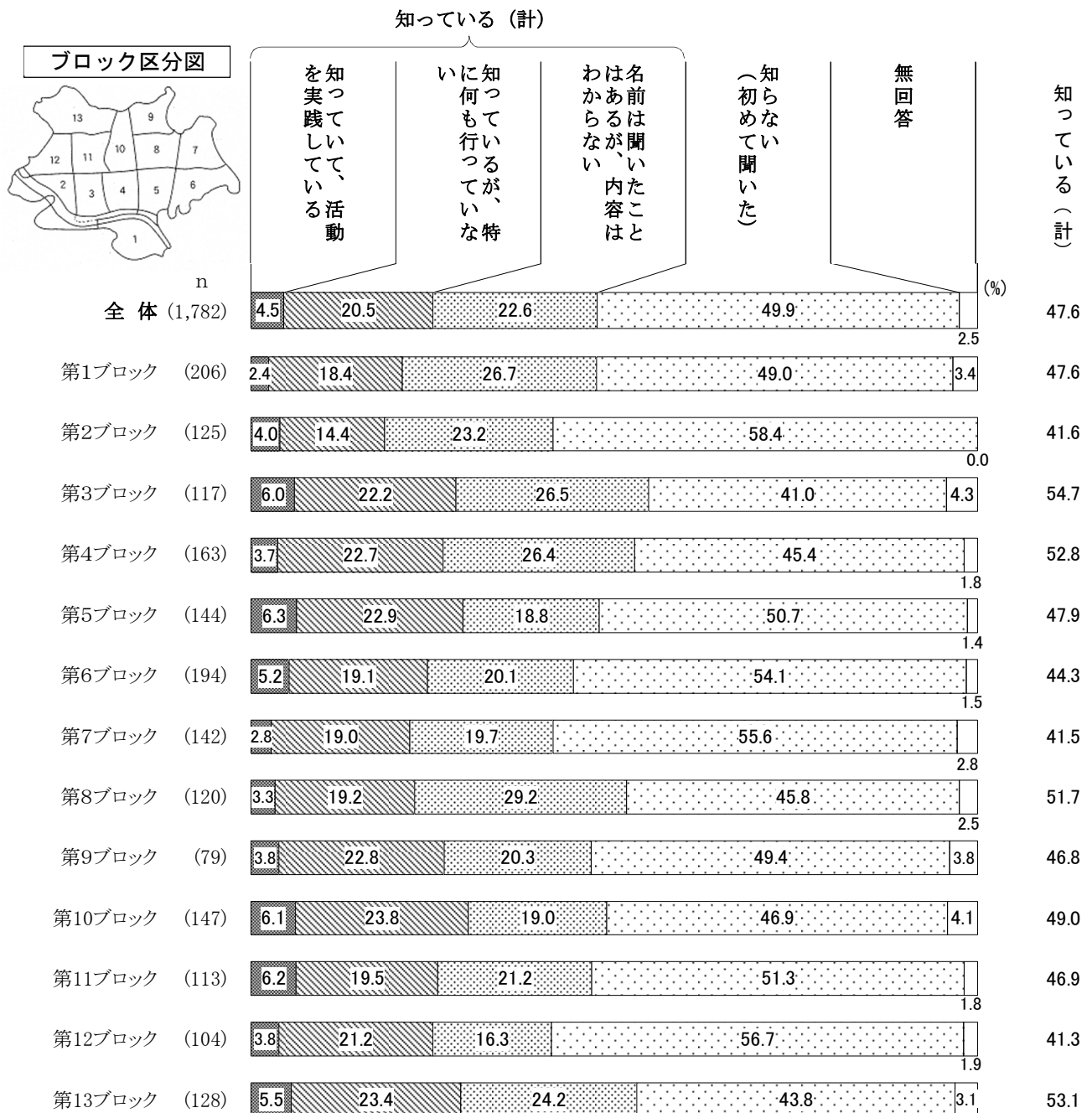
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っていて、活動を実践している」は4.5%で、これに「知っているが、特に何も行っていない」（20.5%）、「名前は聞いたことがあるが、内容はわからない」（22.6%）を合わせた【知っている】は47.6%となっている。

経年でみると、平成22年以降、【知っている】は増加傾向にある。

第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域ブロック別でみると、第3ブロック、第4ブロック、第8ブロック、第13ブロックでは【知っている】が、いずれも5割を超え、他のブロックに比べて高くなっている。

図7-1-2 地域ブロック別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

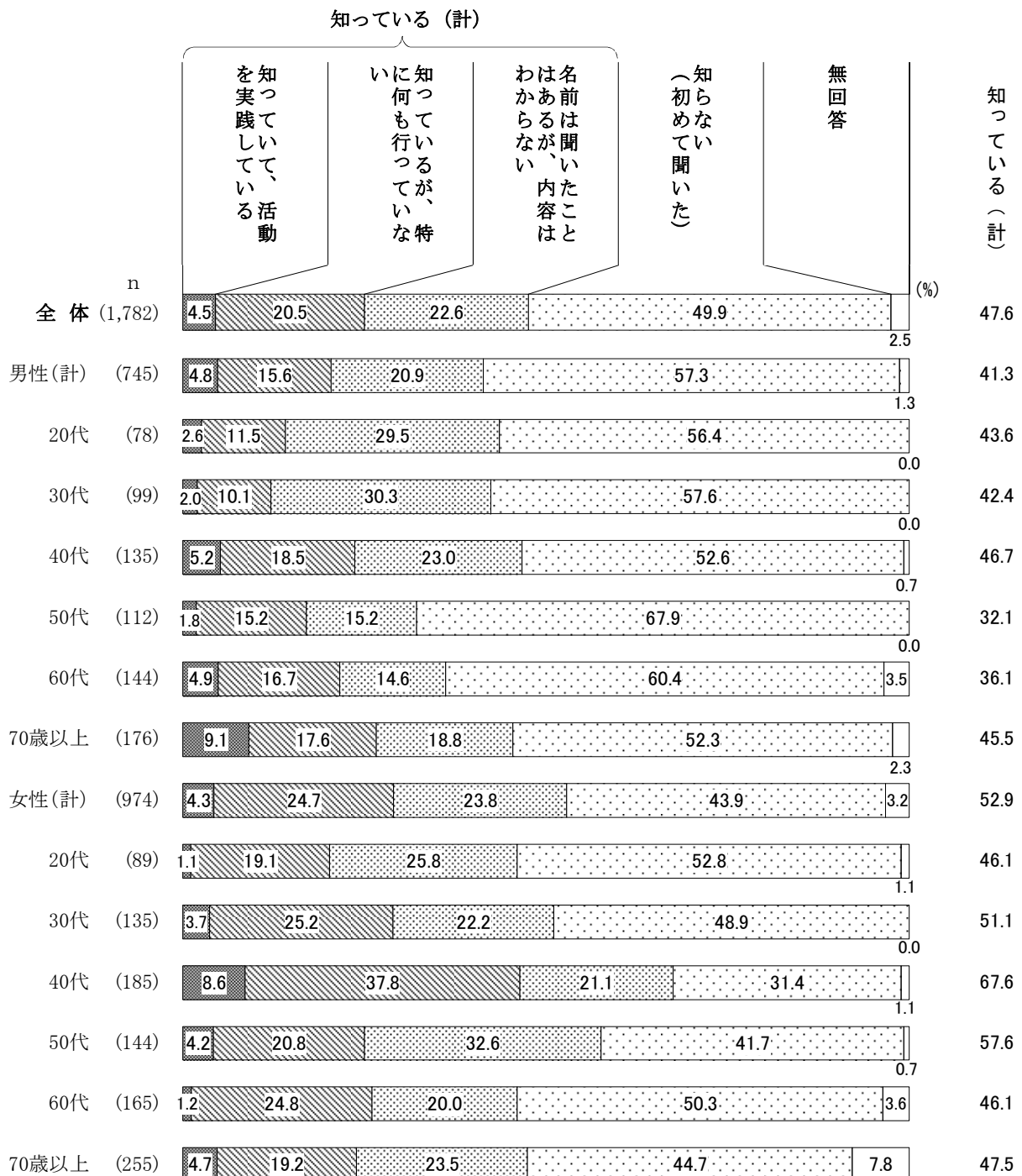


性別でみると、【知っている】は男性41.3%、女性52.9%と、男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、20代から40代、70歳以上で【知っている】が4割を超えている。70歳以上では、「知っていて、活動を実践している」が9.1%と1割近くを占めている。

女性では、40代で【知っている】が67.6%と高くなっているほか、30代、50代で5割を超えている。また、40代では「知っていて、活動を実践している」が8.6%と、他の年代より高くなっている。

図7-1-3 性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



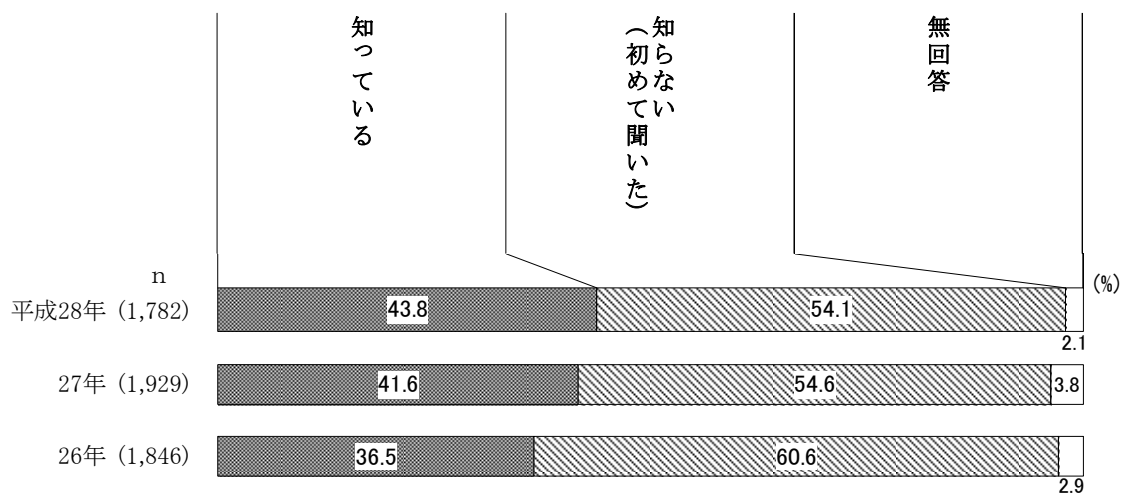
(2) 治安が改善していることの認知

■ 「知っている」が4割台半ばも増加傾向

問28 あなたは、平成27年の足立区内の刑法犯認知件数（※）が減少し、治安が改善していることを知っていますか（○は1つだけ）。

※ 警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。

図7-2-1 経年比較／治安が改善していることの認知

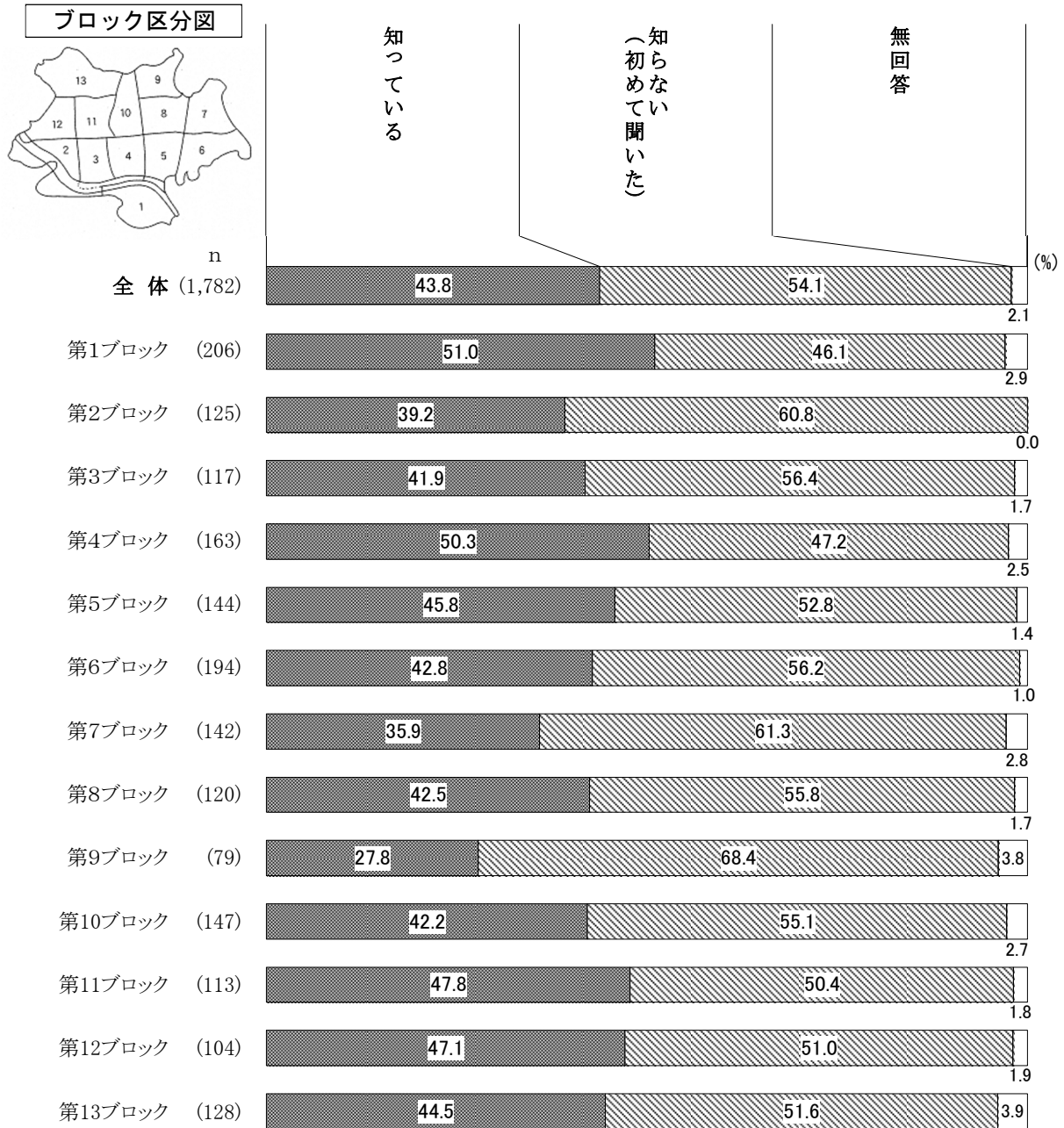


足立区内の刑法犯認知件数が減少していることを「知っている」は43.8%である。一方、「知らない」は54.1%となっている。

経年でみると、「知っている」が増加し、「知らない（初めて聞いた）」が減少している。

地域ブロック別でみると、第1ブロック、第4ブロックでは、「知っている」が、それぞれ51.0%、50.3%と5割を超えている。一方、第9ブロックでは、「知っている」が27.8%と、他のブロックに比べて低くなっている。

図7-2-2 地域ブロック別／治安が改善していることの認知



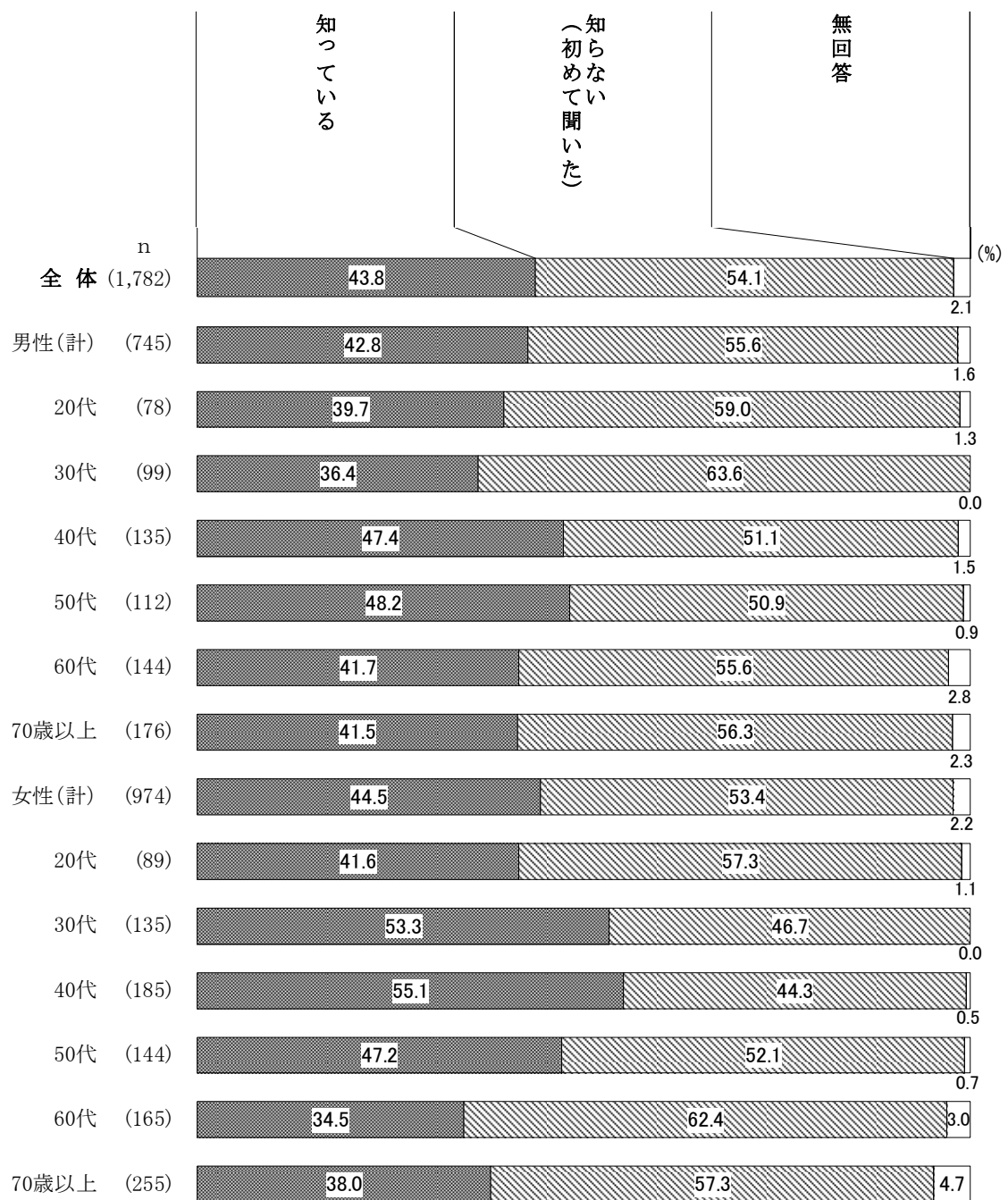
第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別でみると、「知っている」は男性42.8%、女性44.5%となっている。

性・年代別でみると、男性では、40代、50代で「知っている」が、それぞれ47.4%、48.2%と5割近くを占めている。

女性では、30代、40代で「知っている」が、それぞれ53.3%、55.1%と、5割を超えている。

図7-2-3 性別、性・年代別／治安が改善していることの認知



(3) 居住地域の治安状況

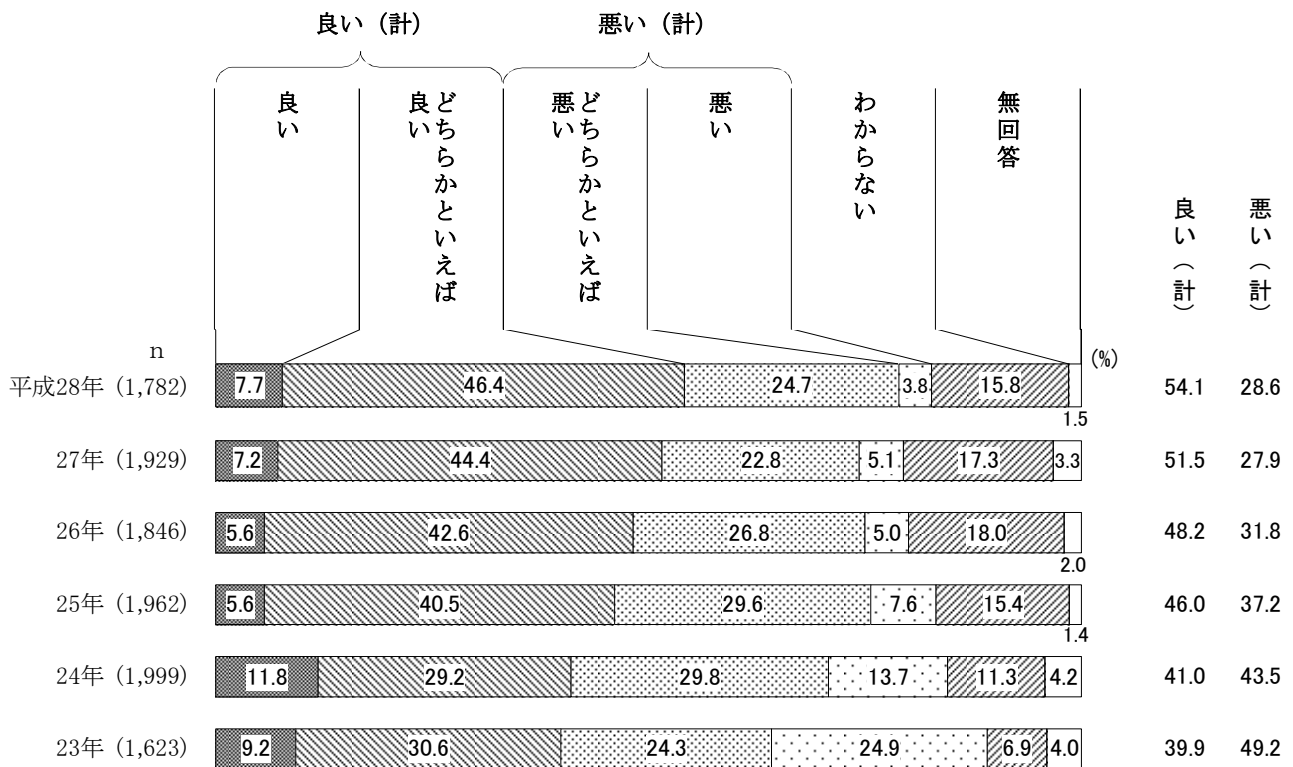
■ 【良い】は5割半ばとなり、年々上昇している

問29 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか。

（○は1つだけ）

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

図7-3-1 経年比較／居住地域の治安状況



住んでいる地域の治安について、「良い」が7.7%で、これに「どちらかといえば良い」の46.4%を合わせた【良い】は54.1%である。一方、「どちらかといえば悪い」(24.7%)と「悪い」(3.8%)を合わせた【悪い】は28.6%となっている。

経年でみると、今回は【良い】が54.1%と、平成27年の51.5%を2.6ポイント上回り、平成22年以降、増加傾向が続いている。

第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域ブロック別でみると、【良い】は第1ブロックで70.4%と最も高く、以下、第6ブロック（56.7%）、第4ブロック（55.8%）の順となっている。一方、第9ブロック、第12ブロックでは【悪い】が、それぞれ40.5%、39.4%と、他のブロックに比べて高くなっている。

図7-3-2 地域ブロック別／居住地域の治安状況

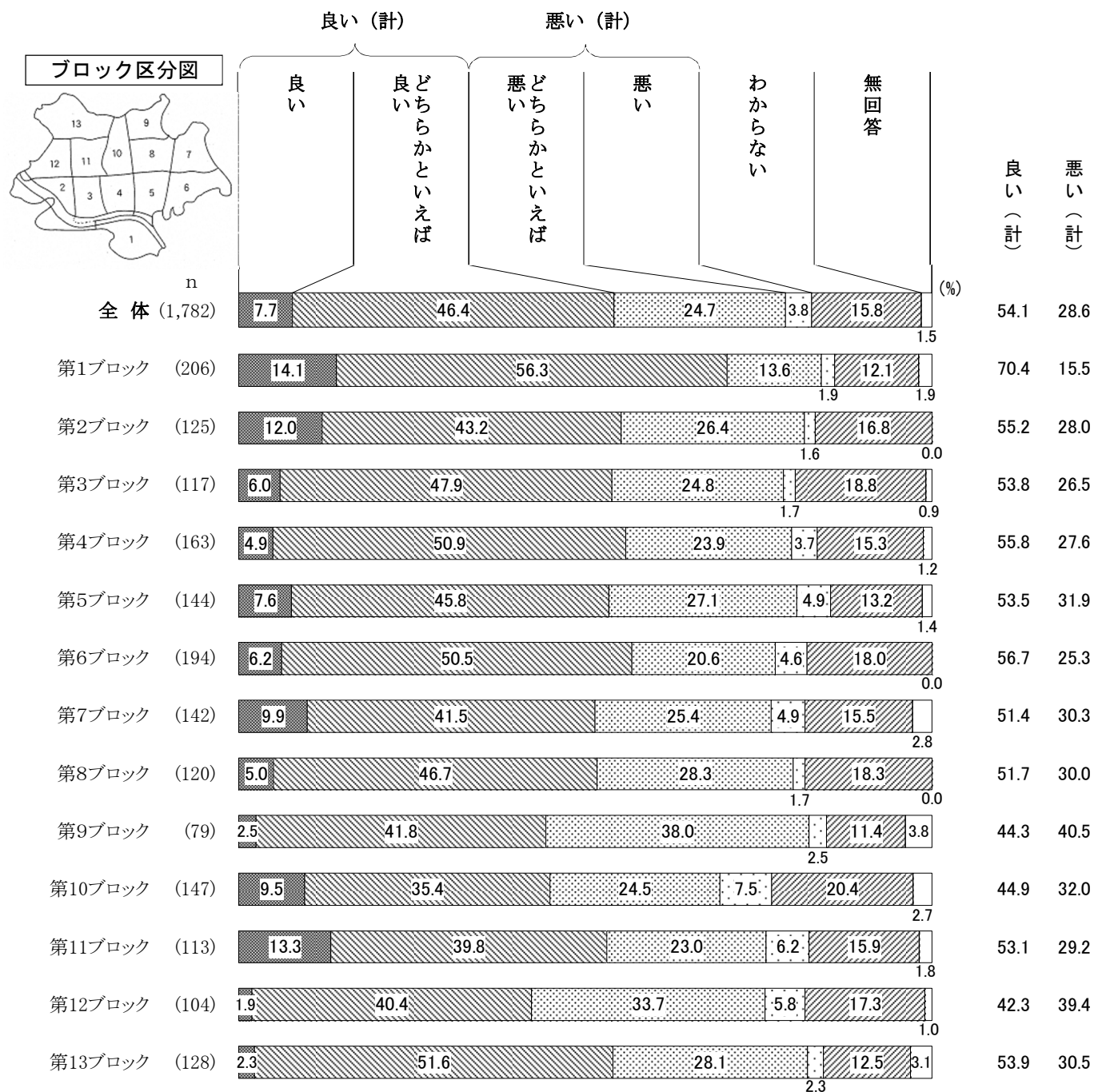
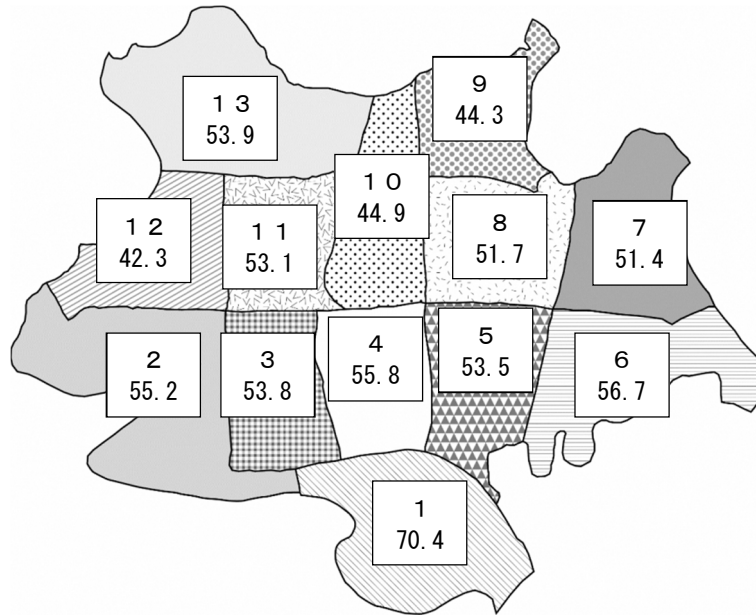
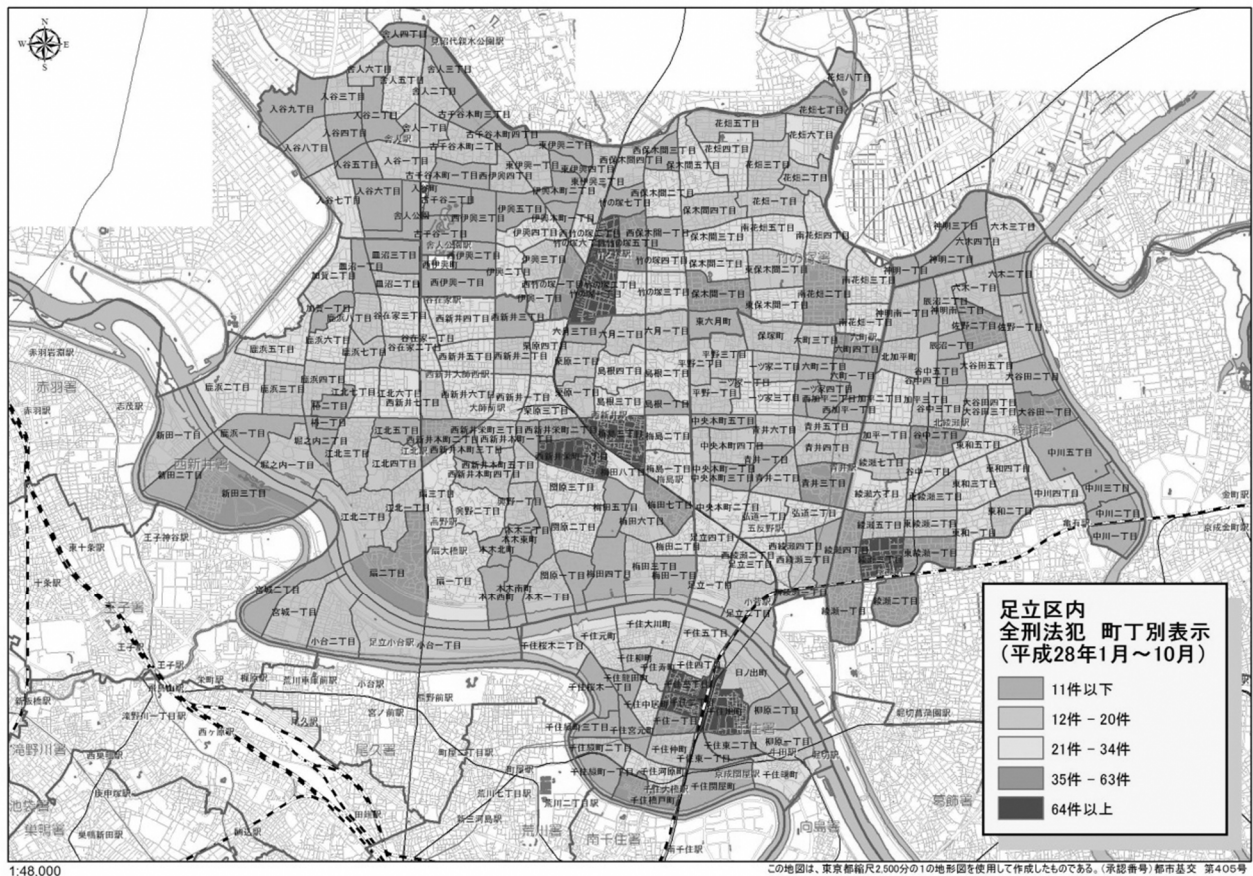


図7-3-3 ブロック区分図／居住地域の治安状況
(上段：ブロック番号、下段：治安が【良い】と答えた回答者の割合%)



【参考資料】区内全刑法犯認知件数

警視庁作成の資料によると、北千住、西新井、竹の塚、綾瀬の駅周辺で刑法犯認知件数が多いになっている。全件数のうち自転車盗が全体の約4割を占めており、自転車の駐車が多い地域の件数が多くなる傾向がある。



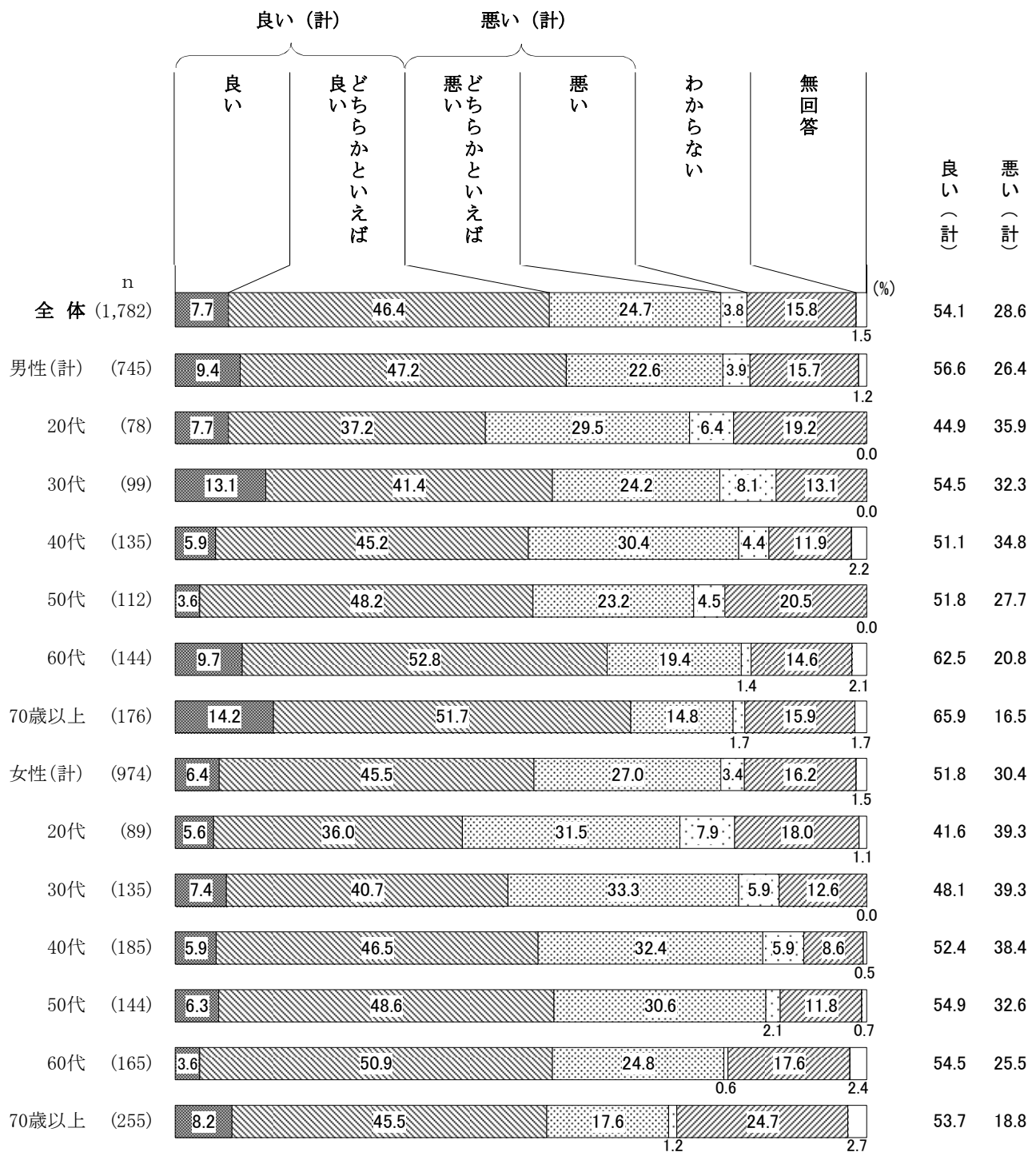
第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別でみると、【良い】は男性56.6%、女性51.8%となっている。

性・年代別でみると、男性では、60代、70歳以上で【良い】が、それぞれ62.5%、65.9%と、6割を超えている。

女性でも、40代以上では、【良い】が5割を超えている。

図7-3-4 性別、性・年代別／居住地域の治安状況



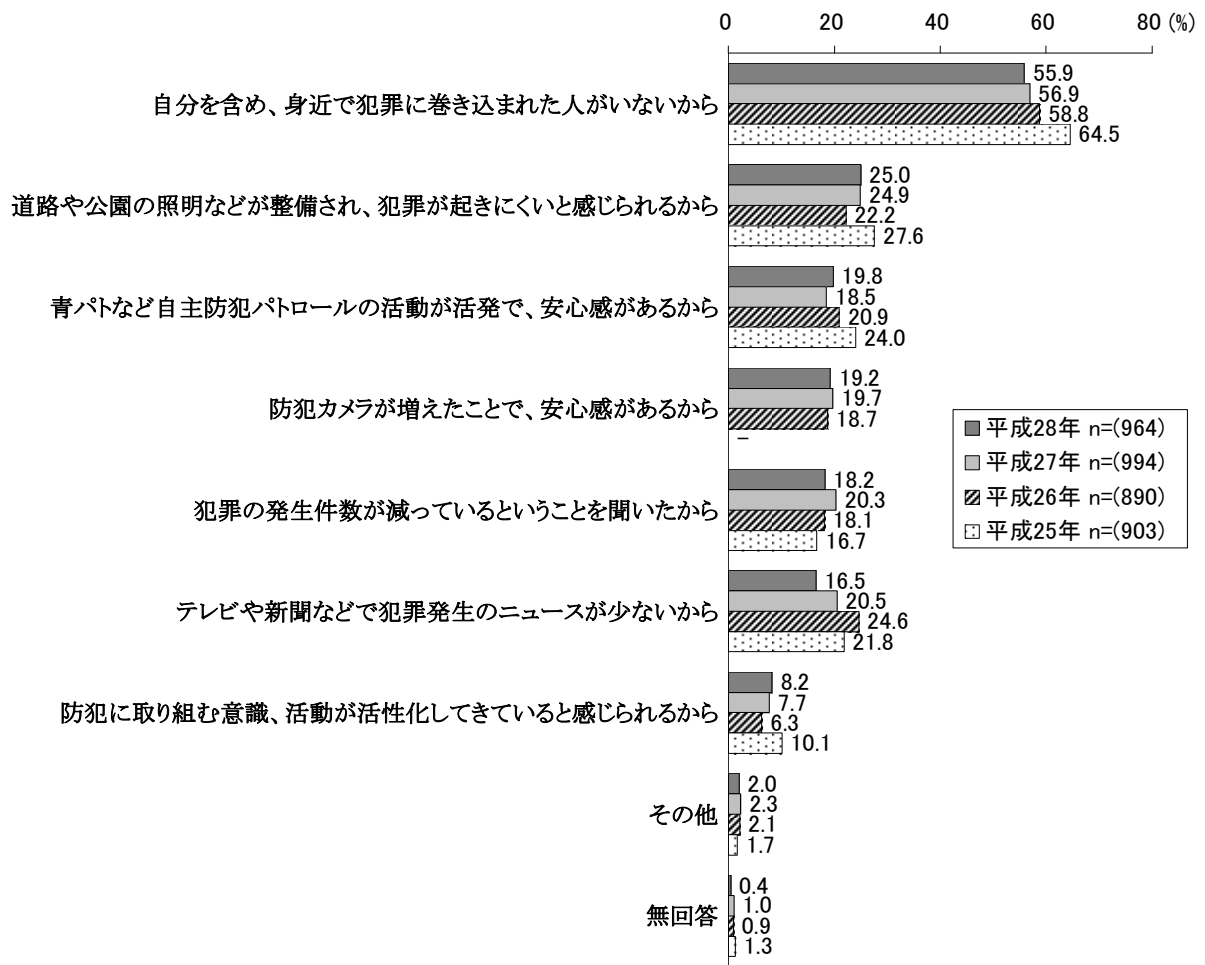
(4) 区内の治安が良いと感じる点

■ 特に多いのが“犯罪に巻き込まれた人がいないから”で、5割台半ば

問29で「1. 良い」、または「2. どちらかといえば良い」とお答えの方に

問29-1 どのような点で治安が良いと感じますか（○は2つまで）。

図7-4-1 経年比較／区内の治安が良いと感じる点



※「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は、26年度新設。

※「防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」は、25年度では「区全体の防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」。

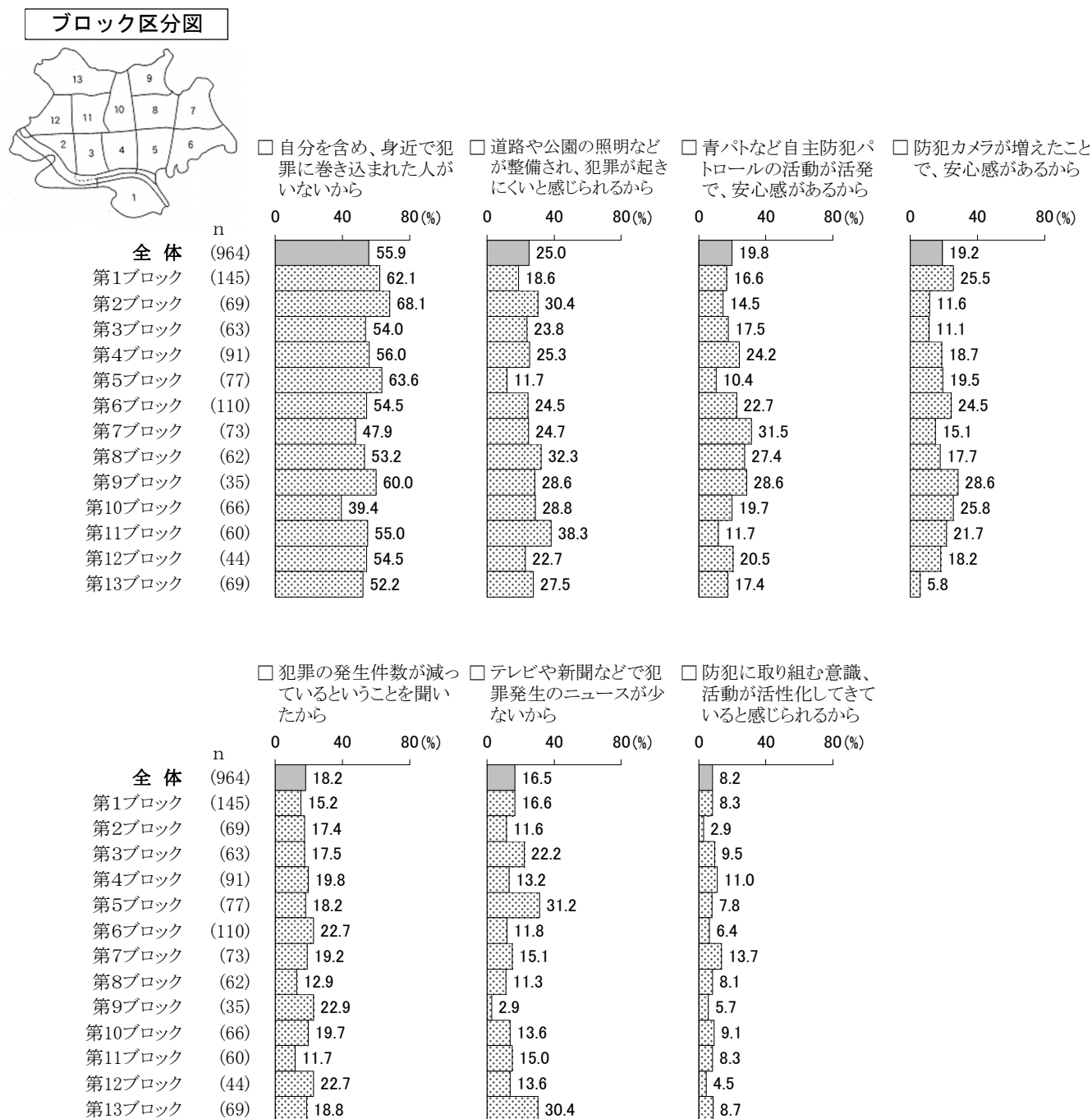
【良い】と評価した人に、その理由を聞くと、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が55.9%で最も高く、以下「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」（25.0%）、「青パトなどの自主防犯パトロール活動が活発で、安心感があるから」（19.8%）の順となっている。

経年でみると、「自分を含めて、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は、今回55.9%で平成27年の56.9%より1.0ポイント低くなっており、平成25年以降の減少傾向が続いている。

第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域ブロック別でみると、「自分を含めて、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は、第1ブロック、第2ブロック、第5ブロック、第9ブロックで6割台となっている。「青パトなどの自主防犯パトロール活動が活発で、安心感があるから」については、第7ブロック、第8ブロック、第9ブロックで3割前後と、他のブロックより高くなっている。また、「テレビや新聞などで犯罪発生のニュースが少ないから」は、第5ブロック、第13ブロックで、それぞれ31.2%、30.4%と、他のブロックより高くなっている。

図7-4-2 地域ブロック別／区内の治安が良いと感じる点



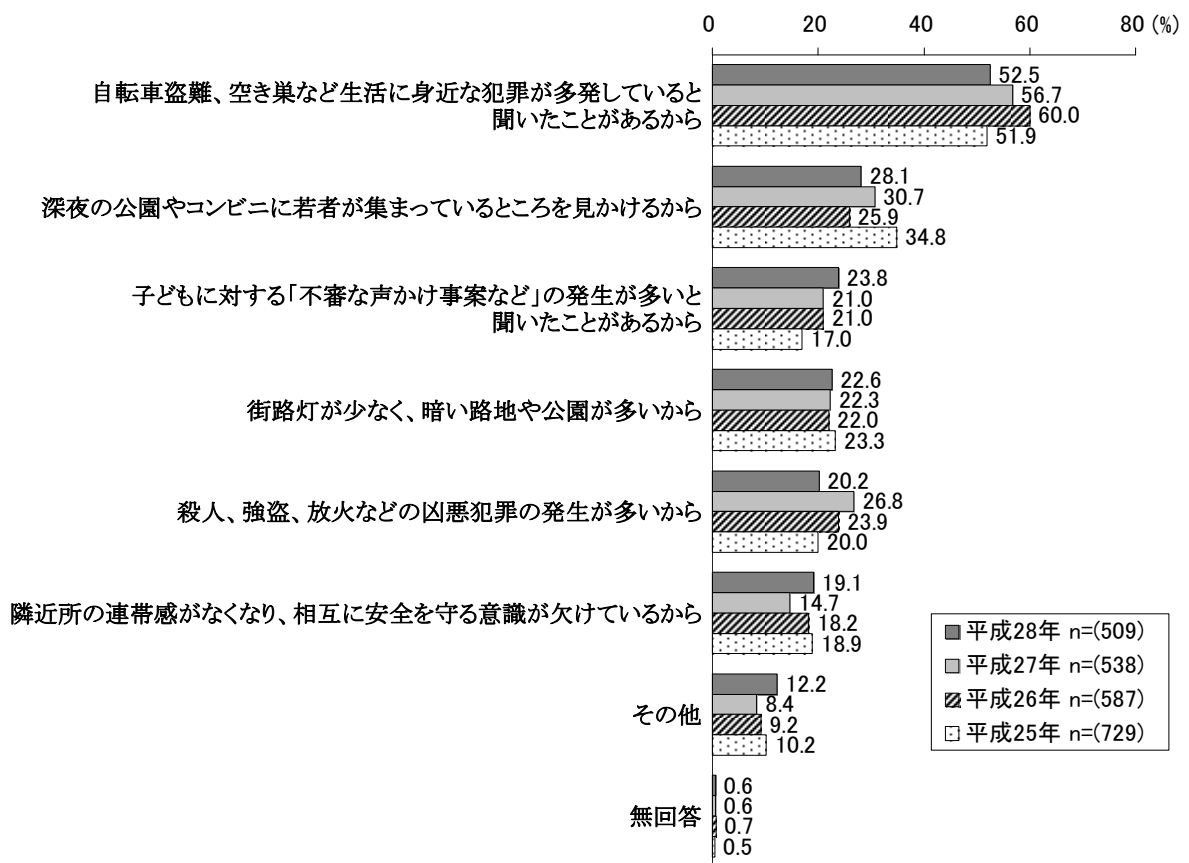
(5) 区内の治安が悪いと感じる点

■ “生活に身近な犯罪が多発していると聞いた” が5割を超えて突出するも減少傾向

問29で「3. どちらかといえば悪い」、または「4. 悪い」とお答えの方に

問29-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（○は2つまで）。

図7-5-1 経年比較／区内の治安が悪いと感じる点



※「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は、25年度では「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているから」。

※「子どもに対する『不審な声かけ事案等』の発生が多いと聞いたことがあるから」は、25年度では「子どもに対する『不審な声かけ事案等』の発生が多いから」。

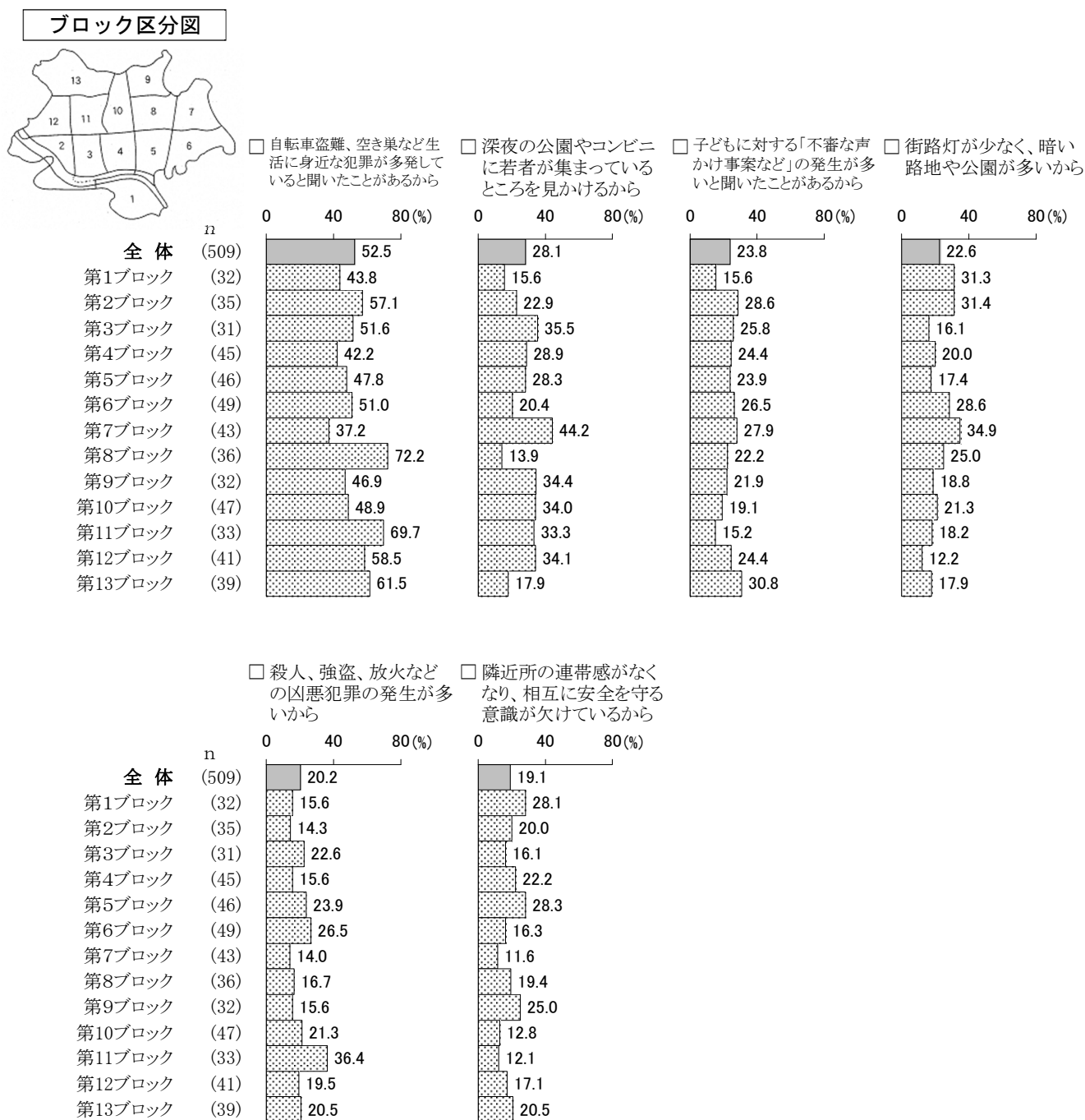
【悪い】と評価した人に、その理由を聞くと、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」が52.5%で最も高く、以下「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」（28.1%）、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」（23.8%）の順となっている。

経年でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は今回52.5%と、平成27年の56.7%から4.2ポイント減少している。一方、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」「隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから」は、いずれも微増している。

第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域ブロック別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」は、第8ブロック、第11ブロックで、それぞれ72.2%、69.7%と、7割前後を占めている。「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」については、第7ブロックで44.2%と最も高くなっている。また、「殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから」については、第11ブロックで36.4%と高くなっている。

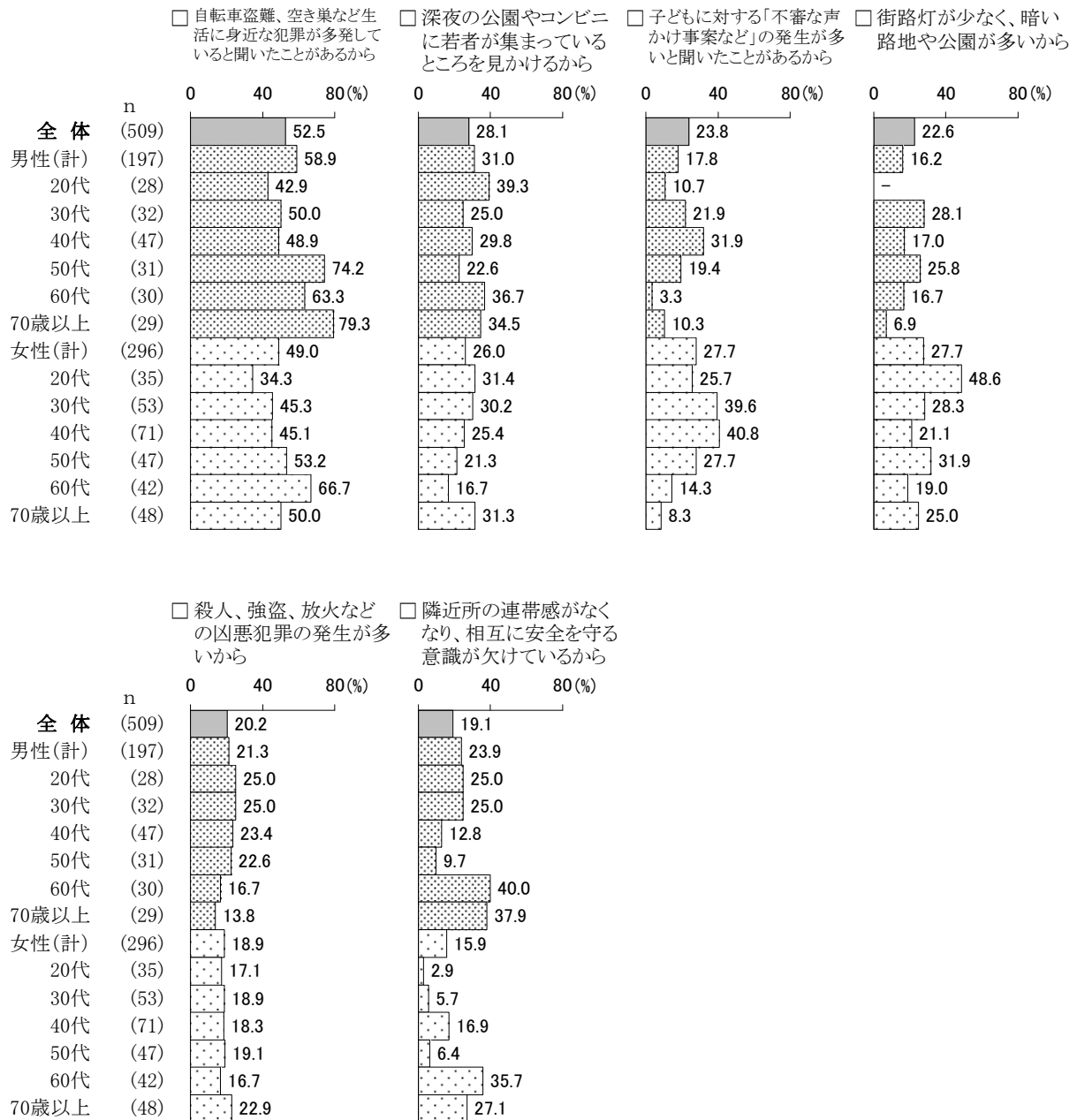
図7-5-2 地域ブロック別／区内の治安が悪いと感じる点



性別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」では、男性58.9%、女性49.0%となっている。

性・年代別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は、男性の50代、70歳以上で7割台となっている。また、「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」については、女性の20代で5割弱と高くなっている。

図7-5-3 性別、性・年代別／区内の治安が悪いと感じる点

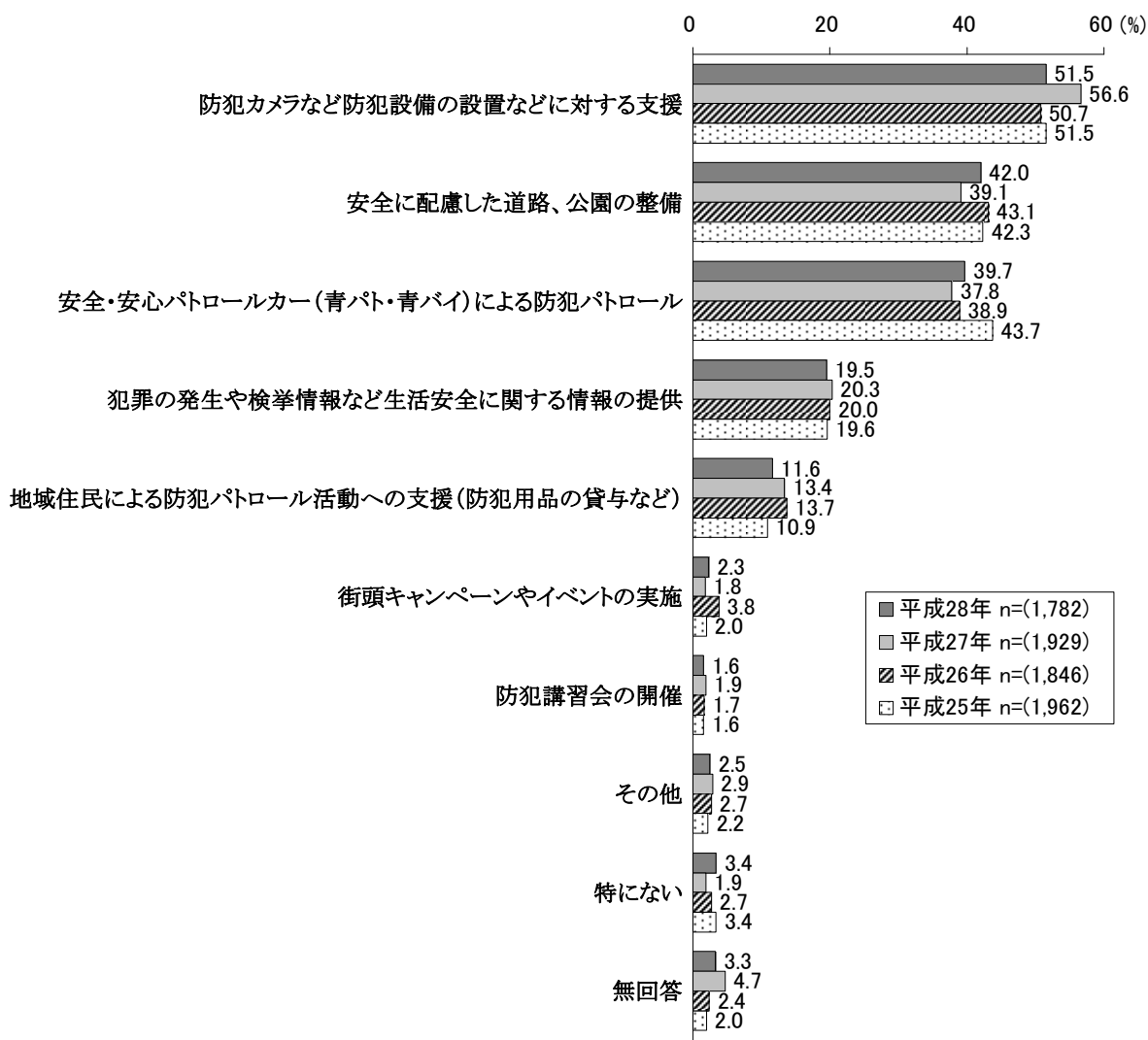


(6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと

■ “防犯設備の設置等に対する支援” が5割強、“安全に配慮した道路、公園の整備” “防犯パトロール” が4割前後

問30 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。
(○は2つまで)

図7-6-1 経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと

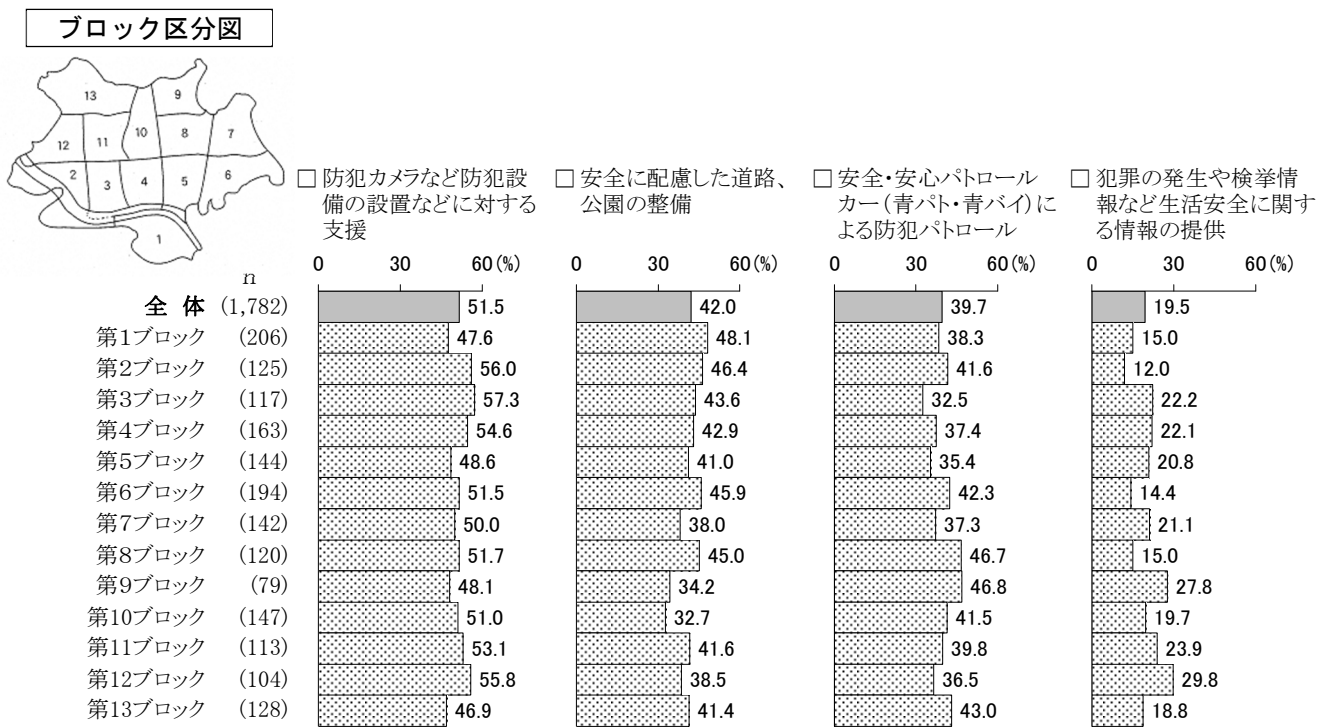


治安対策として足立区に力を入れてほしいこととしては、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」が51.5%で最も高く、以下「安全に配慮した道路、公園の整備」(42.0%)、「安全・安心パトロールカー(青パト・青バイ)による防犯パトロール」(39.7%)の順となっている。

経年でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」については、今回51.5%と平成27年の56.6%から5.1ポイント減少している。一方、「安全に配慮した道路、公園の整備」「安全・安心パトロールカー(青パト・青バイ)による防犯パトロール」については、今回微増している。

地域ブロック別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」は、第1ブロック、第5ブロック、第9ブロック、第13ブロックを除く各ブロックで5割を超えている。「安全に配慮した道路、公園の整備」は、第7ブロック、第9ブロック、第10ブロック、第12ブロックを除く各ブロックで4割を超えている。

図7-6-2 地域ブロック別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



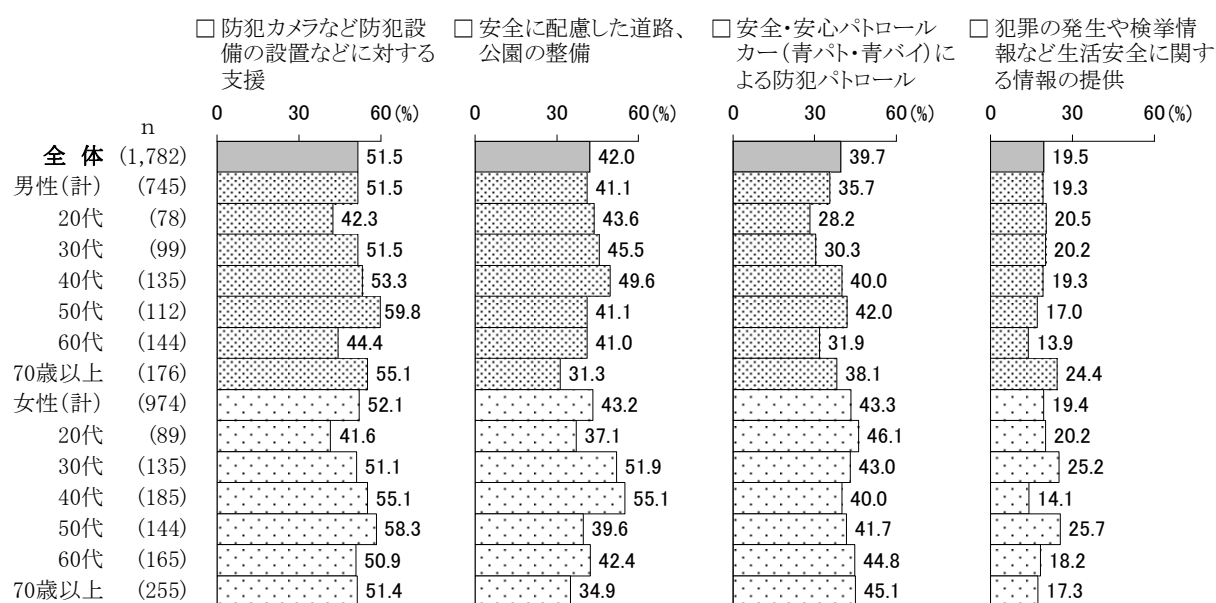
第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別でみると、女性では「安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール」が43.3%と、男性（35.7%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」は、30代から50代、70歳以上で5割を超えている。「安全に配慮した道路、公園の整備」は、40代で49.6%と高くなっている。また、「安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール」は、40代、50代、70歳以上で4割前後を占めている。

女性では、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」が、20代を除く各年代で5割を超えている。「安全に配慮した道路、公園の整備」は、30代、40代で、それぞれ51.9%、55.1%と高くなっている。また、「安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール」は、いずれの年代でも4割を超えている。

図7-6-3 性別、性・年代別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



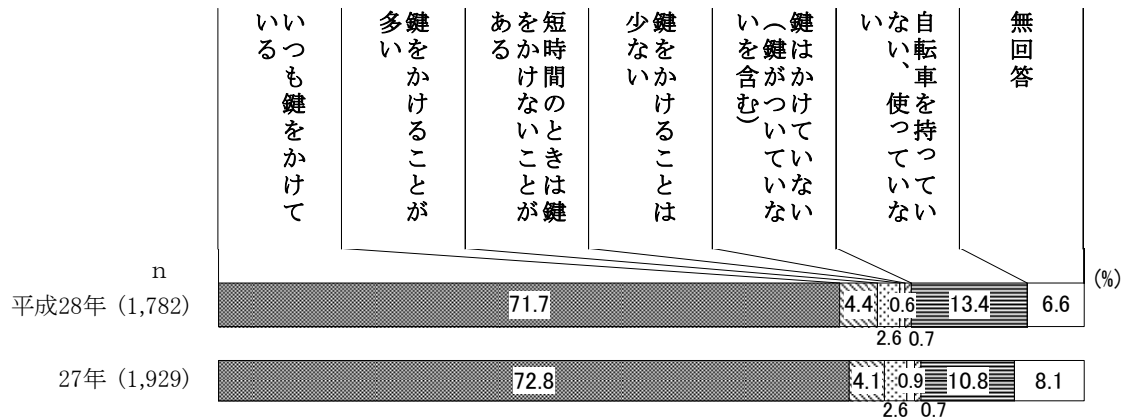
(7) 駐輪時の鍵かけ状況

■ 「いつも鍵をかけている」は、外出先7割強、敷地内6割弱と、傾向は変わらず

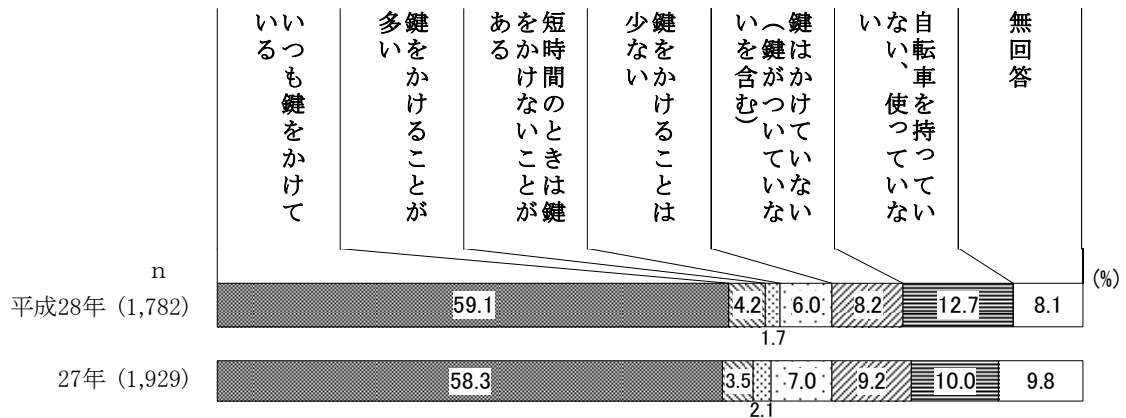
問31 あなたは、自転車を駐車するときには、自転車に鍵をかけていますか。
(○はそれぞれ1つつ)

図7-7-1 前回調査比較／駐輪時の鍵かけ状況

ア. 外出先で駐車するとき



イ. 自宅・マンションなどの敷地内に駐車するとき



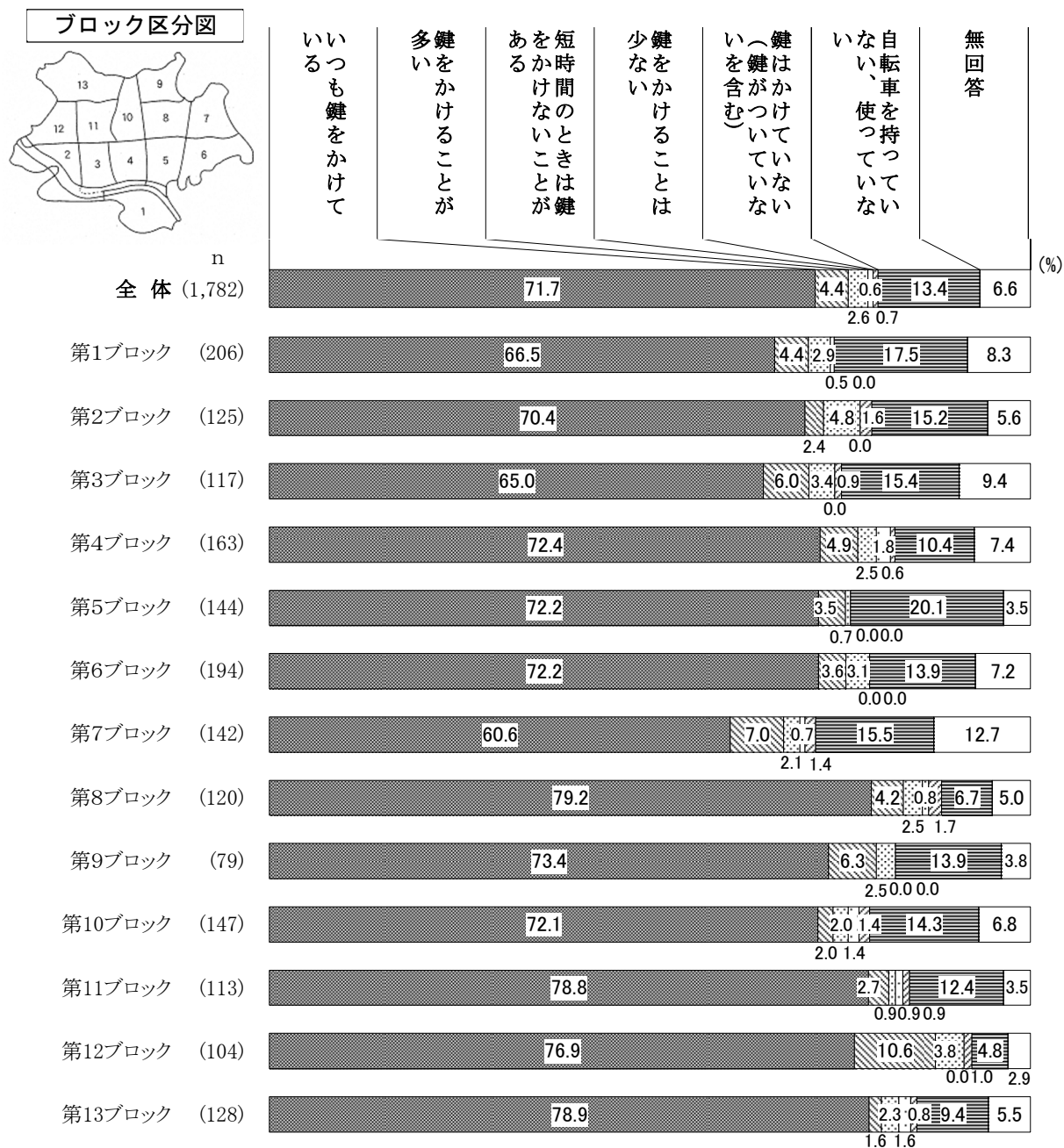
外出先で、自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているか、については「いつも鍵をかけている」が71.7%で最も高く、次いで「鍵をかけることが多い」(4.4%)となっている。一方、「短時間のときは鍵をかけないことがある」は2.6%、「鍵をかけることは少ない」は0.6%、「鍵はかけていない (鍵がついていないを含む)」は0.7%となっている。

自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているか、については、「いつも鍵をかけている」が59.1%で最も高く、次いで「鍵をかけることが多い」(4.2%)となっている。一方、「短時間のときは鍵をかけないことがある」は1.7%、「鍵をかけることは少ない」は6.0%、「鍵はかけていない (鍵がついていないを含む)」は8.2%となっている。

第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

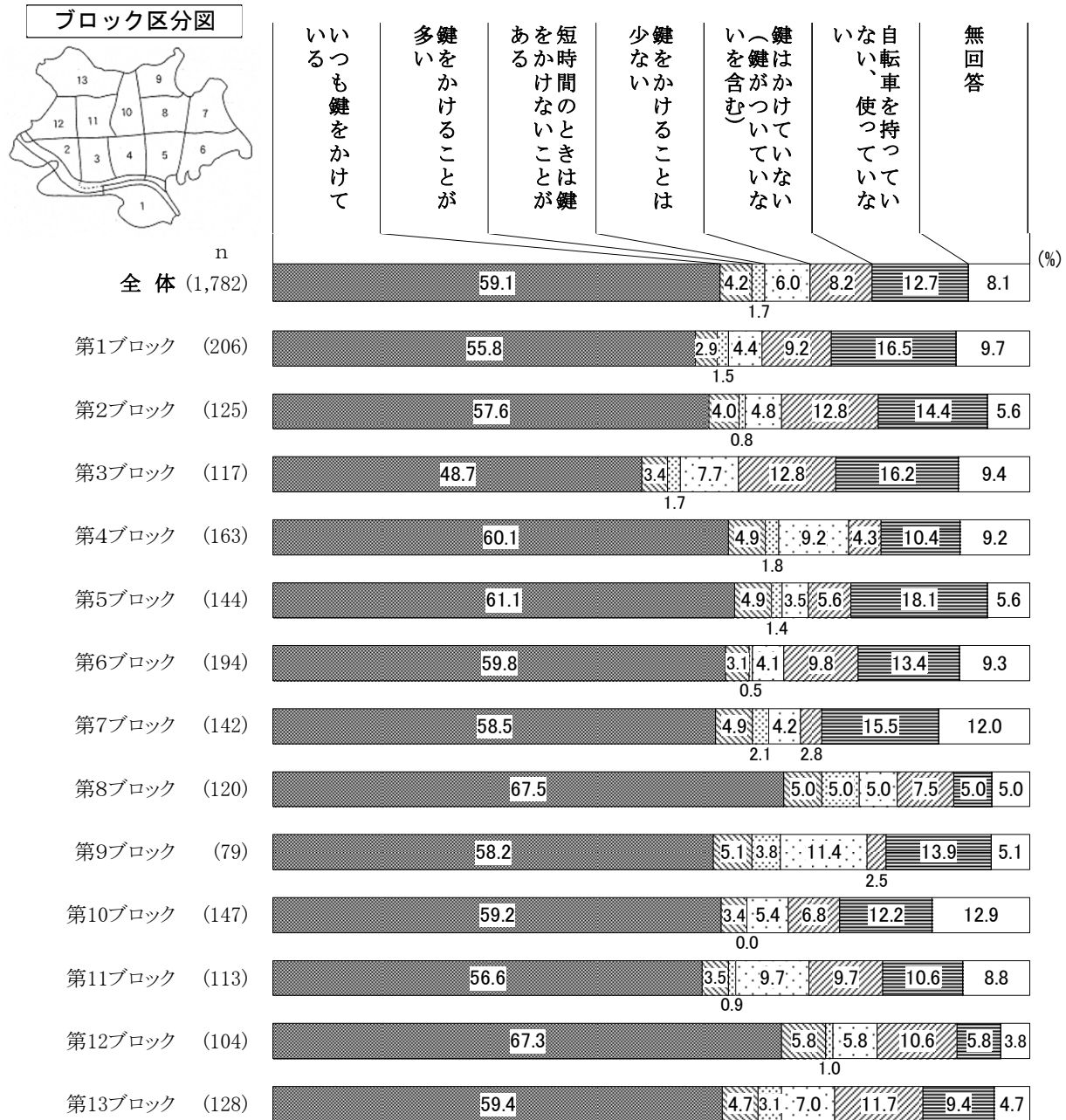
外出先で、自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、地域ブロック別で見ると、第8ブロック、第11ブロック、第13ブロックでは「いつも鍵をかけている」が8割近くを占めている。

図7-7-2-① 地域ブロック別／駐輪時の鍵かけ状況／外出先



自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、地域ブロック別でみると、第8ブロック、第12ブロックでは「いつも鍵をかけている」が6割台半ばを超えている。

図7-7-2-② 地域ブロック別／駐輪時の鍵かけ状況／敷地内

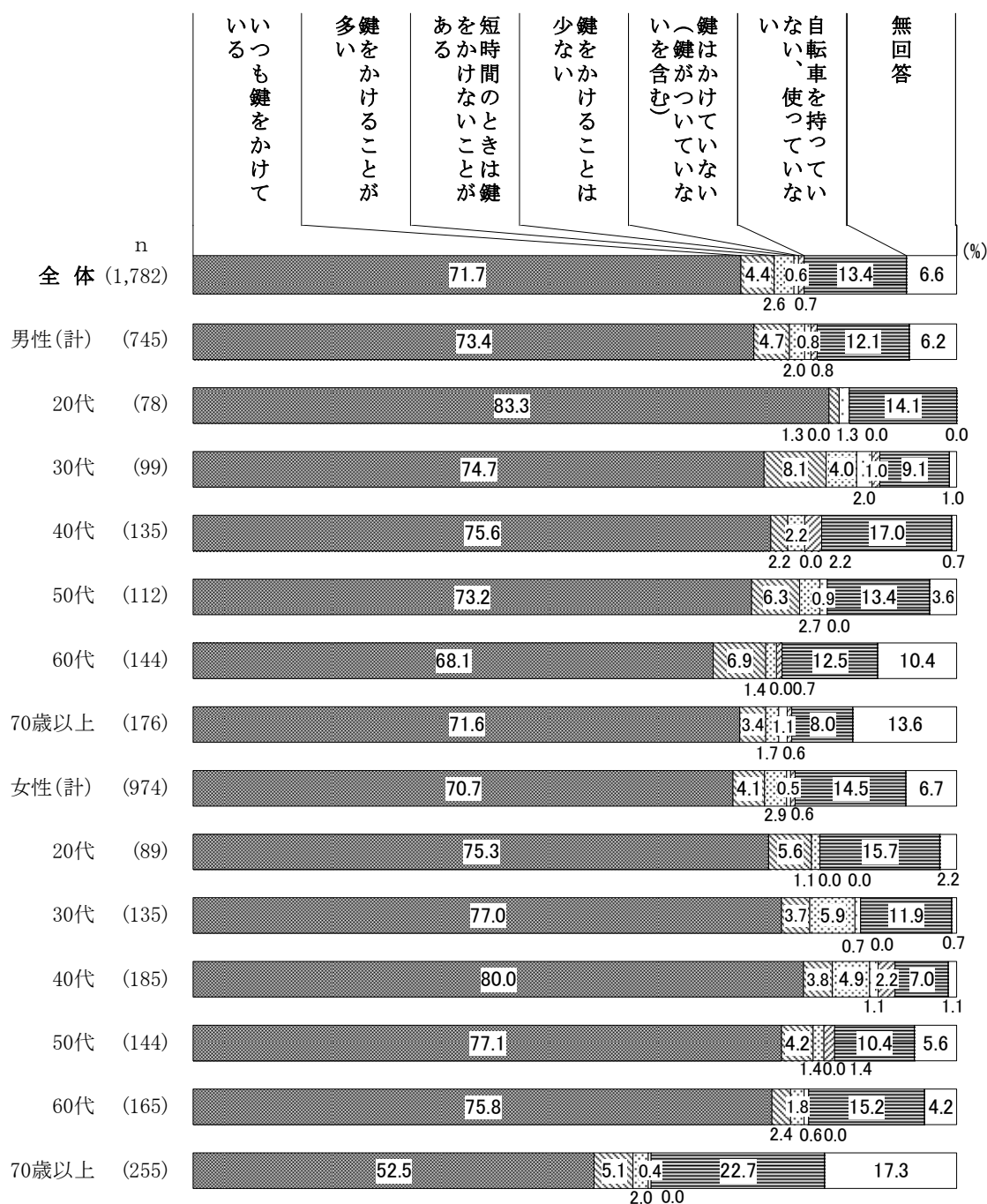


第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

外出先で、自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、性別でみると「いつも鍵をかけている」は男性73.4%、女性70.7%となっている。

性・年代別でみると、70歳以上の女性を除くと、男女各年代とも「いつも鍵をかけている」が高くなっている。

図7-7-3-① 性別、性・年代別／駐輪時の鍵かけ状況／外出先

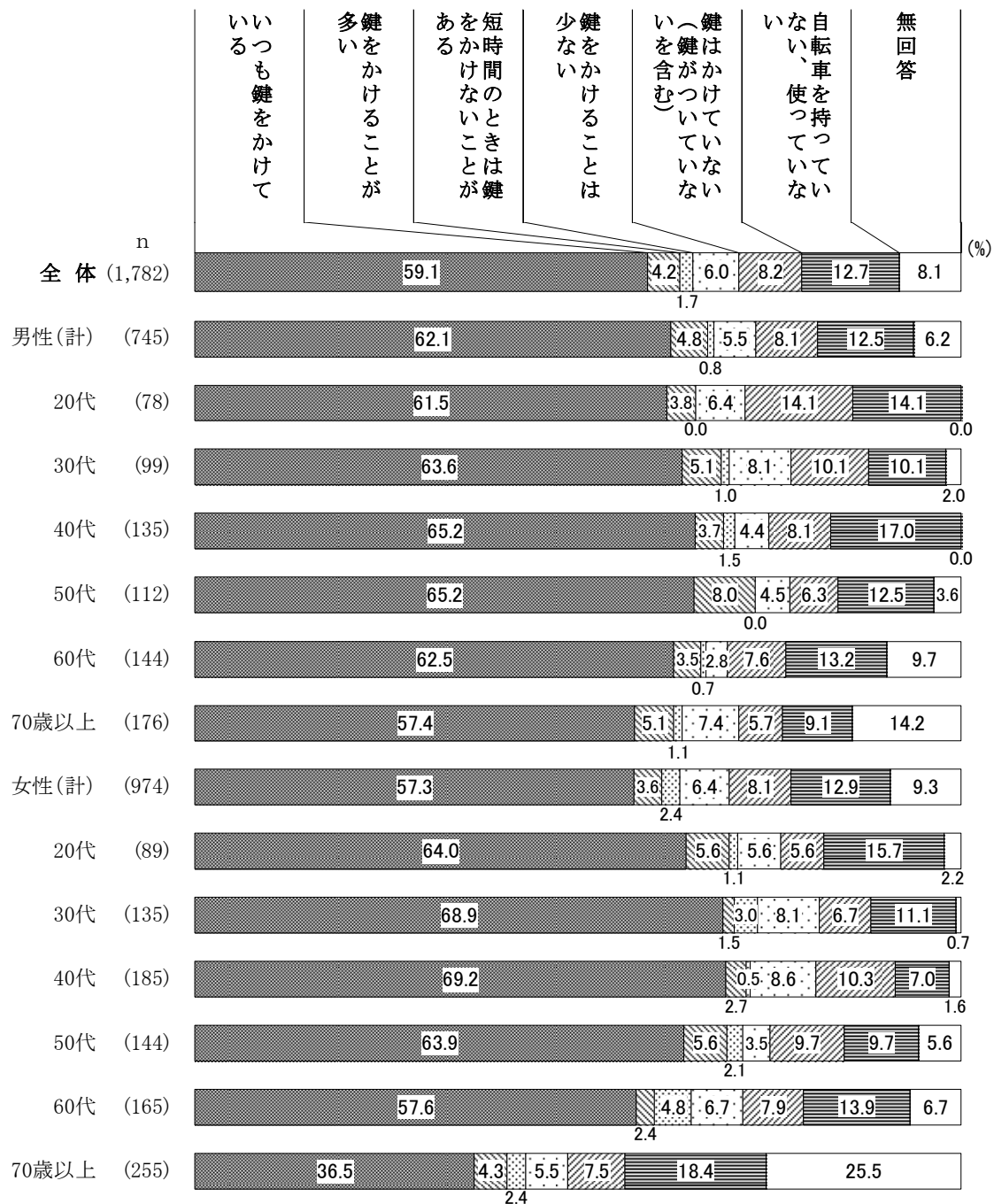


自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、性別でみると「いつも鍵をかけている」は男性62.1%、女性57.3%となっている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上を除く各年代で「いつも鍵をかけている」が6割を超えている。

女性では、20代から50代で「いつも鍵をかけている」が6割を超え、とくに30代、40代では7割近くを占めている。

図7-7-3-② 性別、性・年代別／駐輪時の鍵かけ状況／敷地内



8 環境・地域活動

-
- (1) 環境のために心がけていること
 - (2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向
 - (3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価
-

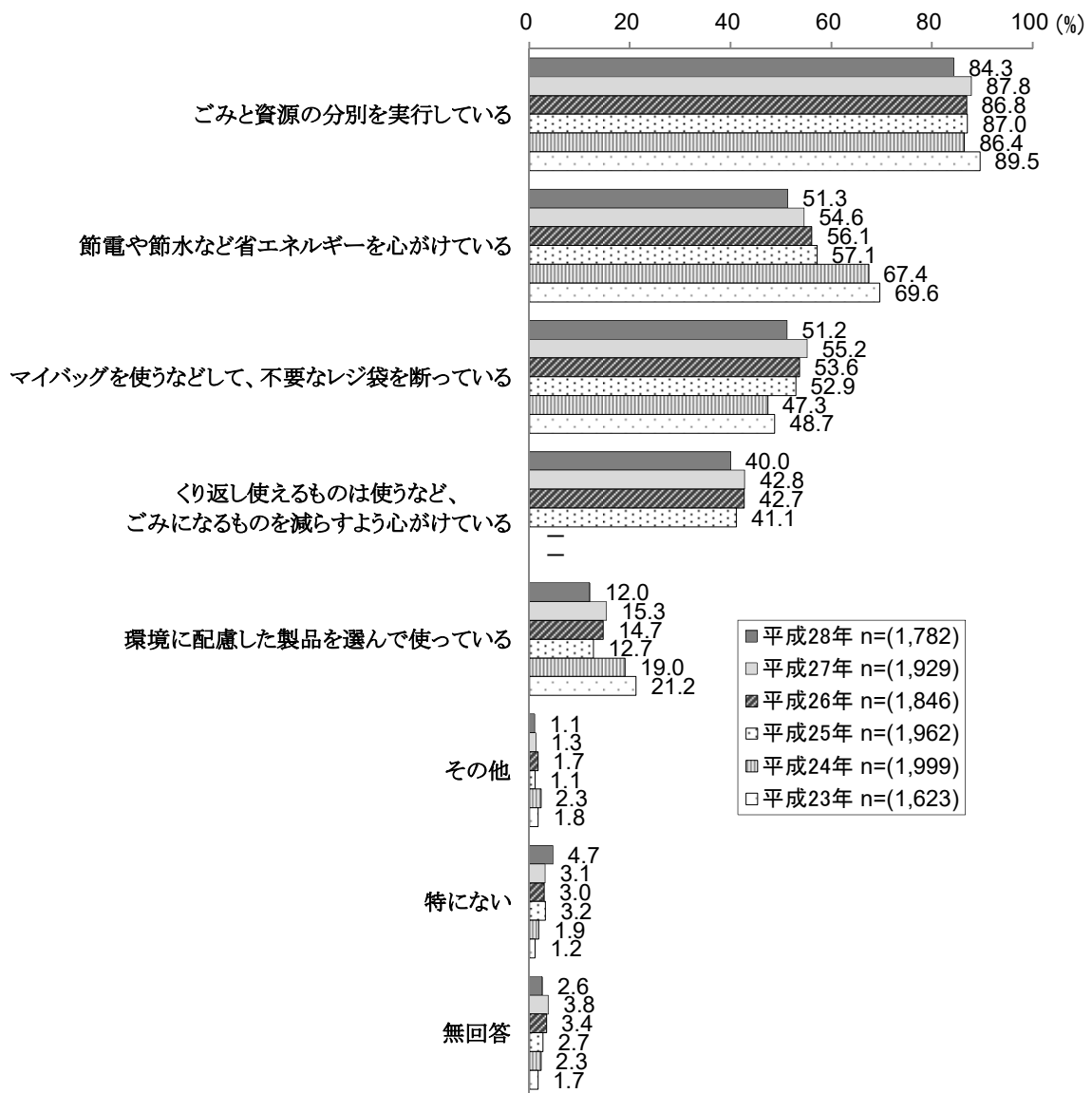
8. 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていること

■ “ごみの分別”は8割台半ばを維持、“省エネ”は減少傾向が顕著

問32 あなたが環境のために心がけていることは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

図8-1-1 経年比較／環境のために心がけていること



※「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」は、25年度新設。

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が84.3%で最も高く、以下「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(51.3%)、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(51.2%)の順となっている。

経年でみると、すべての項目で微減している。

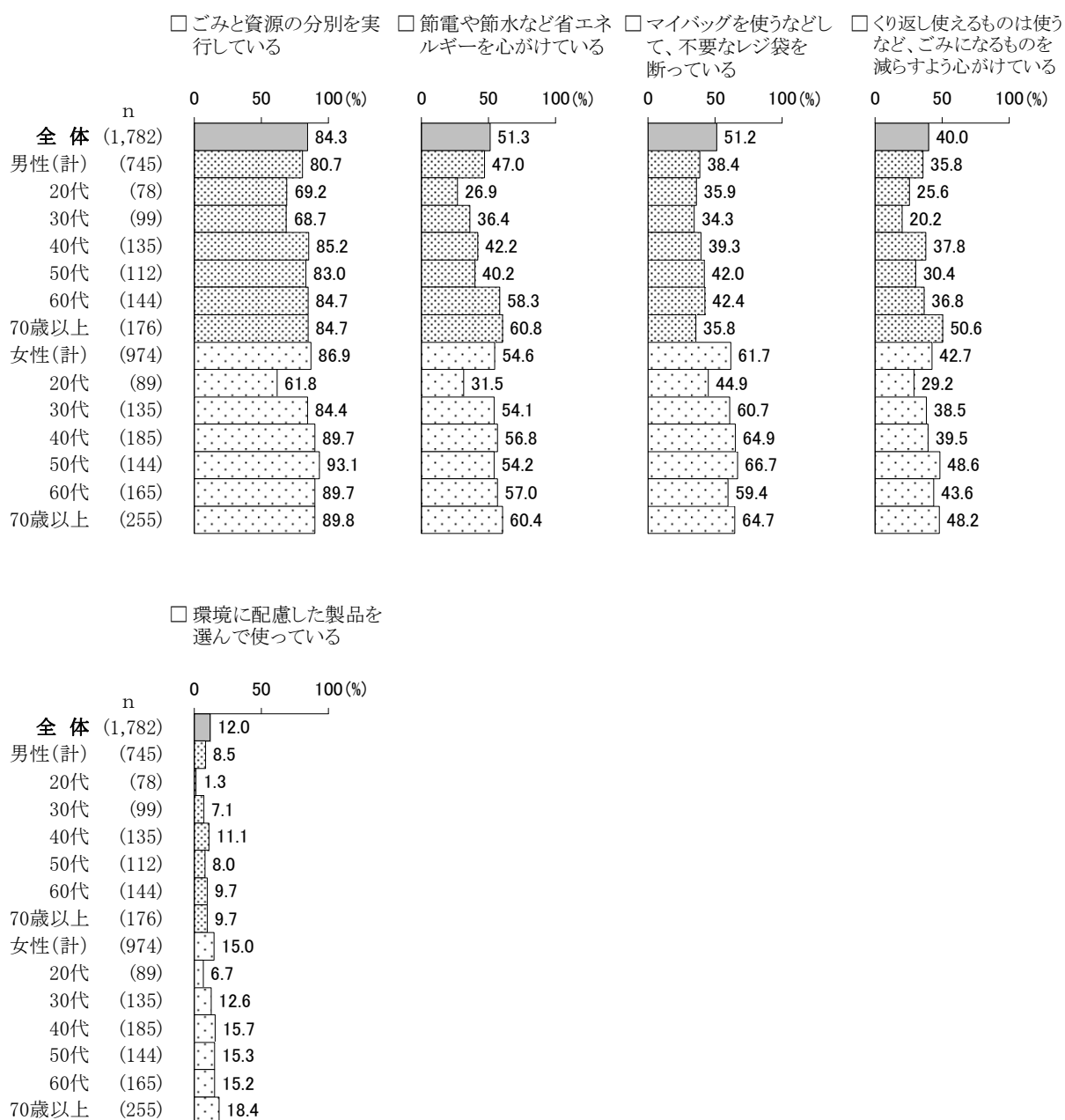
第3章 調査結果の分析 〈 環境・地域活動 〉

性別でみると、女性では、「ごみと資源の分別を実行している」が86.9%と、男性（80.7%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「ごみと資源の分別を実行している」は、40代から70歳以上で8割を超えている。「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、60代、70歳以上では6割前後となっている。

女性では、「ごみと資源の分別を実行している」は、40代以上で9割前後と高くなっている。「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」については、40代、50代、70歳以上で6割台半ばを占めている。

図8－1－2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること

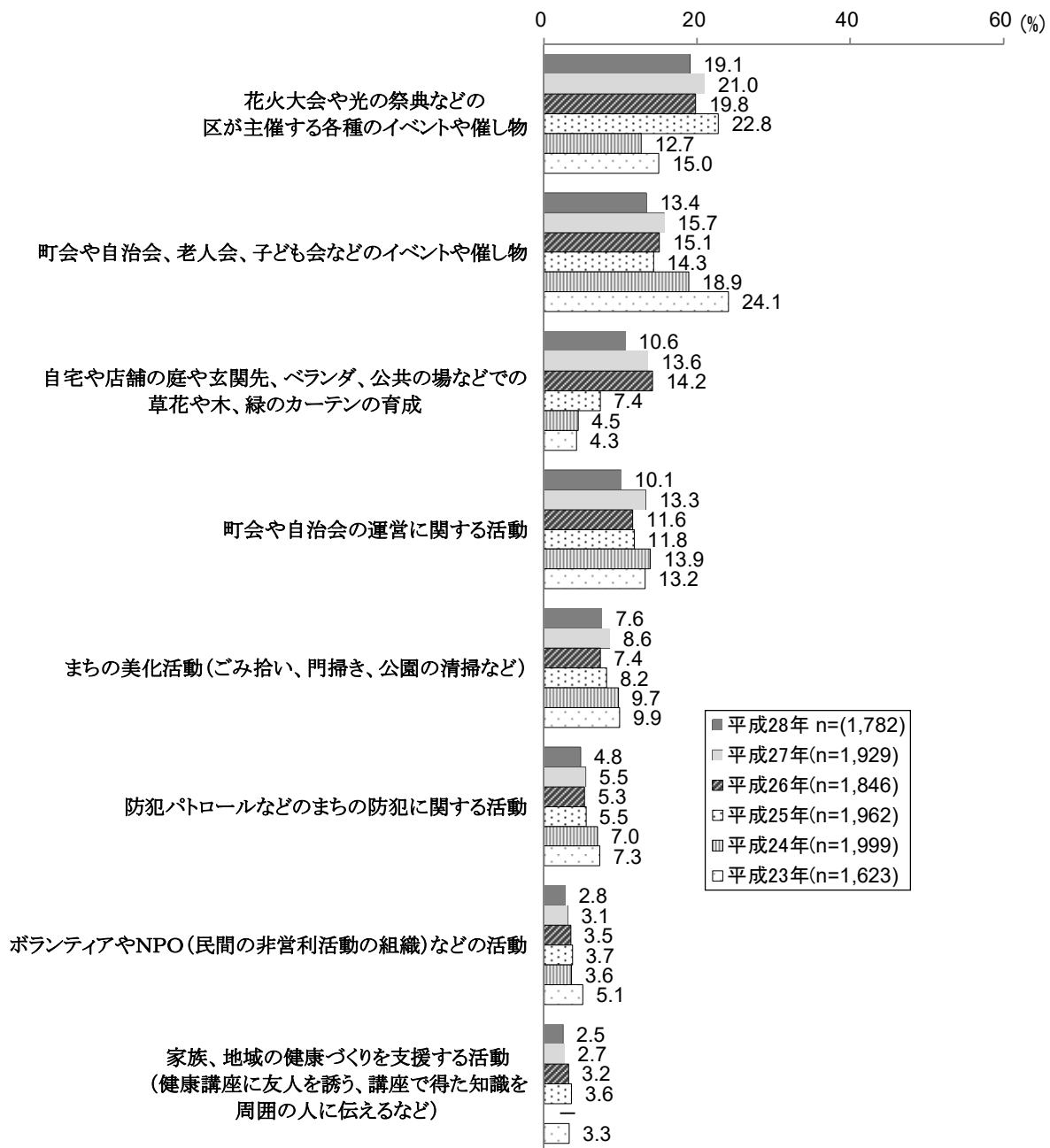


(2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向

■ 活動経験・参加意向とも“区が主催する各種のイベントや催し物”が最多

問33 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

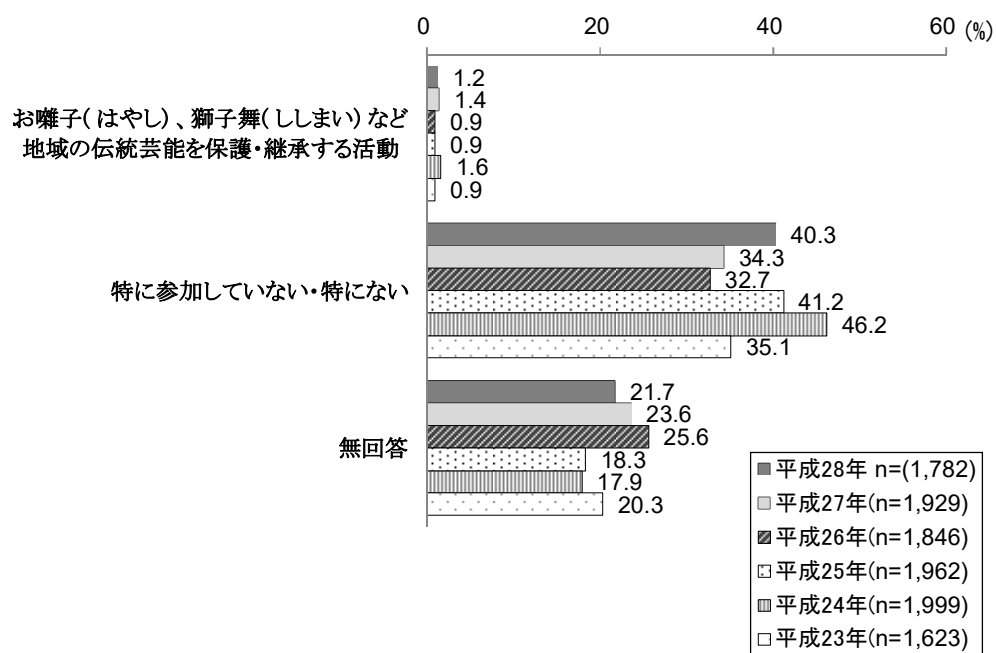
図8-2-1-① 経年比較／この1年間に参加した活動



※24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

※「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成」は、25年度まで「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

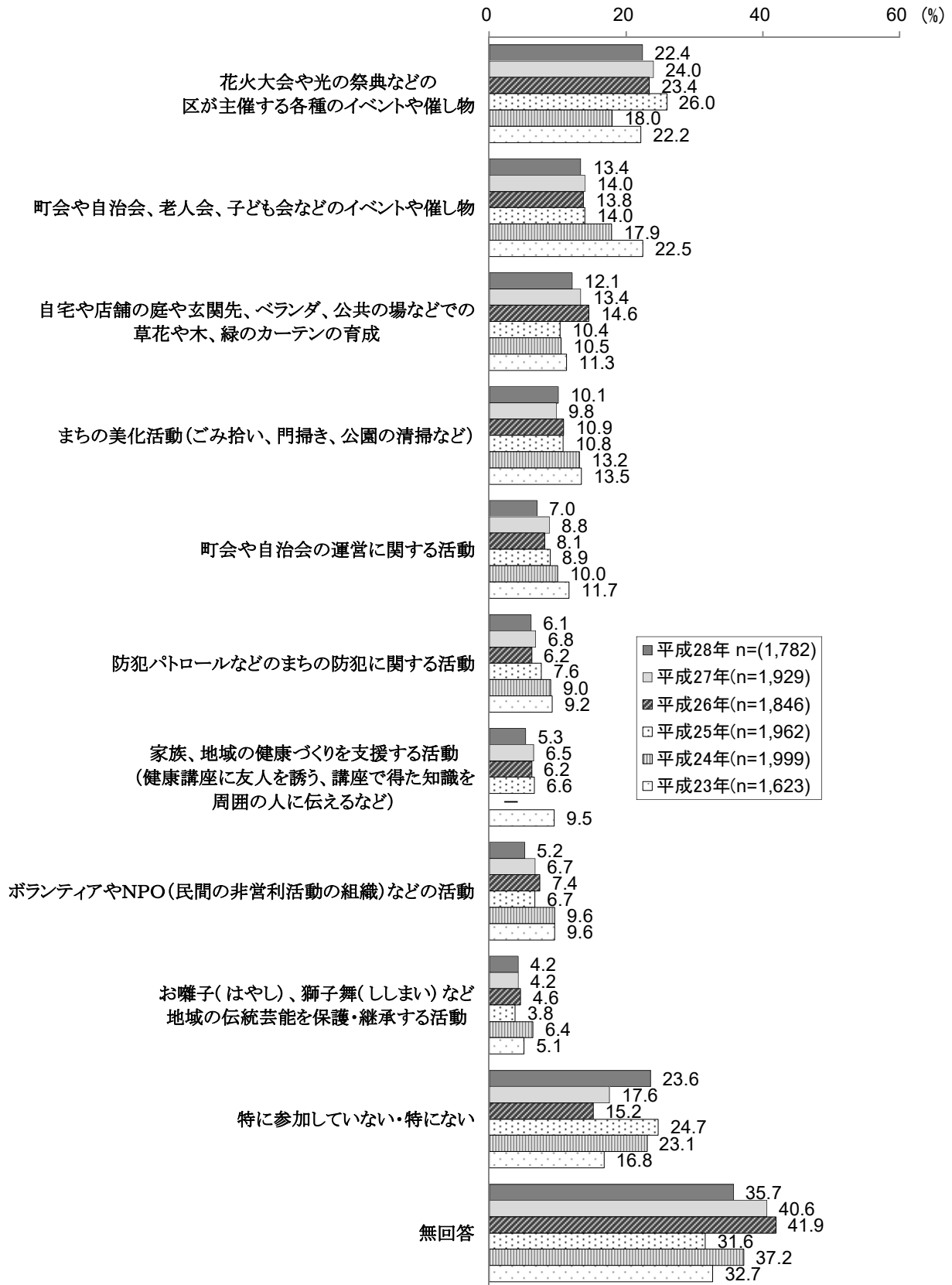
図8-2-1-② 経年比較／この1年間に参加した活動



この1年間で参加した活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が19.1%で最も高く、以下「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(13.4%)、「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」(10.6%)の順で続いている。

経年でみると、上位項目について、順位、数値に大きな変動はみられない。

図8-2-2-① 経年比較／今後の参加意向



※24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

※「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成」は、25年度まで「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

第3章 調査結果の分析〈環境・地域活動〉

今後、参加したい活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が22.4%で最も高く、以下「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」（13.4%）、「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」（12.1%）の順で続いている。

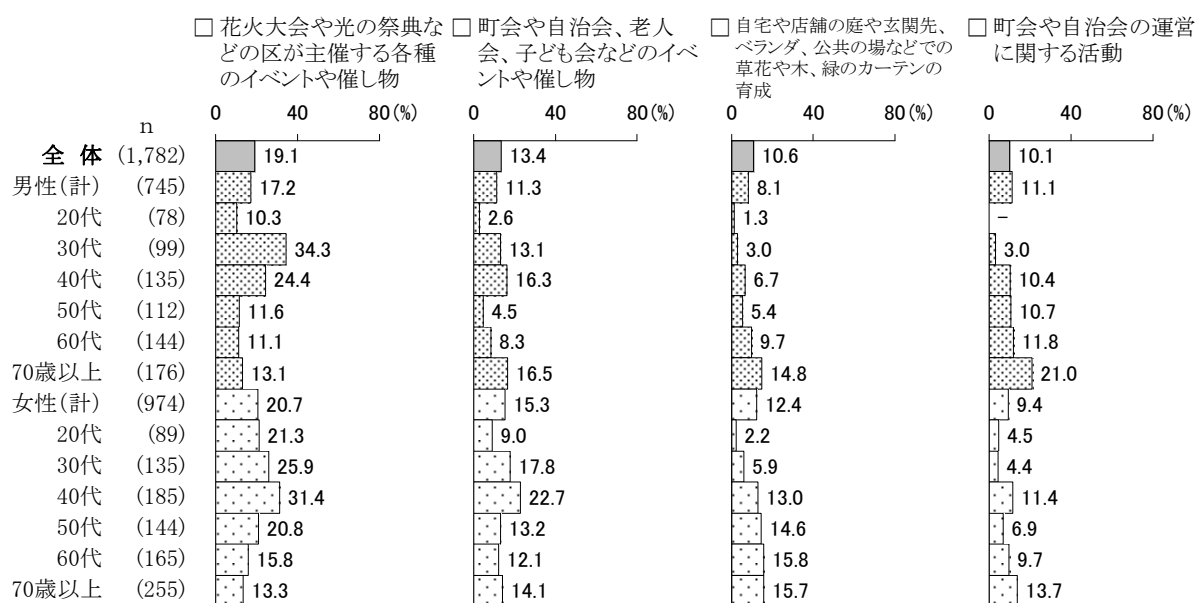
経年でみると、上位項目の順位、数値に大きな変動はみられない。

〈参加した活動〉について、性別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が男性17.2%、女性20.7%と、男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、男性では30代で「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が34.3%と高くなっているほか、40代でも24.4%となっている。

女性では、40代で「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が31.4%と高くなっているほか、20代、30代、50代でも2割を超えている。

図8-2-3 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動／上位4項目

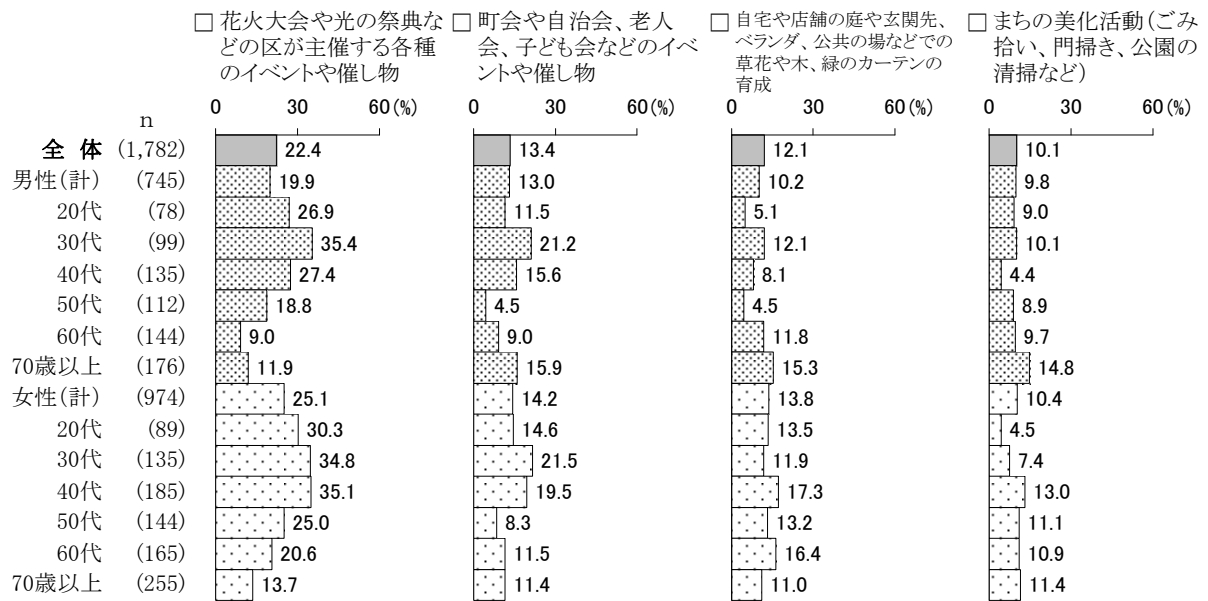


〈今後、参加したい活動〉について、性別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が男性19.9%、女性25.1%と、男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、男性では「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、30代で35.4%と高くなっているほか、20代、40代も2割を超えている。

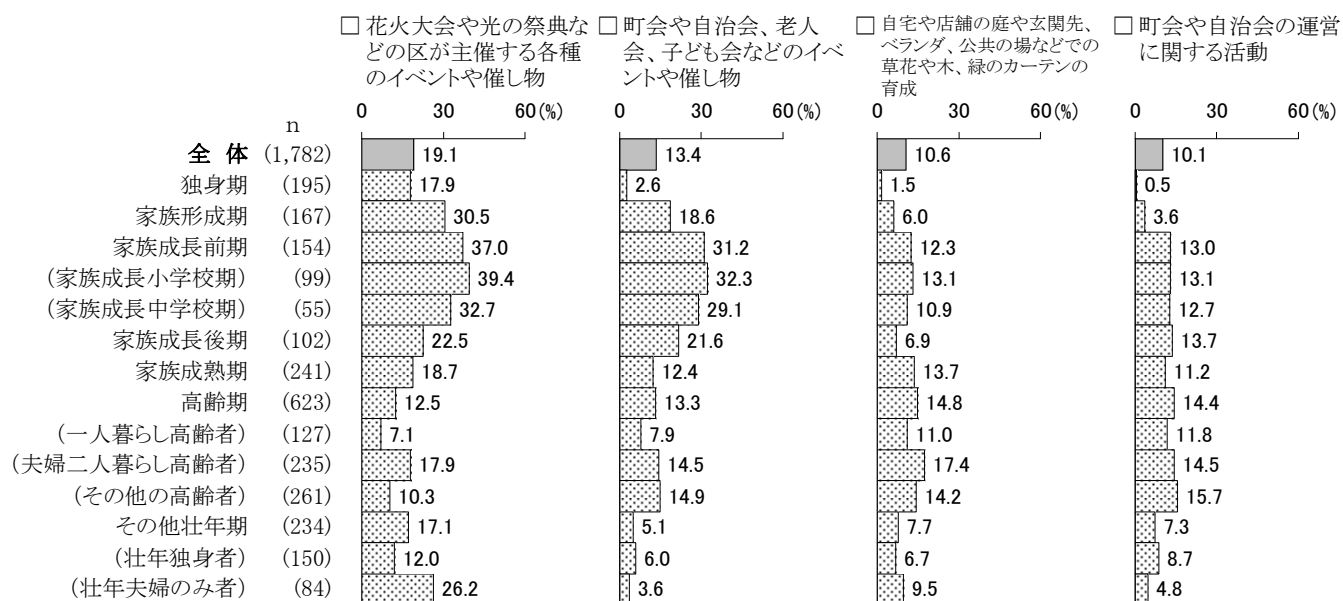
女性では、20代から40代で「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が3割を超え、他の年代より高くなっている。

図8-2-4 性別、性・年代別／今後の参加意向／上位4項目



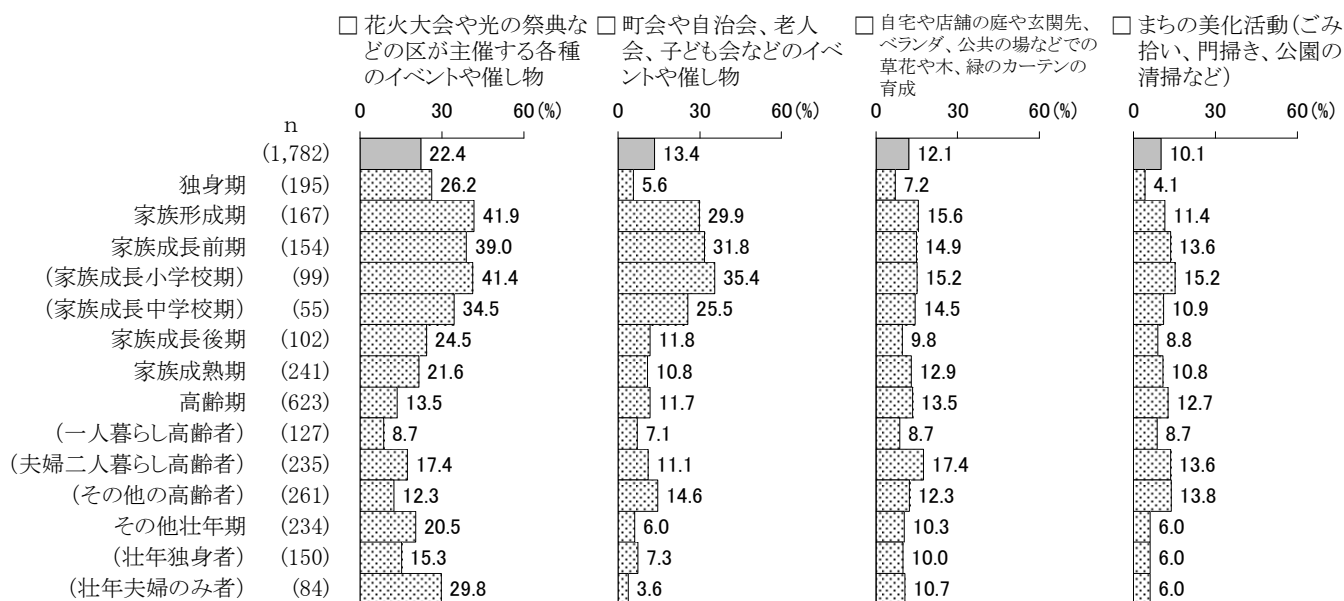
〈参加した活動〉について、ライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は、家族成長前期で37.0%と高くなっている。また、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」についても家族成長前期で31.2%となっている。

図8-2-5 ライフステージ別／この1年間に参加した活動／上位4項目



ライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は、家族形成期、家族成長前期で、それぞれ41.9%、39.0%と高くなっている。また、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」についても、家族形成期、家族成長前期で、それぞれ29.9%、31.8%と高くなっている。

図8-2-6 ライフステージ別／今後の参加意向／上位4項目

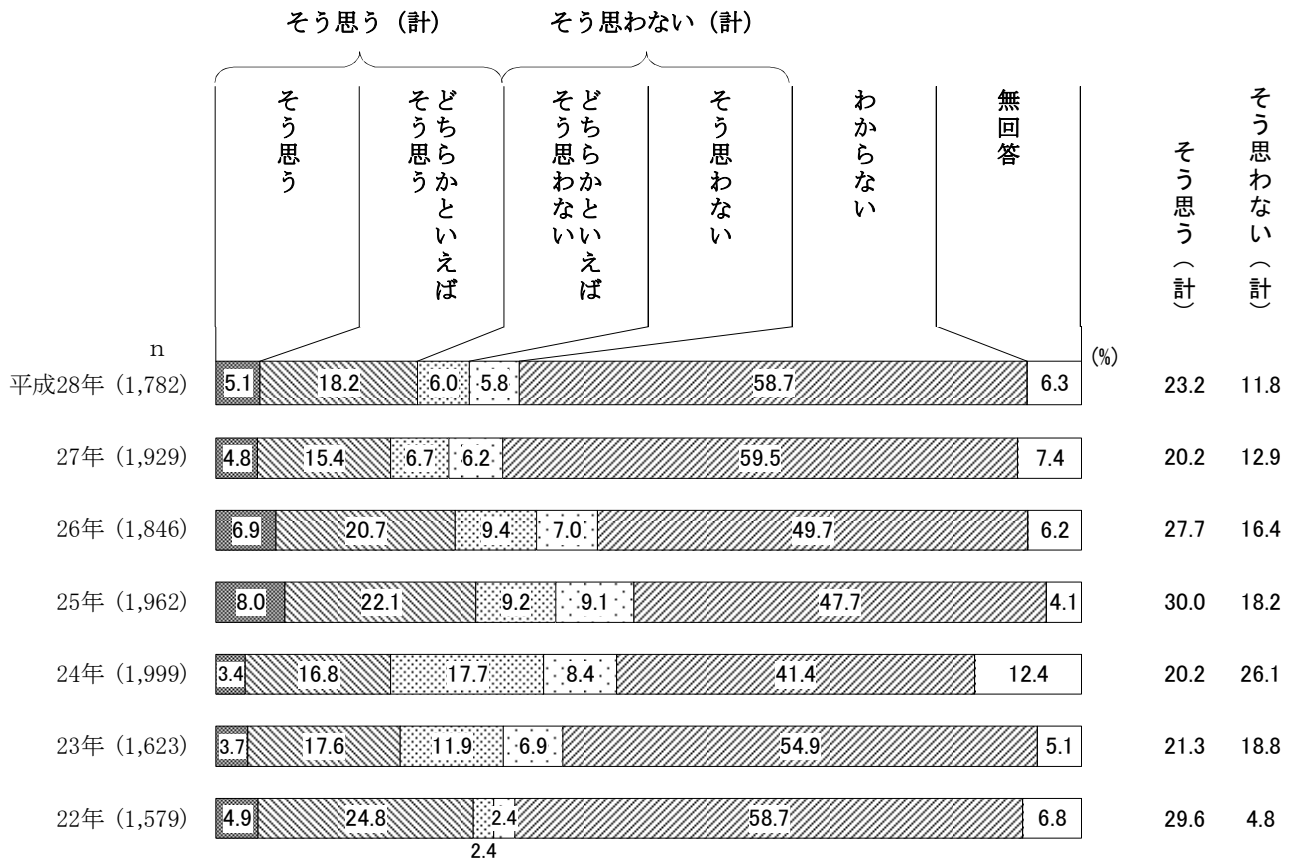


(3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価

■ 【そう思う】が微増も、「わからない」は依然6割弱

問34 あなたは、区役所が孤立ゼロプロジェクトやビューティフル・ウィンドウズ運動など区民・団体と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか（○は1つだけ）。

図8-3-1 経年比較／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価



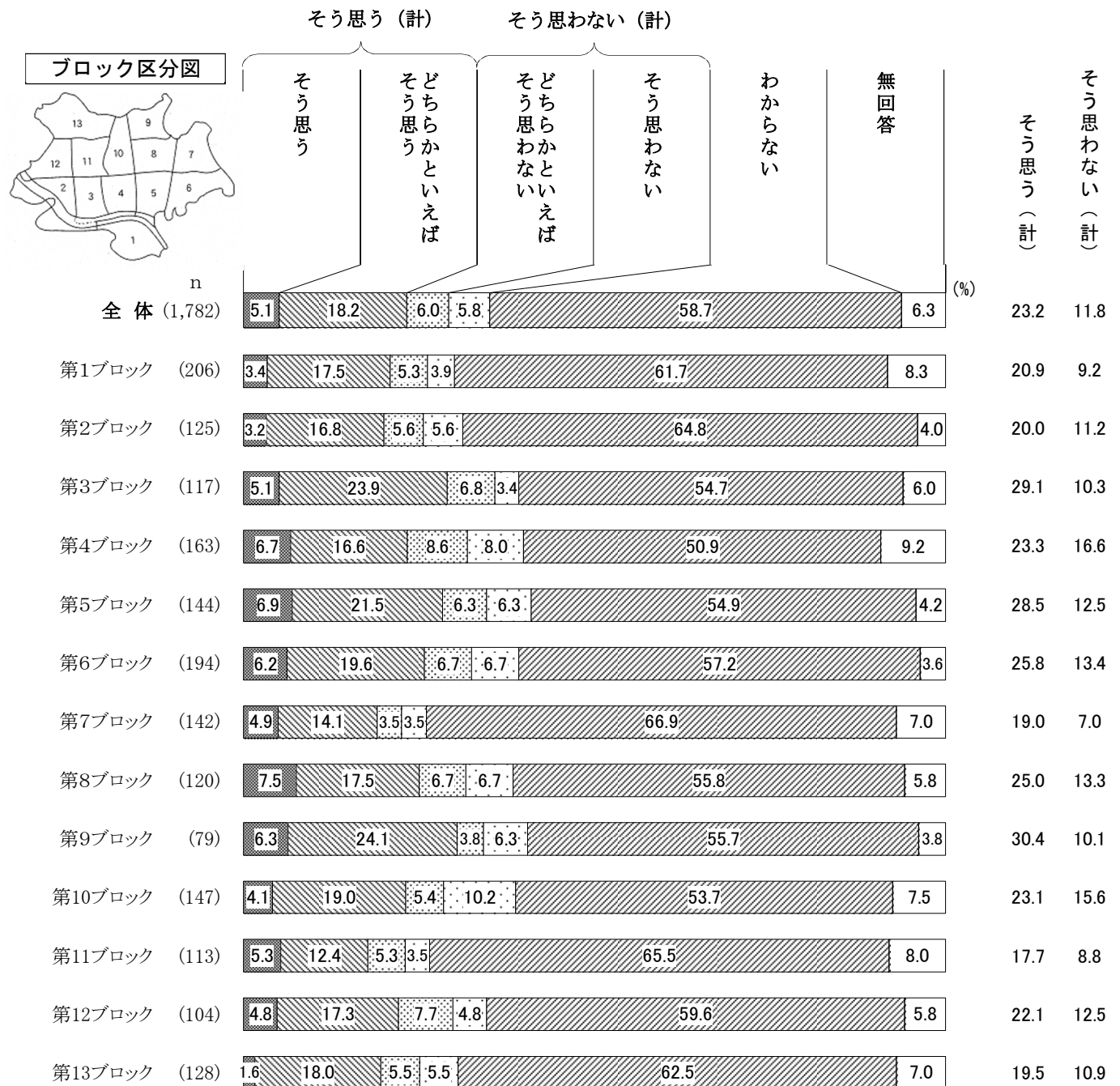
区役所が区民・団体と協力・連携（協働）して事業を進めていることについて、「そう思う」は5.1%で、これに「どちらかといえばそう思う」の18.2%を合わせた【そう思う】は23.2%となっている。一方、「どちらかといえば、そう思わない」(6.0%)と「そう思わない」(5.8%)を合わせた【そう思わない】は11.8%となっている。また、「わからない」が58.7%と、6割近くを占めている。

経年でみると、【そう思う】は今回23.2%と、平成27年の20.2%から3.0ポイント微増している。

第3章 調査結果の分析〈環境・地域活動〉

地域ブロック別でみると、【そう思う】は、第3ブロック、第9ブロックで、それぞれ29.1%、30.4%と、他のブロックよりやや高くなっている。

図8-3-2 地域ブロック別／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価



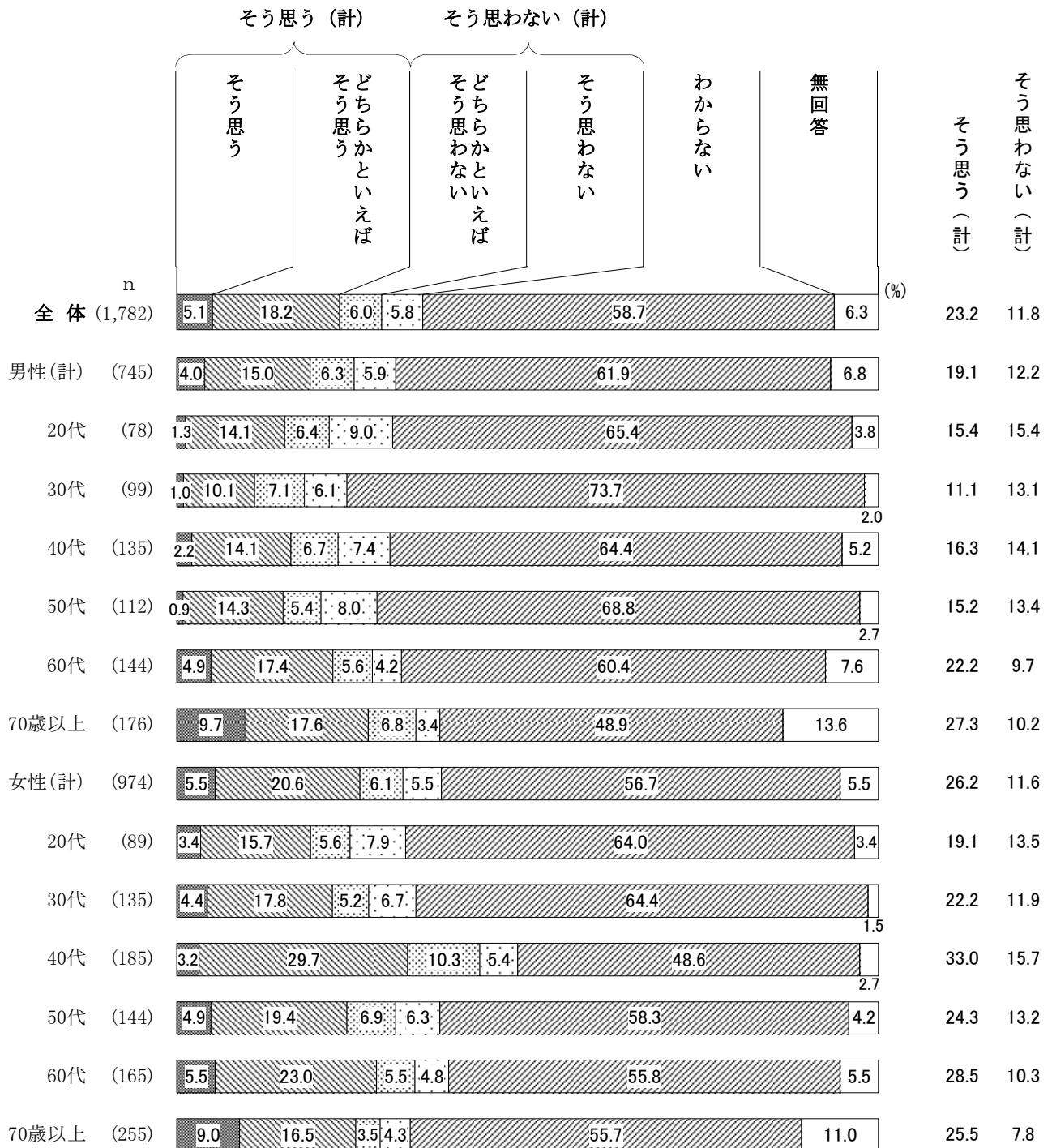
性別でみると、【そう思う】は男性19.1%、女性26.2%と、男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で【そう思う】が27.3%と、他の年代より高くなっている。

女性では、40代で【そう思う】が33.0%と、他の年代より高くなっている。

図8-3-3 性別、性・年代別

／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価



9 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路
 - (3) 「地域包括支援センター」の認知状況
 - (4) 「地域包括支援センター」の認知経路
 - (5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (6) 協力意向がある活動内容
 - (7) 「成年後見制度」の認知状況
-

9. 「孤立ゼロプロジェクト」など

(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

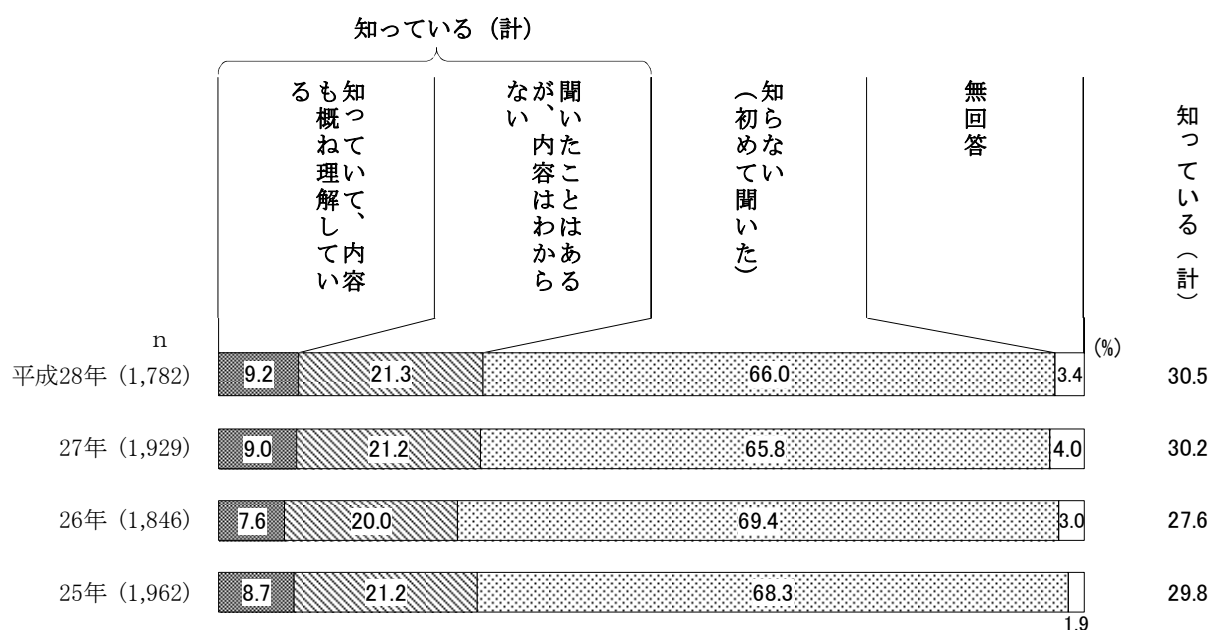
■ 【知っている】が3割

問35 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか。

（○は1つだけ）

※ 「孤立ゼロプロジェクト」とは地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



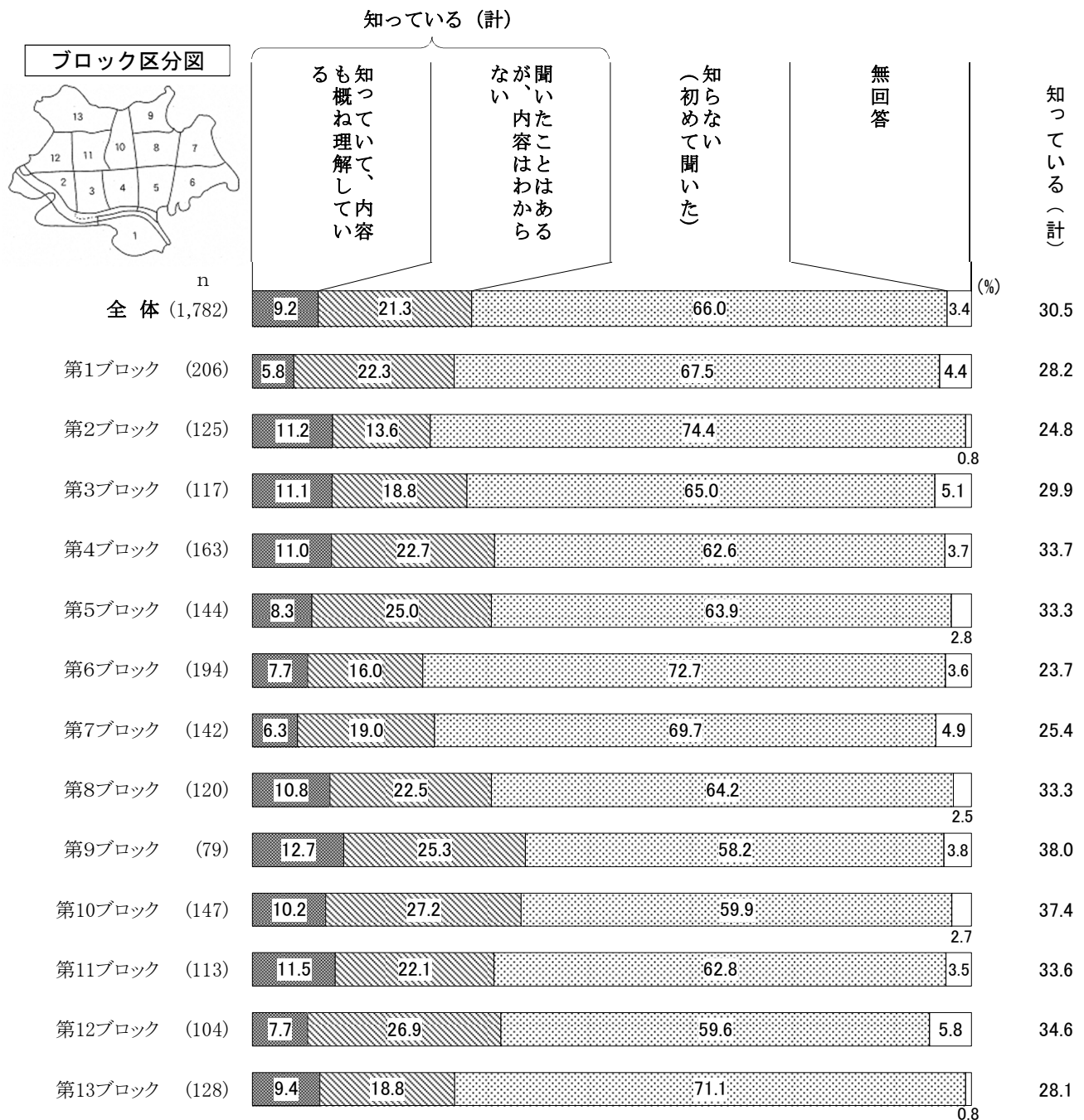
「孤立ゼロプロジェクト」について、「知っていて、内容も概ね理解している」が9.2%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の21.3%を合わせた【知っている】は30.5%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は66.0%を占めている。

経年でみると、【知っている】は今回30.5%と、ほぼ横ばい状態となっている。

第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域ブロック別でみると、【知っている】は、第9ブロック、第10ブロックで、それぞれ38.0%、37.4%と高くなっている。地区ブロック間の差は、第9ブロックと第6ブロックの間で最も大きく、両者の間には14.3ポイントの差がある。

図9-1-2 地域ブロック別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

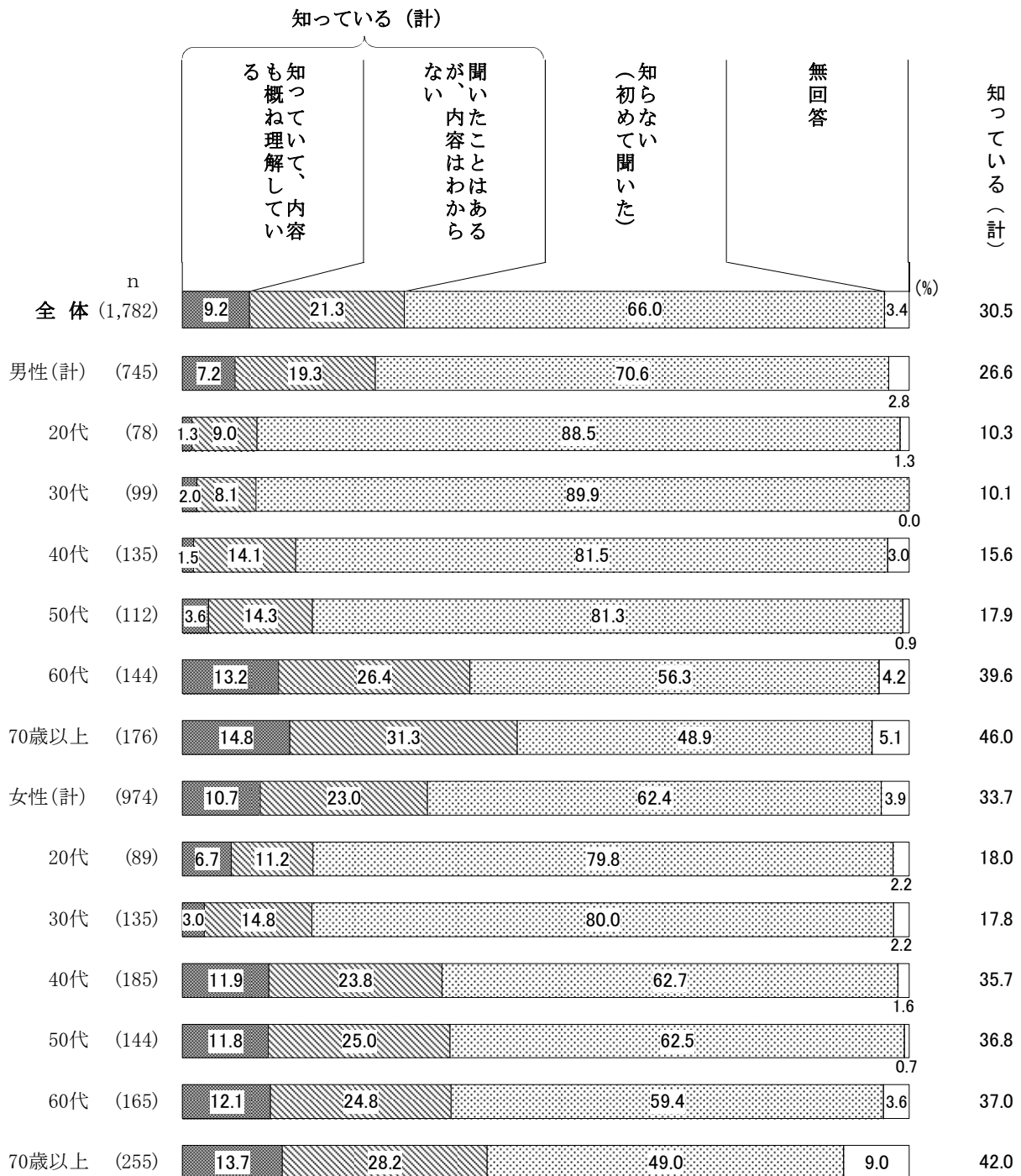


性別でみると、【知っている】は男性26.6%、女性33.7%と、男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では【知っている】は加齢とともに増加し、60代で39.6%、70歳以上で46.0%となっている。

女性でも、ほぼ同様の増加傾向を示し、60代で37.0%、70歳以上で42.0%となっている。

図9-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



(2)「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路

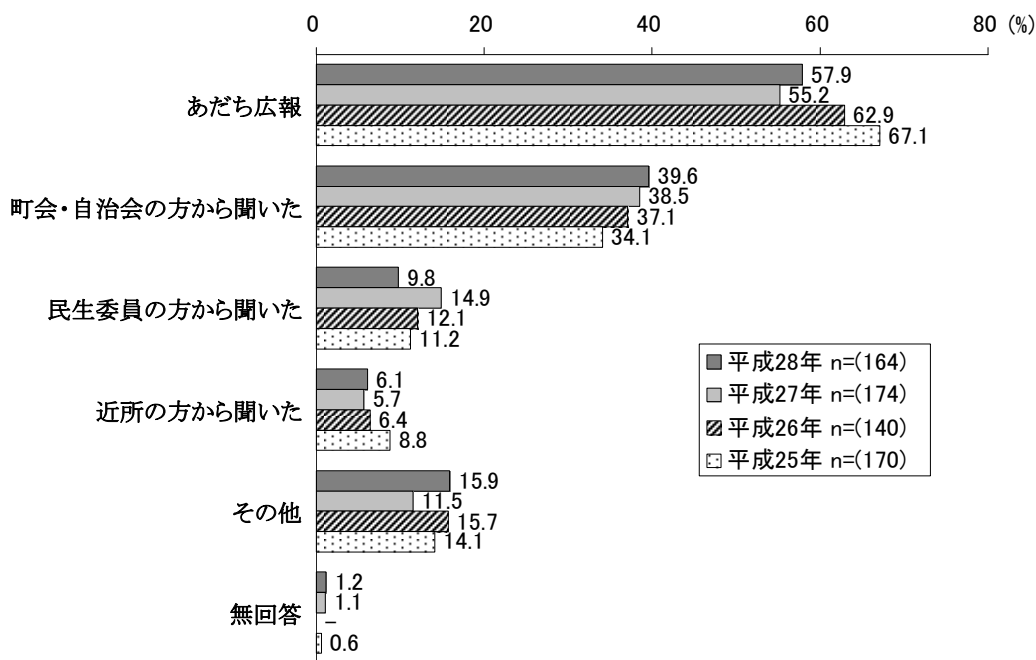
■ 「あだち広報」が5割台後半、次位「町会・自治会の方から聞いた」は4割弱も増加傾向

問35で「1. 知っていて、内容も概ね理解している」とお答えの方に

問35-1 プロジェクトのことをどのようにして知りましたか。

(○はあてはまるものすべて)

図9-2-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路

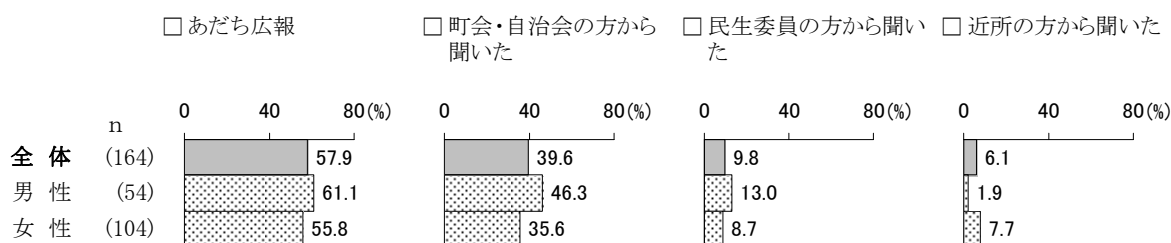


「知っていて、内容も概ね理解している」人に、情報媒体を聞いたところ、「あだち広報」が57.9%で最も高く、次いで「町会・自治会の方から聞いた」(39.6%)となっている。

経年でみると、「あだちと広報」は今回57.9%と、平成27年の55.2%から2.7ポイント微増している。

性別でみると、男性では「あだち広報」が61.1%と、女性(55.8%)より高くなっている。また、男性では「町会・自治会の方から聞いた」が46.3%と、女性(35.6%)を上回っている。

図9-2-2 性別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路



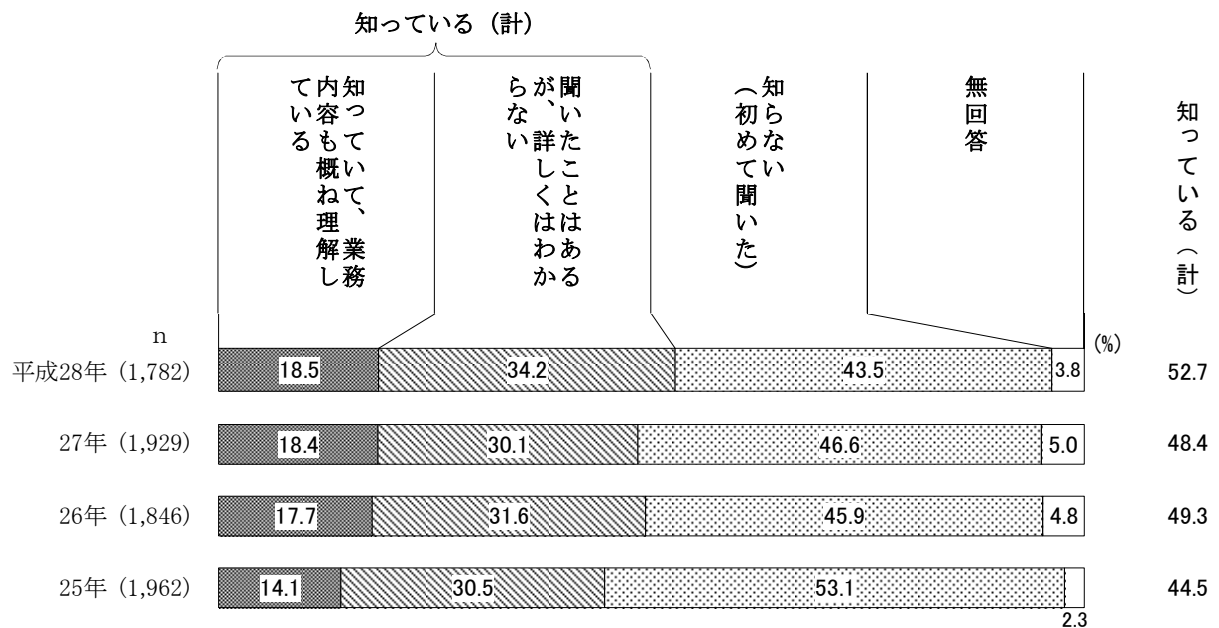
（3）「地域包括支援センター」の認知状況

■ 【知っている】が半数を超える

問36 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※ 「地域包括支援センター」とは足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

図9-3-1 経年比較／「地域包括支援センター」の認知状況



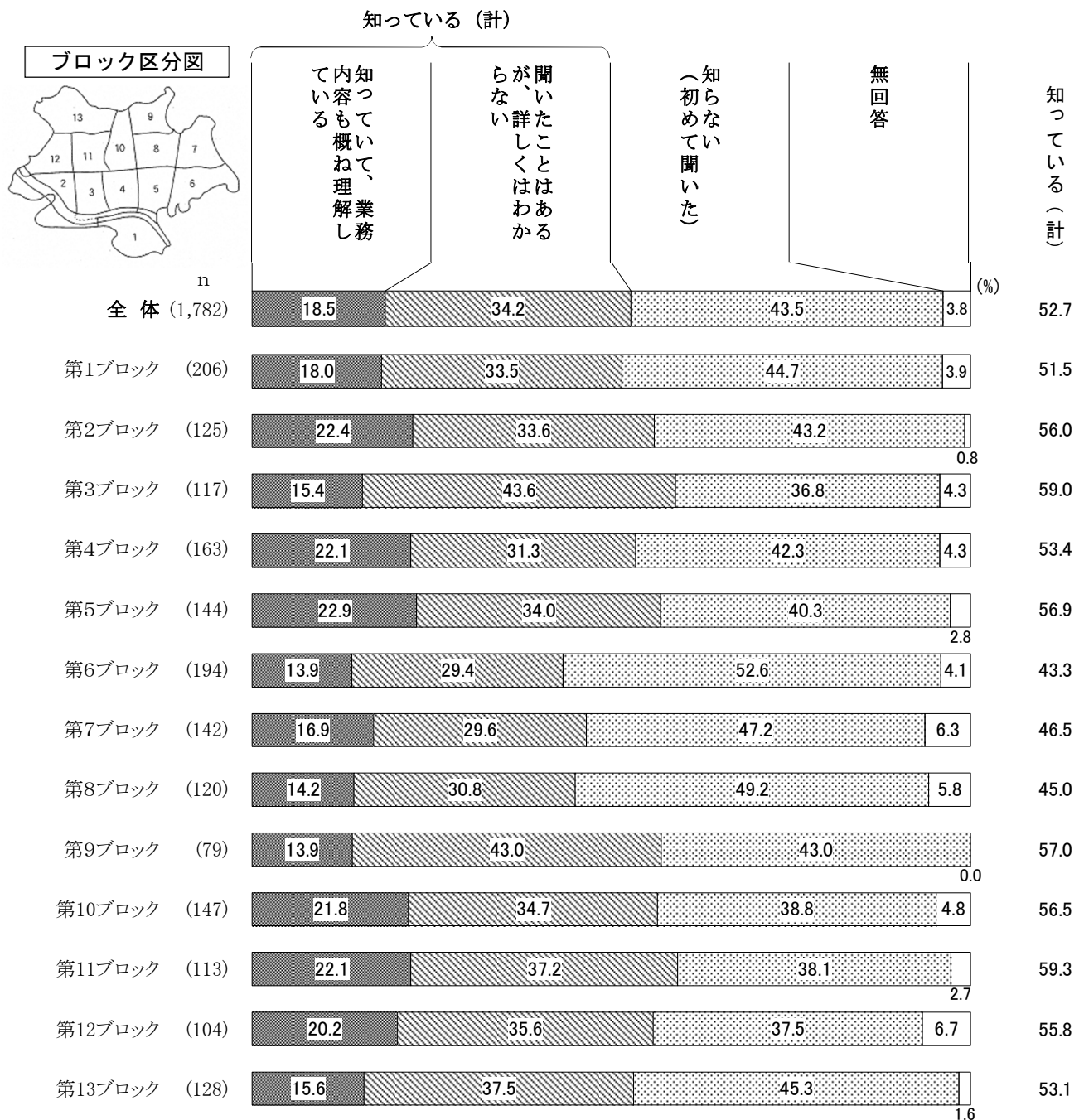
「地域包括支援センター」について、「知っていて、業務内容も概ね理解している」が18.5%で、これに「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」の34.2%を合わせると【知っている】は52.7%である。一方、「知らない（初めて聞いた）」は43.5%を占めている。

経年でみると、【知っている】は今回52.7%と、平成27年の48.4%から4.3ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

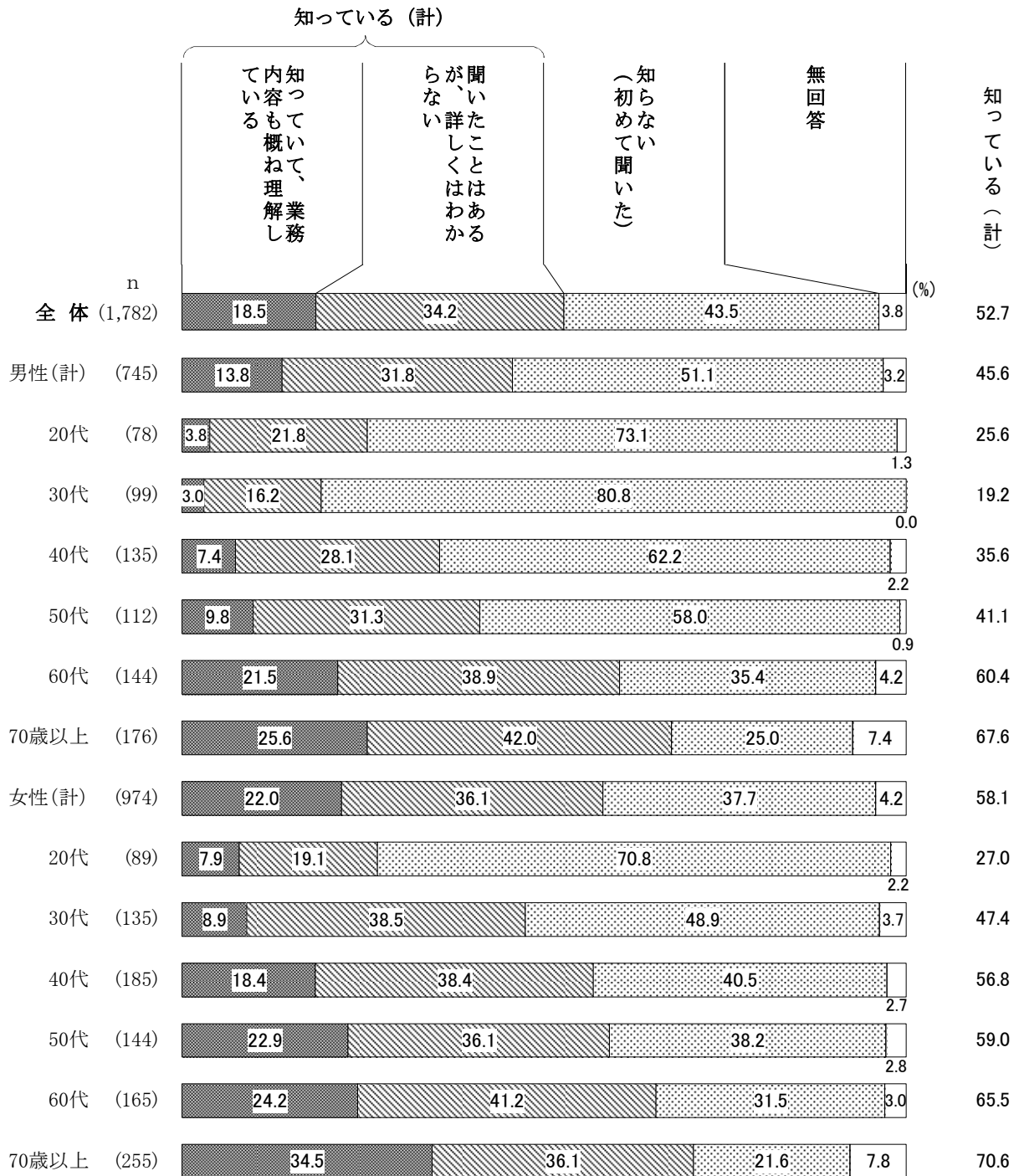
地域ブロック別でみると、第11ブロックで【知っている】が59.3%と、6割近くを占めているほか、第6ブロックから第8ブロックを除く、全ブロックで5割を超えている。

図9-3-2 地域ブロック別／「地域包括支援センター」の認知状況



性別でみると、【知っている】は男性45.6%、女性58.1%と、男性より女性で高くなっている。
 性・年代別でみると、男性では、60代、70歳以上で【知っている】が、それぞれ60.4%、
 67.6%と高くなっている。
 女性では、加齢とともに【知っている】が増加し、70歳以上では70.6%となっている。

図9-3-3 性別、性・年代別／「地域包括支援センター」の認知状況



(4)「地域包括支援センター」の認知経路

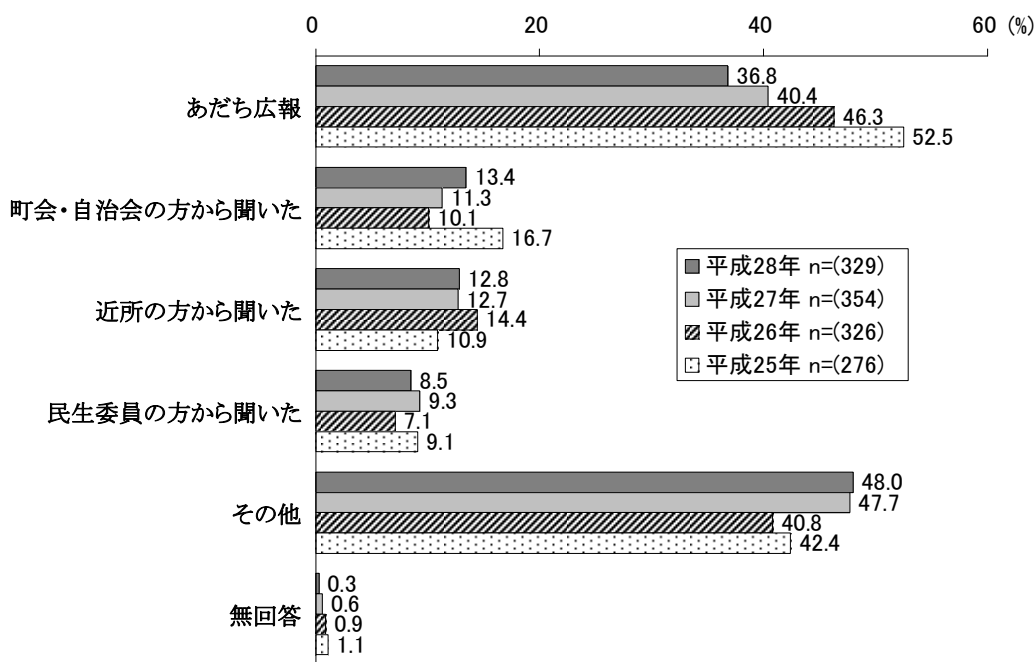
■ 「あだち広報」が3割台半ばも減少傾向が顕著

問36で「1. 知っていて、業務内容も概ね理解している」とお答えの方に

問36-1 「地域包括支援センター」のことをどのようにして知りましたか。

(○はあてはまるものすべて)

図9-4-1 経年比較／「地域包括支援センター」の認知経路

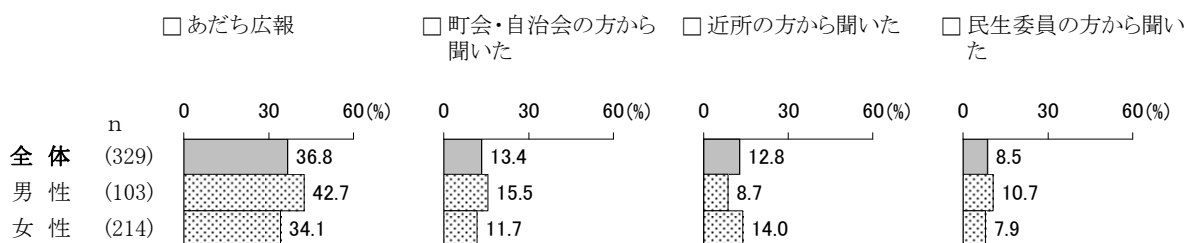


「知っていて、業務内容も概ね理解している」という人に、情報媒体を聞いたところ、「あだち広報」が36.8%で最も高く、以下「町会・自治会の方から聞いた」(13.4%)、「近所の方から聞いた」(12.8%)の順で続いている。

経年でみると、「あだち広報」は今回36.8%と、平成27年の40.4%より3.6ポイント低く、平成25年以降、減少傾向が続いている。

性別でみると、「あだち広報」は男性42.7%、女性34.1%と、男性が女性より高くなっている。また、「町会・自治会の方から聞いた」「民生委員の方から聞いた」についても、男性が女性より高くなっている。

図9-4-2 性別／「地域包括支援センター」の認知経路

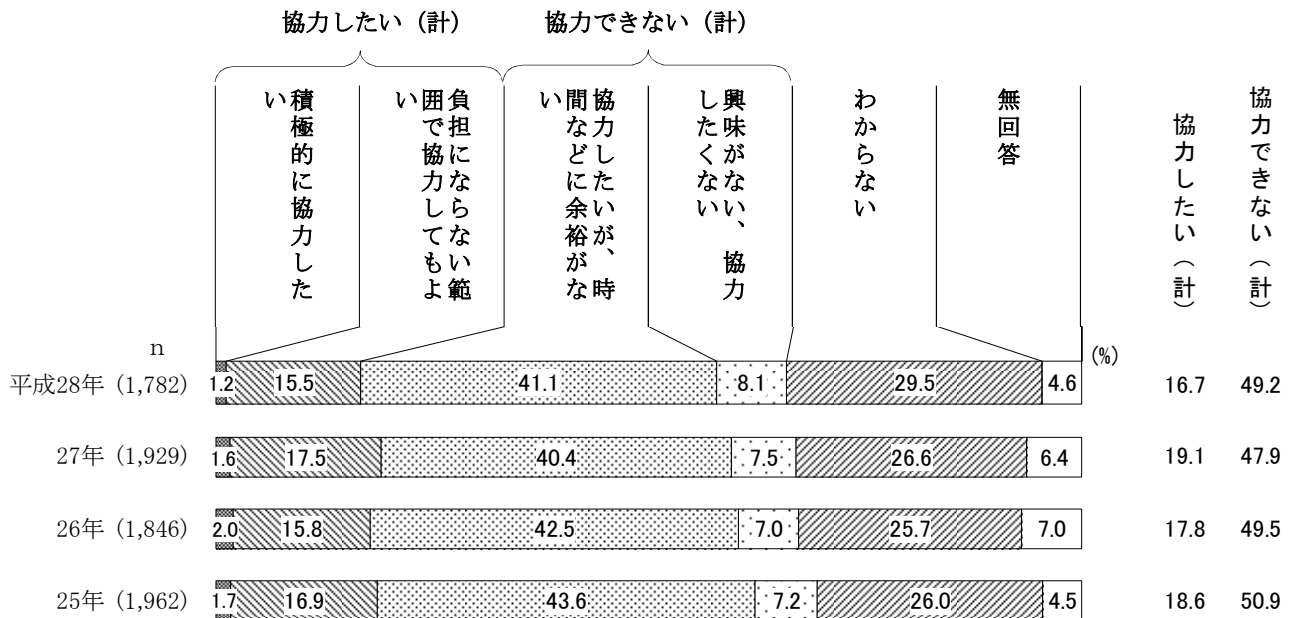


（5）高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

■ 【協力したい】が微減したのに対し、【協力できない】が微増と、やや差が広がる

問37 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

図9-5-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



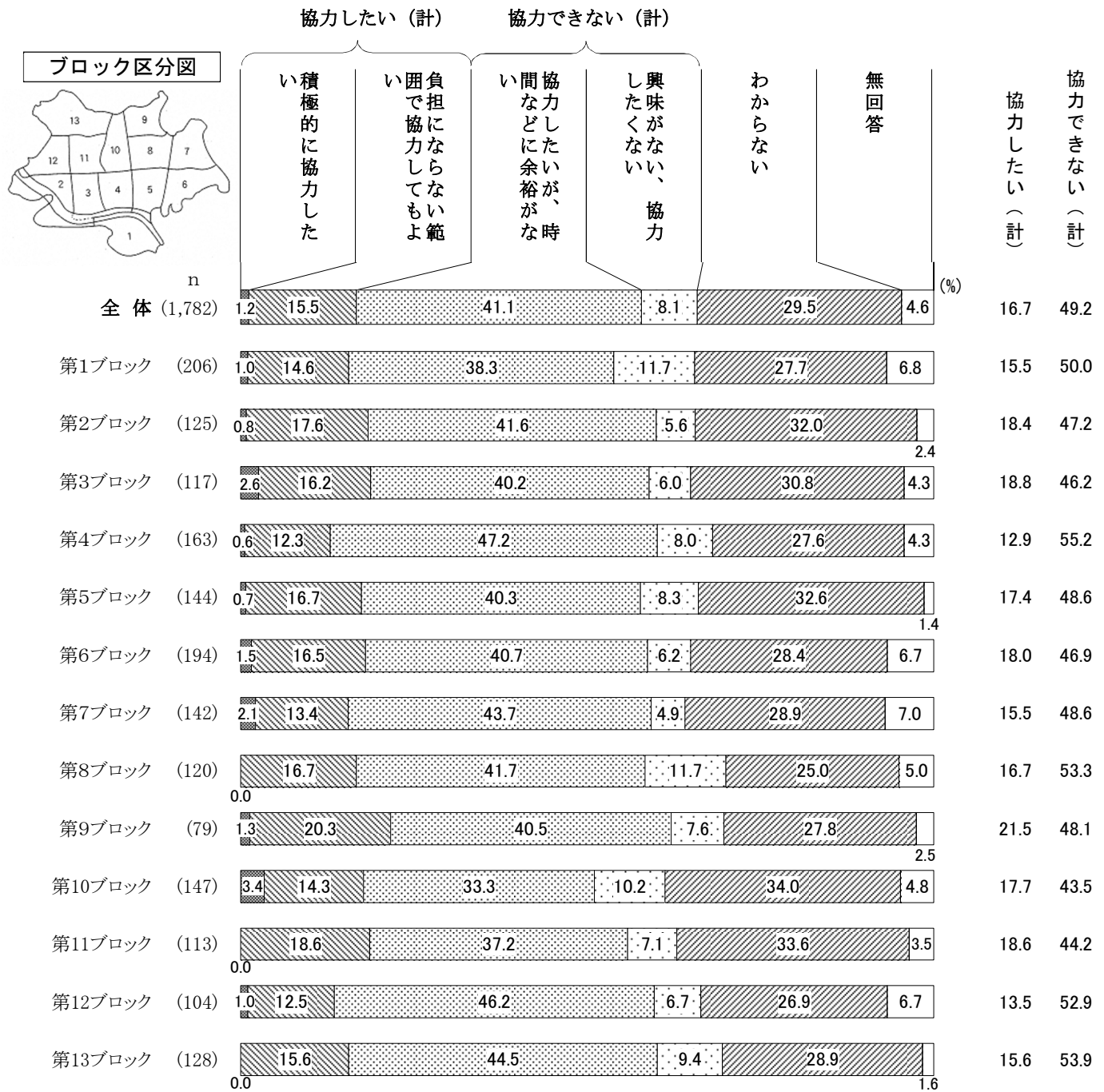
高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は1.2%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」の15.5%を合わせた【協力したい】は16.7%である。一方、「協力したいが、時間などに余裕がない」は41.1%、「興味がない、協力したくない」は8.1%となっている。

経年でみると、【協力したい】は今回16.7%と、前回の19.1%より2.4ポイント減少している。

第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域ブロック別でみると、第9ブロックでは、【協力したい】が2割を超えており、他のブロックより高くなっている。

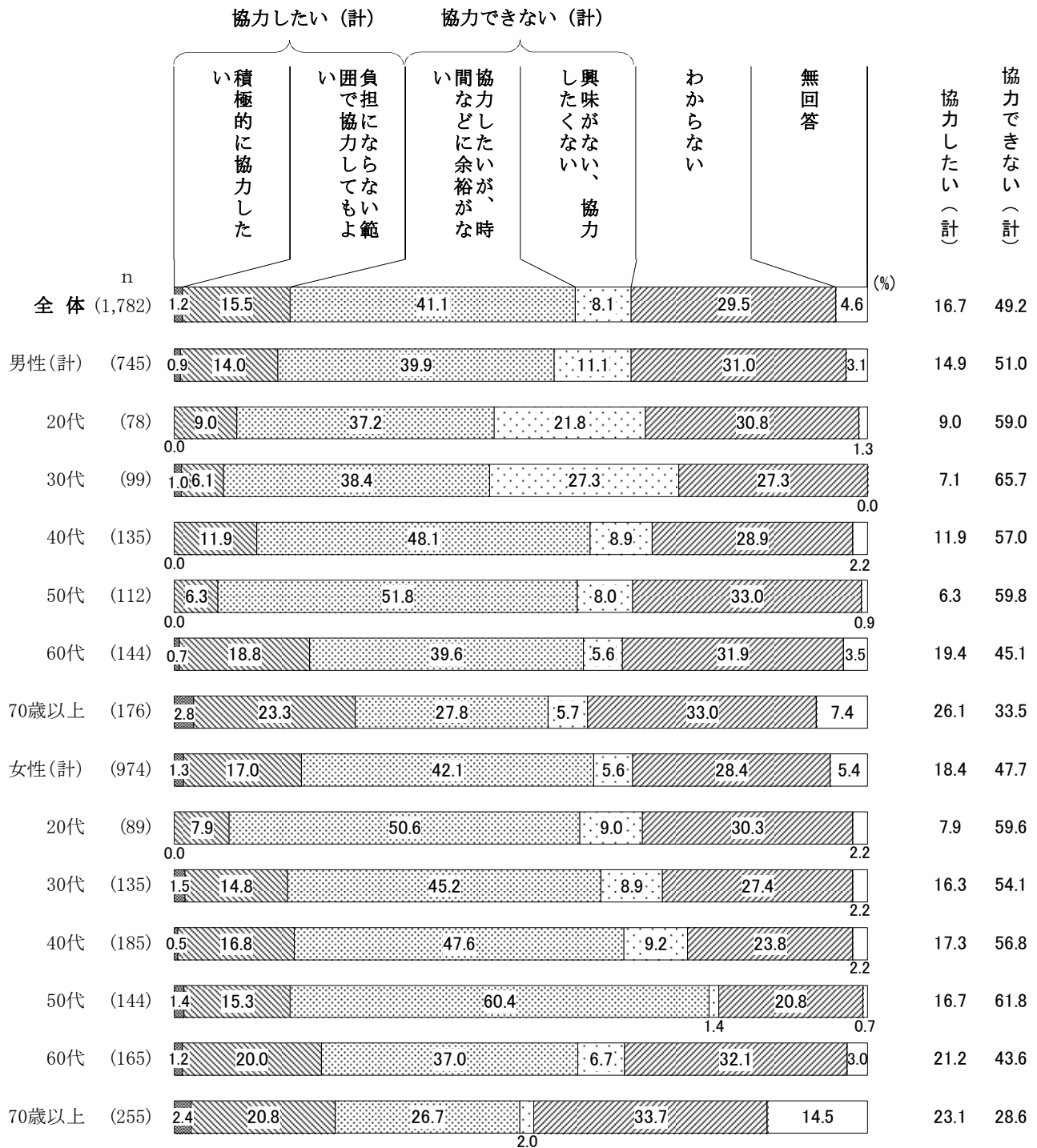
図9-5-2 地域ブロック別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



性・年代別でみると、男性では、60代、70歳以上で【協力したい】が、それぞれ19.4%、26.1%と、他の年代より高くなっている。

女性では、60歳以上で【協力したい】が2割を超えている。

図9-5-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

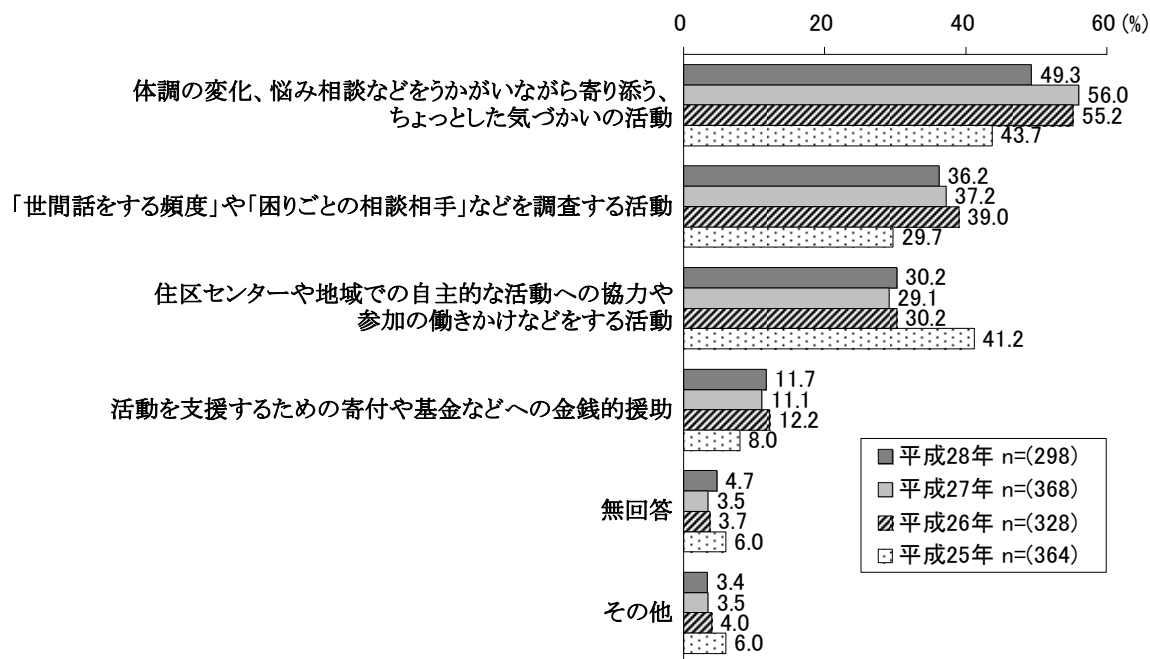


(6) 協力意向がある活動内容

■ “ちょっとした気づかひの活動” が5割弱も、昨年からは減少

問37で「1. 積極的に協力～」または「2. 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に
問37-1 どのような活動に協力したいですか（○はあてはまるものすべて）。

図9-6-1 経年比較／協力意向がある活動内容



平成25年調査の選択肢について

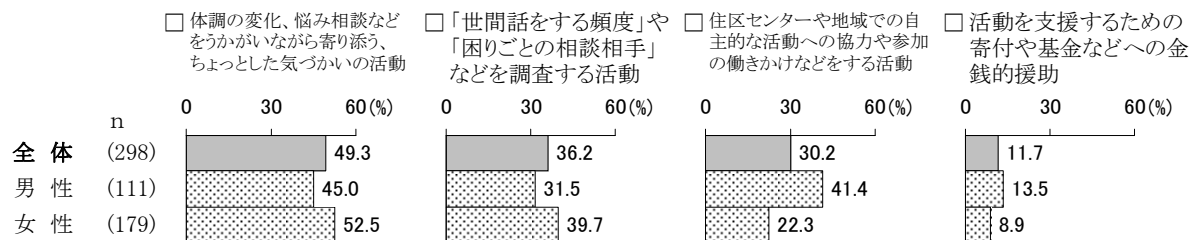
- 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動＝平成25年調査：寄り添い支援活動
- 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動＝平成25年調査：調査活動
- 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動＝平成25年調査：居場所づくりや活動の場での協力
- 活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助＝平成25年調査：財政的協力

【協力したい】という人に、その活動内容を聞くと、「体調の変化、悩み相談などをうかがいながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」が49.3%で最も高く、以下『「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動』（36.2%）、「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」（30.2%）の順で続いている。

経年でみると、「体調の変化、悩み相談などをうかがいながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」が、今回49.3%と、平成27年の56.0%から6.7ポイント減少している。

性別でみると、「体調の変化、悩み相談などをうかがいながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」は男性45.0%、女性52.5%と、男性より女性が高くなっている。

図9－6－2 性別／協力意向がある活動内容

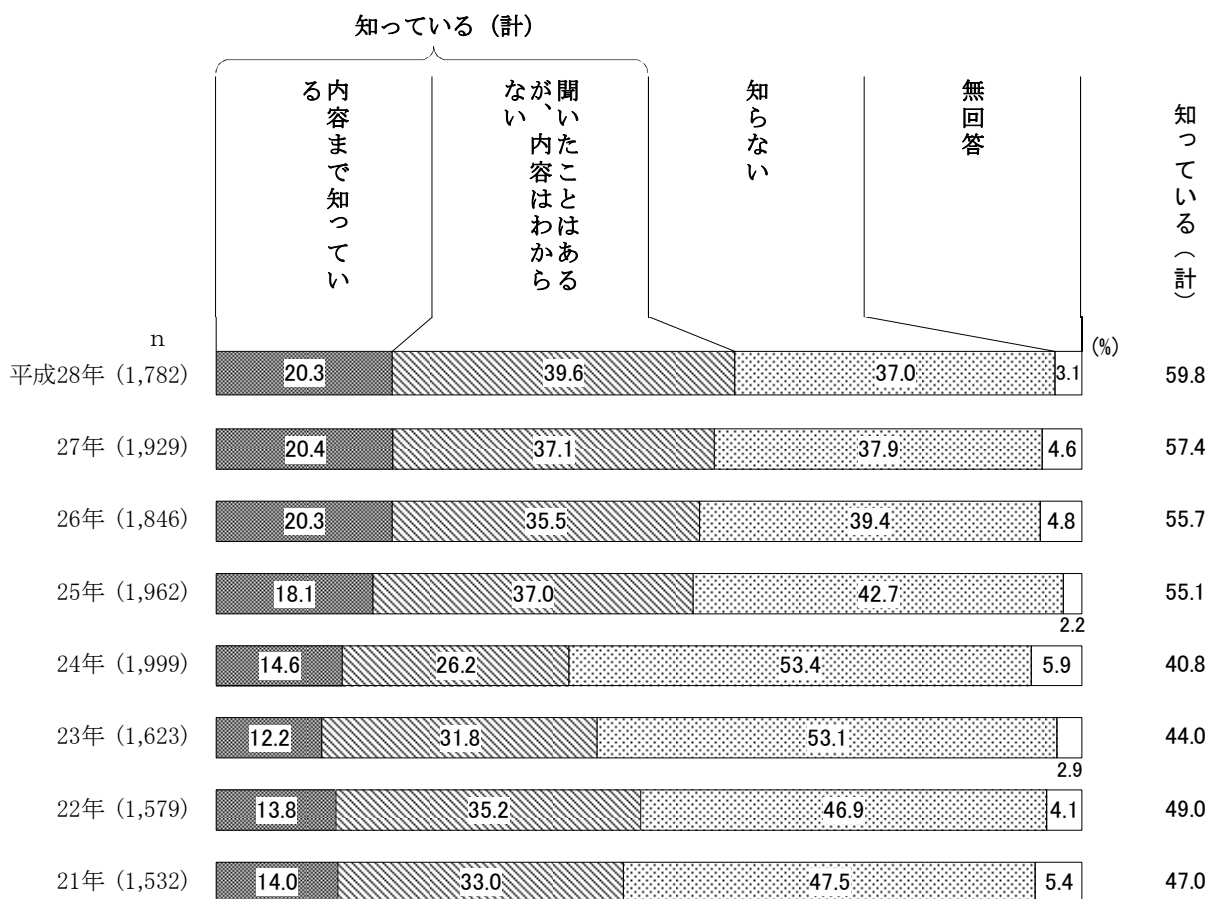


(7)「成年後見制度」の認知状況

■ 【知っている】は6割で、平成25年以降、増加が続く

問38 あなたは、高齢者などの権利を守るしくみとして、「成年後見制度」を知っていますか。
(○は1つだけ)

図9-7-1 経年比較／「成年後見制度」の認知状況



成年後見制度について、「内容まで知っている」は20.3%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の39.6%を合わせた【知っている】は59.8%を占めている。一方、「知らない」は37.0%となっている。

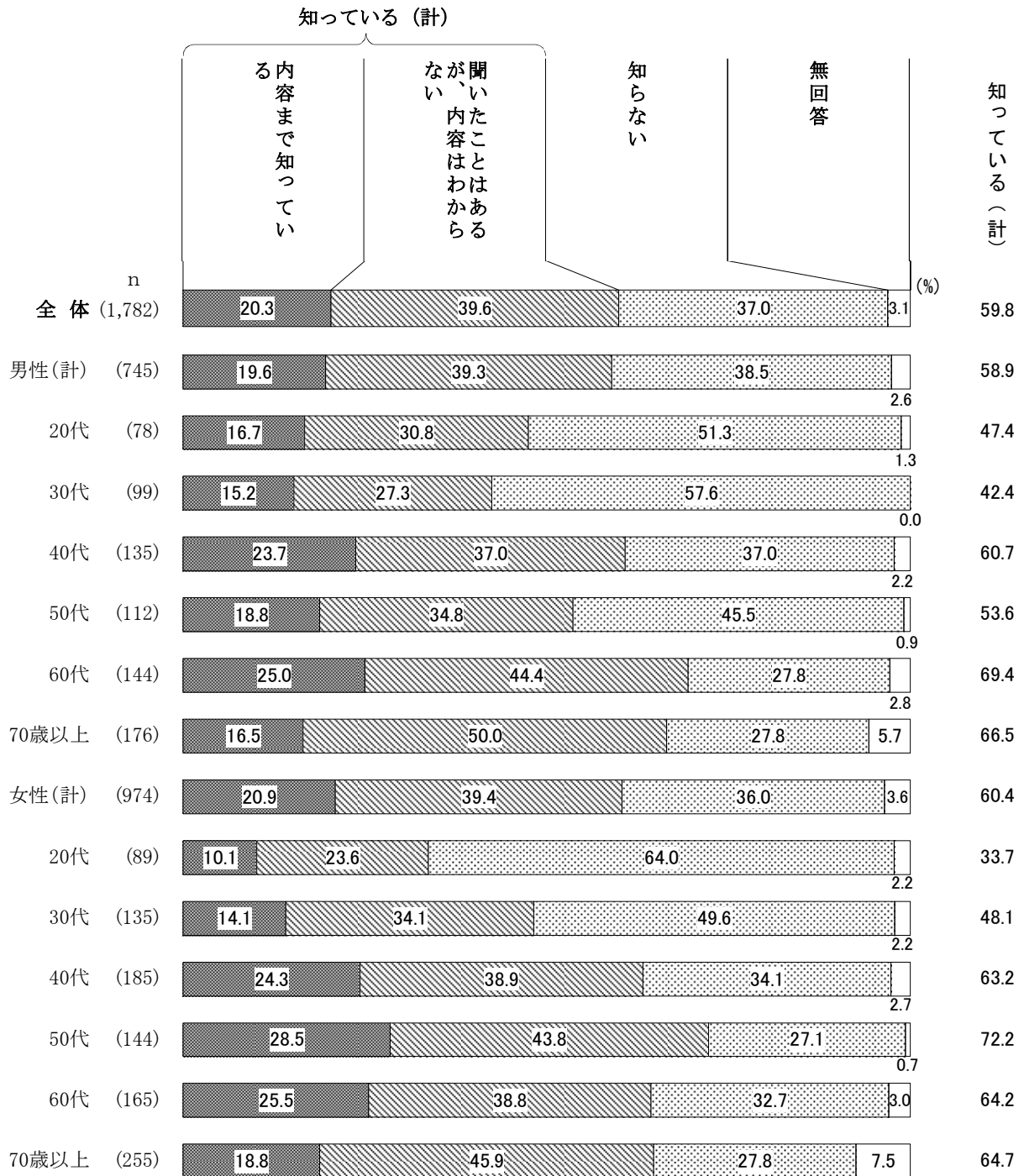
経年でみると、【知っている】は今回59.8%と、平成27年の57.4%から2.4ポイント微増し、平成25年以降増加傾向を示している。

性別でみると、【知っている】は男性58.9%、女性60.4%となっている。

性・年代別でみると、男性では、60代、70歳以上で【知っている】が、それぞれ69.4%、66.5%と高くなっている。

女性では、50代では【知っている】が72.2%と高くなっているほか、40代、60代、70歳以上でも6割を超えている。

図9-7-2 性別、性・年代別／「成年後見制度」の認知状況



10 区取り組み

-
- (1) 満足度と重要度
 - (2) 区政への区民意見の反映度
 - (3) 区に対する気持ち
 - (4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）
 - (5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）
 - (6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度
-

10. 区取り組み

(1) 満足度と重要度

■ 満足度は「資源環境対策」が、重要度は「防災対策」が最上位

問39 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、最も近いものを選んでください（○はいずれも、それぞれ1つずつ）。

選択肢（区取り組み）	内 容
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など
ニ. 区政全体として	

第3章 調査結果の分析 〈 区の取り組み 〉

図10-1-1-① 経年比較／現状評価（満足度）

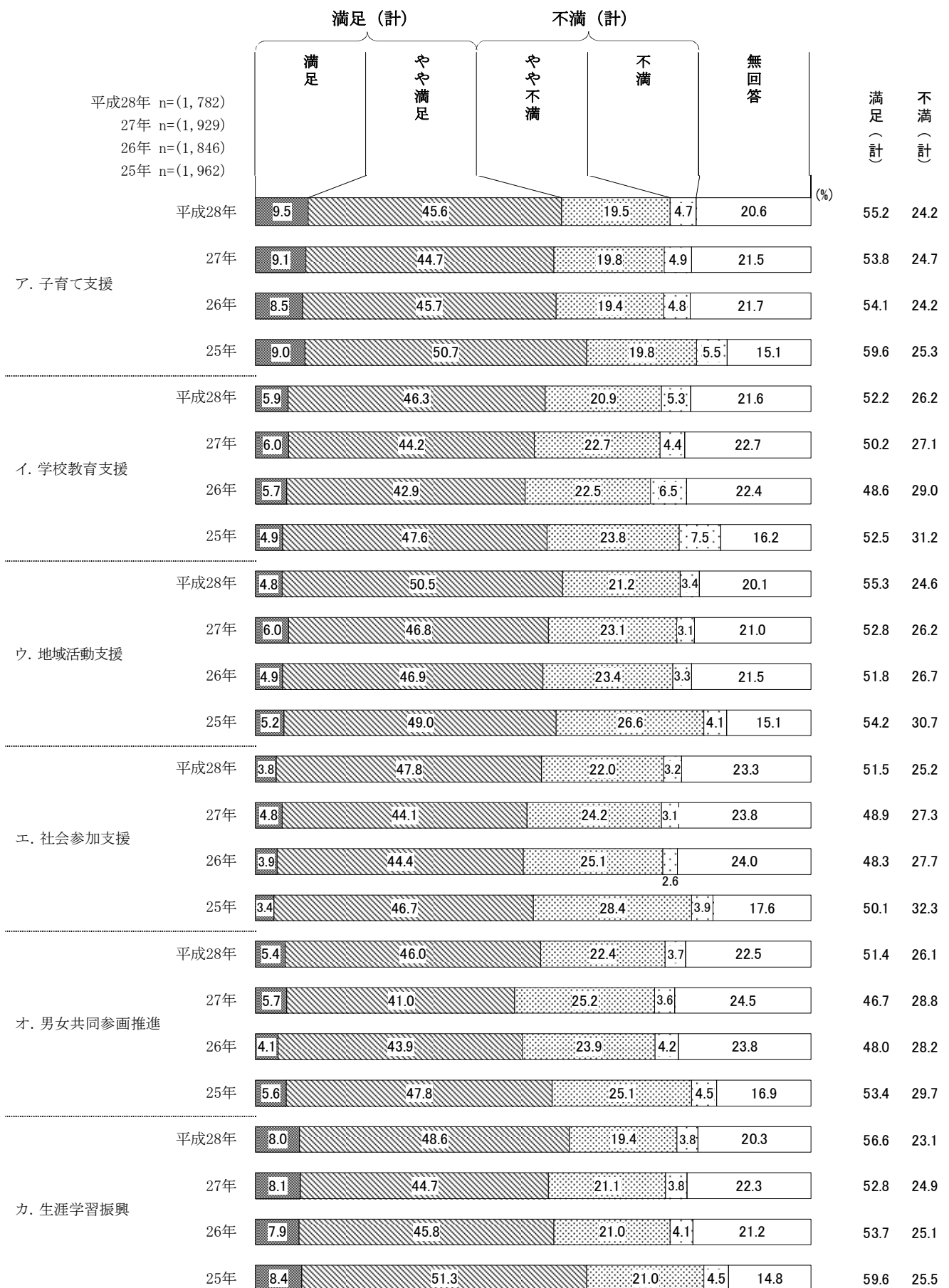


図10-1-1-② 経年比較／現状評価（満足度）

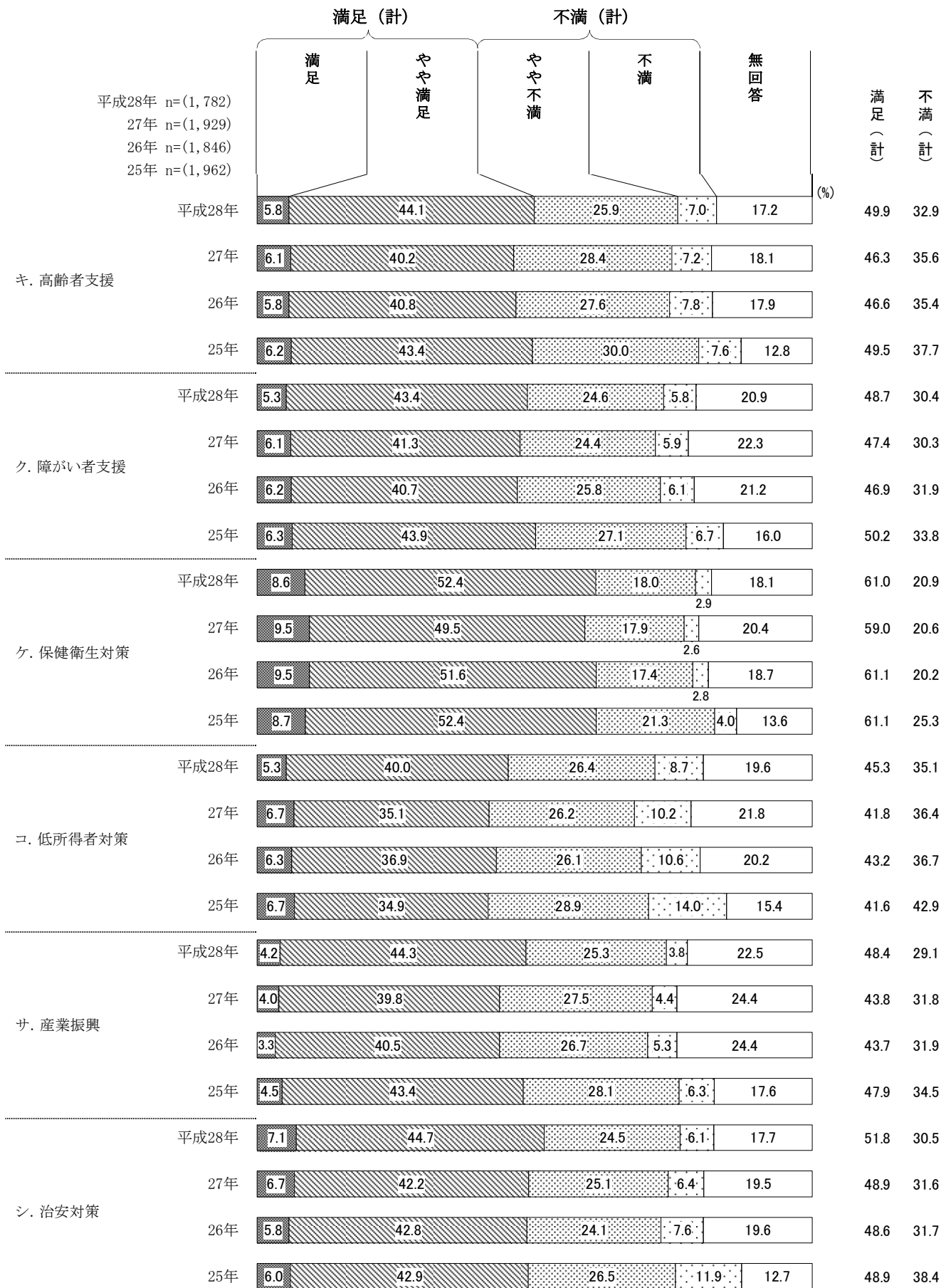


図10-1-1-③ 経年比較／現状評価（満足度）

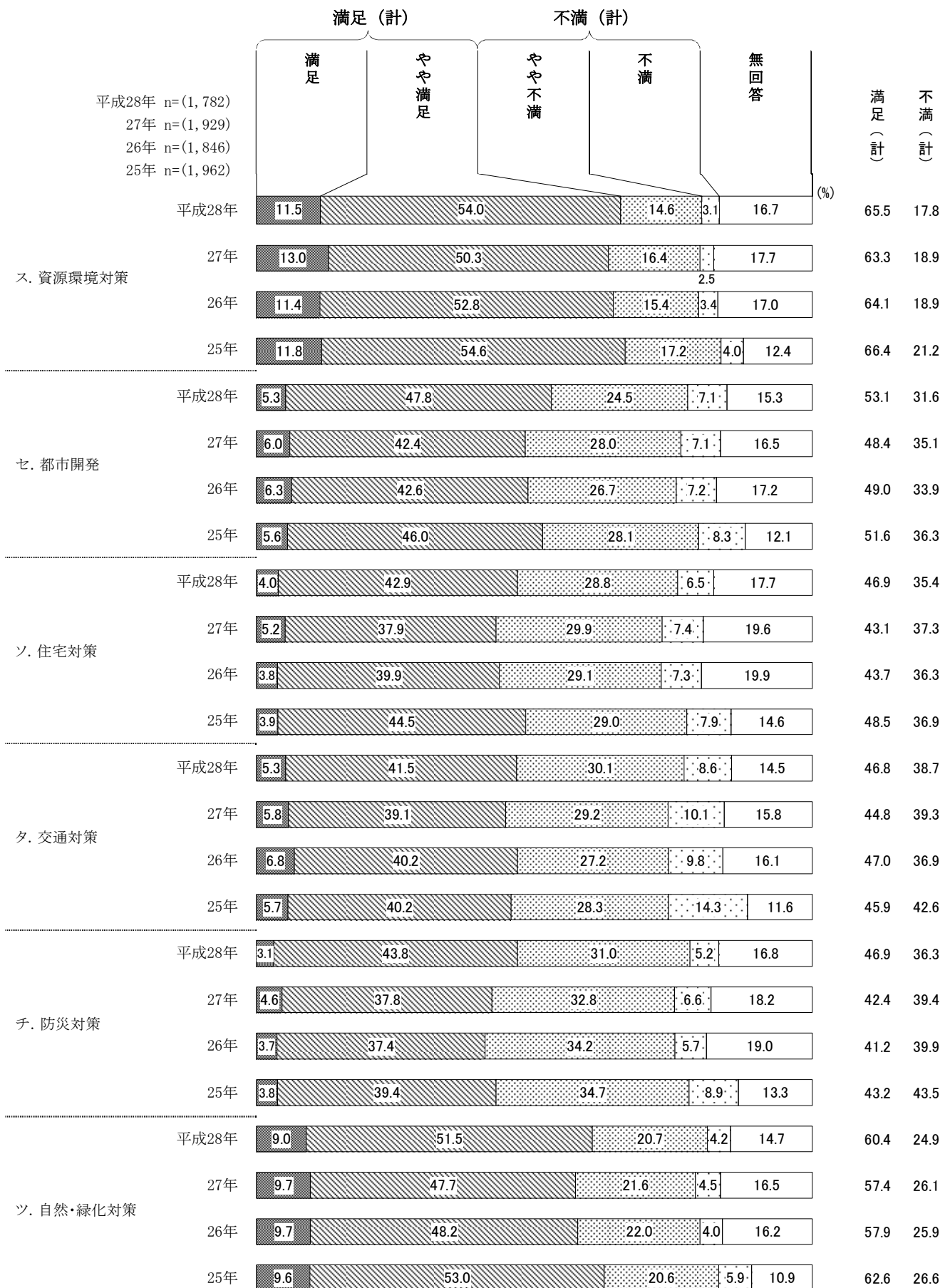
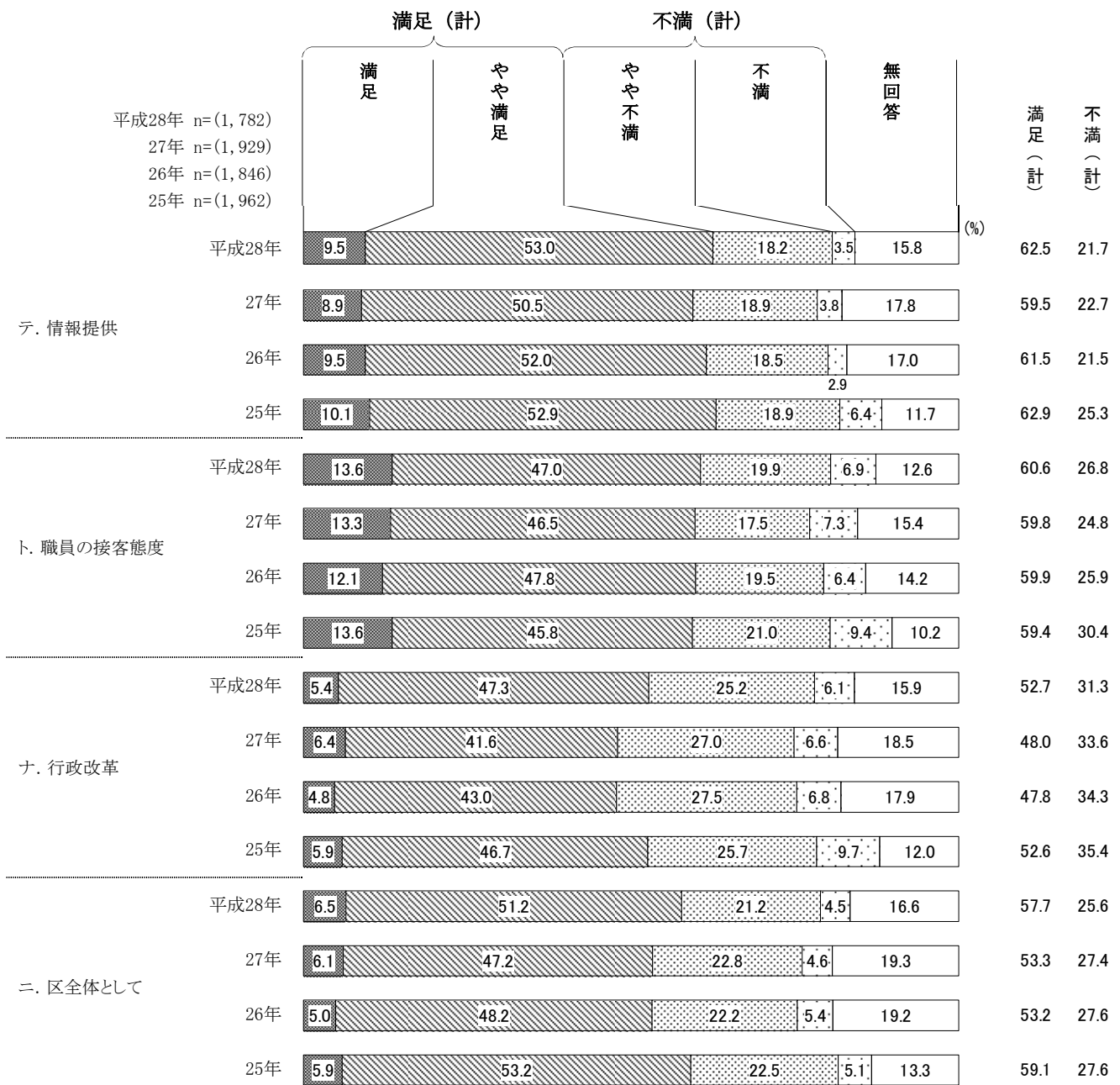


図10-1-1-④ 経年比較／現状評価（満足度）



区の取り組みについて、各分野に対する現状評価（満足度）を聞いた。【満足】（「満足」＋「やや満足」）の高い順でみると、「資源環境対策」が65.5%で最も高く、以下、「情報提供」（62.5%）、「保健衛生対策」（61.0%）、「職員の接客態度」（60.6%）の順で続いている。

一方、【不満】（「やや不満」＋「不満」）の高いものとしては、「交通対策」（38.7%）、「防災対策」（36.3%）、「住宅対策」（35.4%）、「低所得者対策」（35.1%）があげられる。

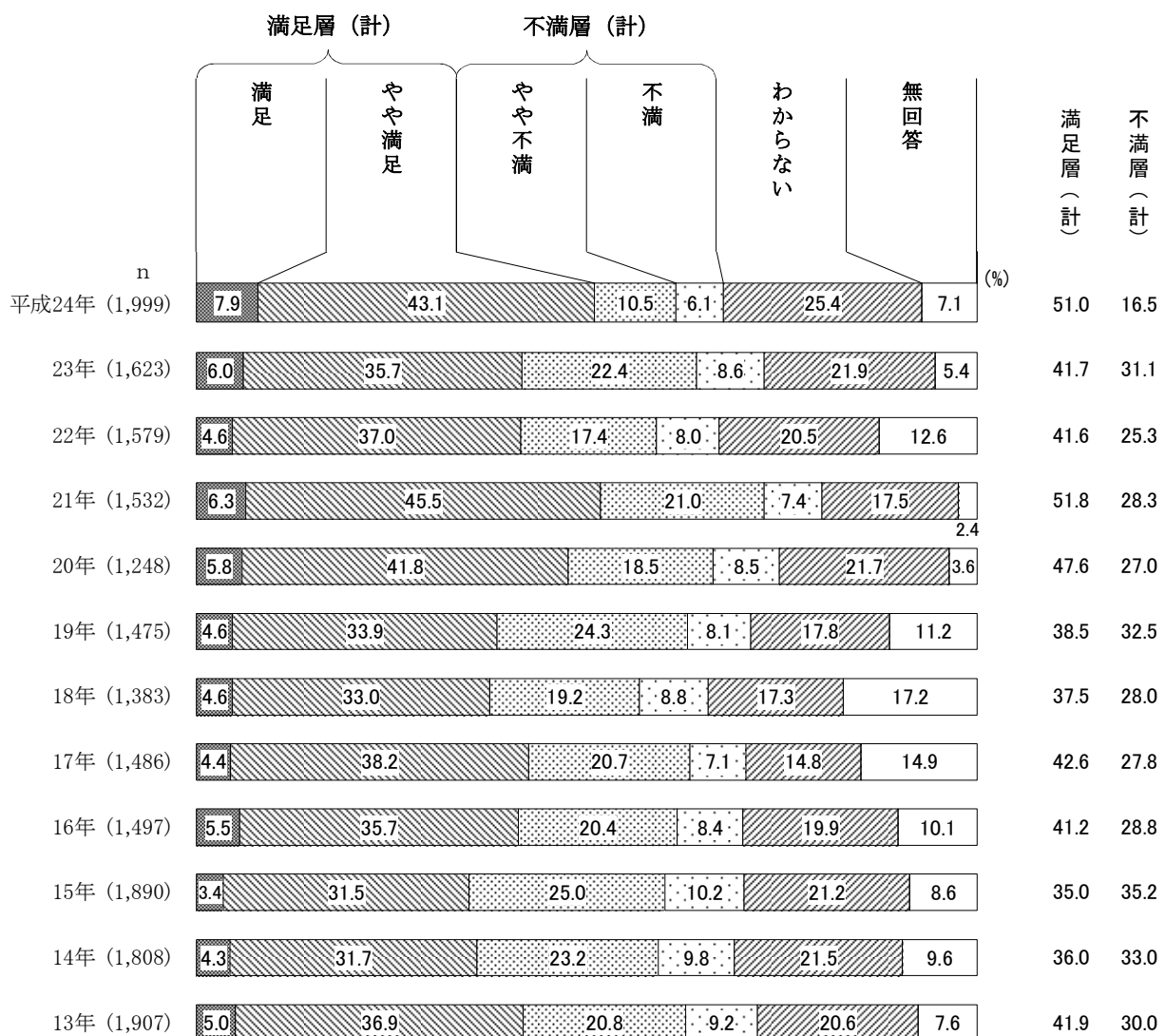
第3章 調査結果の分析 〈 区の取り組み 〉

経年でみて、前回結果と比較すると、【満足】が高くなっているものとして、「男女共同参画推進」（前回46.7%→今回51.4%）、「都市開発」（前回48.4%→今回53.1%）、「行政改革」（前回48.0%→今回52.7%）などがあげられる。

一方、【不満】が高くなっているものとしては、「職員の接客態度」（前回24.8%→今回26.8%）などがあげられる。

参考／区政に対する満足度

問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか（○は1つだけ）。



※平成24年までは「わからない」という選択肢があるため、結果を単純に比較することはできない

図10-1-2-① 経年比較／重要度

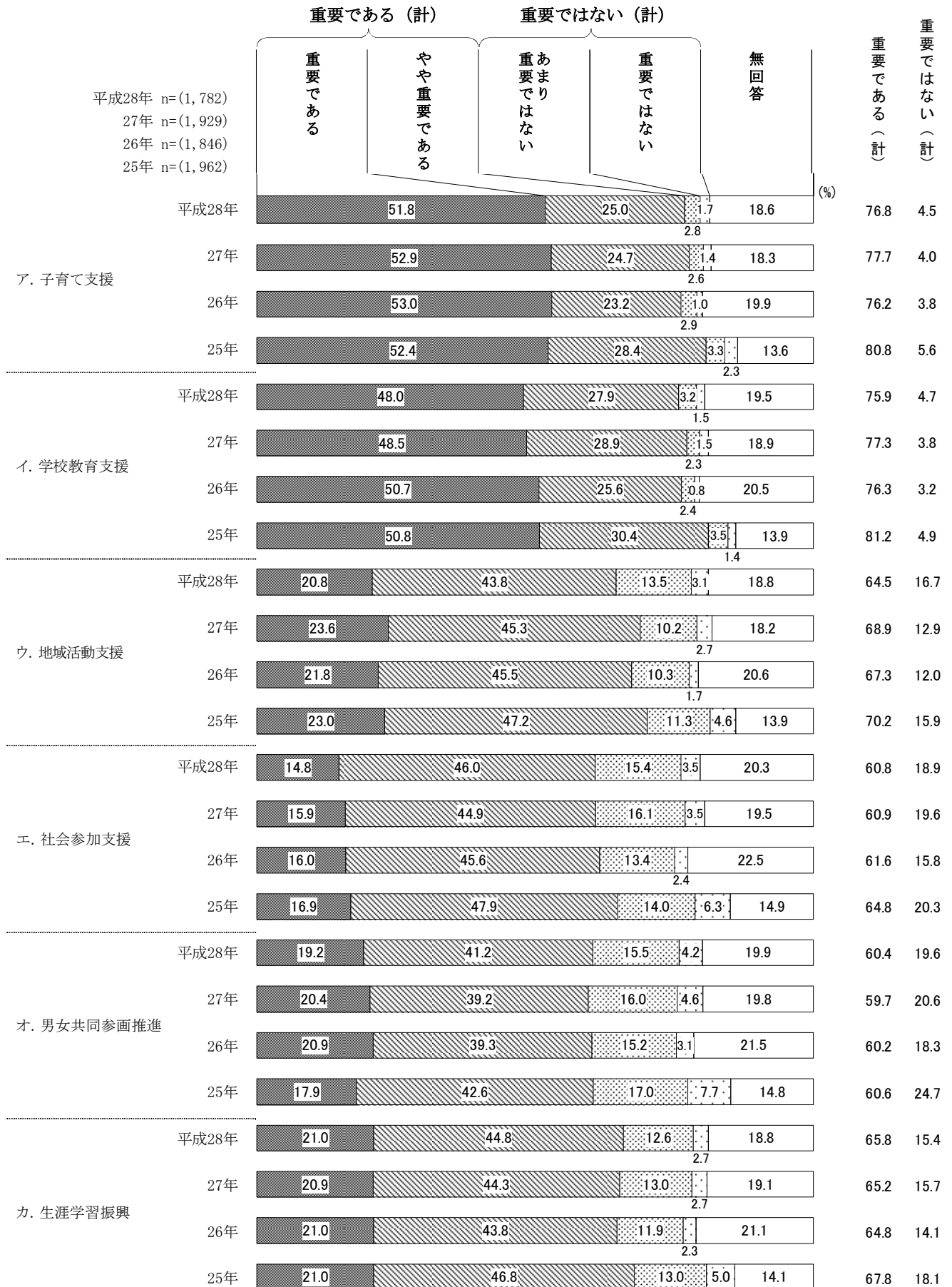


図10-1-2-② 経年比較／重要度

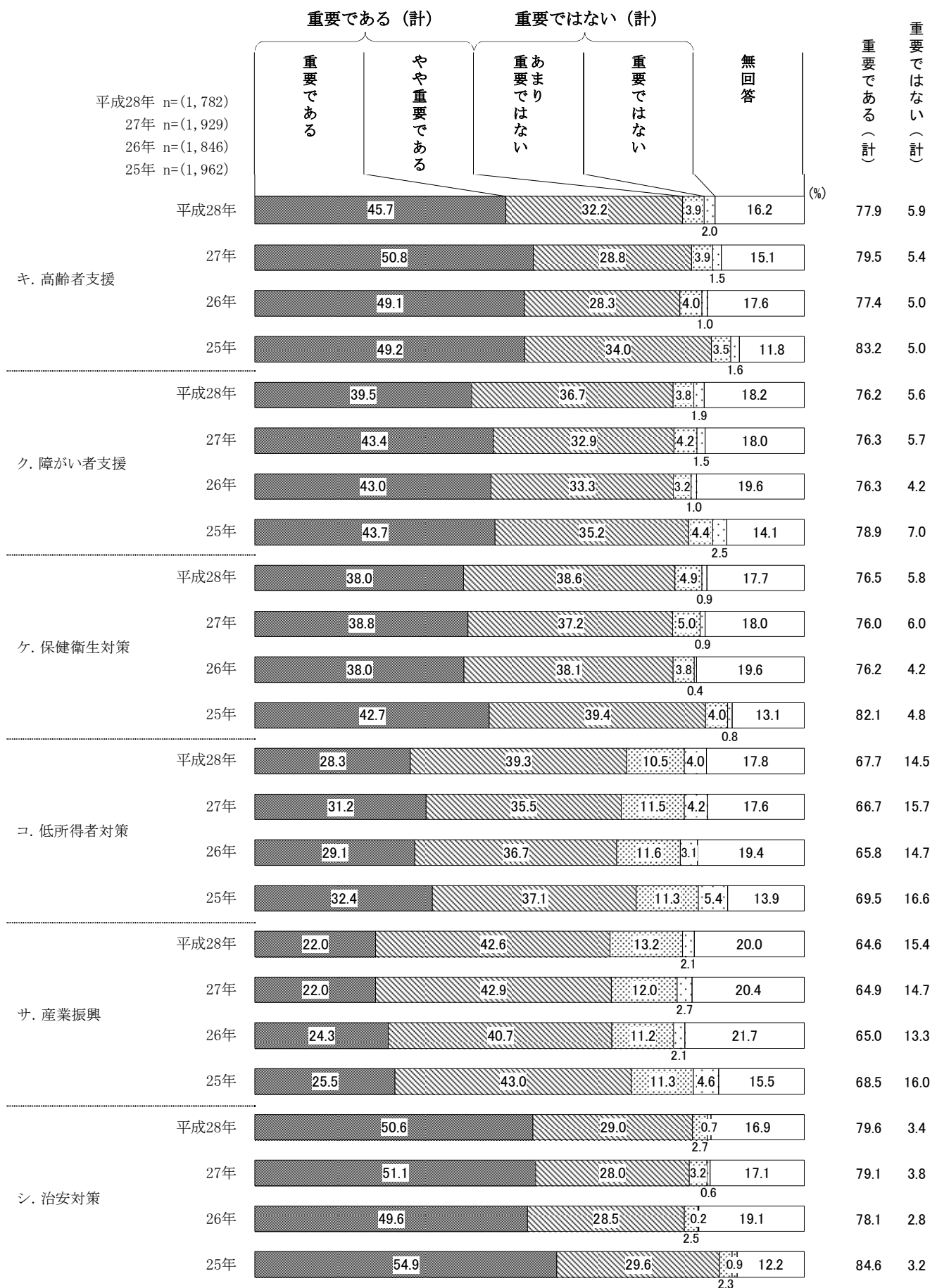


図10-1-2-③ 経年比較／重要度

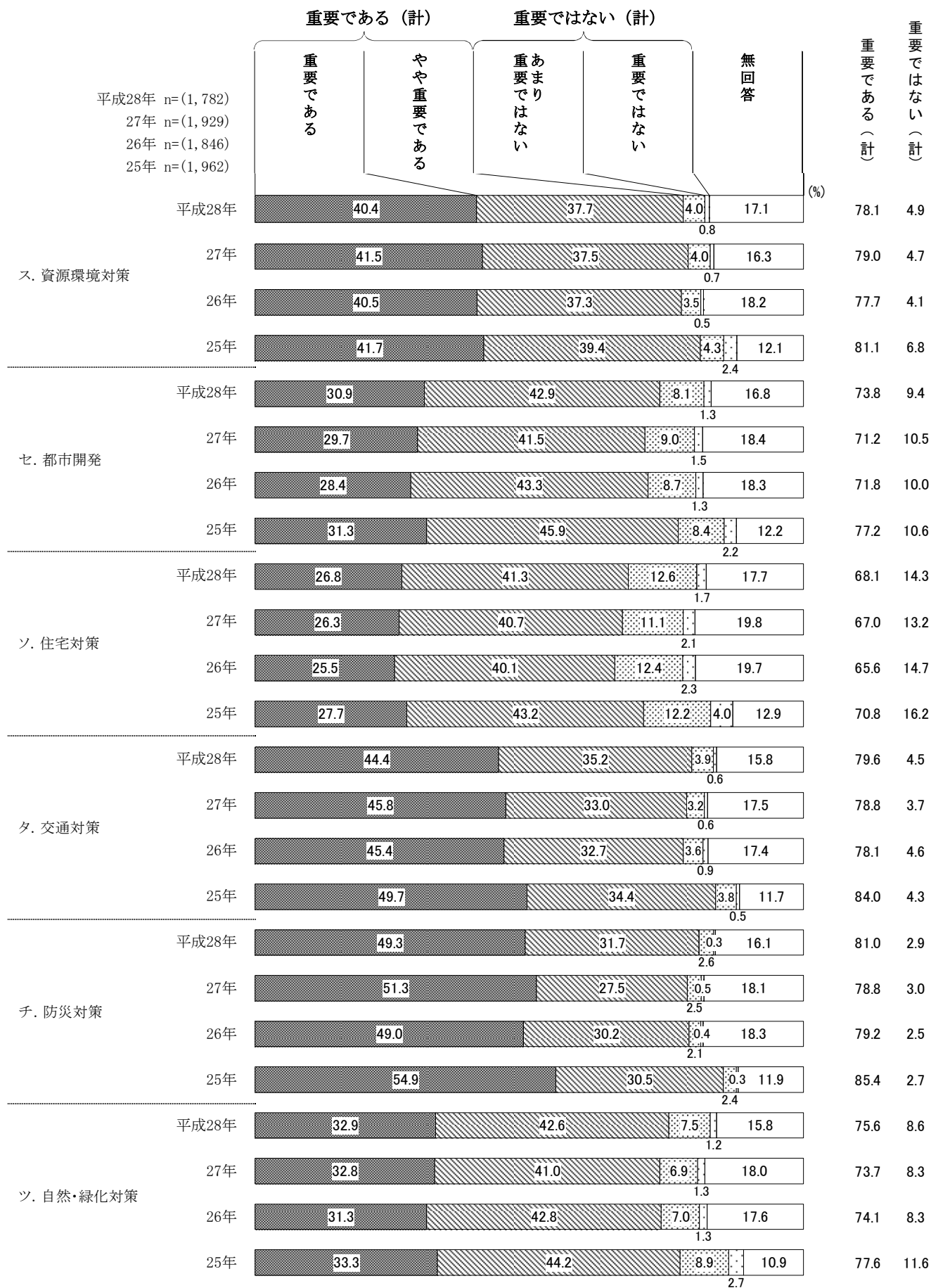
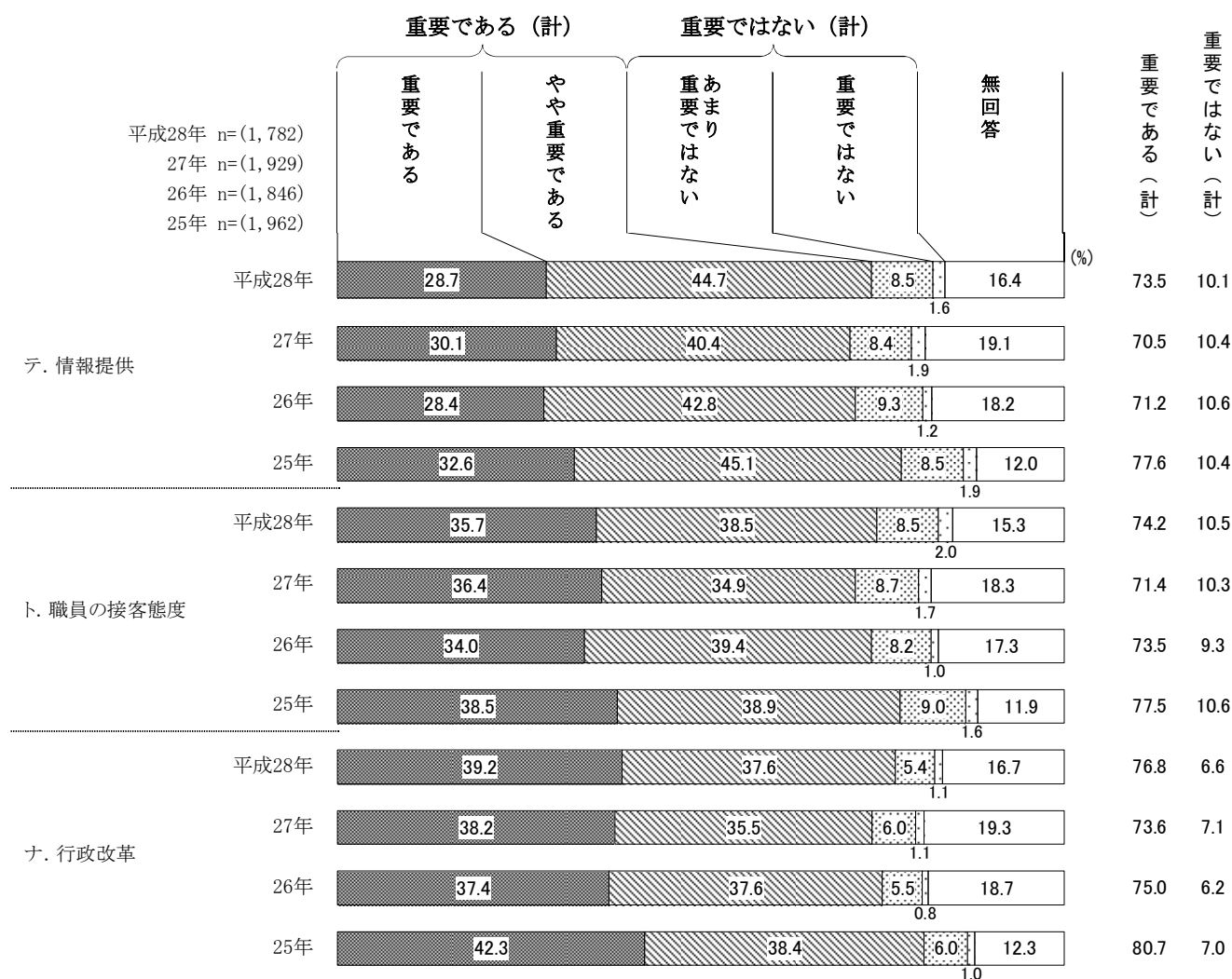


図10－1－2－④ 経年比較／重要度



区の取り組みについて、各分野に対する重要度を聞いた。【重要である】（「重要である」＋「やや重要である」）の高い順でみると、「防災対策」が81.0%で最も高く、以下「治安対策」「交通対策」（ともに79.6%）、「資源環境対策」（78.1%）の順で続いている。

経年でみて、前回結果と比較すると、【重要である】が高くなっているものとして、「行政改革」（前回73.6%→今回76.8%）、「情報提供」（前回70.5%→今回73.5%）、「職員の接客態度」（前回71.4%→今回74.2%）などがあげられる。

表10－1－1 満足度・重要度の上位5項目

満足度				重要度			
1	－	資源環境対策	65.5%	1	↑	防災対策	81.0%
2	↑	情報提供	62.5	2	－	治安対策	79.6
3	↑	保健衛生対策	61.0		↑	交通対策	
4	↓	職員の接客態度	60.6	4	↓	資源環境対策	78.1
5	－	自然・緑化対策	60.4	5	↓	高齢者支援	77.9

※矢印は前回順位との比較

《 現状評価（満足度）、重要度について 》

（１）現状評価（満足度）、重要度の評価点について

各分野の取り組みへの現状評価（満足度）と重要度意識の各選択肢に得点をつけ、現状評価（満足度）、重要度の評価点を算出した。これによって、区民の現状評価（満足度）や重要度意識を明確に捉え、分析することができる。

なお、各選択肢への点数の配分は下記の表のとおりである。

〔 得点配分 〕

現状評価（満足度）	重要度	得点
満足	重要である	4
やや満足	やや重要である	2
やや不満	あまり重要ではない	- 2
不満	重要ではない	- 4

※「無回答」は、母数から除くためポイントをつけない。

〔 計 算 式 〕

$$\text{現状評価} = \frac{\text{「満足」} \times 4 + \text{「やや満足」} \times 2 + \text{「やや不満」} \times (-2) + \text{「不満」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

$$\text{重 要 度} = \frac{\text{「重要である」} \times 4 + \text{「やや重要である」} \times 2 + \text{「あまり重要ではない」} \times (-2) + \text{「重要ではない」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

（２）現状評価（満足度）について

21施策の現状評価（満足度）は、最も高い〈資源環境対策〉の1.35から、最も低い〈交通対策〉の0.11の間に分布している。

分野別でみると、資源や自然・緑化等の環境面、情報面、保健衛生面や、生涯学習、職員の接客態度等で評価が高く、防災、所得、住宅、交通等については低くなっている。

（３）重要度について

21施策の重要度は、最も高い〈治安対策〉の3.04から、最も低い〈社会参加支援〉の1.34の間に分布している。

分野別でみると、治安、防災、子育て支援等でポイントが高く、社会参加、男女共同参画等で低くなっている。

(4) 現状評価（満足度）、重要度のプロット図

現状評価（満足度）を横軸に、重要度を縦軸にとって21項目を相対的に評価するため、平均値（満足度平均値0.66、重要度平均値2.33）を境として、4つの領域に分類した。

4つの領域の特性は、以下のとおりである。

A 現状評価（満足度）が平均値より低く、重要度が平均値より高い項目

グラフ左上のAゾーンに位置する項目は、施策の重要性が広く区民に認識され、とくに施策の推進や改善に対する区民のニーズが高い項目と考えられる。従来の取り組みの方向について検討を加え、改善していくことが求められる。

B 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より高い項目

グラフ右上のBゾーンに位置する項目は、施策の重要性が十分認識されているとともに、現在の取り組みにも満足している区民が多い項目と考えられる。今後も現在の水準を維持し、着実に取り組んでいくことが求められる。

現状評価（満足度）平均値（0.66）			
《重要度》	《Aゾーン》 現状評価：平均値より低い 重 要 度：平均値より高い	《Bゾーン》 現状評価：平均値より高い 重 要 度：平均値より高い	重要度 平均値 (2.33)
	《Cゾーン》 現状評価：平均値より低い 重 要 度：平均値より低い	《Dゾーン》 現状評価：平均値より高い 重 要 度：平均値より低い	
	《 現状評価（満足度）》		

C 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より低い項目

グラフ左下のCゾーンに位置する項目は、取り組みの推進に対する期待は高いものの、他の施策と比較してその重要性の認識が低い項目と考えられる。施策の重要性に対する認知を高めるとともに、従来の取り組みの方向の改善を検討することが求められる。

D 現状評価（満足度）が平均値より高く、重要度が平均値より低い項目

グラフ右下のDゾーンに位置する項目は、他の施策と比較してその重要性の認識は低いものの、現状の取り組みには満足している項目と考えられる。今後も着実に取り組みの推進を図るとともに、施策の重要性についての認知を高めていくことが求められる。

表10-1-2-① 地域ブロック別／現状評価（満足度）

		区全体	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9
ア	子育て支援	0.90	0.47	0.59	0.95	0.95	1.15	0.96	0.75	1.17	0.98
イ	学校教育対策	0.68	0.49	0.10	0.62	0.96	0.96	0.32	0.61	0.93	0.68
ウ	地域活動支援	0.80	0.80	1.08	0.31	1.06	0.98	0.36	0.53	1.10	0.61
エ	社会参加支援	0.70	0.59	0.44	0.20	0.82	0.82	0.55	0.48	0.98	0.54
オ	男女共同参画推進	0.70	0.86	0.92	0.28	0.71	0.59	0.58	0.28	1.11	0.77
カ	生涯学習振興	0.95	0.82	0.72	0.79	1.01	1.19	0.44	0.76	1.26	1.23
キ	高齢者支援	0.38	0.40	0.33	0.04	0.50	0.36	0.31	-0.04	0.35	0.52
ク	障がい者支援	0.45	0.43	0.23	-0.17	0.57	0.21	0.47	0.22	0.45	0.72
ケ	保健衛生対策	1.12	0.89	0.92	0.85	1.39	1.37	0.74	1.01	1.60	1.33
コ	低所得者対策	0.17	-0.06	0.33	-0.13	0.70	0.30	0.23	-0.38	0.44	0.16
サ	産業振興	0.51	0.36	0.32	-0.11	0.83	0.39	0.62	0.26	0.73	0.60
シ	治安対策	0.54	1.08	0.48	0.78	0.73	0.75	0.23	0.19	0.73	0.03
ス	資源環境対策	1.35	1.43	1.19	1.47	1.39	1.29	1.18	1.26	1.66	1.69
セ	都市開発	0.47	0.70	0.55	0.12	0.67	0.32	-0.09	0.24	0.92	0.72
ソ	住宅対策	0.22	0.14	0.55	0.09	0.33	0.17	0.13	0.19	0.29	-0.12
タ	交通対策	0.11	0.47	0.07	-0.16	0.21	-0.08	-0.17	-0.13	0.49	0.26
チ	防災対策	0.21	0.15	0.37	-0.55	0.40	0.22	-0.10	0.02	0.59	0.46
ツ	自然・緑化対策	0.95	0.90	1.07	0.86	0.82	0.79	0.93	0.61	1.34	0.88
テ	情報提供	1.11	1.01	0.98	0.84	1.34	1.42	0.69	0.99	1.28	1.61
ト	職員の接客態度	0.93	1.10	0.69	0.97	1.22	0.94	0.81	0.93	0.97	1.31
ナ	行政改革	0.49	0.70	0.58	-0.02	0.74	0.30	0.38	0.30	0.50	0.68
ニ	区政全体として	0.82	0.94	1.08	0.54	1.16	0.85	0.50	0.51	0.73	0.80

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表10-1-2-② 地域ブロック別／現状評価（満足度）

		区全体	第10	第11	第12	第13
ア	子育て支援	0.90	0.73	1.09	0.82	1.33
イ	学校教育対策	0.68	0.82	1.08	0.32	1.05
ウ	地域活動支援	0.80	0.64	1.20	0.63	1.20
エ	社会参加支援	0.70	0.83	0.98	0.66	1.24
オ	男女共同参画推進	0.70	0.67	0.90	0.66	0.75
カ	生涯学習振興	0.95	1.02	1.20	0.78	1.50
キ	高齢者支援	0.38	0.67	0.53	0.28	0.69
ク	障がい者支援	0.45	0.49	0.62	0.79	0.91
ケ	保健衛生対策	1.12	0.90	1.22	1.23	1.42
コ	低所得者対策	0.17	0.19	0.26	0.02	0.06
サ	産業振興	0.51	0.50	0.62	0.36	1.02
シ	治安対策	0.54	0.05	0.42	0.27	0.88
ス	資源環境対策	1.35	0.98	1.42	1.08	1.63
セ	都市開発	0.47	0.41	0.45	0.15	1.03
ソ	住宅対策	0.22	0.02	0.34	0.05	0.60
タ	交通対策	0.11	0.05	0.14	-0.29	0.52
チ	防災対策	0.21	0.14	0.47	-0.09	0.79
ツ	自然・緑化対策	0.95	0.69	1.41	0.97	1.19
テ	情報提供	1.11	1.04	1.30	1.20	1.16
ト	職員の接客態度	0.93	0.50	1.14	0.28	1.13
ナ	行政改革	0.49	0.35	0.67	0.32	0.82
ニ	区政全体として	0.82	0.95	0.90	0.42	1.14

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表10－１－３－① 地域ブロック別／重要度

		区全体	第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8	第 9
ア	子育て支援	3.01	3.06	3.07	2.73	3.11	3.06	3.12	2.52	2.73	3.08
イ	学校教育対策	2.92	2.78	3.04	3.10	2.85	2.93	2.87	2.52	2.94	3.11
ウ	地域活動支援	1.61	1.59	1.66	1.82	1.31	1.45	1.76	1.42	1.32	1.90
エ	社会参加支援	1.34	1.28	1.58	1.51	1.01	1.36	0.93	1.45	1.33	1.42
オ	男女共同参画推進	1.40	1.35	1.68	1.65	1.28	1.58	1.12	1.40	1.17	1.34
カ	生涯学習振興	1.69	1.57	1.87	2.04	1.48	1.95	1.72	1.03	1.83	1.74
キ	高齢者支援	2.76	2.70	2.48	2.89	2.55	2.89	2.72	2.92	2.75	3.00
ク	障がい者支援	2.65	2.76	2.52	2.90	2.27	3.00	2.45	2.38	2.80	2.81
ケ	保健衛生対策	2.62	2.55	2.58	2.84	2.49	2.74	2.68	2.29	2.77	2.84
コ	低所得者対策	1.89	1.70	1.68	2.54	1.73	1.67	1.67	1.79	1.81	2.55
サ	産業振興	1.73	1.82	1.64	2.00	1.69	1.82	1.26	1.50	1.83	2.23
シ	治安対策	3.04	3.19	2.88	2.99	3.06	3.03	3.04	2.82	3.07	3.22
ス	資源環境対策	2.72	2.81	2.59	2.76	2.65	3.04	2.39	2.34	3.18	3.00
セ	都市開発	2.26	2.42	2.37	1.75	2.26	2.36	2.16	2.02	2.37	2.29
ソ	住宅対策	1.92	2.01	1.91	1.89	1.88	1.89	1.64	1.64	1.92	2.32
タ	交通対策	2.83	2.82	2.79	2.80	2.89	2.72	2.54	2.83	3.20	3.05
チ	防災対策	3.03	3.10	3.03	3.14	2.99	3.17	2.87	2.84	3.22	3.03
ツ	自然・緑化対策	2.34	2.40	2.18	2.10	2.25	2.56	2.24	2.18	2.58	2.19
テ	情報提供	2.17	2.03	1.91	2.21	2.25	2.40	2.04	1.89	2.43	2.20
ト	職員の接客態度	2.30	2.19	1.98	2.14	2.34	2.38	2.08	2.27	2.44	2.58
ナ	行政改革	2.60	2.64	2.39	2.62	2.70	2.59	2.51	2.31	2.91	2.89

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表10-1-3-② 地域ブロック別／重要度

		区全体	第10	第11	第12	第13
ア	子育て支援	3.01	3.09	3.15	3.29	3.02
イ	学校教育対策	2.92	3.07	2.97	3.18	2.94
ウ	地域活動支援	1.61	1.45	1.85	2.07	1.63
エ	社会参加支援	1.34	1.42	1.56	1.56	1.42
オ	男女共同参画推進	1.40	1.46	1.60	1.56	1.17
カ	生涯学習振興	1.69	1.77	2.09	1.59	1.50
キ	高齢者支援	2.76	2.77	2.76	2.83	2.83
ク	障がい者支援	2.65	2.67	2.53	2.70	2.79
ケ	保健衛生対策	2.62	2.80	2.56	2.39	2.64
コ	低所得者対策	1.89	2.22	2.02	1.91	1.89
サ	産業振興	1.73	1.61	2.04	2.02	1.53
シ	治安対策	3.04	3.00	3.21	3.02	2.95
ス	資源環境対策	2.72	2.73	2.83	2.54	2.69
セ	都市開発	2.26	2.28	2.20	2.41	2.43
ソ	住宅対策	1.92	2.19	1.93	2.04	1.95
タ	交通対策	2.83	2.85	2.94	2.93	2.68
チ	防災対策	3.03	3.09	2.95	3.03	3.02
ツ	自然・緑化対策	2.34	2.50	2.25	2.47	2.50
テ	情報提供	2.17	2.13	2.30	2.04	2.43
ト	職員の接客態度	2.30	2.57	2.39	2.29	2.54
ナ	行政改革	2.60	2.56	2.23	2.93	2.65

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

第3章 調査結果の分析 〈 区の取り組み 〉

全21施策の現状評価（満足度）と重要度の関係をみた。

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「交通対策」「高齢者支援」などは、現状評価が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「保健衛生対策」「子育て支援」などは、現状評価、重要度の両面で高くなっている。

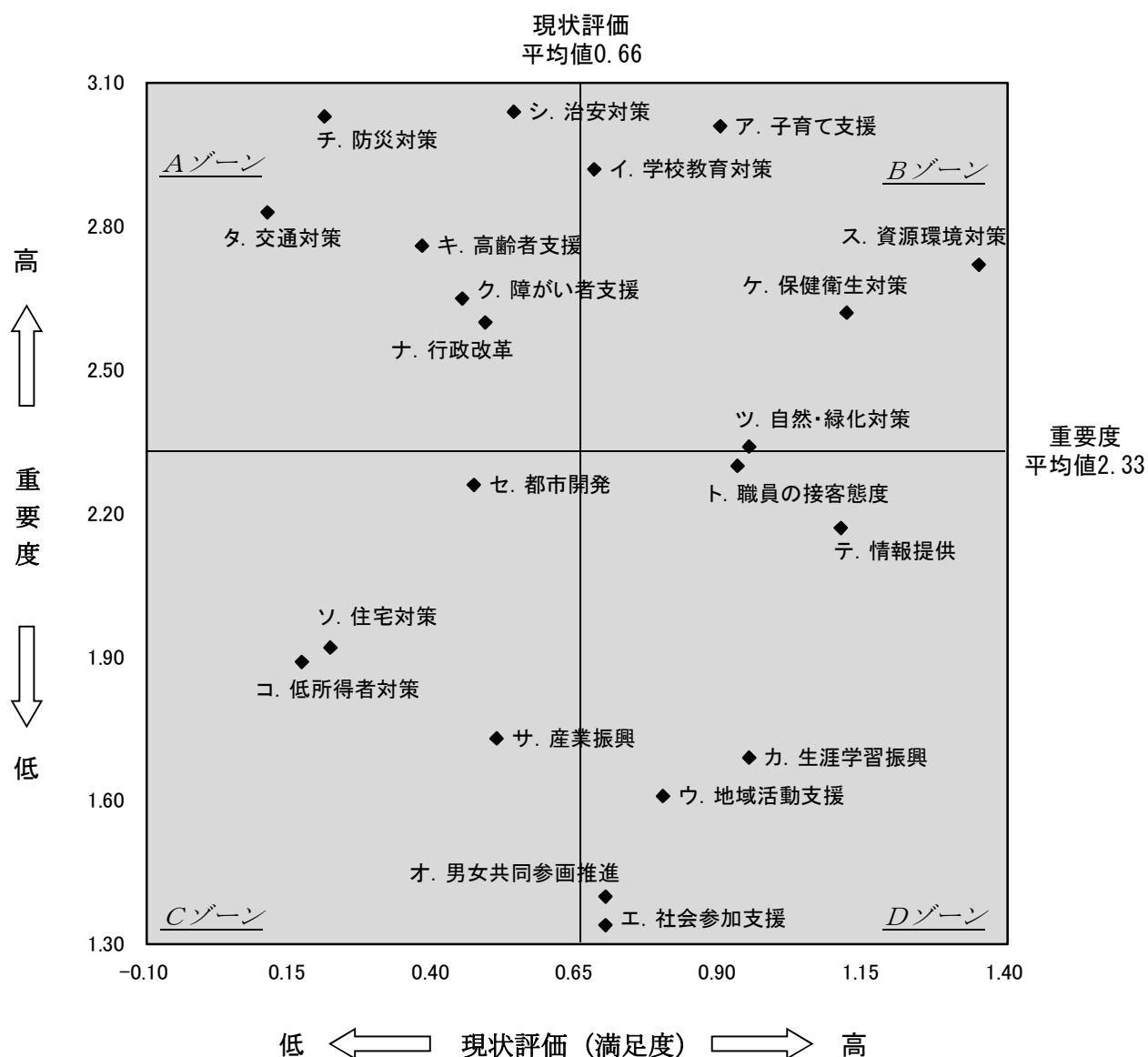
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」「住宅対策」などは、現状評価、重要度の両面で低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「生涯学習振興」「情報提供」「地域活動支援」などがあげられている。

図10－1－3 重要度と現状評価（満足度）の関係



各ブロックの現状評価（満足度）と重要度の関係をみた。《第1ブロック》では、

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」の満足度が低く、重要度は高くなっているほか、「子育て支援」「交通対策」「障がい者支援」「高齢者支援」などもあげられている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が特に高く、重要度も高くなっているほか、「治安対策」の重要度が高くなっている。

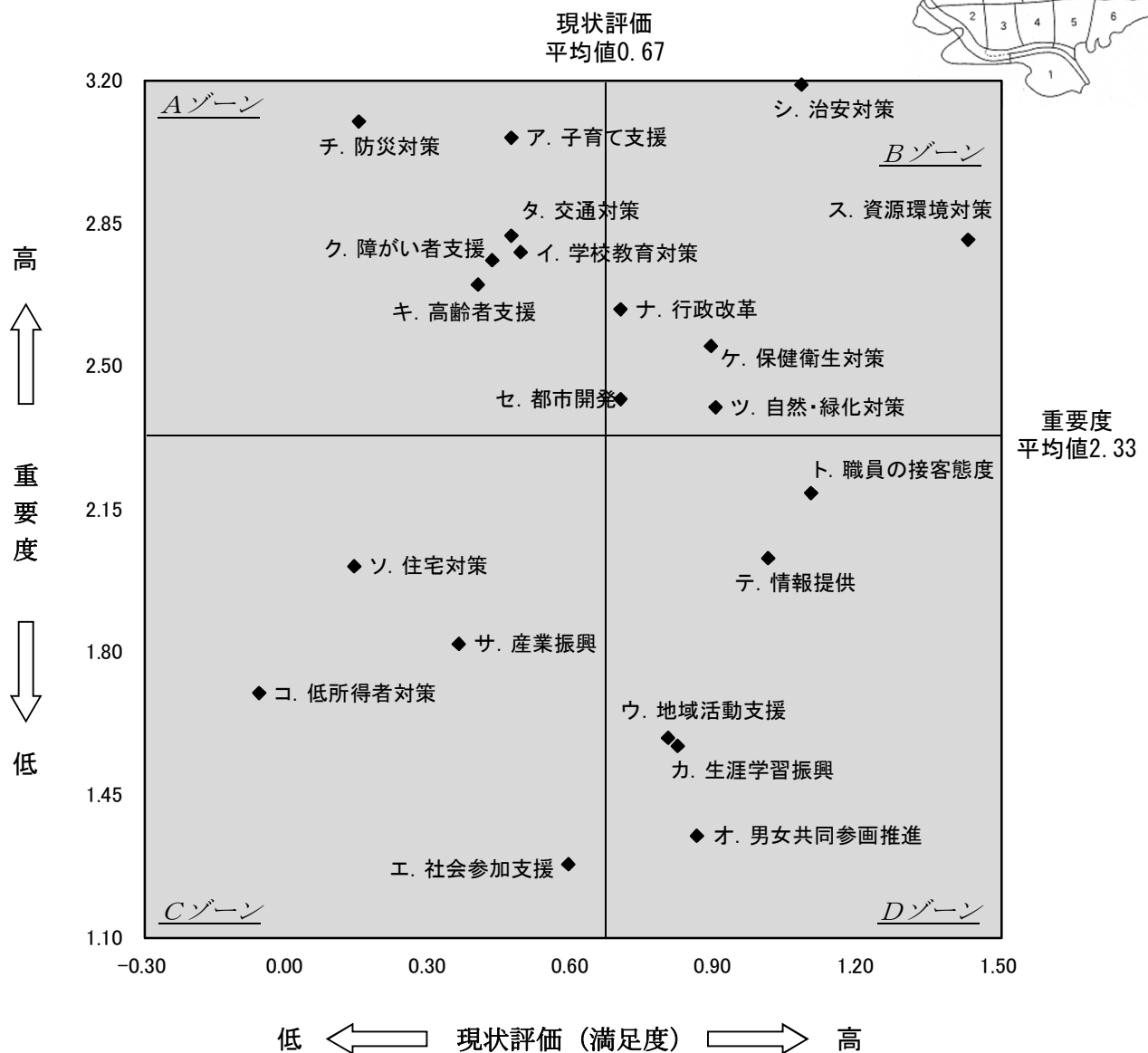
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」の満足度が特に低く、重要度も低くなっているほか、「産業振興」などもあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「地域活動支援」「生涯学習振興」「男女共同参画推進」などがあげられている。

図10-1-4-① 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第1ブロック



《第2ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「学校教育対策」の満足度が特に低く、重要度は高くなっているほか、「交通対策」では満足度の低さ、「防災対策」では重要度の高さが目立っている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

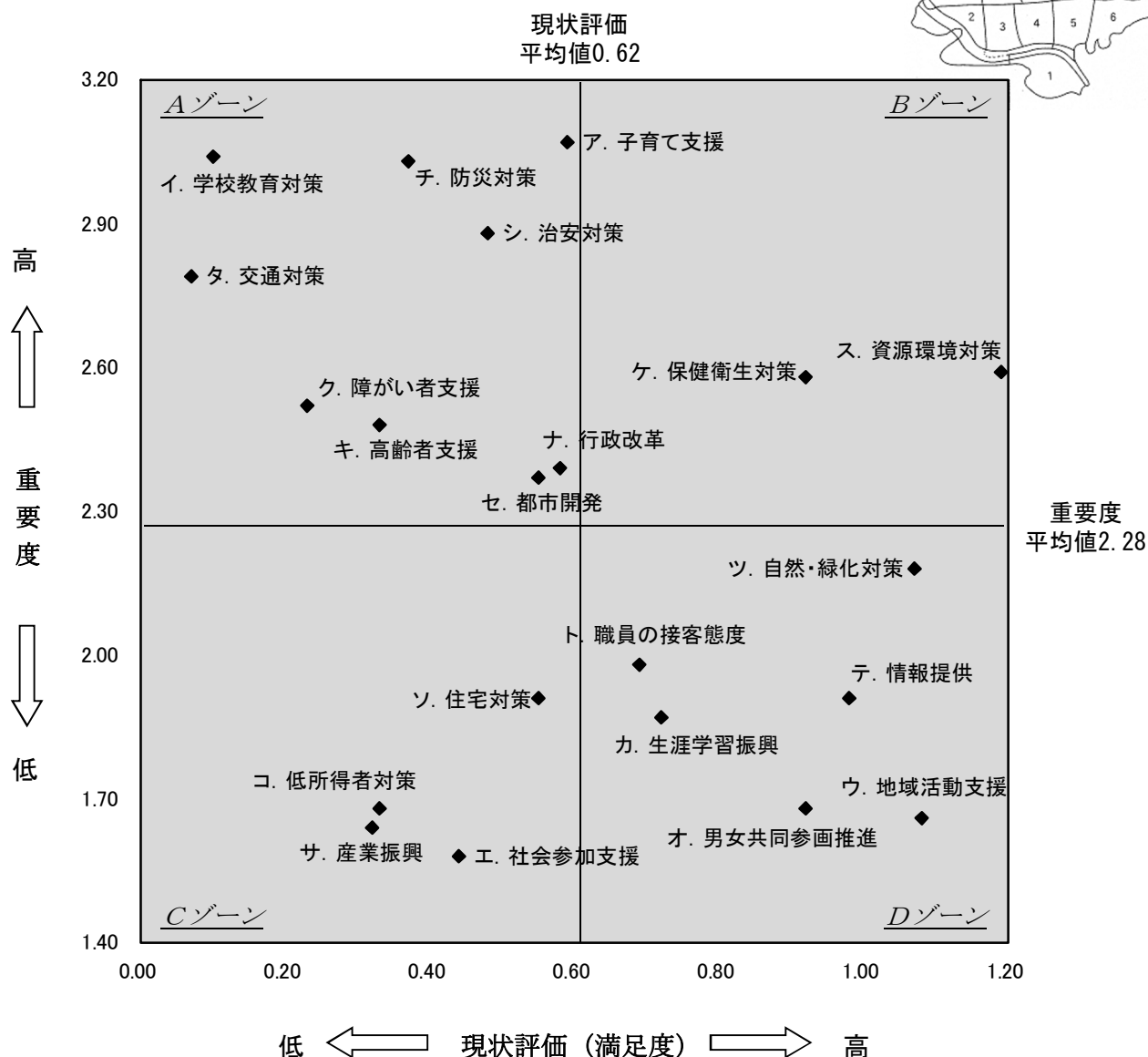
「産業振興」「低所得者対策」などがあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「地域活動支援」「情報提供」「男女共同参画推進」などがあげられている。

図10－1－4－② 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第2ブロック

ブロック区分図



《第3ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」の満足度が特に低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が高く、「治安対策」「保健衛生対策」「子育て支援」などがある。

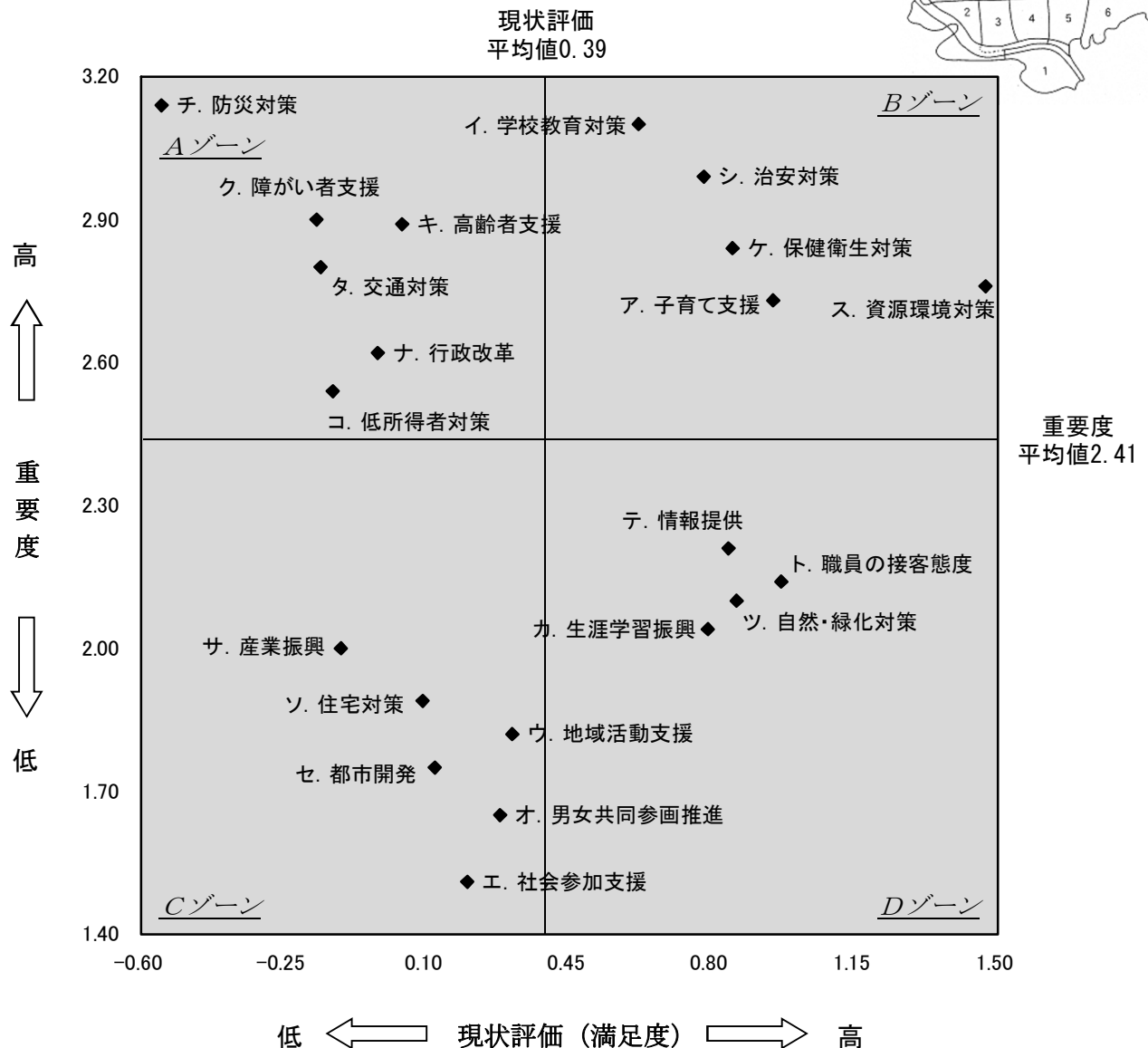
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「産業振興」「住宅対策」「都市開発」などがあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「職員の接客態度」「自然・緑化対策」「生涯学習振興」などがあげられている。

図10-1-4-③ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第3ブロック



《第4ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「交通対策」の満足度が低く、重要度は高くなっているほか、「防災対策」「治安対策」は重要度の高さが目立っている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「保健衛生対策」は満足度が、「子育て支援」は重要度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

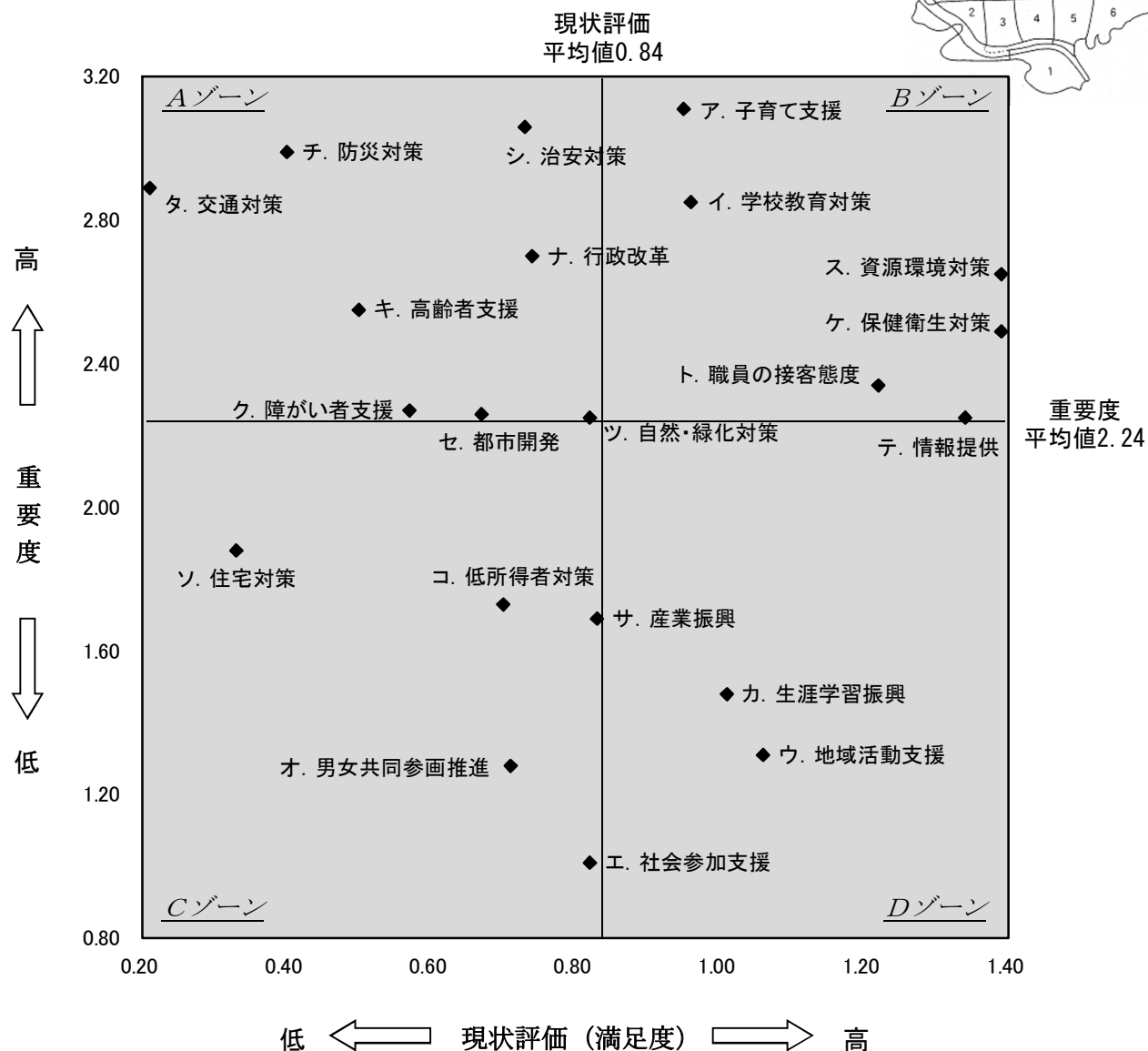
「住宅対策」「男女共同参画推進」などがあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「地域活動支援」「生涯学習振興」があげられている。

図10－1－4－④ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第4ブロック

ブロック区分図



《第5ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「障がい者支援」「交通対策」の満足度が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「保健衛生対策」などがあげられている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

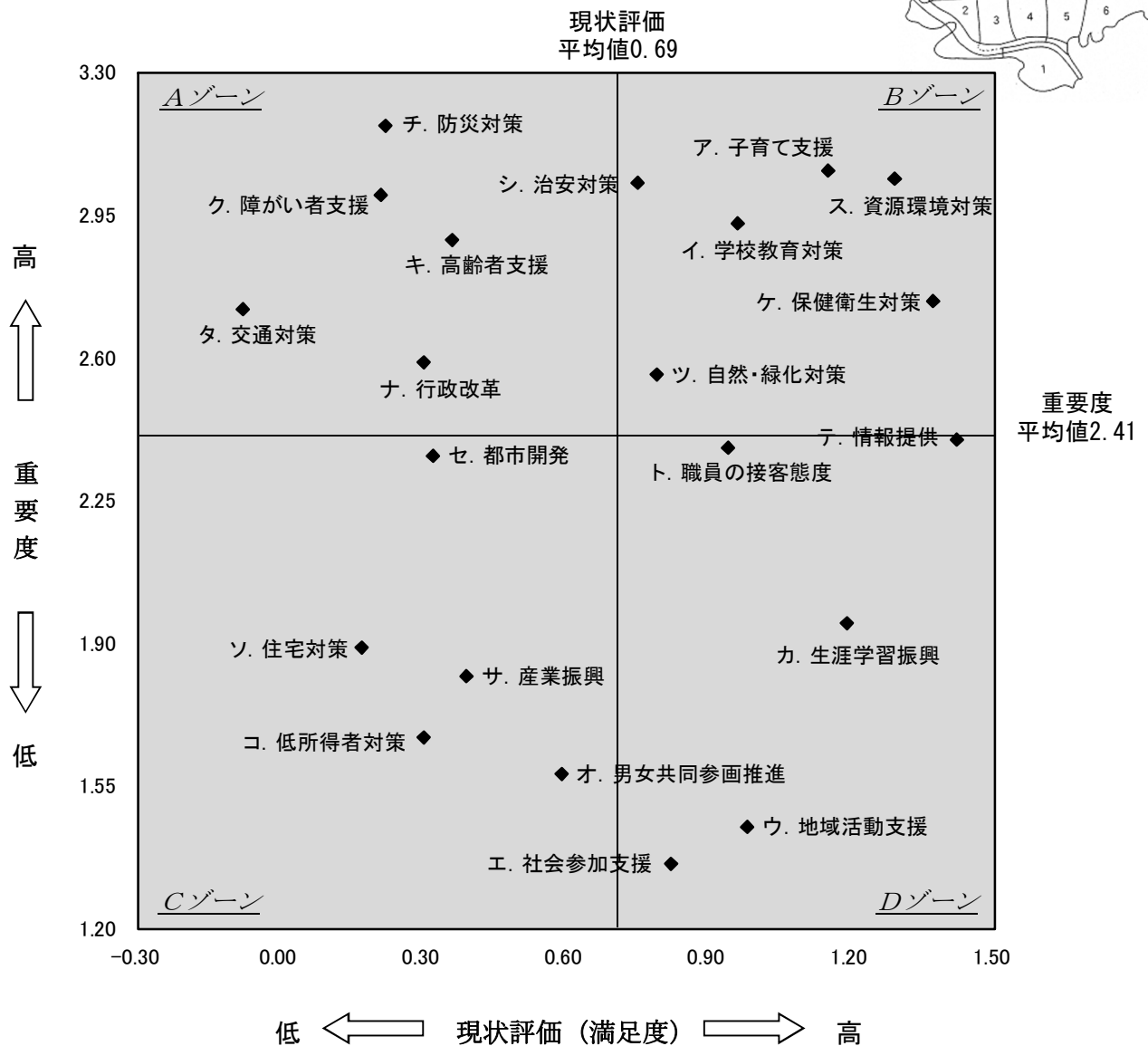
「住宅対策」「低所得者対策」などがあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「生涯学習振興」「地域活動支援」などがあげられている。

図10-1-4-⑤ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第5ブロック

ブロック区分図



《第6ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」で満足度が低く、重要度が高くなっているほか、「交通対策」は満足度が低く、「治安対策」は重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が高く、「子育て支援」の重要度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「都市開発」の満足度が低くなっているほか、「住宅対策」「低所得者対策」などがあげられている。

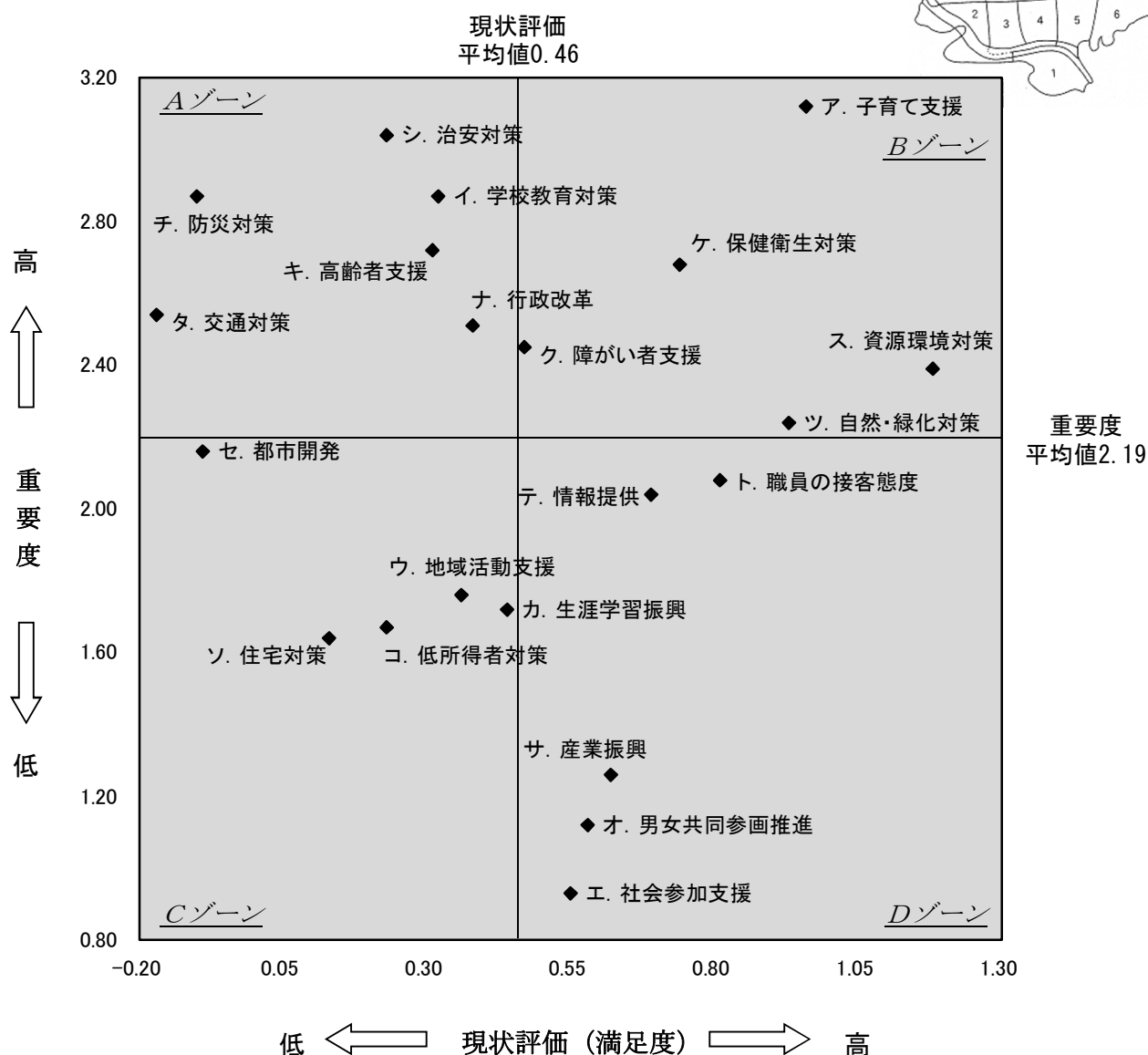
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「社会参加支援」「男女共同参画推進」などの重要度が低くなっている。

ブロック区分図



図10-1-4-⑥ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第6ブロック



《第7ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「交通対策」「高齢者支援」「防災対策」などが、満足度は低く、重要度は高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が高くなっている。

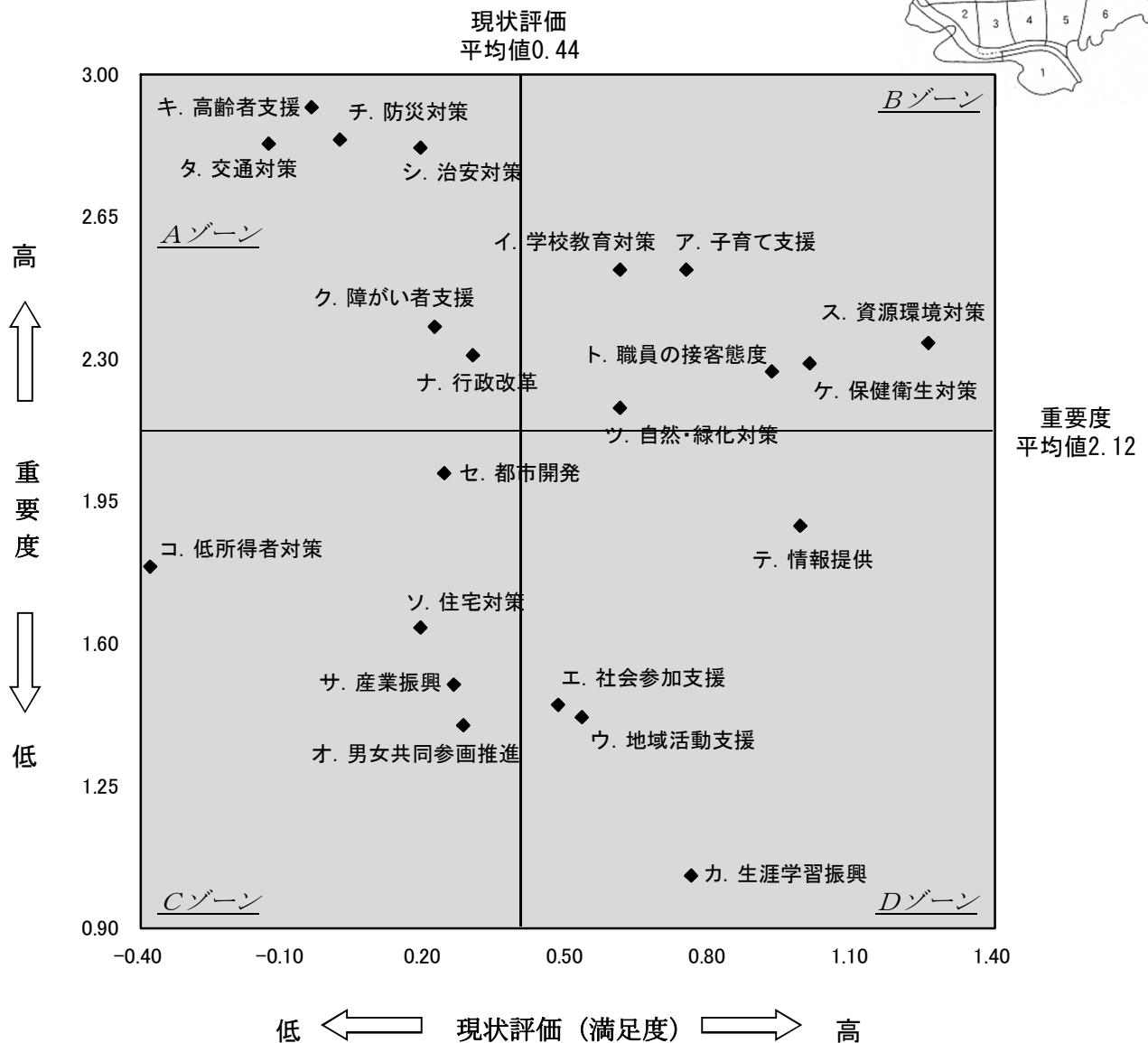
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」の満足度が低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「生涯学習振興」の重要度が低くなっている。

図10-1-4-⑦ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第7ブロック



《第8ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「交通対策」の重要度が高く、「高齢者支援」の満足度が低くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」が満足度、重要度とも高くなっている。

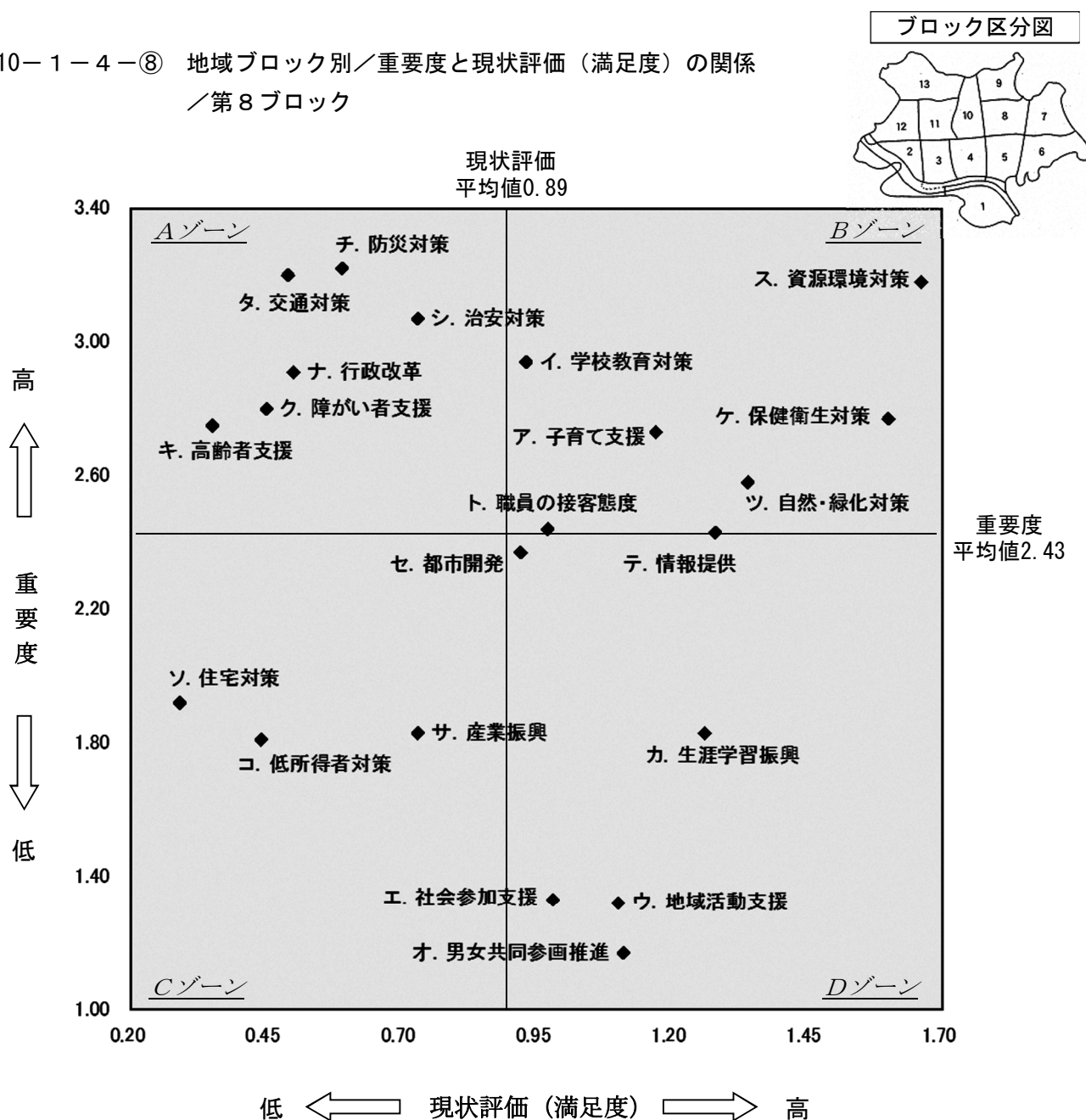
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住宅対策」の満足度が低くなっているほか、「低所得者対策」などがあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「男女共同参画推進」「地域活動支援」「社会参加支援」の重要度が低くなっている。

図10－1－4－⑧ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第8ブロック



《第9ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「治安対策」で満足度が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が高くなっているほか、「子育て支援」「保健衛生対策」などがあげられている。

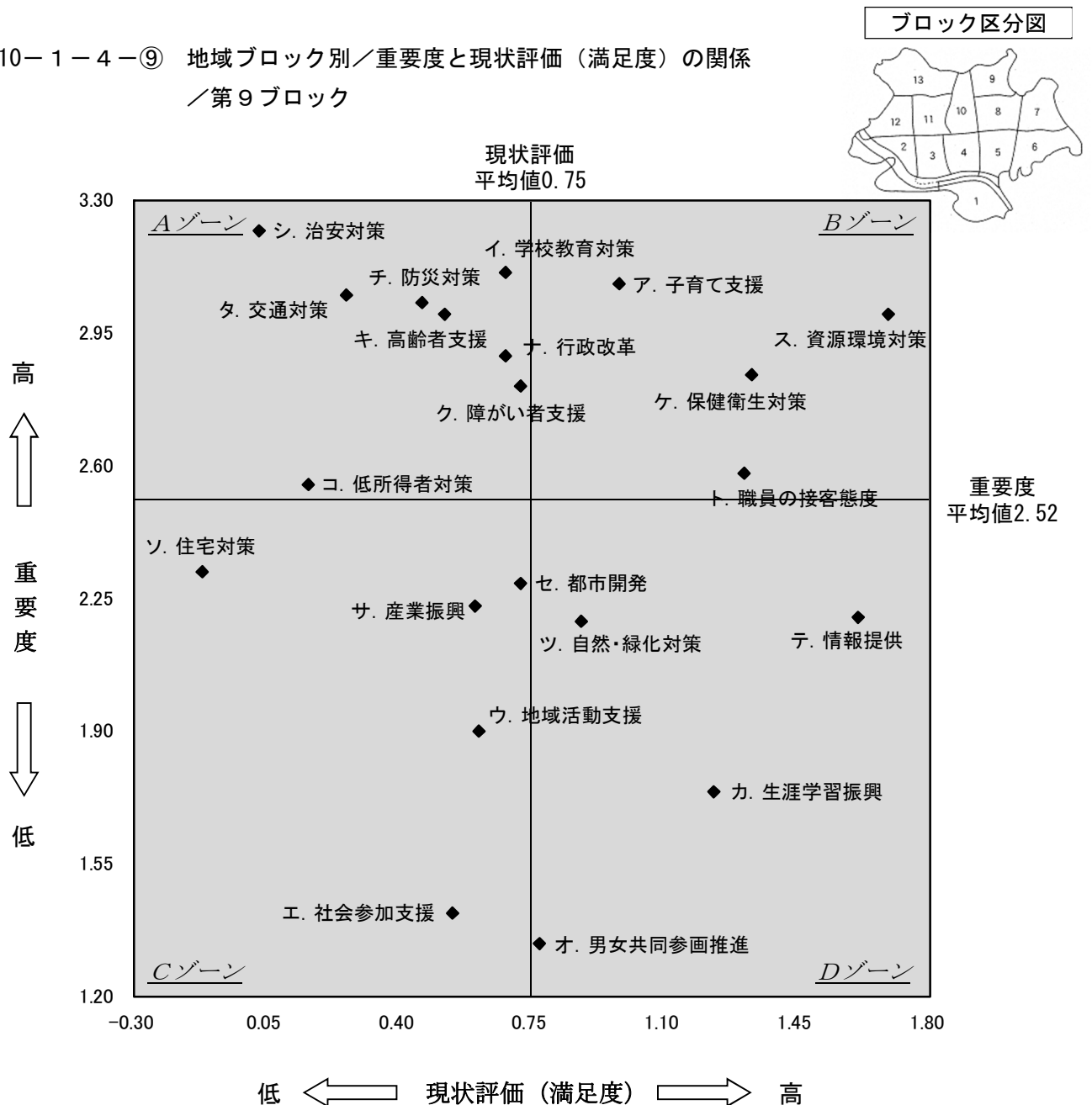
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住宅対策」で満足度が、「社会参加支援」で重要度が低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」の満足度が高くなっているほか、「男女共同参画推進」で重要度が低くなっている。

図10-1-4-⑨ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第9ブロック



《第10ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「治安対策」「交通対策」で満足度が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「子育て支援」「学校教育対策」の重要度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

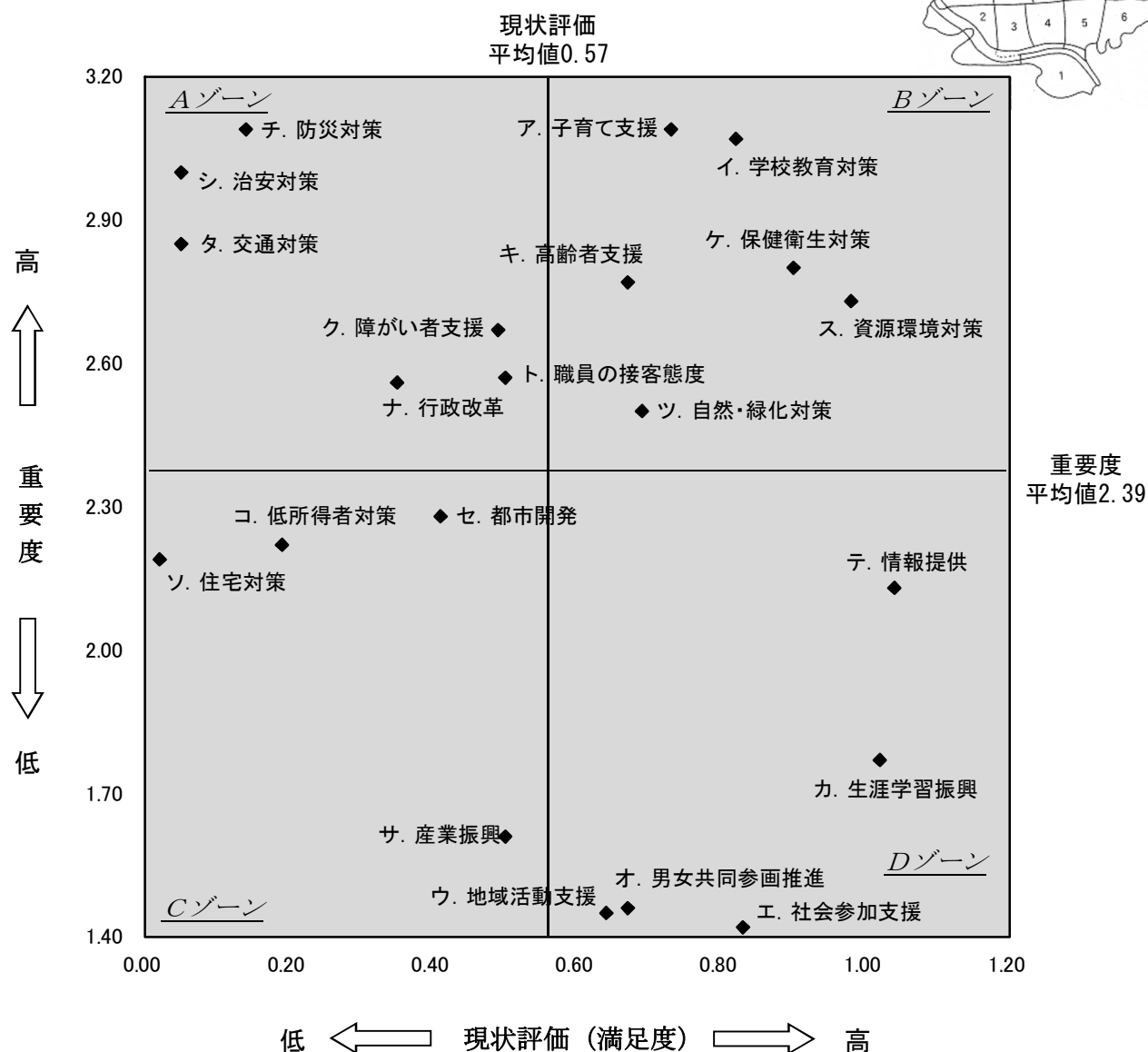
「住宅対策」で満足度、「産業振興」で重要度が低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」「生涯学習振興」で満足度が高く、「社会参加支援」「男女共同参画推進」「地域活動支援」で重要度が低くなっている。

図10－1－4－⑩ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第10ブロック

ブロック区分図



《第11ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「交通対策」の満足度が低く、「治安対策」の重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が高く、「子育て支援」の重要度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

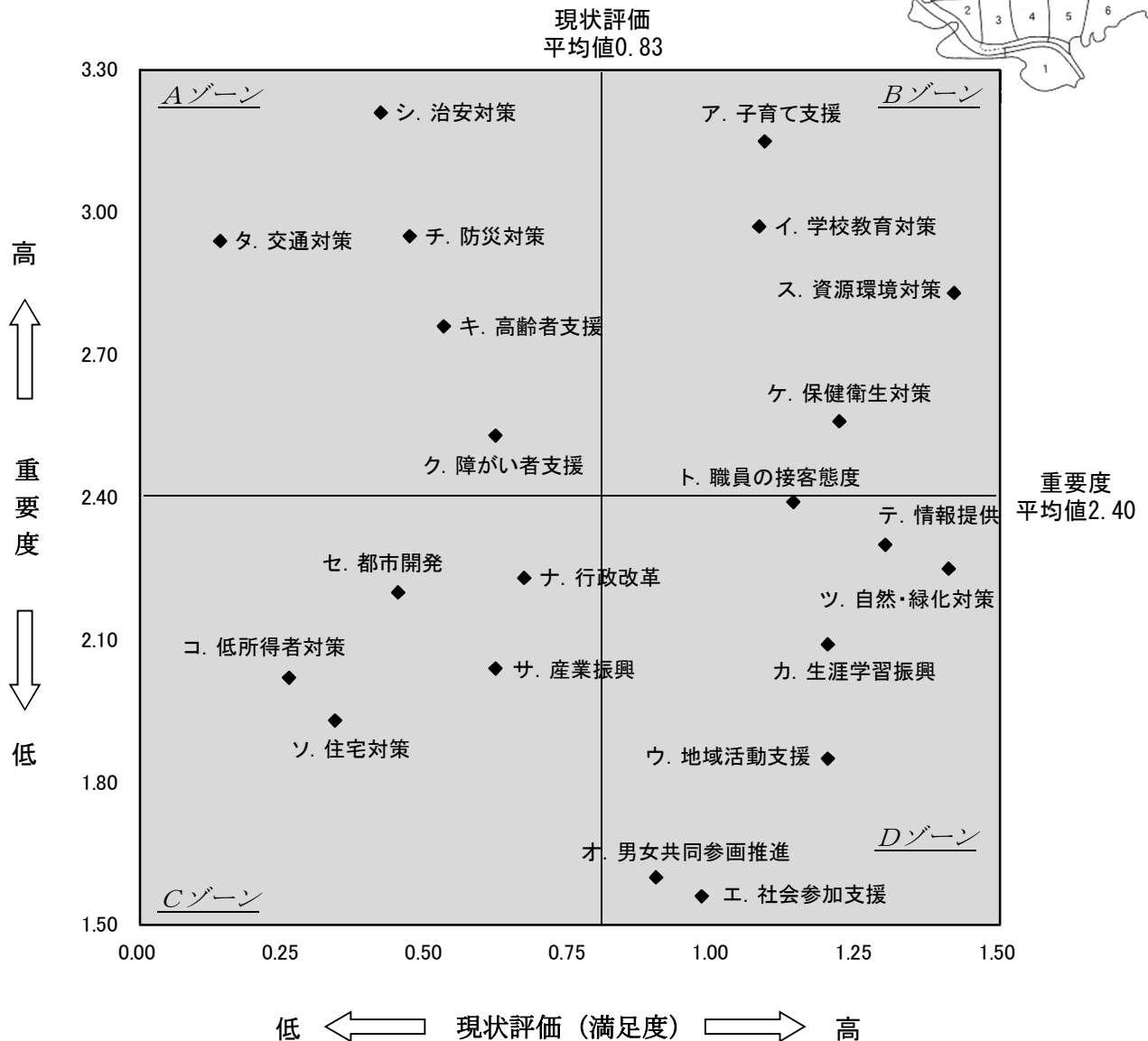
「住宅対策」「低所得者対策」「都市開発」などがあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「自然・緑化対策」で満足度が高く、「社会参加支援」「男女共同参画推進」の重要度が低くなっている。

図10-1-4-⑪ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第11ブロック

ブロック区分図



《第12ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「交通対策」の満足度が低く、「学校教育対策」の重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「子育て支援」の重要度が高くなっている。

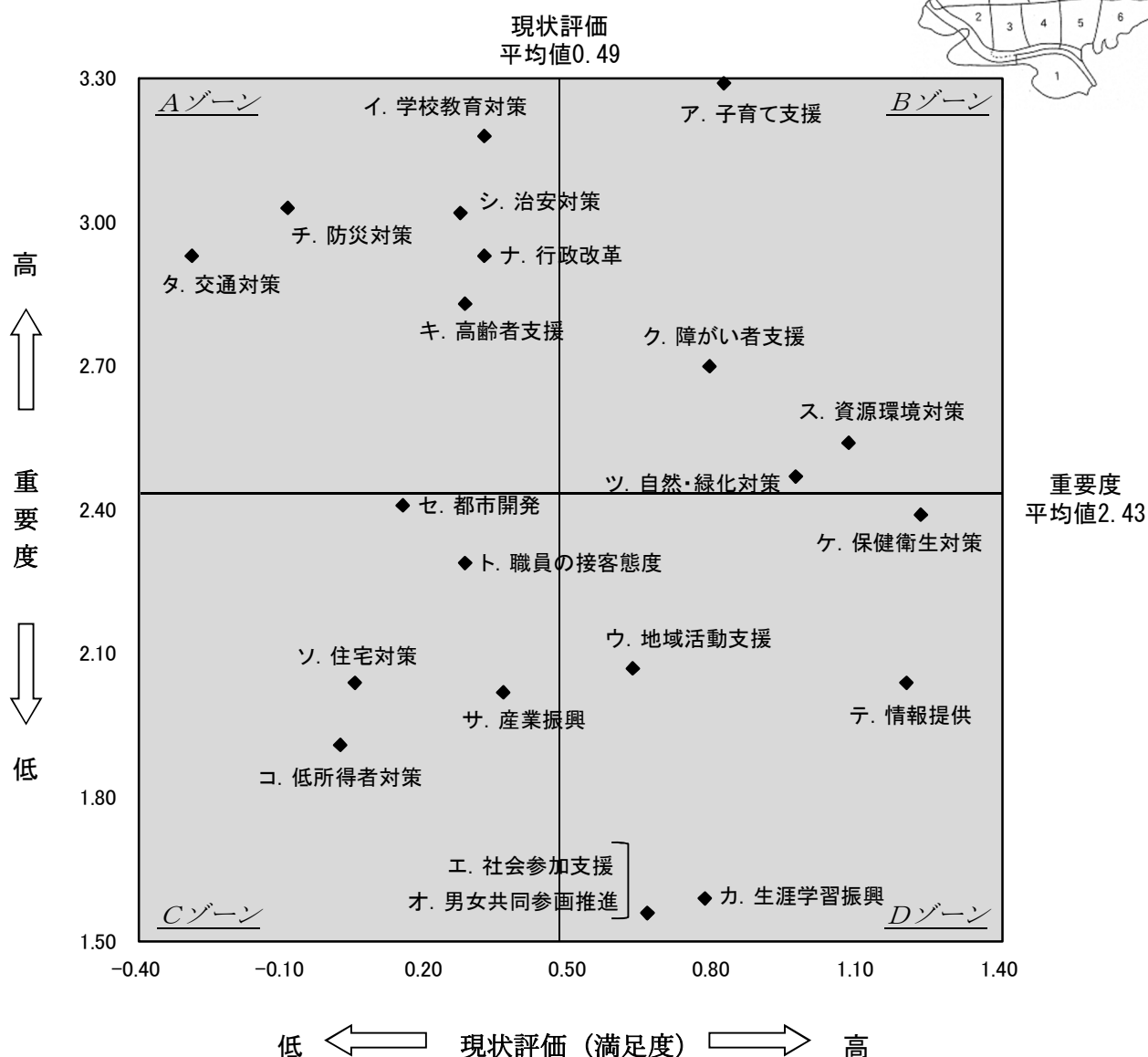
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」「住宅対策」などがあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「保健衛生対策」「情報提供」で満足度が高く、「社会参加支援」「男女共同参画推進」「生涯学習振興」の重要度が低くなっている。

図10－1－4－⑫ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第12ブロック



《第13ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「交通対策」「防災対策」などがあげられている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が高くなっているほか、「子育て支援」「保健衛生対策」などがあげられている。

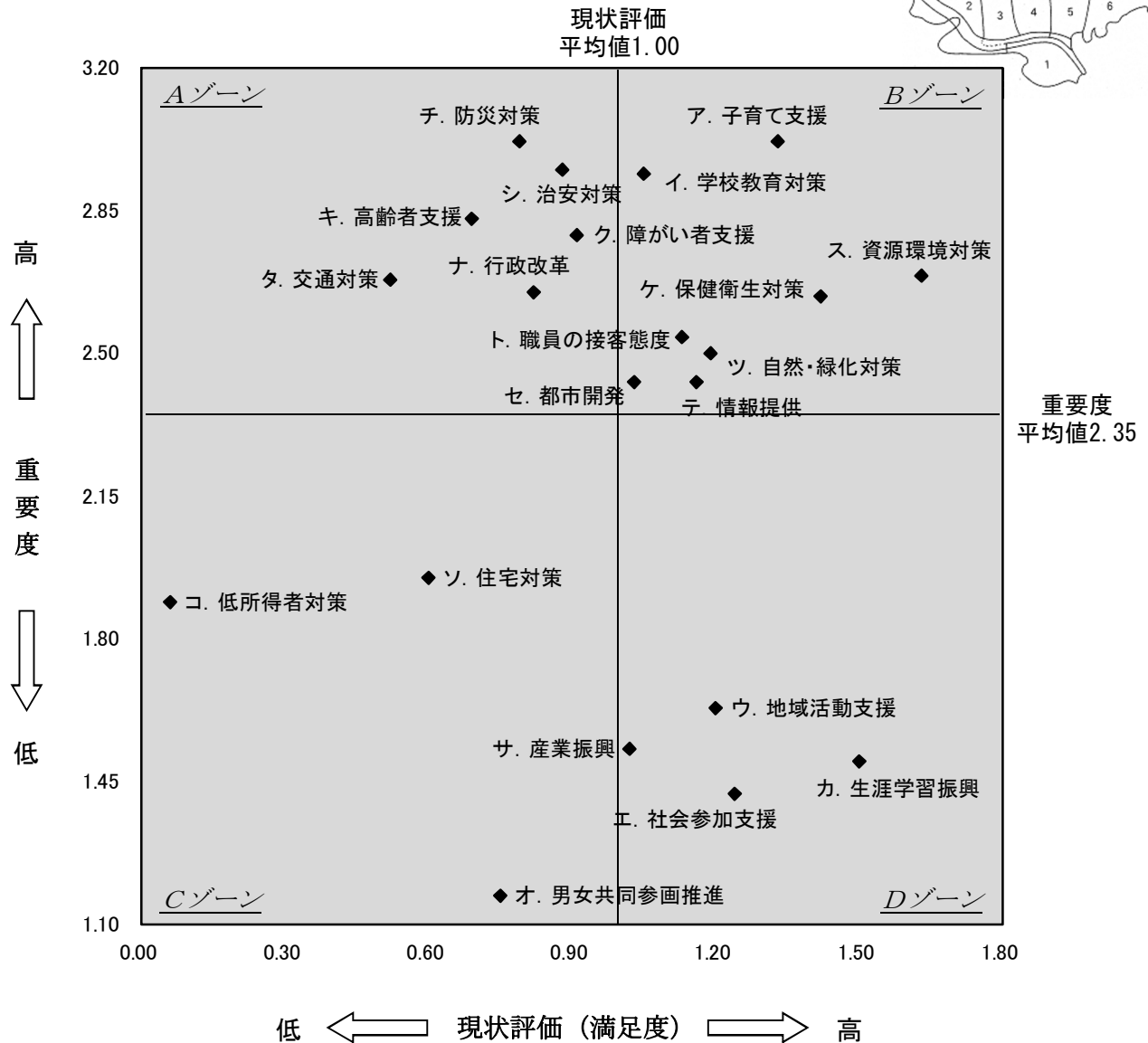
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」の満足度が低く、「男女共同参画推進」で重要度が低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「生涯学習振興」「社会参加支援」などがあげられている。

図10－1－4－⑬ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第13ブロック

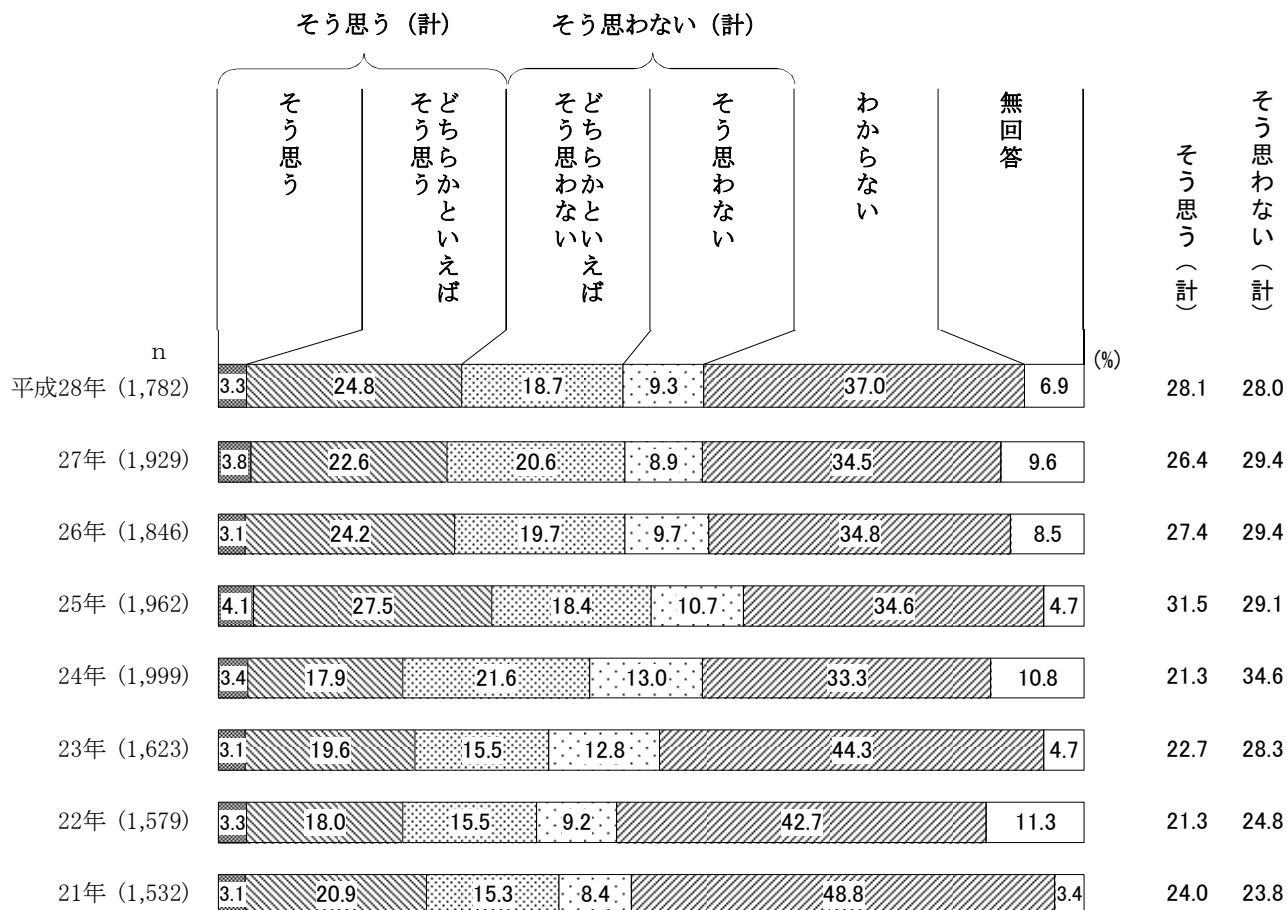


(2) 区政への区民意見の反映度

■ 【そう思う】は3割弱

問40 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（○は1つだけ）。

図10-2-1 経年比較／区政への区民意見の反映度



区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は28.1%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】(28.0%) とほぼ同率となっている。

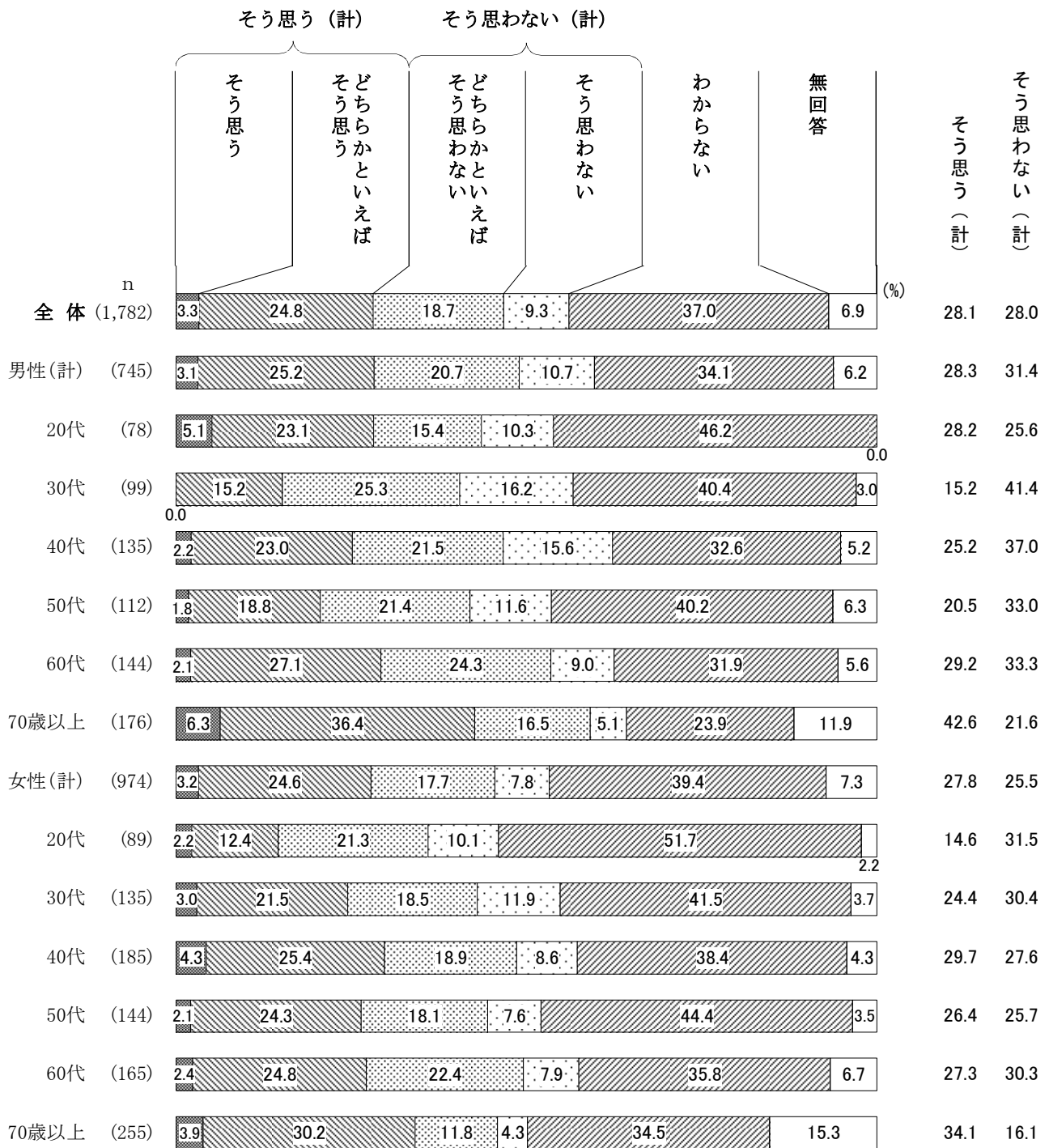
経年でみると、【そう思う】は今回28.1%と、平成26年以降ほぼ横ばいとなっている。

性別でみると、男性では【そう思う】が28.3%と、女性（27.8%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で【そう思う】が42.6%と高くなっているほか、60代でも3割近くを占めている。

女性では、70歳以上で【そう思う】が34.1%高くなっているほか、40代でも3割近くを占めている。

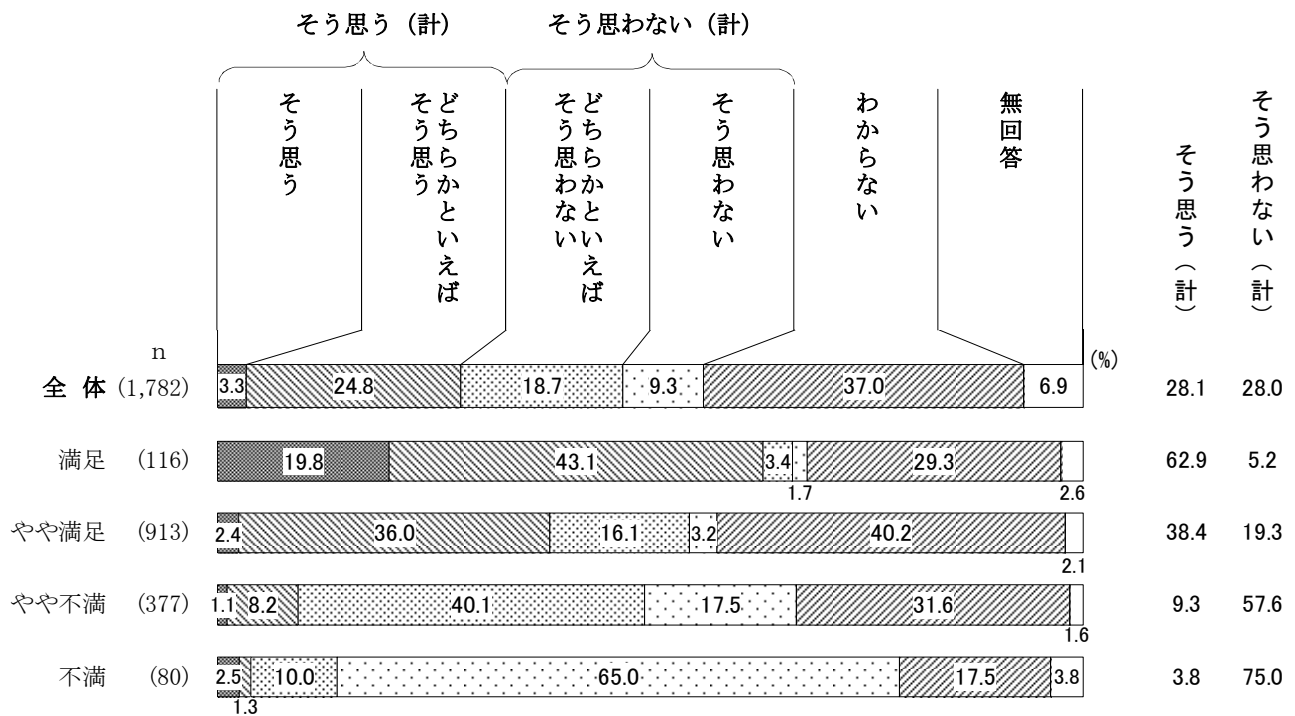
図10-2-2 性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度



第3章 調査結果の分析 〈 区の取り組み 〉

区政満足度別でみると、満足度が高くなるほど【そう思う】は増加し、満足している層では62.9%と高くなっている。

図10－2－3 区政満足度別／区政への区民意見の反映度



(3) 区に対する気持ち

■ “誇りをもっている”が5割強、“人に勧めたい”が5割弱で過去最高値

問41 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか。
(○はそれぞれ1つつ)

図10-3-1-① 経年比較／区に対する気持ち

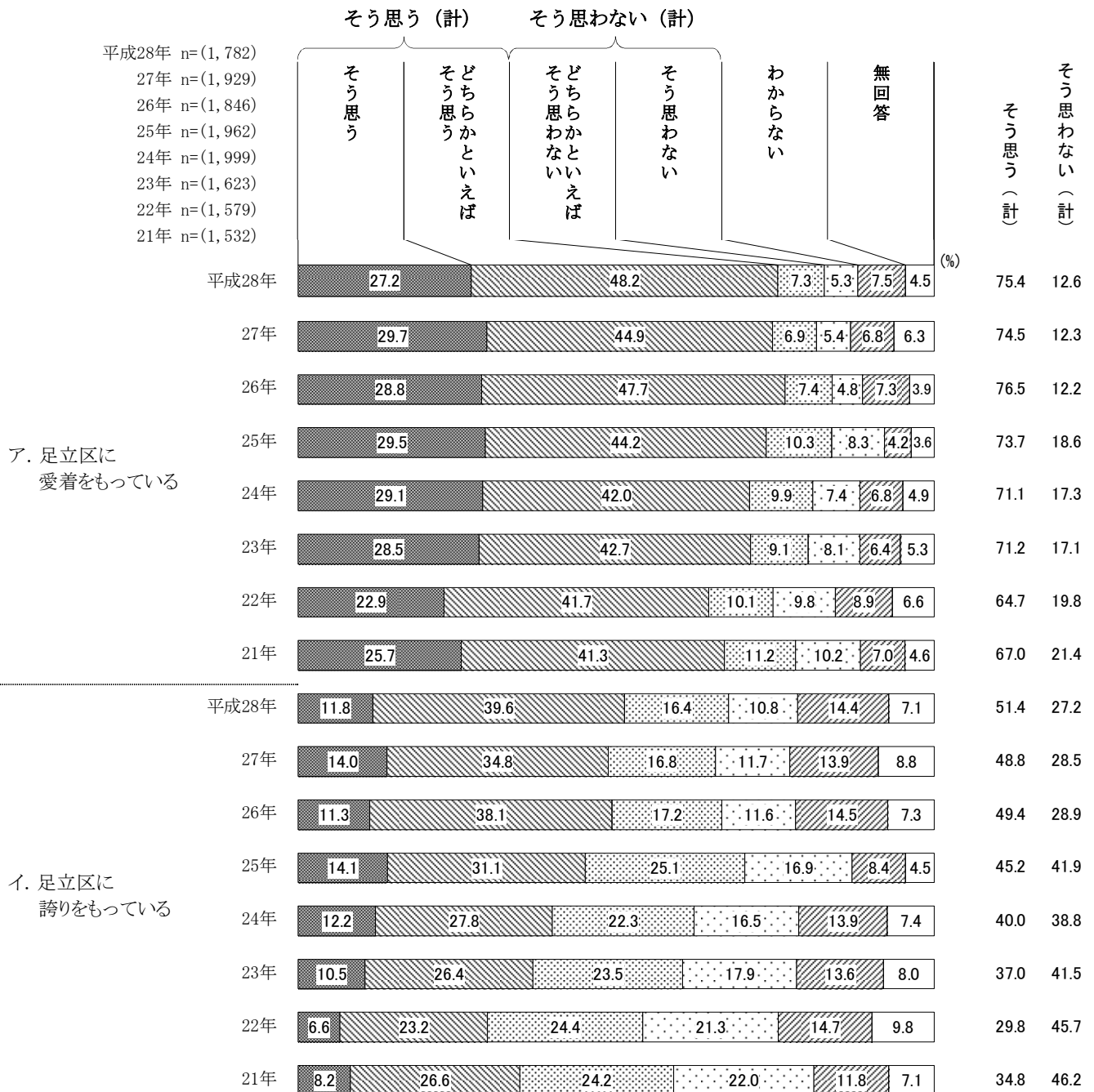
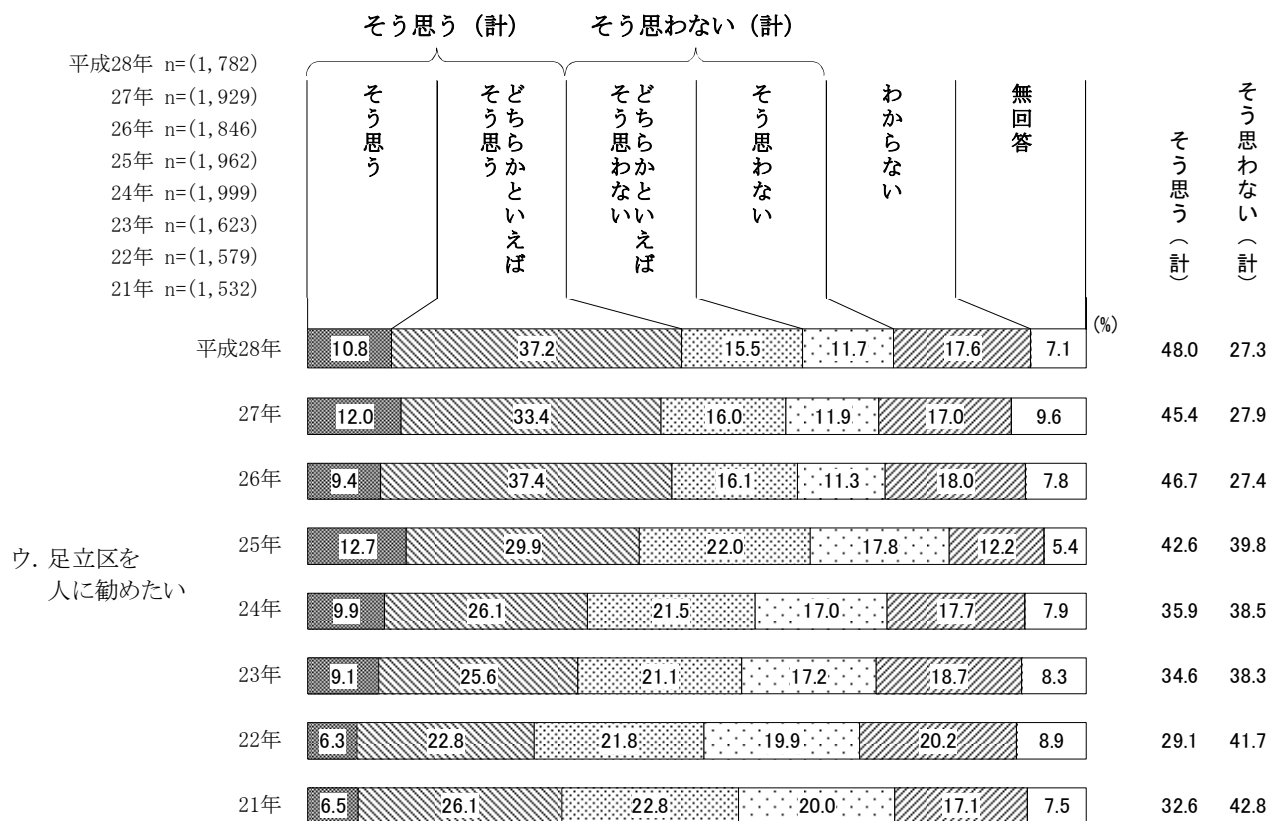


図10-3-1-② 経年比較／区に対する気持ち

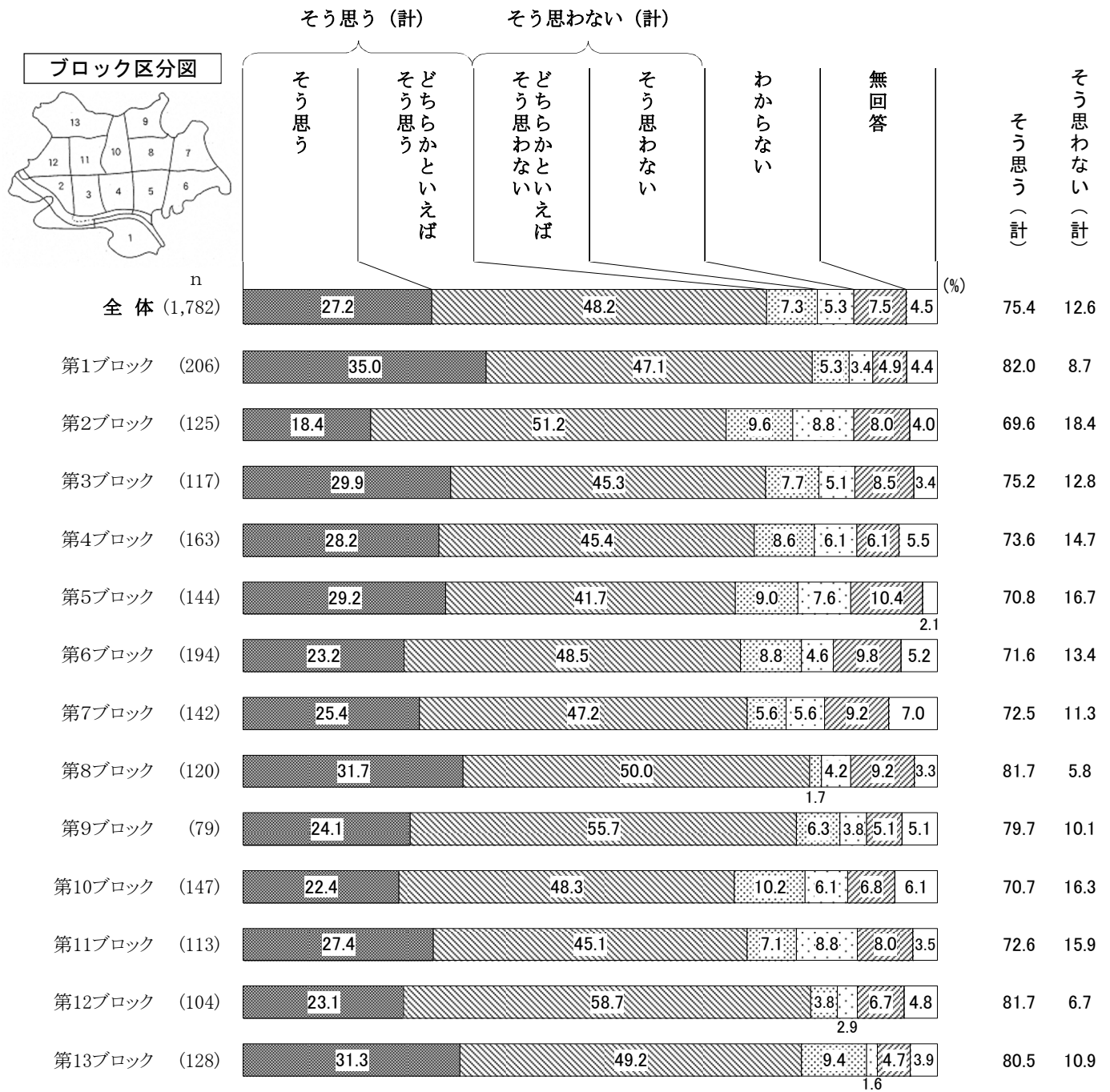


区に対する気持ちについて聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は、〈足立区に愛着をもっている〉が75.4%で最も高く、以下〈足立区に誇りをもっている〉(51.4%)、〈足立区を人に勧めたい〉(48.0%)の順で続いている。

経年でみると、どの項目も、平成27年より微増している。

地域ブロック別でみると、〈足立区に愛着をもっている〉では、第1ブロック、第8ブロック、第9ブロック、第12ブロック、第13ブロックでは、【そう思う】が8割前後となっている。

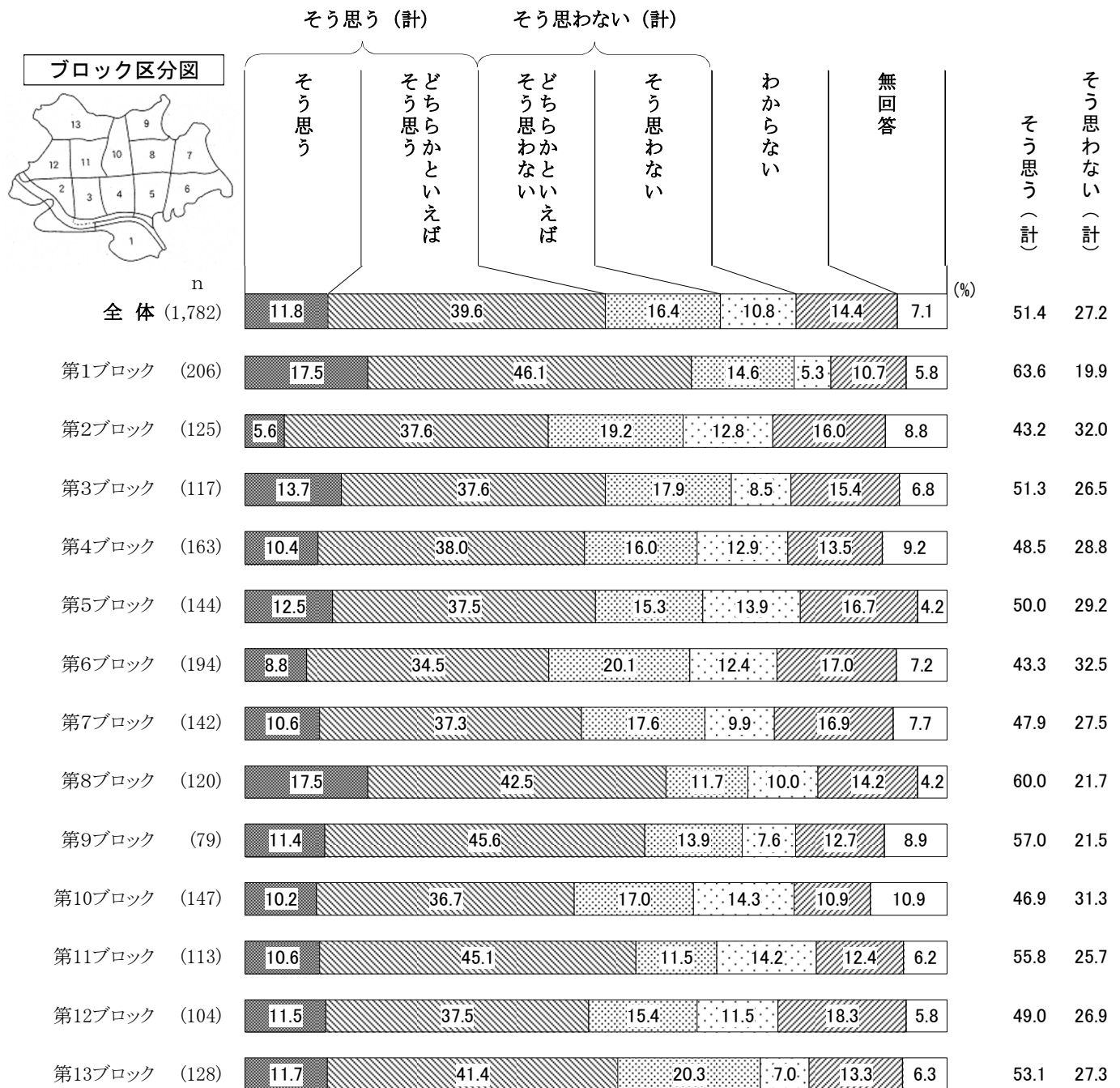
図10-3-2-① 地域ブロック別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



第3章 調査結果の分析 〈 区の取り組み 〉

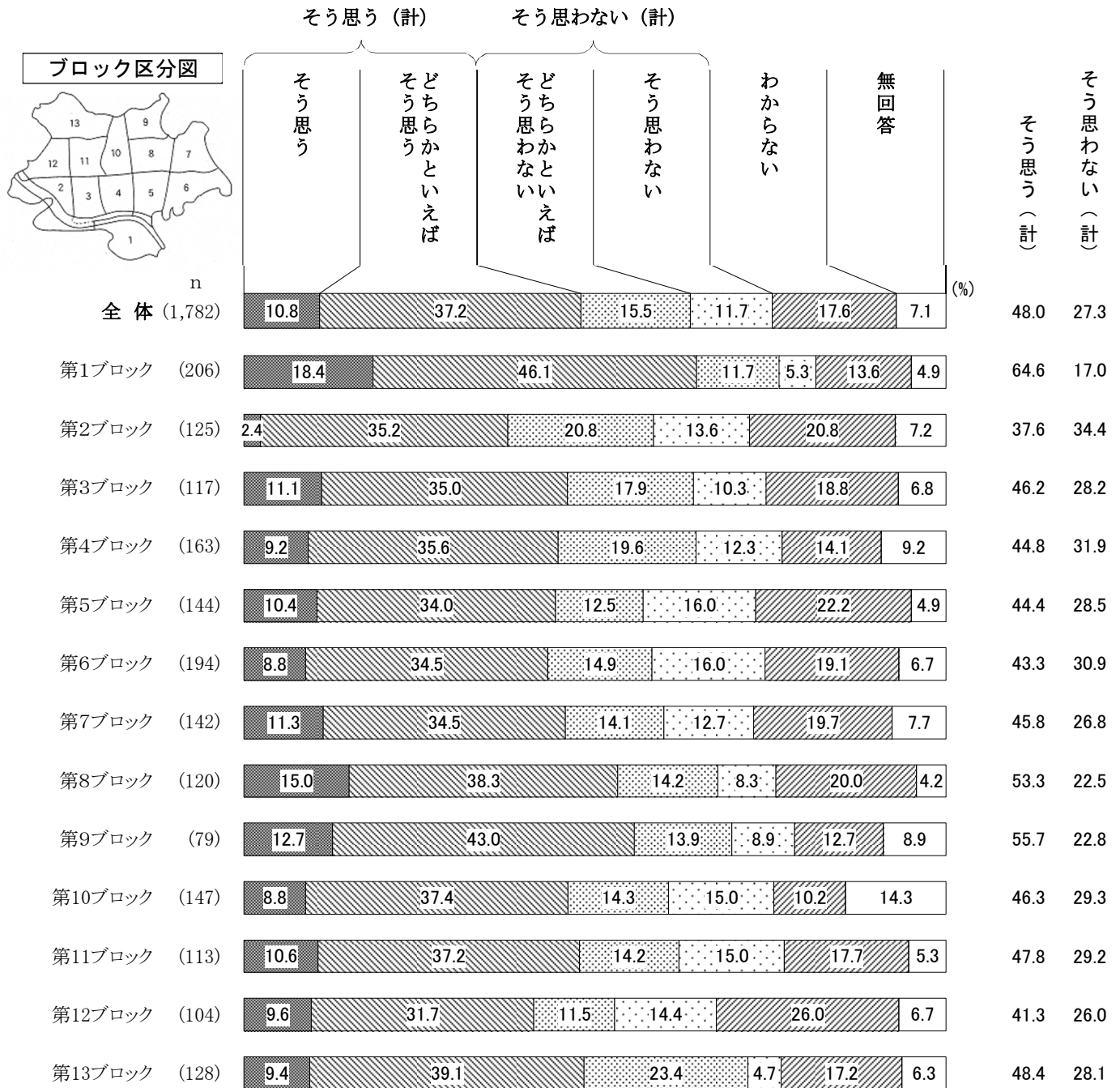
地域ブロック別でみると、〈足立区に誇りをもっている〉では、第1ブロックでは、【**そう思う**】が63.6%と高くなっているほか、第8ブロックでも60.0%となっている。

図10-3-2-② 地域ブロック別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



地域ブロック別でみると、〈足立区を人に勧めたい〉では、第1ブロックでは、【そう思う】が64.6%と高くなっているほか、第8ブロック、第9ブロックでは5割を超えている。

図10-3-2-③ 地域ブロック別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



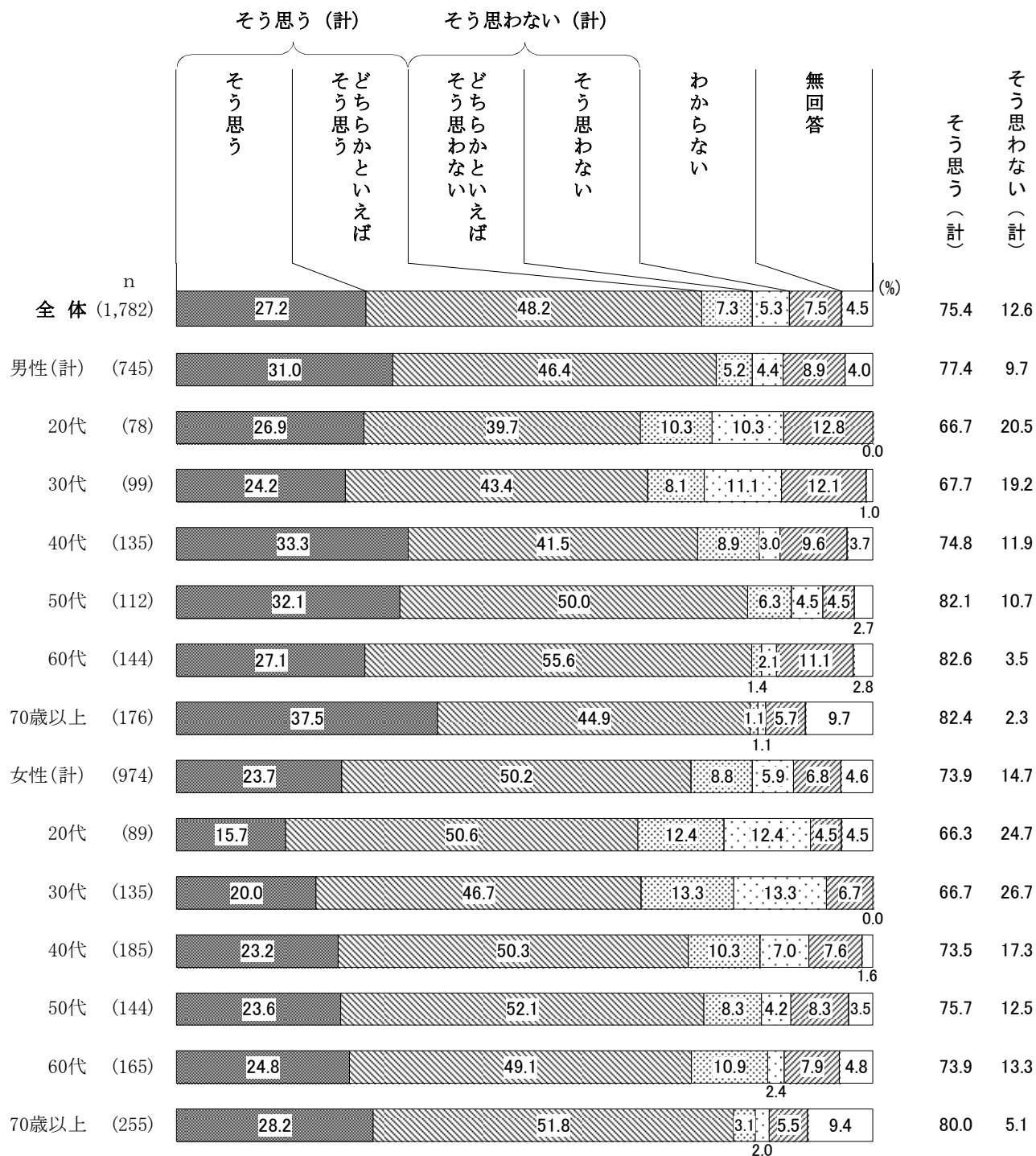
第3章 調査結果の分析 〈区の取り組み〉

〈足立区に愛着をもっている〉では性別でみると、【そう思う】は男性77.4%、女性73.9%となっている。

性・年代別でみると、男性では、50代から70歳以上の各年代で【そう思う】が8割を超えている。

女性では、40代以上で【そう思う】は7割を超え、70歳以上では80.0%となっている。

図10-3-3-① 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

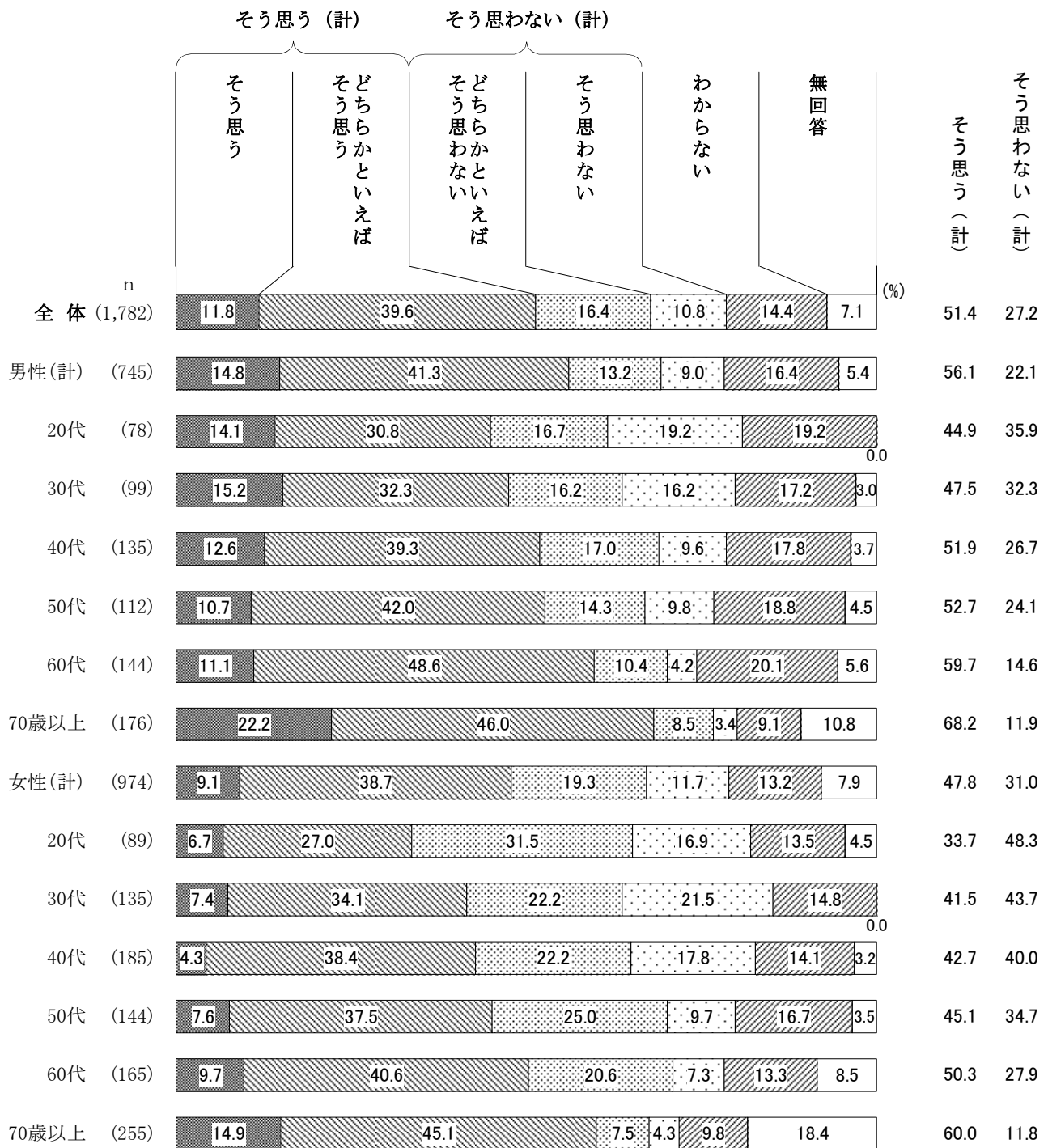


〈足立区に誇りをもっている〉について性別でみると、男性では【そう思う】が56.1%と、女性（47.8%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、加齢とともに【そう思う】が増加し、70歳以上では68.2%となっている。

女性でも、加齢とともに【そう思う】が増加し、70歳以上では60.0%となっている。

図10-3-3-② 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



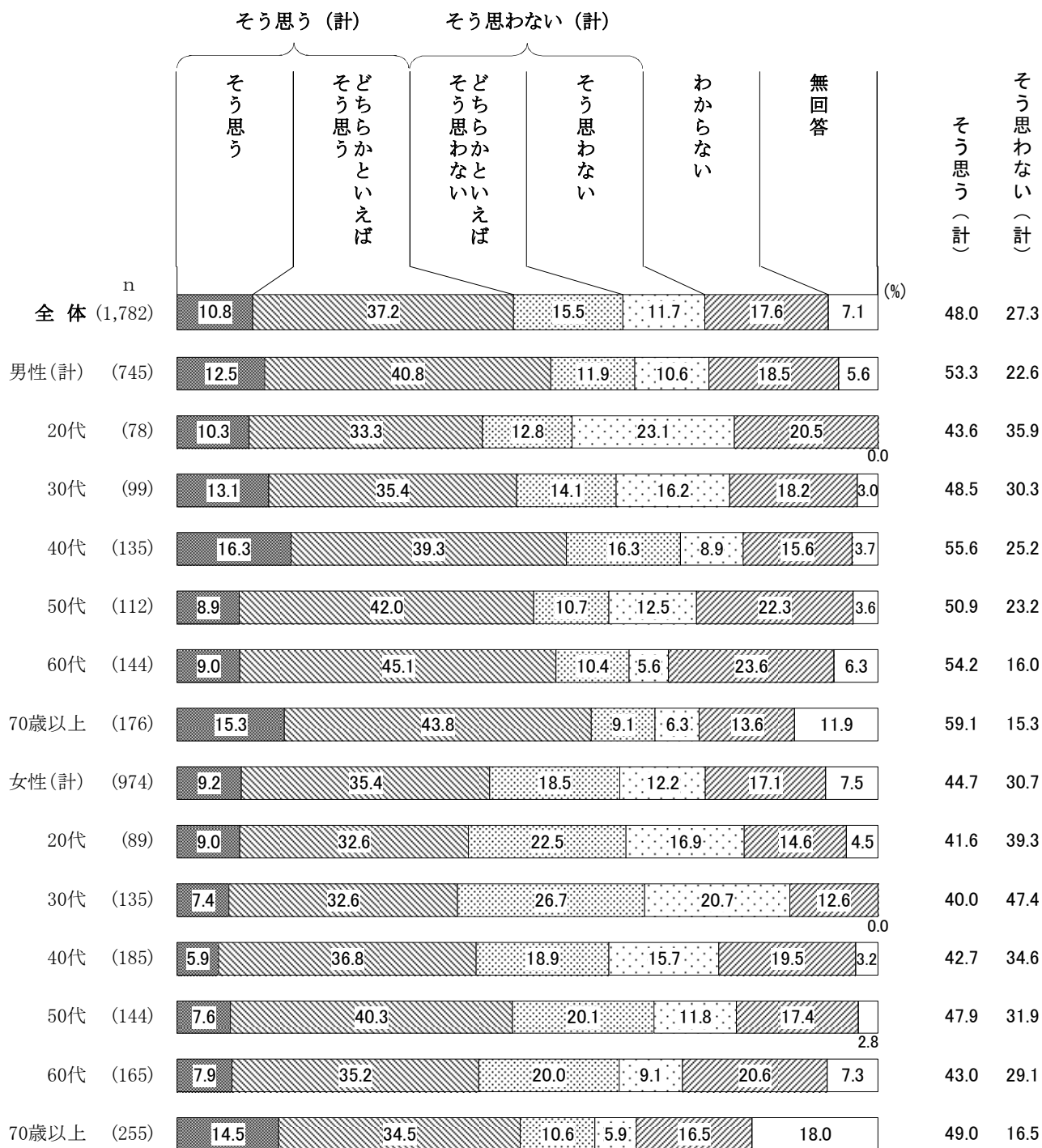
第3章 調査結果の分析 〈 区の取り組み 〉

〈足立区を人に勧めたい〉について性別でみると、男性では【そう思う】が53.3%と、女性（44.7%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で【そう思う】が59.1%と高くなっているほか、40代から60代でも5割を超えている。

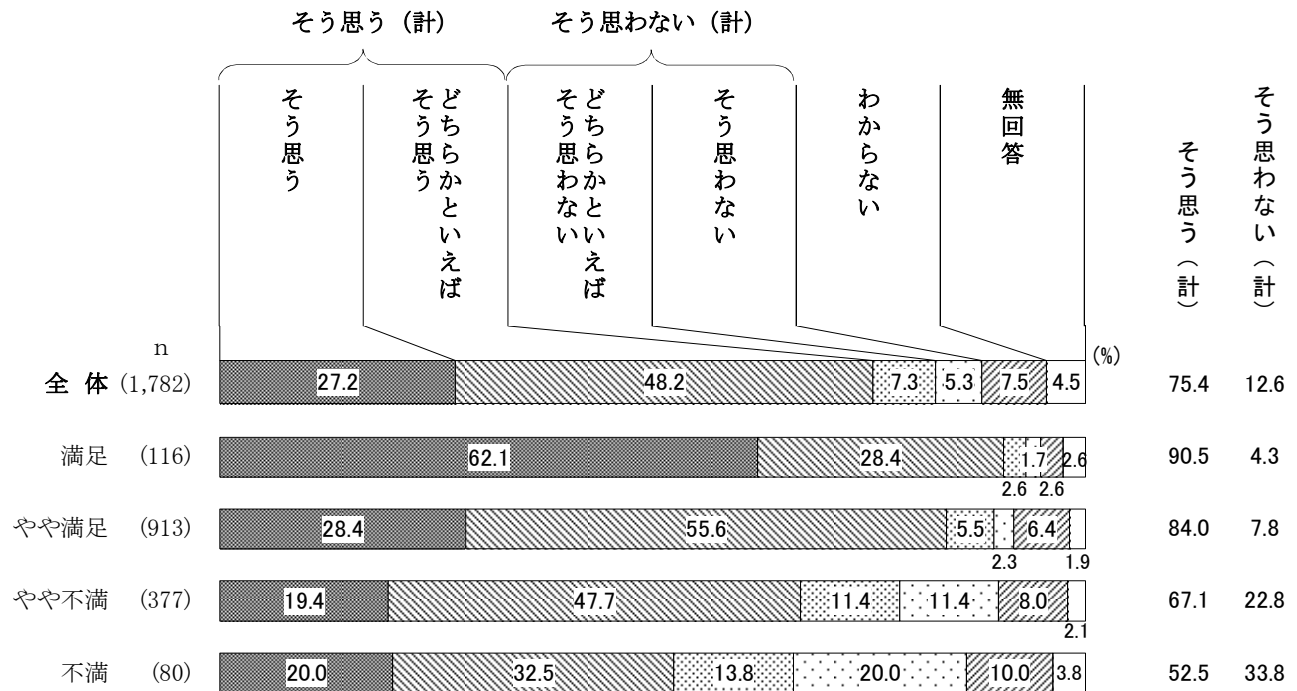
女性では、各年代とも【そう思う】が4割を超えている。

図10-3-3-③ 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



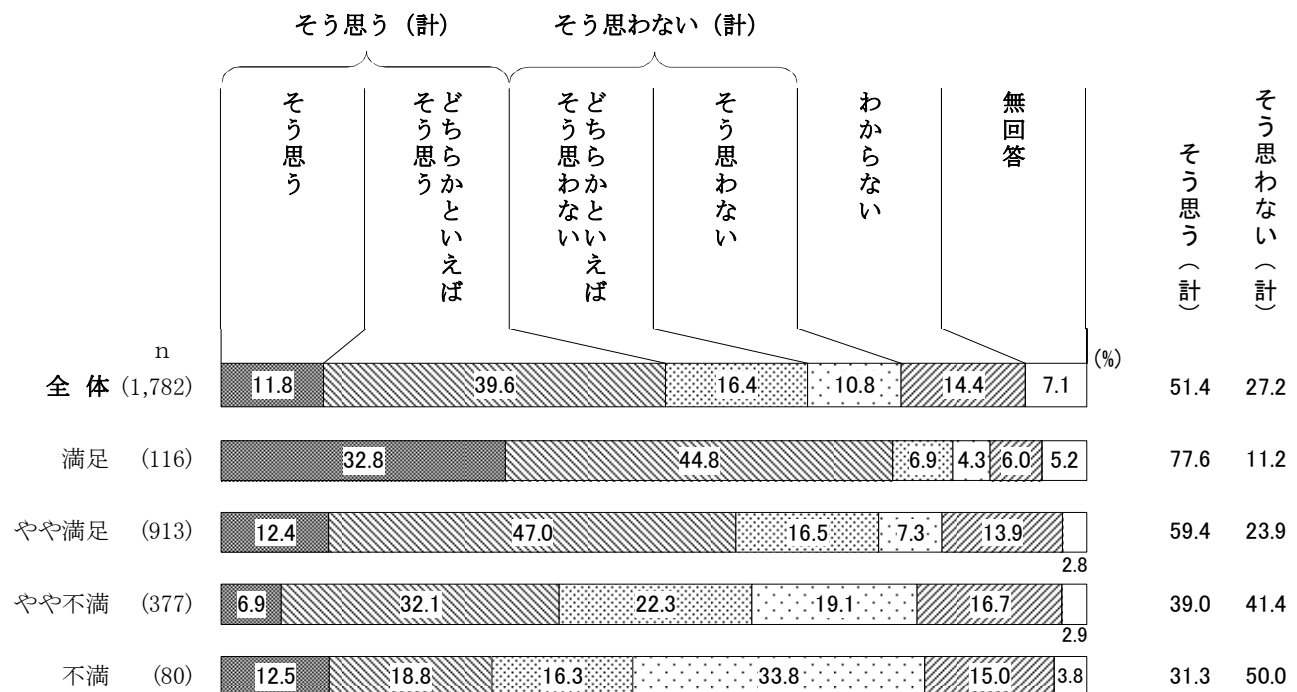
〈足立区に愛着をもっている〉について区政満足度別でみると、満足している層では【思う】が90.5%に達している。

図10-3-4-① 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



〈足立区に誇りをもっている〉について区政満足度別でみると、満足している層では【思う】が77.6%と、8割近くを占めている。

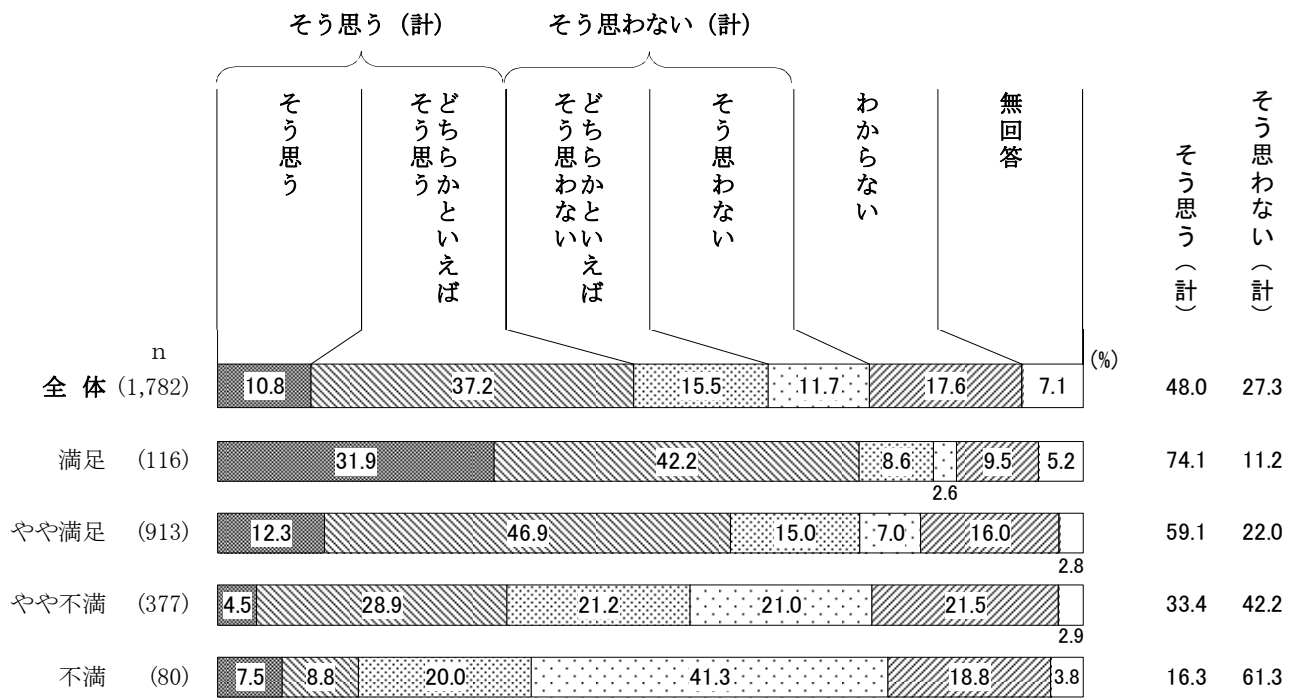
図10-3-4-② 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



第3章 調査結果の分析 〈区の取り組み〉

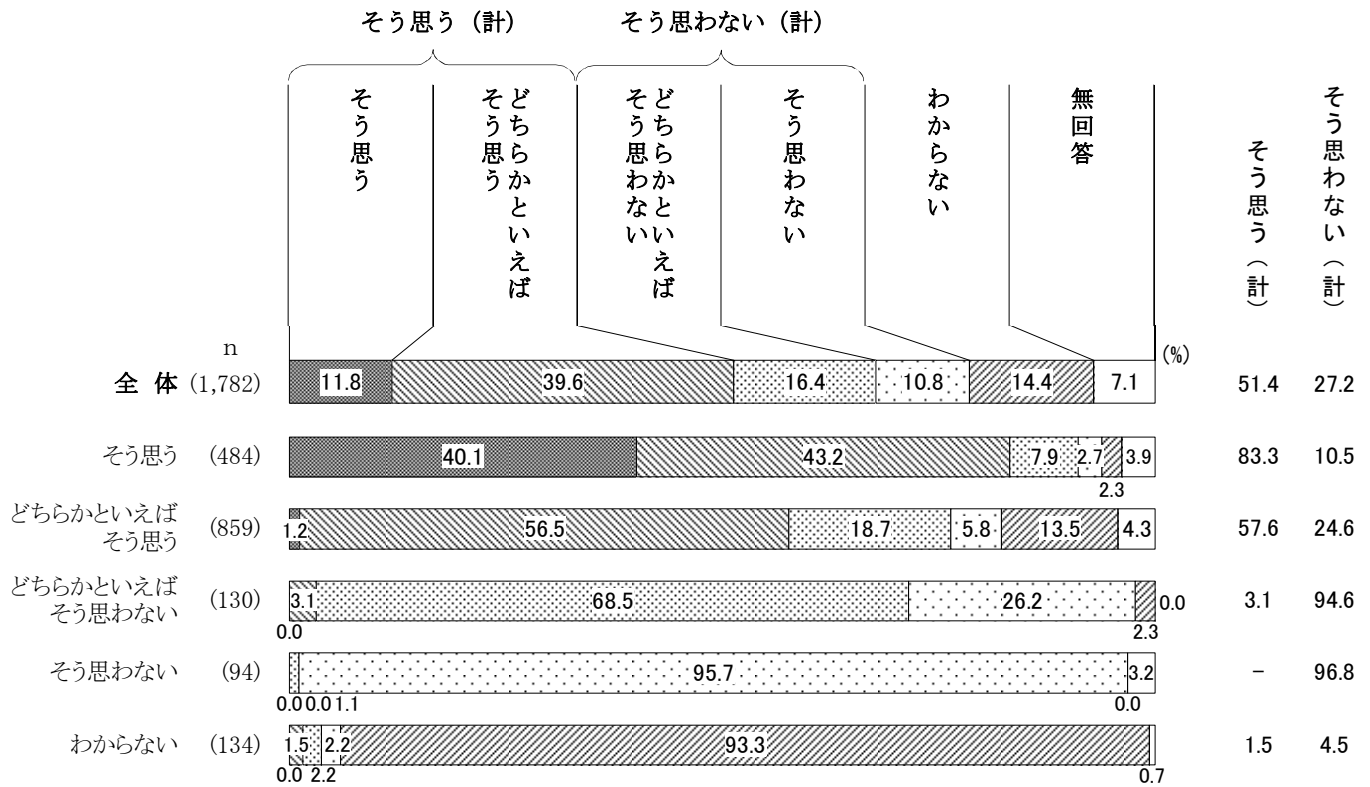
〈足立区を人に勧めたい〉について区政満足度別でみると、満足している層では【そう思う】が74.1%と高くなっている。

図10－3－4－③ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



区政への愛着度別に区への誇りをみると、愛着が強まるにつれて【そう思う】は増加し、愛着をもっている〈そう思う〉という層では83.3%に達している。

図10-3-5 区への愛着度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）

問41で「3. どちらかといえばそう思わない」、または「4. そう思わない」に1つでも○をつけた方に

問41-1 足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思うのは、どうしてですか。理由をお書きください。

足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思う理由を記述していただいたところ、512名から延べ651件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見を掲載いたします。

■治安・防犯（129件）

- ・長年住んで来たので愛着はあるが犯罪等が多いので人には勧められない。
- ・以前に比べ、犯罪等減少してはいるが、評価は低いと感じる。
- ・誇りをもてる程、治安は良くない。

■足立区のイメージ（98件）

- ・どうしても、以前から治安が悪いというイメージがあって、他の区の方々に「足立区に住んでいます」と、あまり言いたくないと思ってしまう。
- ・足立区のイメージが、他の区に比べて、どうしても悪いので、なんとか払拭したい。
- ・東京23区の中で1番治安が悪いイメージは今でも強くあるので、どこに住んでいるのか聞かれ「足立区」と言うと「大丈夫なの？」と言われる事が多い。しかし北千住や西新井はキレイでイメージは変わった。

■道路・交通（58件）

- ・交通の便がよくないところがあるため。
- ・通学路の安全が確保されておらず、車にひかれそうになる児童をよく見かける。
- ・交通の便が悪く、特に橋を越す場合、道路はいつも混んでいて、橋がネックになる。

■住民の質や意識面（44件）

- ・近隣の人々が文化的なことに興味があるように思えないし、粗暴な人もよく見かける。
- ・若い人の教養的、又普段の生活態度のレベルが低い。
- ・39年間足立区に住んで居ります。私としては買物にも便利で緑も多く住みやすいと思って居ます。ただ社会のモラルが少し低い感じがします。

■マナー（38件）

- ・マナーの悪い若者や老人が多く、生活する上であまり良い環境とは言えない。
- ・若い世代の人たちのマナーはよくなったとおもいますが、お年寄りの方たちの横柄な態度がひどくなってきたようにおもいます。身近なことでは犬のフンを持ち帰らない、交通マナーを守らないなど。
- ・人、自転車や自動車もよく交通ルールを守っているとは思えない。騒音で夜間、未明の睡眠を妨げられる事が度々ある。

■学校・教育（28件）

- ・子供が生まれ足立区の教育面（公立小、中学校）を考えると、“学力23区最下位”や“区内小学校での事件”が不安になり私立や越境を考えてしまう。区の努力は感じるが大きな改革がないと足立区のイメージは変わらない。
- ・家庭環境の格差を感じるから。と同時に学力の格差もあり、子育てするのに価値観の違いのトラブルが多いのではと不安に思うことがあります。
- ・教育のレベルが、どちらかというと低い。

■環境・衛生・公園（25件）

- ・子どもが安心して遊べる公園が少ない。小さい所しかなく、遠くに行かなければならないので。
- ・街の景観、密集地の改善をして欲しい。
- ・場所によって環境の差があるから。

■所得や収入の低さ（25件）

- ・低所得の人が住む街としての地位が定着しており、昔からの宿場など、よい所が隠れてしまっているから。
- ・貧困な人が多い気がするためです。ショッピングモールで働いていますが、盗難等を良くみかけ、精神的に余裕がない方が多いイメージがあります。
- ・生活のレベルが低いイメージがある。都内23区の中でも足立・葛飾は一段下にみられる傾向にあると思うため。

■区の見どころ・観光・文化・施設（21件）

- ・足立区に来たらオススメだと言って言える場所がない。レジャー施設を増やして欲しい。地元から離れた所に行かなきゃいけないのは、面倒！せっかく美味しい店があるのだし、レジャー施設を増やして下さい。
- ・目玉がなく、よって知名度も低く、人に理解してもらえない。陸の孤島となりうる地域も多く、若者にとって全く魅力が無い。何をするにもエネルギーが必要と感じるような、悲愴感がある。
- ・特に魅力的なことがないため。

■足立区以外に良い区がある（18件）

- ・永く荒川区に住み、足立区に住んでもう30年以上経ちますが、長く区民税、都民税を納め、現在年金暮らしですが、地域、場所によってのサービスの差がすごくある事がとても不満です。
- ・住んで何十年も経っているわけでもなく、とりたてて魅力のある町と思わない。特に町として誇る要素が今のところ感じられないのも原因とを感じる。
- ・足立区以外に住んでいた所の方が良かったから。足立区に愛着はあるが、ずっと住みたいとは思わない。

■生活保護（15件）

- ・あまりにも生活保護者が多い。本当に調べているのでしょうか？
- ・生活保護世帯が多く、税金が使われていると思うと、イメージが悪すぎる。
- ・本当に困っている人に援助がまわっていないと思う。困ったふりをしている人達がたくさんいて、何くわぬ顔して援助を受けていると思います。

■子育て・保育（15件）

- ・子育てには適していない。保育園に入所するのもとても苦労しました。区の財政が少ない？のかなと思ってしまう。
- ・私立幼稚園への補助が他区に比べて手厚くないと感じられる。子育て世代には勧められない。
- ・子育て支援制度等、他の区と比べた時、まだまだ改善が必要と思うため。

■買い物（14件）

- ・買い物する所が少ない。毎日レジに並ぶ時間が長くストレスになる。
- ・スーパーが減っている。北千住は学生の街になっていて、飲み屋などが多く、商店街が衰退化している。
- ・銀座、新宿にあるようなshopがない。せめて北千住にほしい。

■その他（123件）

- ・足立区は好きだけど誇りをもっているかと聞かれるとわからない。でも、私は6才の時から職場も足立区だし住みやすいし大好きです。
- ・ずっと足立区に住んでいるので愛着もあるますし、誇りももっています。ただ、人に勧められるほどではありません。
- ・低所得者には生活しやすいところだが、あまり好きになれない。
- ・他の場所に住んだことが無いため、足立区が特別良いとも思わない。
- ・自分は満足しているが、わざわざ人に勧める気はない。住みたい人は自分で決めて住むと思うし、1人1人感じ方は様々だと思うので。

(5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）

問42 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

区政への意見、要望を自由に記述していただいたところ、534人からの延べ664件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見を掲載いたします。

■区政全般（72件）

- ・ 税金が増えて、区民が楽しめたり、ためになるような政策をお願いします。箱物を作るのではなく、ソフトなサービスで、観光地にするのも良いと思います。亀有は、両さんであれだけ有名になりました。キャラクターではなくても「足立区は〇〇のサービスがすごい！」とかで、観光やレジャーをさかんにするのもできると思います。時間がない人でも取り組めるように、人を育てると、新しい発想やサービスにつながります。
- ・ 大変な時代だからこそ真面目に働いて、きちんと税金を納めている人達にとって不公平にならないような透明な区政をお願いしたいと思います。
- ・ 若者に対する就職支援や収入支援、結婚しやすい環境づくりなど、高齢者より若者に対する支援を手厚くすれば、東京23区の中で一番良い区として発展すると思う。

■子育て支援（48件）

- ・ 子どもを育てるのに足立区は良いと思うけど、小さい子ども（赤ちゃんなど）が近所迷惑、騒音扱いされる事がある事がとてもかなしいです。
- ・ 難しい事だとは思いますが、子どもの教育に一番力を入れて欲しい。その子どもへの教育がしっかりとしていれば、将来その子が成長して治安が良くなり、安定した職に就き、家庭を築き、より良い足立区につながると思う。
- ・ 子どもができて、実家がある足立区に戻ってきたが、保育園等、まだ空きもなく、待機児童の問題も解消されていない。なかなか難しいかと思うが、早急に対応して頂きたい。あと、高齢者が多いのは仕方ないが、ベビーカーで移動していると、バスに乗った時など、なんとなく高齢者優先的な対応をされる。ベビーカーでバスに乗るのも邪魔で申し訳ないが、子ども連れ専用スペースを設けたり、もっとこちらにも優先的に扱って頂けると助かります。

■高齢者支援・介護（44件）

- ・ 介護保険の事です。介護にかかってない方の保険料は少し安くしていただきたい。大変かも知れませんが、介護にお世話に成った時は元に変えても良いですが、この事は私達が今現在元気で居ますが、年金生活をして居ますとちょっとの事で大変。買物に行けば安く切り上げても消費税にかかるので。
- ・ 介護保険を払っているのに急ぎの不備の時には役に立たない事は不満です。「とりあえずこちらへ」そんな場がどうしてもほしいのです。
- ・ 高齢者の孤立化、孤独化を防ぐ為にも、ボランティア活動のクラブを支援、例えば実績に応じて補助金を出すとか検討されてはどうでしょうか。これからは高齢化社会です。若者も参加しやすいシステムを創出していくことを積極的に考えてもらいたいものです。机にすわってはいない良い考えは生まれないのではないのでしょうか

■環境対策・公園（43件）

- ・緑地や子ども達が自然に触れられ、安全に遊ぶ公園を設けて欲しいと思います。
- ・北千住駅、東口の喫煙所はどうにかなりませんか？タバコのけむりが駅まで流れてきてとても迷惑です。歩きタバコも、もっと徹底してほしい。路地裏で歩きタバコをしている人が多い。ニュースにもなった様に受動喫煙者の肺がん、乳がんリスクがあるのがわかった今、喫煙所を無くしてほしいです。
- ・無駄な公園が多すぎる。緑化対策は大切だと思うが、利用価値がある施設や商店街の活性化とか足立区を楽しめる所としてまちづくりをしてほしい。

■交通機関・道路の整備（36件）

- ・区内の施設（図書館・スポーツセンターなど）を何度か利用したが、とにかくアクセスが悪い。周りの人も行きづらいので、足を運ぶのがおっくうとも聞いた。せっかくいい施設があっても利用しづらいと結局行かないと思う。お年寄りなどは特に…。バスの本数を増やしたり、足立区内のアクセスがスムーズになるといいと思う。
- ・コミュニティバスの拡大。地域によっては非常に便利になっているようですが、まだ必要とされるところがあるので拡充してほしい。
- ・道路の整備が悪いです。あちらこちらで、下水道工事やガスの工事かわからないのですが、いつもやっていて、全然道路がきれいになってない。やらなくても良い工事を、何度もやって税金のムダ使いをしている様に見えてしまう。もっと、足立区の印象を良くして欲しいです。

■治安対策（36件）

- ・伊興に住んでいますが、まだまだ街灯が少ないです。けっこう暗い場所が多いです。もっと明るくて安心して帰れるようにしてほしいです。
- ・やはり、治安、防犯に力を入れて頂きたいと思います。自転車の違法に置いていってしまう事など、多すぎる気がします。
- ・区の方が大通り以外もパトロールしてくださっているのですが、歩きタバコは注意されていないようでした。パトロールをしている方を無視してタバコを吸う方がいます。パトロールしている方も注意するのが怖いのではないかと思います。警察の方との連携が必要なのではと感じます。ボランティアの人だけでは無理があると思います。

■広報・情報公開（32件）

- ・区のホームページからもっと有益な情報を得られるようにして欲しいと思います。もっと見やすい、分かりやすいホームページだと助かります。
- ・色々なことに、もっと情報発信して頂いていることがすぐわかるようになったらいいなと思います、介護のこと等。
- ・区取り組みをもっとPRしていただきたい。（配布物、掲示物等をもっと多く）

■この調査について（31件）

- ・こういったアンケートの実施を行っていますが、区民の声が届いているという実感が全くない。アンケートの実施の継続ももちろんしてほしいが、参考程度にとどめるのではなく検討・実現をぜひしてほしいです。
- ・今回このアンケートを受けて、区政として色々な取りくみをされていることを改めて知りました。それら活動を知り感謝の気持ちと今後もより住みやすい街を目指し、積極的な活動を期待しております。
- ・回答者の意識向上につながる良いアンケートだと思いました。

■生活保護（26件）

- ・足立区は、生活保護の不正受給者が多いと聞きます。まじめに働いて税金を収めている者としては、楽して金を受け取るのは、ゆるせません！！足立区に愛着など誇りなどと言っている意味がわかりません。生きて行く為に仕事をして働いているので、どこに住もうが、関係ありませんね！
- ・今、生活保護の支給基準がとても甘く感じます。長年年金を納め、支給者よりも少ない額の人が沢山いて、不満に思っている人がいる事をどう思いますか？何の心配もなく裕福に暮らしている人を見ると？と思います。もっと厳しくして下さい。
- ・生活保護世帯が23区で1番多いとされていますが、1割以上は不正受給者がいるのではないかと私は、2～3世帯の実態を見ています。まず車所有してパチンコに行っている、偽装離婚して保護を受けている等、区民からすれば高い税金を不正者に支払う事は納得がいかない。調査して返金すべきです。

■都市開発（24件）

- ・綾瀬駅前の開発を早く進めてもらいたい。マンションばかりではなく亀有みたいに、ショッピングモール（商業施設）を充実してほしい。
- ・北綾瀬はとてもすみやすいのですが、電車での交通の便が面倒なのに、服など買える所がありません。せめて、駅前に何かつくっていただきたいです。
- ・もっとセンスよく暮せるキレイな街を目指してみてもいいでしょうか？もっと足立区のウリがあるのなら全面に出して、悪いイメージを払拭できるようにするべき。

■マナー（21件）

- ・自転車、歩行者ともに交通ルールのマナー向上を。知り合いが北千住に住みたいと物件を探しに来たところ、自転車のマナーのひどさに足立区には住みたくないと言いました。胸をはれる足立区、笑顔につながる足立区、努力します。
- ・犬の散歩における放尿について。区内の電柱や、街路灯の根元をみると、犬の尿で腐食している物が多々見られます。特に散歩に向いているのか、住宅街やコミュニティ道路はひどいです。美観、衛生上及び安全面も含め、何らかの対策が必要と思われます。
- ・歩きタバコ禁止エリアで、タバコを吸っている人を度々見かけて残念です。以前は、赤いジャンパーを着た方が回っていましたが、今はあまり見かけません。

■防災対策（20件）

- ・築40年以上の団地に住んでいるので耐震性度がとても気になる。建て替えられている所もあるのに、放ったらかしにされている建物もあるのは何故なのか知りたい。
- ・災害時の対策については特に力を入れて欲しいです。荒川が近いので不安です。災害時にどうしたら良いのかを足立区の人々にすみずみまで教えて欲しいです。よろしくお願いいたします。
- ・防災について、町会や自治会が現在の集合住宅にはないのだが、いざ避難所へととなったときに、情報や備蓄品の配分で、加入していない者は不利に扱われないか不安である。

■生涯学習（20件）

- ・読書通帳配布や赤ちゃん健診時の絵本プレゼントは素晴らしいと思います。ただ肝心の図書館が少なく、遠方まで行っても古い。子供の読書習慣は学力につながると思うので改善していただきたいです。
- ・図書館をよく利用しているのですが、美術書をもう少し増やしてほしいです。
- ・スポーツ施設など若者も気軽に利用できるようサービスデーなどがあると嬉しいです。

■学校教育（18件）

- ・学校給食に力を入れていて、メディアでも紹介されたりして、子どもたちのことを良く育てていこうとしている姿勢がとても素晴らしいと思います。街もきれいになってきたと感じます。足立区をよくしていこうという思いが感じられます。これからも、子どもたちが住みやすい、お年寄りに優しい街にしていってほしいと思います。
- ・教育委員会も、PTAも、町会もすべての区民が真剣に足立の教育行政を見つめ、改革しない限り、足立区の子供達は「明るく、心のやさしい、勇気ある」子どもになれない。
- ・青少年少女がまともな人間に育成されるよう教育に力を入れてほしい。八十過ぎて感じますが、高齢者に思いやりとかなさすぎる。

■医療・福祉（17件）

- ・大病院が少ない。48年住んでいるが、もう少し年寄りに親切で安心出来る街作りを望む！
- ・大きな病院や、介護施設を誘致したり、開設しやすくする政策を行ったら、区のイメージや満足度が上がるような気がします。
- ・総合病院を駅に近い所に作ってほしい。

■議員・職員（17件）

- ・区議会議員が多すぎる、と共に職員也多すぎる。
- ・区議会議員の方は、もっと区民の意見を聞く席を設けるべきである。選挙前しか見たことが無い。
- ・選挙の時だけ声をはりあげることなく、常に区民の為に力をつくして下さい。

■資源環境・ゴミ対策（17件）

- ・駅周辺にいつもゴミがちらかっているのは気分が悪いです。後あちこちの伸びた雑草が処理されていない。私は毎日駅を利用しています。
- ・資源ゴミの持ち去りが多い。区に損害があると思う。
- ・深夜早朝の騒音の原因である。

■税金（16件）

- ・少しでも税金が安くなると生活が助かります。給料があがっている実感がまったくわからない。
- ・税金は無駄なく使って欲しい、財政の透明化。
- ・人口が多いのに区民税が高いと思う。無駄な通路等、工事が多い気がする。区民全員の意見を聞くべきだと思う。

■職員の対応（13件）

- ・以前に比べ、区役所の窓口対応や電話による説明など親切になり、相談しやすくなりました。
- ・役所の窓口の方の対応が悪かったことがあります。もう少し丁寧に、笑顔で、マニュアル通りの対応みたいなのはやめてほしいです。区の施設全体的に言えることだと思います。
- ・区役所窓口業務対応のある部署で、昼休みとはいえ窓口（カウンター越し）に区民がいる見えるところの自席で昼食、スマホ、職員同士の私語はいかがなものか。民間では考えられない事です。食事、スマホ、私語は休憩室・食堂等で、業務対応の職員は交代で食事時間をずらして業務対応するのが社会一般的常識と思われる。

■その他（113件）

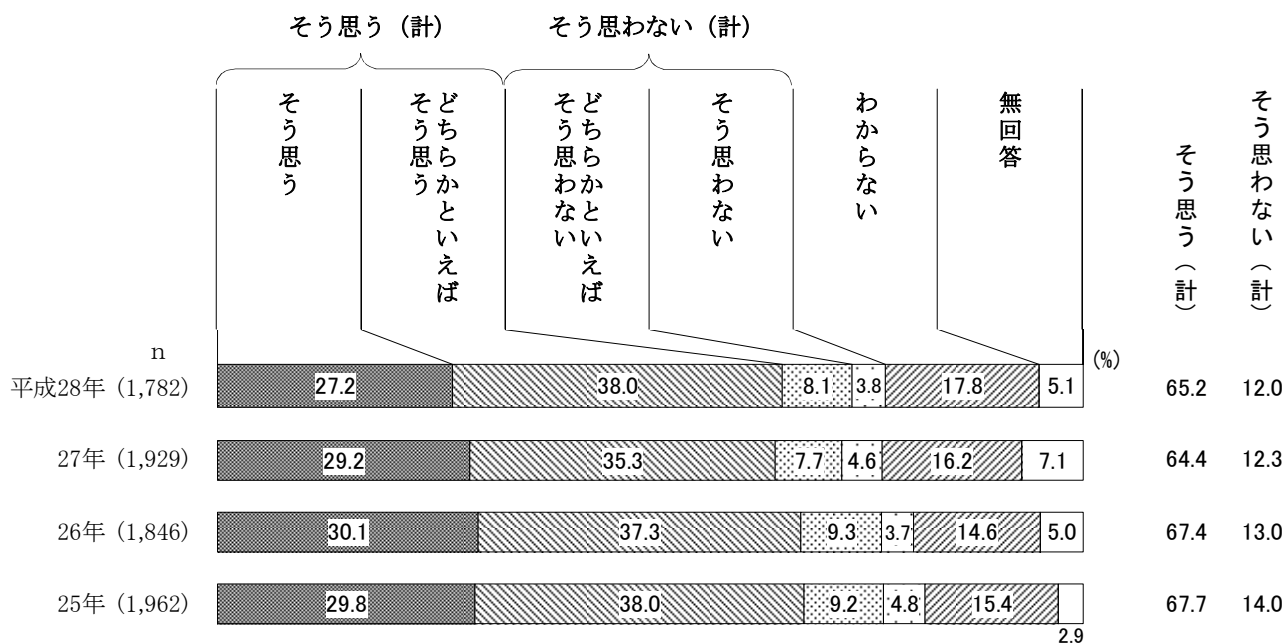
- ・昔に比べれば足立区は随分とよくなりました。でも、全体としてみるとまだまだです。他も良くなっていますから。足立区役所さんにあっては、さらなる向上をお願いします。
- ・転入の方でも入りやすい地域コミュニティを築いて欲しいです。
- ・子育て世代、高齢者へは市民も区政も関心が高いが、一人暮らしをしている人達には何もない。定住したいと思える街づくりに期待したい。
- ・産まれてからずっと区民ですが少し不便でもそんな足立区が大好きです。最近では区外の人の評価もとてもよくなっていて嬉しいです。足立区民はあまり区外へ出ないのも特徴のひとつだと思います。ある程度の、のどかさも残しつつ発展していったほしいです。
- ・NPOやボランティアは素性を把握して下さい。

(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

■ 有効な内容だと思われる方は6割台半ば

問43 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいいたします。今回の調査の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか（○は1つだけ）。

図10－6－1 経年比較／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



本調査の質問内容が、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容か聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】が65.2%となっている。

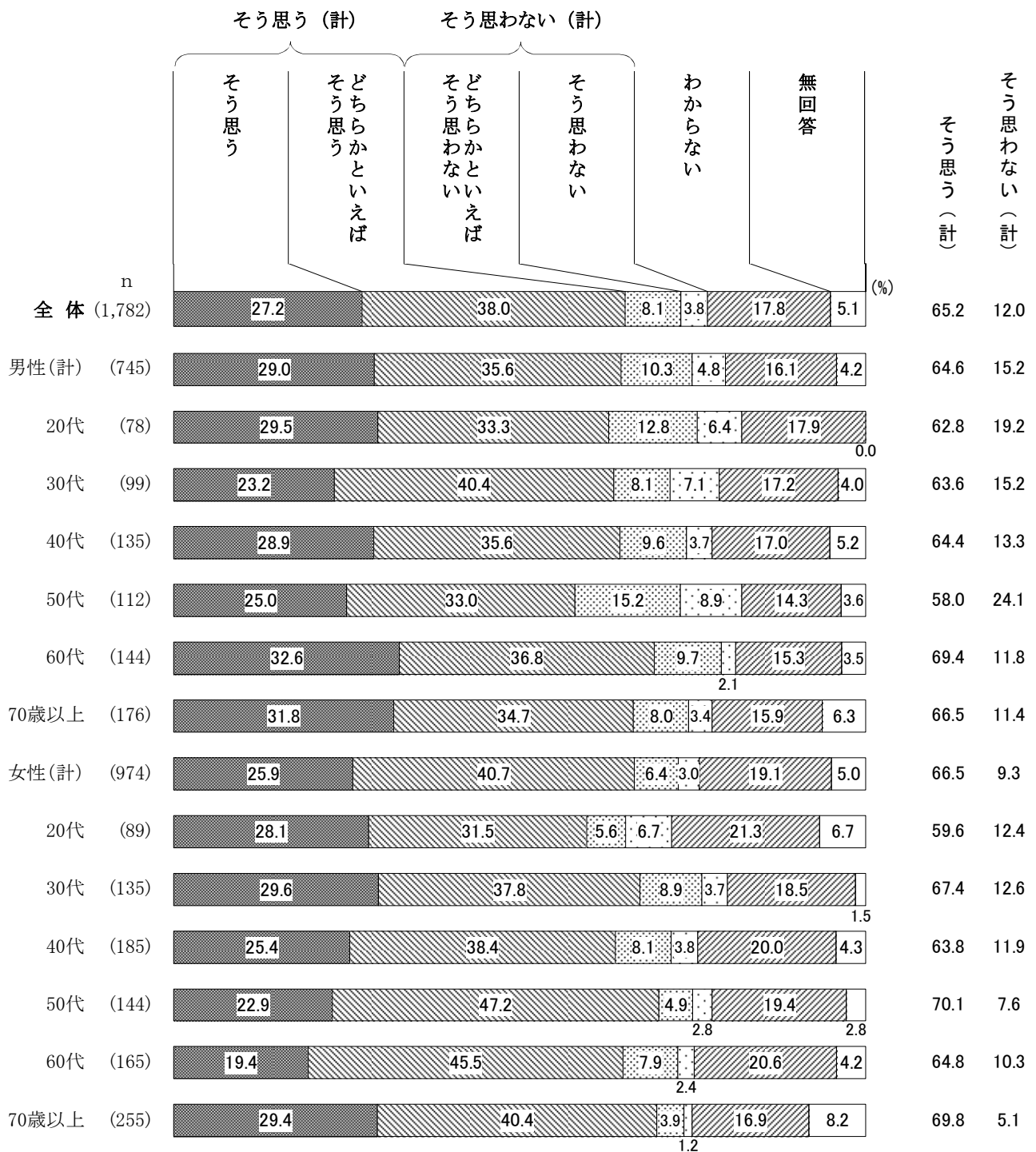
経年でみると、【そう思う】は今回65.2%と、平成27年の64.4%から微増している。

性別でみると、【そう思う】は男性64.6%、女性66.5%となっている。

性・年代別でみると、男性では、60代で【そう思う】が69.4%と、7割近くを占めている。

女性では、50代、70歳以上で【そう思う】が、それぞれ70.1%、69.8%と、7割前後を占めている。

図10-6-2 性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



第4章 使用した調査票

平成28年度（第45回）足立区政に関する世論調査

ご回答にあたって

1. 調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
3. お答えは、あてはまる番号に○印をつけてください。
4. 質問によっては、回答していただく方や○をつける数を指定しておりますので、（ ）内のことわり書きをよくお読みください。
5. 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。
6. この調査票は、無記名式となっています。調査票と返信用封筒には、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありません。
7. このページの右上の「ブロックNo.」は、区内を13の地域に分けて分析する際の区別のため用いるもので、これによってお名前やご住所が判明するということはありません。
8. お聞かせいただいたご意見は、すべて個人が特定できないよう統計的に処理いたします。お名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、**9月26日（月）**までにご投函ください（切手を貼る必要はありません）。なお、調査の内容、考え方、記入のしかたなどについて、わからないことがございましたら、下記までご連絡ください。



〔調査主体〕 足立区政策経営部広報室区政情報課
区政情報係

足立区中央本町1-17-1

〔お問合せ先〕 お問い合わせコール あだち
3880-0039

（受付時間：午前8時～午後8時／年中無休）

〔調査受託機関〕 株式会社 サーベイリサーチセンター

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は次のどちらですか（○は1つだけ）。

1. 男 性	41.8%	2. 女 性	54.7	無回答	3.5
--------	-------	--------	------	-----	-----

F 2 あなたは何歳ですか（○は1つだけ）。

1. 20～24歳	4.5%	6. 45～49歳	8.3	11. 70～79歳	17.1
2. 25～29歳	4.8	7. 50～54歳	7.5	12. 80歳以上	7.5
3. 30～34歳	6.6	8. 55～59歳	7.1	無回答	2.4
4. 35～39歳	6.7	9. 60～64歳	7.4		
5. 40～44歳	9.7	10. 65～69歳	10.4		

F 3 あなたは足立区に住んで何年になりますか（○は1つだけ）。

1. 1年未満	3.0%	3. 5～10年未満	9.7	5. 20年以上	64.6
2. 1～5年未満	7.9	4. 10～20年未満	12.0	無回答	2.7

F 4 あなたのお住まい（住居）は次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1. 一戸建て持家	42.9%	6. 社宅・公務員住宅・寮	1.1
2. 一戸建て借家	1.8	7. 間借り・住み込み	0.3
3. 分譲マンション	20.0	8. その他	1.0
4. 賃貸マンション・アパート	17.7	無回答	2.6
5. 公団・公社・都営住宅・区営住宅	12.6		

F 5 あなたの職業は次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1. 自営業・事業主	9.7%	6. 学 生	1.9
2. 自由業（開業医、弁護士、芸術家など）	0.6	7. 無 職（年金生活を含む）	22.4
3. 会社員・公務員	30.6	8. その他	2.7
4. パート・アルバイト	15.8	無回答	2.5
5. 主に家事に従事（専業主婦など）	13.8		

F 6 あなたの就労場所（就学場所）は次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1. 自 宅	5.1%	4. 23区以外の東京	2.0	無回答	2.7
2. 足立区内	18.3	5. 茨城、神奈川、埼玉、千葉	5.6		
3. 足立区外の東京22区	26.5	6. その他	1.0		

F 7 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか（○はあてはまるものすべて）。

1. ひとり暮らし	14.2%	4. 祖父・祖母	2.1	7. 兄弟・姉妹	8.0
2. 配偶者	57.0	5. 子ども	42.0	8. その他	2.1
3. 父・母	16.9	6. 孫	2.9	無回答	2.8

F 8 あなたご自身は、次の1から12のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

※「子ども」は同居・別居を問いません。

◎ 独身で子どもがいない	・・・・・・・・・・・・・・・・	1	23.3%
◎ 離別・死別などにより配偶者はいないが子どもがいる			
	一番上の子どもが小学校入学前	2	0.4
	一番上の子どもが小学生	3	0.6
	一番上の子どもが中学生	4	0.4
	一番上の子どもが高校・大学生	5	1.1
	一番上の子どもが学校卒業	6	9.1
◎ 配偶者がいて子どもがいない	・・・・・・・・・・・・・・・・	7	11.2
◎ 配偶者がいて子どもがいる			
	一番上の子どもが小学校入学前	8	6.2
	一番上の子どもが小学生	9	5.3
	一番上の子どもが中学生	10	2.7
	一番上の子どもが高校・大学生	11	5.1
	一番上の子どもが学校卒業	12	23.0
無回答			11.6

次のページからも引き続きお答えください ⇒

お住まいの地域について、おうかがいたします

問1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	そう 思う	どちら かとい えば そう 思う	どちら かとい えば そう 思わ ない	そう 思わ ない	わ か ら な い	無 回 答
ア. 通勤や通学などの交通の便がよい	33.2%	34.2	13.7	11.3	1.6	5.9
イ. 子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている	12.5	34.0	14.0	7.3	24.2	8.0
ウ. 地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている	8.3	32.2	18.7	10.3	24.6	5.9
エ. よく行く、または行きたい公園がある	16.5	27.0	19.0	19.1	12.4	6.1
オ. 普段の買い物が便利である	39.6	35.1	11.1	10.4	0.8	3.0
カ. 自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている	9.7	21.9	26.4	35.5	2.5	3.9
キ. 快適で安全なまちづくりが進められている	5.8	38.6	24.6	15.7	10.5	4.8
ク. 景観・街並みが魅力的になってきている	5.1	31.2	28.5	23.0	7.7	4.5

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのようにお感じになっていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	減少 ← → 増加					わ か ら な い	無 回 答
	減 明 つ ら か い に る	減 い ど ち ら か と い え ば	ら 以 前 と 変 わ ら な い	増 い ど ち ら か と い え ば	増 明 ら か に る	わ か ら な い	無 回 答
ア. ごみやタバコのポイ捨て	12.6%	41.6	30.6	4.1	2.5	5.3	3.3
イ. ペットのふん	11.2	39.0	28.3	7.4	3.9	7.1	3.1
ウ. まちなかの花や緑	2.5	7.6	46.9	26.8	4.8	8.1	3.3
エ. 防犯パトロール	2.5	7.2	44.5	20.1	3.7	18.9	3.1

問3 問1、問2を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか（〇は1つだけ）。

1. 暮らしやすい	24.0	3. どちらかといえば暮らしにくい	16.3
2. どちらかといえば暮らしやすい	55.7	4. 暮らしにくい	2.3
		無回答	1.7

（問3で「3. どちらかといえば暮らしにくい」、または「4. 暮らしにくい」とお答えの方に）

問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。

1. 自然が少ないこと	13.6%
2. 公共施設や介護・医療施設が不十分なこと	23.8
3. 交通の便が悪いこと	39.8
4. 買い物がしにくいこと	30.7
5. 子育て環境が悪いこと	10.5
6. 教育環境が整っていないこと	6.3
7. 住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと	41.6
8. 職場や学校から遠いこと	6.6
9. 災害対策が不十分なこと	9.3
10. 治安が良くないこと	30.1
11. 家の広さなどの居住環境が悪いこと	9.9
12. 地域の人間関係が希薄なこと	16.0
13. 行政のサービスが良くないこと	11.7
14. その他	5.7
無回答	0.3

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（〇は1つだけ）。

1. ずっと住み続けたい	37.8%	3. 区外に転出したい	6.6	無回答	1.2
2. 当分は住み続けたい	39.7	4. わからない	14.8		

大震災などの災害に備えていることについて、おうかがいいたします

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（〇は1つだけ）。

1. 災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している	21.2%
2. 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある	45.4
3. 特に用意していない ⇒ 問6へ 無回答	31.4 2.0

（問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に）
問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

（〇はあてはまるものすべて）

1. 水	91.6%	10. 消火器	26.5
2. 食料（缶詰、アルファーマ、 インスタント食品など）	89.4	11. ペット対策用品（ケージ、エサなど）	10.2
3. あかり（ろうそく、懐中電灯など）	80.3	12. 水の確保用品（ポリタンク、水袋など）	26.9
4. 情報収集手段（携帯ラジオなど）	53.2	13. 救助用工具（バール、ハンマーなど）	10.9
5. 医薬品（常備薬を含む）	40.4	14. ヘルメット	15.4
6. 衣類	25.9	15. 救急セット	20.2
7. 生理用品	17.9	16. 避難ロープ	7.2
8. 簡易トイレ	23.1	17. 防災袋（非常用持出袋）	31.3
9. 電池・予備バッテリー	47.5	18. その他	3.3
		無回答	0.6

（問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に）

問5-1-1 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

（〇はそれぞれ1つずつ）

	1週間分以上	3日以上 1週間分未満	1日以上 3日分未満	1日分程度	1日分未満	無回答
ア. 水	10.7%	27.9	45.6	11.4	3.5	0.9
イ. 食料	6.4	24.5	50.1	13.8	3.5	1.7

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

《 問7へお進みください 》

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいたします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか（○は1つだけ）。

1. 町会・自治会からもらう	13.2%	5. 考えていない	41.1
2. 知人、親戚からもらう	3.6	6. その他	9.5
3. 区役所からもらう	5.4	無回答	1.6
4. 通常どおりスーパーなどで購入する	25.6		

ここから再び、すべての方におうかがいたします

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（○は1つだけ）。

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

1. すべての家具類に対策を行っている	3.4%	3. 対策をしている家具類は少ない	35.2
2. 対策をしている家具類が多い	23.9	4. 対策を行っていない	35.8
		無回答	1.7

（問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方に）
問7-1 どのような理由からですか（○はあてはまるものすべて）。

1. 方法がわからない	12.1%
2. 金具などが高価である	11.3
3. 家具にキズをつけたくない	9.8
4. 建物の壁にキズをつけたくない	21.1
5. 建物に取り付ける場所がない	14.8
6. 室内に危険性のある家具類がないため不要である	21.4
7. 面倒である	27.8
8. 手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない	14.9
9. 地震で家具が倒れたり移動するとは思わない	6.3
10. （賃貸のため）勝手に取り付けられない	19.1
11. その他	8.9
無回答	1.7

問8 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

1. 町会・自治会などへの地域の防災力向上に係る支援	24.5%
2. 子どもへの防災教育の充実	12.9
3. 講演会などによる普及啓発や区主催の訓練	3.2
4. 耐震診断・耐震改修事業などの促進	18.0
5. 木造密集地域など災害危険箇所の解消	16.8
6. ライフラインやエネルギーの確保	52.5
7. 津波対策	8.6
8. 関係機関・他自治体などとの応援体制の充実	11.5
9. 災害に関する情報提供体制の充実	25.8
10. 災害時医療体制の充実	37.9
11. 帰宅困難者対策	19.1
12. 避難所の管理運営体制の充実	18.5
13. 避難所施設の設備などの充実	36.6
14. 災害時における要配慮者（※）対策の充実	11.4
15. 女性の視点に立った防災対策	13.1
16. 災害時のペット対策	10.4
17. 水・食料の備蓄の充実	53.0
18. 非常用トイレの確保など衛生対策の充実	56.5
19. その他	1.6
20. 特にない	1.3
無回答	2.6

※災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

洪水対策について、おうかがいいたします

足立区は低地で平らな土地であるため、台風などの大雨により河川がはん濫すると、最大で5mの浸水被害が起こる可能性があります。

問9 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」をご覧になったことがありますか（○は1つだけ）。

1. 自宅周辺の状況を理解した	20.1%	無回答	4.8
2. 見たが内容までは覚えていない	38.9		
3. そのような地図はみたことがない	36.1		

問10 河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、以下のア～オまでの情報を知ったとき、あなたは自宅から避難しますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

	避難する	避難しない	わからない	無回答
ア. 足立区に大雨・洪水警報が出されたとき	21.5%	55.0	16.8	6.7
イ. 自宅付近が浸水したとき	47.6	29.8	16.4	6.1
ウ. 近所の人が避難をしているのを見たとき	52.4	19.2	21.5	6.9
エ. 数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき	28.1	45.1	19.8	7.1
オ. 区から避難勧告・指示が発令されたとき	79.8	6.0	9.8	4.4

問11 荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されます。そのとき、あなたは最初にどこに避難しようと思いますか（○は1つだけ）。

1. 自宅の高層階（3階以上）	26.9	6. 区外の浸水しない高台など	1.4
2. 近くの高い建物	15.9	7. 自宅が高層階にあるため避難はしない	15.7
3. 近くの学校や公共施設	27.3	8. わからない	5.8
4. 区内の親戚や知人の家	1.5	9. その他	1.5
5. 区外の親戚や知人の家	2.2	無回答	1.9

区の情報発信のあり方について、おうかがいいたします

足立区では、あだち広報やホームページ、メール配信システム（A-メール）などで区の情報を発信するほか、平成25年度からはツイッターやフェイスブックによる情報発信も開始しました。

問12 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか。

（〇はあてはまるものすべて）

1. あだち広報	72.3%	7. 町会・自治会掲示板・回覧板	32.7
2. ときめき	37.5	8. 新聞（区内紙、一般紙）	18.2
3. タウンページ内の行政情報 （旧 わたしの便利帳）	8.5	9. テレビ、ラジオ	25.0
4. インターネット （区のホームページ、A-メール、 ツイッター、フェイスブック）	29.3	10. J：COM足立（ケーブルテレビ）	8.9
5. ポスター、チラシ	11.6	11. 人から聞く	12.3
6. 区民事務所などの窓口	6.2	12. 防災無線	7.0
		13. その他	0.3
		14. 特に入手していない	9.0
		無回答	3.6

問13 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか（〇はあてはまるものすべて）。

1. 財政状況や予算などに関する情報	27.2%
2. 国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報	52.7
3. 健診や生活支援など健康や福祉に関する情報	61.3
4. 出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報	24.6
5. イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報	29.3
6. 災害や気象に関する情報	57.6
7. 光化学スモッグや大気測定などの測定値情報	24.1
8. ごみ・リサイクルなど環境に関する情報	42.0
9. その他	2.5
10. 特にない	4.7
無回答	4.6

問14 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか（〇は1つだけ）。

1. 十分に得られている	3.7%	5. 必要と思ったことがない	9.9
2. ある程度得られている	63.7	6. 区の情報に関心がない	3.1
3. 得られないことが多い	12.6	無回答	5.1
4. まったく得られない	1.9		

（問14で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に）
問14-1 どのような理由からですか（〇は1つだけ）。

1. 情報が探しにくい	31.5%	5. 情報量が少ない	10.1
2. 情報の探し方がわからない	31.5	6. その他	5.1
3. 情報伝達が遅い	3.5	無回答	3.9
4. 情報の内容がわかりにくい	14.4		

（同様に、問14で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に）

問14-2 問14-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

あだち広報	
区ホームページ	
その他	

問15 あなたは、「お問い合わせコールあだち」を利用したことがありますか（〇は1つだけ）。

1. 利用したことがある	5.9%	無回答	6.1
2. 知っているが利用したことはない	27.4		
3. 「お問い合わせコールあだち」を知らない	60.5		

健康について、おうかがいいたします

足立区では、患者数が多く、重症になると生活の質が低下してしまう糖尿病対策に、重点的に取り組んでいます。

問16 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～」を知っていますか。
(○は1つだけ)

1. 内容まで知っている	7.4%	3. 知らない	67.2
2. 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	23.2	無回答	2.1

※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

問17 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか (○はあてはまるものすべて)。

1. 神経障がい (手足のしびれ)	29.8%	5. 脳梗塞 ^{こうそく}	26.7	10. 足の壊疽 ^{えそ}	62.1
2. 網膜症	28.1	6. 心筋梗塞 ^{こうそく}	26.2	11. その他	1.0
3. 白内障	21.9	7. 口の渇き	45.7	12. わからない	9.6
4. 腎不全	35.1	8. 人工透析	41.8	無回答	2.9
		9. 失明	65.2		

問18 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは野菜から食べていますか (○は1つだけ)。

1. 食べている	64.7%	3. わからない	7.3
2. 食べていない	26.1	無回答	1.9

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

問19 1日の野菜摂取量の目標は350g以上(調理前の生の状態で)です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか (○は1つだけ)。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

1. できている	9.7%	3. あまりできていない	40.4	5. わからない	4.6
2. だいたいできている	28.4	4. できていない	15.4	無回答	1.5

問20 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください（〇はそれぞれ1つずつ）。

	あてはまる	あてはまらない	無回答
ア. 現在の健康状態はよい	71.6%	23.1	5.3
イ. 疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある	22.0	72.1	5.9
ウ. 習慣的にタバコを吸っている	21.5	73.0	5.5
エ. 安心して受診できる医療機関が身近にある	63.7	32.1	4.2

問21 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください。
（〇はあてはまるものすべて）

1. 毎年健康診断を受けている	63.8%
2. がん検診を定期的に受けている	17.8
3. 毎日朝ごはんを食べている	64.9
4. 毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など）を食べるように心がけている	47.7
5. 主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている	42.9
6. 食品の表示（添加物、消費期限など）を見て購入している	41.6
7. 食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている	51.8
8. 健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある。	36.1
9. その他	4.6
10. 特にない	4.9
無回答	1.3

スポーツについて おうかがいたします

問22 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

1. 30分以上の運動を週2回以上	19.1%	6. 運動・スポーツはしていない
2. 週2回以上（時間は問わない）	11.2	⇒ 問23へ
3. 週1回程度（時間は問わない）	9.7	無回答
4. 月1回～3回程度（時間は問わない）	8.0	42.3
5. 年に数回（時間は問わない）	5.1	4.6

（問22で1～5のいずれかをお答えの方に）

問22-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか。

（○はあてはまるものすべて）

1. 野球・ソフトボール	2.5%	14. 健康体操（エアロビクス・リズム体操	
2. サッカー・フットサル	2.0	・ストレッチなど）	20.4
3. バスケットボール	1.3	15. ラジオ体操	12.4
4. バレーボール	1.8	16. 武道（柔道・剣道・空手など）	1.3
5. ビーチバレーボール	0.8	17. ダンス	3.8
6. テニス	2.9	18. 水泳・水中運動	
7. ファミリーテニス	-	（ウォーキングなど）	6.8
8. バドミントン	1.9	19. 登山・ハイキング	4.0
9. 卓球	2.6	20. 陸上競技	-
10. ゴルフ	7.5	21. ウォーキング	43.3
11. ゲートボール		22. ジョギング・マラソン	10.0
・グラウンドゴルフ	0.7	23. サイクリング	8.6
12. ボウリング	2.6	24. 太極拳、ヨーガ	5.5
13. 筋力トレーニング	15.9	25. その他	7.4
		無回答	2.1

問23 あなたは障がい者スポーツについてどのようなことをしてみたいですか。

(○はあてはまるものすべて)

1. 障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）	21.2%
2. 障がい者スポーツを体験してみたい	6.5
3. 障がい者スポーツを支援するボランティアをしてみたい	4.5
4. 障がい者スポーツの指導をしてみたい	0.4
5. その他	0.4
6. すでに障がい者スポーツの観戦や体験をしている	1.6
7. すでに障がい者スポーツに対する支援や指導をしている	0.4
8. 特にない	45.3
9. わからない	19.6
無回答	5.7

問24 あなたはスポーツボランティア活動についてどのようなことをしてみたいですか。

(○はあてはまるものすべて)

1. 運動・スポーツの指導者のボランティア	2.8%
2. スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア	7.7
3. スポーツ教室などの運営ボランティア	3.4
4. 障がい者スポーツのボランティア	2.9
5. 町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア	6.5
6. その他	0.4
7. すでにスポーツボランティアの活動を行っている（内容： ）	1.0
8. 特にない	56.5
9. わからない	20.0
無回答	5.9

問25 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の実践で関心があることは何ですか（〇は3つまで）。

1. 会場での応援活動	17.8%
2. 会場外での観戦（パブリックビューイングなど）	12.9
3. 大会を盛り上げるPR活動やイベントの実施	10.3
4. 選手の育成や支援	14.9
5. 大会関連ボランティアの支援	8.9
6. 障がい者スポーツの普及・振興・環境整備・ボランティアの養成	7.9
7. バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	9.3
8. 国際交流の促進	13.0
9. 日本文化の発信	10.2
10. 交通網・交通インフラの整備	25.3
11. スポーツ施設や用具の整備	7.2
12. 区内への観光客の増加	6.3
13. 区内産業の活性化	8.8
14. その他	2.1
15. 特にない	29.4
無回答	5.1

問26 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民(高齢者)は無料で使用できます。

この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか(○は1つだけ)。

1. 高齢者も施設使用料は全額負担すべき	4.9%
2. 高齢者も施設使用料は半額など一部を負担すべき	14.8
3. 適用される年齢を引き上げるべき	2.9
4. 所得制限を設定すべき	12.9
5. 現行のまま継続すべき	46.7
6. その他	1.7
7. わからない	13.4
無回答	2.6

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、おうかがいたします

問27 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動(※)」という取り組みを知っていますか(○は1つだけ)。

※ 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。



イメージキャラクター「ビュー

1. 知っていて、活動を実践している	4.5%	無回答	2.5
2. 知っているが、特に何も行っていない	20.5		
3. 名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	22.6		
4. 知らない(初めて聞いた)	49.9		

問28 あなたは、平成27年の足立区内の刑法犯認知件数(※)が減少し、治安が改善していることを知っていますか(○は1つだけ)。

※ 警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。

1. 知っている	43.8%	2. 知らない(初めて聞いた)	54.1	無回答	2.1
----------	-------	-----------------	------	-----	-----

問29 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか。
（○は1つだけ）

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

1. 良い	7.7%	3. どちらかといえば 悪い	24.7	5. わからない	15.8
2. どちらかといえば 良い	46.4	4. 悪い	3.8	無回答	1.5

（問29で「1. 良い」、または「2. どちらかといえば良い」とお答えの方に）

問29-1 どのような点で治安が良いと感じますか（○は2つまで）。

1. 防犯カメラが増えたことで、安心感があるから	19.2%
2. テレビや新聞などで犯罪発生ニュースが少ないから	16.5
3. 犯罪の発生件数が減っているということを聞いたから	18.2
4. 自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから	55.9
5. 青パトなど自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから	19.8
6. 道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから	25.0
7. 防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから	8.2
8. その他	2.0
無回答	0.4

（問29で「3. どちらかといえば悪い」、または「4. 悪い」とお答えの方に）

問29-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（○は2つまで）。

1. 殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから	20.2%
2. 自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから	52.5
3. 子どもに対する「不審な声かけ事案など」の発生が多いと聞いたことがあるから	23.8
4. 街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから	22.6
5. 深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから	28.1
6. 隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから	19.1
7. その他	12.2
無回答	0.6

ここから再び、すべての方におうかがいたします

問30 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。
(〇は2つまで)

1. 犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供	19.5%
2. 防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援	51.5
3. 地域住民による防犯パトロール活動への支援（防犯用品の貸与など）	11.6
4. 防犯講習会の開催	1.6
5. 街頭キャンペーンやイベントの実施	2.3
6. 安全に配慮した道路、公園の整備	42.0
7. 安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール	39.7
8. その他	2.5
9. 特になし	3.4
無回答	3.3

問31 あなたは、自転車を駐車するときには、自転車に鍵をかけていますか。
(〇はそれぞれ1つずつ)

	いつも鍵をかけている	鍵をかけることが多い	短時間のときは鍵をかけないことがある	鍵をかけることは少ない	鍵はかけていない（鍵がついていないを含む）	自転車を持っていない、使っていない	無回答
ア. 外出先で駐車するとき	71.7%	4.4	2.6	0.6	0.7	13.4	6.6
イ. 自宅・マンションなどの敷地内に駐車するとき	59.1	4.2	1.7	6.0	8.2	12.7	8.1

環境・地域活動について、おうかがいたします

問32 あなたが環境のために心がけていることは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。

1. ごみと資源の分別を実行している	84.3%
2. くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている	40.0
3. マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	51.2
4. 環境に配慮した製品を選んで使っている	12.0
5. 節電や節水など省エネルギーを心がけている	51.3
6. その他	1.1
7. 特にない	4.7
無回答	2.6

問33 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

内 容	この1年間に 参加された活動	引き続き、また は今後参加した いと思う活動
1. 町会や自治会の運営に関する活動	10.1%	7.0
2. 町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物	13.4	13.4
3. 花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物	19.1	22.4
4. ボランティアやNPO（民間の非営利活動の組織）などの活動	2.8	5.2
5. まちの美化活動（ごみ拾い、門掃き、公園の清掃など）	7.6	10.1
6. 自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成	10.6	12.1
7. 防犯パトロールなどのまちの防犯に関する活動	4.8	6.1
8. お囃子 ^{はやし} 、獅子舞 ^{ししまい} など地域の伝統芸能を保護・継承する活動	1.2	4.2
9. 家族、地域の健康づくりを支援する活動（健康講座に友人を誘う、講座で得た知識を周囲の人に伝えるなど）	2.5	5.3
10. 特に参加していない・特にない	40.3	23.6
無回答	21.7	35.7

問34 あなたは、区役所が孤立ゼロプロジェクトやビューティフル・ウィンドウズ運動など区民・団体と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか（〇は1つだけ）。

1. そう思う	5.1%	4. そう思わない	5.8
2. どちらかといえばそう思う	18.2	5. わからない	58.7
3. どちらかといえばそう思わない	6.0	無回答	6.3

「孤立ゼロプロジェクト」などについて、おうかがいいたします

問35 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか。
（○は1つだけ）

※ 「孤立ゼロプロジェクト」とは地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

1. 知っていて、内容も概ね理解している	9.2%	3. 知らない（初めて聞いた）	66.0
2. 聞いたことはあるが、内容はわからない	21.3	無回答	3.4

（問35で「1. 知っていて、内容も概ね理解している」とお答えの方に）

問35-1 プロジェクトのことをどのようにして知りましたか。

（○はあてはまるものすべて）

1. あだち広報	57.9%	4. 近所の方から聞いた	6.1
2. 町会・自治会の方から聞いた	39.6	5. その他	15.9
3. 民生委員の方から聞いた	9.8	無回答	1.2

問36 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※ 「地域包括支援センター」とは足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

1. 知っていて、業務内容も概ね理解している	18.5%
2. 聞いたことはあるが、詳しくはわからない	34.2
3. 知らない（初めて聞いた）	43.5
無回答	3.8

（問36で「1. 知っていて、業務内容も概ね理解している」とお答えの方に）

問36-1 「地域包括支援センター」のことをどのようにして知りましたか。

（○はあてはまるものすべて）

1. あだち広報	36.8%	4. 近所の方から聞いた	12.8
2. 町会・自治会の方から聞いた	13.4	5. その他	48.0
3. 民生委員の方から聞いた	8.5	無回答	0.3

問37 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

1. 積極的に協力したい	1.2%
2. 負担にならない範囲で協力してもよい	15.5
3. 協力したいが、時間などに余裕がない	41.1
4. 興味がない、協力したくない	8.1
5. わからない	29.5
無回答	4.6

（問37で「1. 積極的に協力～」または「2. 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に）

問37-1 どのような活動に協力したいですか（○はあてはまるものすべて）。

1. 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動	36.2%
2. 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動	49.3
3. 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動	30.2
4. 活動を支援するための寄付や基金などへの金銭的援助	11.7
5. その他	3.4
無回答	4.7

問38 あなたは、高齢者などの権利を守るしくみとして、「成年後見制度」を知っていますか。

（○は1つだけ）

1. 内容まで知っている	20.3%	3. 知らない	37.0
2. 聞いたことはあるが、内容はわからない	39.6	無回答	3.1

足立区の取り組みについて、おうかがいたします

問39 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、最も近いものを選んでください（○はいずれも、それぞれ1つずつ）。

区の取り組み	内 容	現状評価（満足度）				
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	9.5%	45.6	19.5	4.7	20.6
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	5.9	46.3	20.9	5.3	21.6
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	4.8	50.5	21.2	3.4	20.1
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	3.8	47.8	22.0	3.2	23.3
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	5.4	46.0	22.4	3.7	22.5
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	8.0	48.6	19.4	3.8	20.3
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	5.8	44.1	25.9	7.0	17.2
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	5.3	43.4	24.6	5.8	20.9
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	8.6	52.4	18.0	2.9	18.1
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	5.3	40.0	26.4	8.7	19.6
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	4.2	44.3	25.3	3.8	22.5
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など	7.1	44.7	24.5	6.1	17.7
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	11.5	54.0	14.6	3.1	16.7
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	5.3	47.8	24.5	7.1	15.3
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など	4.0	42.9	28.8	6.5	17.7
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	5.3	41.5	30.1	8.6	14.5

区取り組み	内 容	現状評価（満足度）				
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	3.1%	43.8	31.0	5.2	16.8
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	9.0	51.5	20.7	4.2	14.7
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	9.5	53.0	18.2	3.5	15.8
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	13.6	47.0	19.9	6.9	12.6
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など	5.4	47.3	25.2	6.1	15.9
二. 区政全体として		6.5	51.2	21.2	4.5	16.6

区取り組み	内 容	重要度				
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	51.8%	25.0	2.8	1.7	18.6
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	48.0	27.9	3.2	1.5	19.5
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	20.8	43.8	13.5	3.1	18.8
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	14.8	46.0	15.4	3.5	20.3
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	19.2	41.2	15.5	4.2	19.9
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	21.0	44.8	12.6	2.7	18.8
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	45.7	32.2	3.9	2.0	16.2
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	39.5	36.7	3.8	1.9	18.2
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	38.0	38.6	4.9	0.9	17.7
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	28.3	39.3	10.5	4.0	17.8
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	22.0	42.6	13.2	2.1	20.0
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など	50.6	29.0	2.7	0.7	16.9
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	40.4	37.7	4.0	0.8	17.1
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	30.9	42.9	8.1	1.3	16.8
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など	26.8	41.3	12.6	1.7	17.7
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	44.4	35.2	3.9	0.6	15.8

区取り組み	内 容	重要度				
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	49.3%	31.7	2.6	0.3	16.1
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	32.9	42.6	7.5	1.2	15.8
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	28.7	44.7	8.5	1.6	16.4
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	35.7	38.5	8.5	2.0	15.3
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など	39.2	37.6	5.4	1.1	16.7

問40 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（○は1つだけ）。

1. そう思う	3.3%	4. そう思わない	9.3
2. どちらかといえばそう思う	24.8	5. わからない	37.0
3. どちらかといえばそう思わない	18.7	無回答	6.9

問41 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わからな い	無回答
ア. 足立区に愛着をもっている	27.2%	48.2	7.3	5.3	7.5	4.5
イ. 足立区に誇りをもっている	11.8	39.6	16.4	10.8	14.4	7.1
ウ. 足立区を人に勧めたい	10.8	37.2	15.5	11.7	17.6	7.1

(問41で「3. どちらかといえばそう思わない」、または「4. そう思わない」に1つでも○をつけた方に)

問41-1 足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思うのは、どうしてですか。理由をお書きください。

問42 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

問43 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいたします。

今回の調査の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか。

(○は1つだけ)

1. そう思う	27.2%	4. そう思わない	3.8
2. どちらかといえばそう思う	38.0	5. わからない	17.8
3. どちらかといえばそう思わない	8.1	無回答	5.1

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、
返信用封筒に入れて 9月26日(月) までにご投函ください。



第45回 足立区政に関する世論調査

2017年3月発行

発 行 足立区

編 集 足立区政策経営部広報室区政情報課
東京都足立区中央本町1-17-1
電話 03-3880-5111（代表）

実 施 （株）サーベイリサーチセンター
東京都荒川区西日暮里2-40-10
電話 03-3802-6724

印刷登録番号28-460

この報告書は再生紙を使用しています。



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区政策経営部広報室区政情報課

この報告書は再生紙を使用しています。